

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第442集

みょうごさわいせきぐん
明後沢遺跡群第16次発掘調査報告書

ほ場整備姥沢上野地区工事関連遺跡発掘調査

岩手県水沢地方振興局農政部農村整備室
(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第442集

明後沢遺跡群第16次発掘調査報告書 正誤表

頁	行	誤	正
11	7 9	西側にI～Vのアラビア数字、北側から南側にアルファベットの大文字A～Dを付している。 数字の1～10、…アルファベットの小文字a～j	西方向にアルファベットA～G、北から南方向にローマ数字I～IXを付し、 アルファベットの小文字a～j、… 数字1～10
21	第12図	(B—B'レベル未記入)	L=71.500m
142	第86図	142	412
147	土師器観察表(4) 掲載番号161	写真掲載のみ(削除)、72	—
147	土師器観察表(4) 掲載番号181	B	小型甕?
147	土師器観察表(4) 掲載番号184	7	72
148	土師器観察表(5) 掲載番号194	72	—
151	第7表	本番	掲載番号
151	第7表 掲載番号316	80	81
151	第7表 掲載番号350	78	—
153	第10表	本番	掲載番号
256	写真図版72	161(削除)	
260	写真図版76	276	279

みょうご さわ い せき ぐん

明後沢遺跡群第16次発掘調査報告書

ほ場整備姥沢上野地区工事関連遺跡発掘調査

序

本県には、旧石器時代の遺跡をはじめとする数多くの埋蔵文化財包蔵地が各地に分布しております。これら先人達が遺した貴重な文化遺産を保護し、後世に伝えていくことは県民に課せられた責務であります。

また一方で、農業基礎整理や幹線道路網など、社会資本を充実させることもまた行政上の大事な施策であり、このため埋蔵文化財の保存・保護と調整・調和のとれた地域開発の発展が今日的な課題でもあります。

このような見地から、財団法人岩手県文化振興事業団では埋蔵文化財センターの創設以来、埋蔵文化財保護の立場にたつて、県教育委員会生涯学習文化課による調整と指導のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅していく遺跡について発掘調査を行い、その記録保存を残す措置をとってまいりました。

本書は、ほ場整備姥沢上野地区整備事業に関連して、平成14年度に行われた泉南の前沢町に所在する明後沢遺跡群の調査結果について収録したものであります。

調査の結果、縄文時代から中世まで多時期に亘る遺構が検出され、平安時代の竪穴住居跡を中心とする集落跡であることが明らかになりました。また、手づくねかわらけや土坑から当地方では希な中国産の磁器片が出土しており、奥州藤原氏との関係を考える上での貴重な資料を提供したと思われます。

この本書が広く活用され、斯学の研究に寄与するとともに埋蔵文化財に対する関心と理解をいっそう深めることに役立つことを切に希望いたします。

最後になりましたが、これまでの発掘調査及び報告書作成に協力とご支援を賜りました岩手県水沢地方振興局農政部農村整備室、前沢町教育委員会をはじめとする関係各位に衷心より感謝申しあげます。

平成16年1月

財団法人 岩手県文化振興事業団
理事長 合 田 武

例 言

1. 本報告書は、岩手県胆沢郡前沢町古城高代寺33-21 ほか^{（1）}に所在する明後沢遺跡群発掘調査結果を収録したものである。
2. 本遺跡の発掘調査は、ほ場整備総沢上野地区工事関連事業に伴い、県教育委員会生涯学習文化課・水沢地方振興局水沢農村整備事務所との協議を経て、岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが記録保存を目的として実施した緊急発掘調査である。
3. 岩手県遺跡登録台帳番号と調査時の遺跡各次略号は、以下のとおりである。
遺跡登録台帳番号……N E36-21753
遺跡略号……MGS02
4. 野外の調査期間・調査面積と調査担当者は、以下のとおりである。
調査期間 平成14年4月12日～10月31日
調査面積 7,330㎡
担 当 者 本多準一郎・小松則也
5. 調査の室内整理期間と整理担当者は、以下のとおりである。
整理期間 平成14年11月1日～平成15年3月31日
担 当 者 本多準一郎・小松則也
6. 本報告書の原稿執筆は、1章の調査に至る経過を岩手県水沢地方振興局農政部農村整備室、II～V章を本多準一郎と小松則也が分担している。
7. 座標原点の測量および空中写真撮影は、次の機関に依頼した。
座標原点の測量……湘南部測量設計
空中写真……東邦航空機
8. 自然科学関連の分析鑑定と保存処理は、次の方々と機関に依頼した。（敬称略）
樹種同定……バリノ・サーヴェイ株式会社
石質鑑定……花崗岩研究会
土器胎土分析……バリノ・サーヴェイ株式会社
鉄製品保存処理……川鉄テクノリサーチ株式会社
9. 本報告書の作成にあたり、次の方々ならびに機関からご指導とご協力をいただいた。（敬称略）
阿部一・及川真紀・依田恵美子（前沢町教育委員会）、本澤慎輔・八重樫忠郎（平泉町教育委員会）
小野正敏・中野晴久・井上喜久男
10. 野外調査にあたっては、前沢町内の方々に多大なるご協力をいただいた。
11. 調査成果の一部は、これまでに『現地公開資料』や『岩手県埋蔵文化財調査略報（平成14年度分）』に概略を発表しているが、本報告書の内容が優先するものである。
12. 土層観察の土色は、『新版標準土色帳』（小山正忠・竹原秀雄：1992）によった。
13. 本報告書で使用した地形図は、国土地理院発行のものであり、図中に図幅名と縮尺を記している。
14. 本遺跡から出土の遺物および調査に関わる資料は岩手県立埋蔵文化財センターに保管・管理している。

目 次

序

例 言

〔本 文〕

I 調査に於る経過	3	(5) 瓦	113
II 遺跡の位置と環境	3	(6) 金属製品	114
1. 遺跡の位置	3	(7) 石器・石製品	114
2. 遺跡周辺の地形と地質	3	(8) 土製品	115
3. 周辺の遺跡	6	(9) その他の縄文土器	115
4. 基本順序	6	V まとめ	
III 調査の方法と室内整理	11	1. 遺構	
1. 野外調査の方法	11	(1) 竪穴住居跡	154
2. 室内整理の方法	12	(2) 竪穴状遺構	154
IV 検出された遺構と遺物		(3) 焼土遺構	155
1. 概要	18	(4) 墓 塚	155
2. 遺構		(5) 土 坑	155
(1) 竪穴住居跡	18	(6) 粘土採掘土坑群	156
(2) 竪穴状遺構	28	(7) 陥し穴状遺構	156
(3) 焼土遺構	29	(8) 溝 跡	156
(4) 墓 塚	31	(9) 柱穴状土坑群	156
(5) 土 坑	32	2. 遺物	
(6) 粘土採掘土坑群	47	(1) 土師器・須恵器	157
(7) 陥し穴状遺構	47	(2) かわけ	158
(8) 溝 跡	50	(3) 国産陶器	159
(9) 柱穴状土坑群	82	(4) 中国産磁器	159
(10) その他の遺構	108	(5) 瓦	159
3. 遺物		(6) 土 鈴	160
(1) 土師器・須恵器	110	(7) その他の遺物	160
(2) 国産陶器	112	3. 成果と課題	160
(3) 中国産磁器	113	報告書抄録	266
(4) かわけ	113	職員一覧	267

〔図 版〕

第1図	岩手原図にみる遺跡の位置	1	第37図	G区溝跡	74
第2図	遺跡位置図	2	第38図	H区溝跡(1)	77
第3図	地形分類図	5	第39図	H区溝跡(2)	87
第4図	基本層序図	7	第40図	I区溝跡(1)	83
第5図	周辺の遺跡	8	第41図	I区溝跡(2)	84
第6図	グリッド配置図	13	第42図	I区溝跡(3)	85
第7図	凡例図(1)	14	第43図	I区溝跡(4)	86
第8図	凡例図(2)	15	第44図	A区柱穴群(1)	87
第9図	遺構配置図(1)	16	第45図	A区柱穴群(2)	88
第10図	遺構配置図(2)	17	第46図	B区柱穴群(1)	89
第11図	S I 06竪穴住居跡	20	第47図	B区柱穴群(2)	90
第12図	S I 07竪穴住居跡	21	第48図	B区柱穴群(3)	91
第13図	S I 08竪穴住居跡	22	第49図	C区柱穴群	92
第14図	S I 10竪穴住居跡	24	第50図	D区柱穴群	93
第15図	S I 11竪穴住居跡	25	第51図	E区柱穴群(1)	94
第16図	S I 12・13竪穴住居跡	27	第52図	E区柱穴群(2)	95
第17図	SK I 01号竪穴状遺構	28	第53図	F区柱穴群	96
第18図	S X 01～07焼土遺構	30	第54図	G区柱穴群	97
第19図	SK 01・02号基壇、SK 31～36土坑	33	第55図	H区柱穴群(1)	98
第20図	SK 37～45土坑	37	第56図	H区柱穴群(2)	99
第21図	SK 46～54土坑	38	第57図	I区柱穴群(1)	100
第22図	SK 59～71土坑	42	第58図	I区柱穴群(2)	101
第23図	SK 72～81土坑	43	第59図	S X 13・S X 14	109
第24図	SK 82～91土坑	46	第60図	出土遺物(1)	116
第25図	粘土埴輪土坑群、S X 01～06陶師穴状遺構	49	第61図	出土遺物(2)	117
第26図	A区溝跡(1)	53	第62図	出土遺物(3)	118
第27図	A区溝跡(2)	51	第63図	出土遺物(4)	119
第28図	B区溝跡(1)	57	第64図	出土遺物(5)	120
第29図	B区溝跡(2)	58	第65図	出土遺物(6)	121
第30図	C区溝跡	61	第66図	出土遺物(7)	122
第31図	D区溝跡	63	第67図	出土遺物(8)	123
第32図	E区溝跡(1)	68	第68図	出土遺物(9)	124
第33図	E区溝跡(2)	69	第69図	出土遺物(10)	125
第34図	E区溝跡(3)	70	第70図	出土遺物(11)	126
第35図	F区溝跡(1)	71	第71図	出土遺物(12)	127
第36図	F区溝跡(2)	72	第72図	出土遺物(13)	128

第73図	出土遺物 (14)	129
第74図	出土遺物 (15)	130
第75図	出土遺物 (16)	131
第76図	出土遺物 (17)	132
第77図	出土遺物 (18)	133
第78図	出土遺物 (19)	134
第79図	出土遺物 (20)	135
第80図	出土遺物 (21)	136
第81図	出土遺物 (22)	137

第82図	出土遺物 (23)	138
第83図	出土遺物 (24)	139
第84図	出土遺物 (25)	140
第85図	出土遺物 (26)	141
第86図	出土遺物 (27)	142
第87図	出土遺物 (28)	143
第88図	かわらけ分類図	158
第89図	胎土写真 (1)	179
第90図	胎土写真 (2)	180

〔 表 〕

第1表	周辺の遺跡一覧	9
第2表	上坑観察表 (1) ~ (9)	32~45
第3表	陥し穴状遺構観察表	48
第4表	柱穴観察表 (1) ~ (6)	102~107
第5表	土器観察表 (1) ~ (5)	144~148
第6表	国産陶器観察表 (1) ~ (2)	149

第7表	中国産磁器観察表	150
第8表	かわらけ観察表	151
第9表	瓦観察表	152
第10表	金属製品観察表	152
第11表	石器観察表	153
第12表	縄文土器観察表	153

〔写真図版〕

写真図版1	調査区全景	185
写真図版2	出土遺物	186
写真図版3	出土遺物	187
写真図版4	調査前遠景	188
写真図版5	基本層序	189
写真図版6	基本層序調査終了風景	190
写真図版7	S 106竪穴住居跡	191
写真図版8	S 107竪穴住居跡 (1)	192
写真図版9	S 107竪穴住居跡 (2)	193
写真図版10	S 108竪穴住居跡	194
写真図版11	S 110竪穴住居跡 (1)	195
写真図版12	S 110竪穴住居跡 (2)	196
写真図版13	S 111竪穴住居跡 (1)	197
写真図版14	S 111竪穴住居跡 (2)	198
写真図版15	S 112竪穴住居跡	199
写真図版16	S 113竪穴住居跡	200
写真図版17	1号竪穴状遺構	201

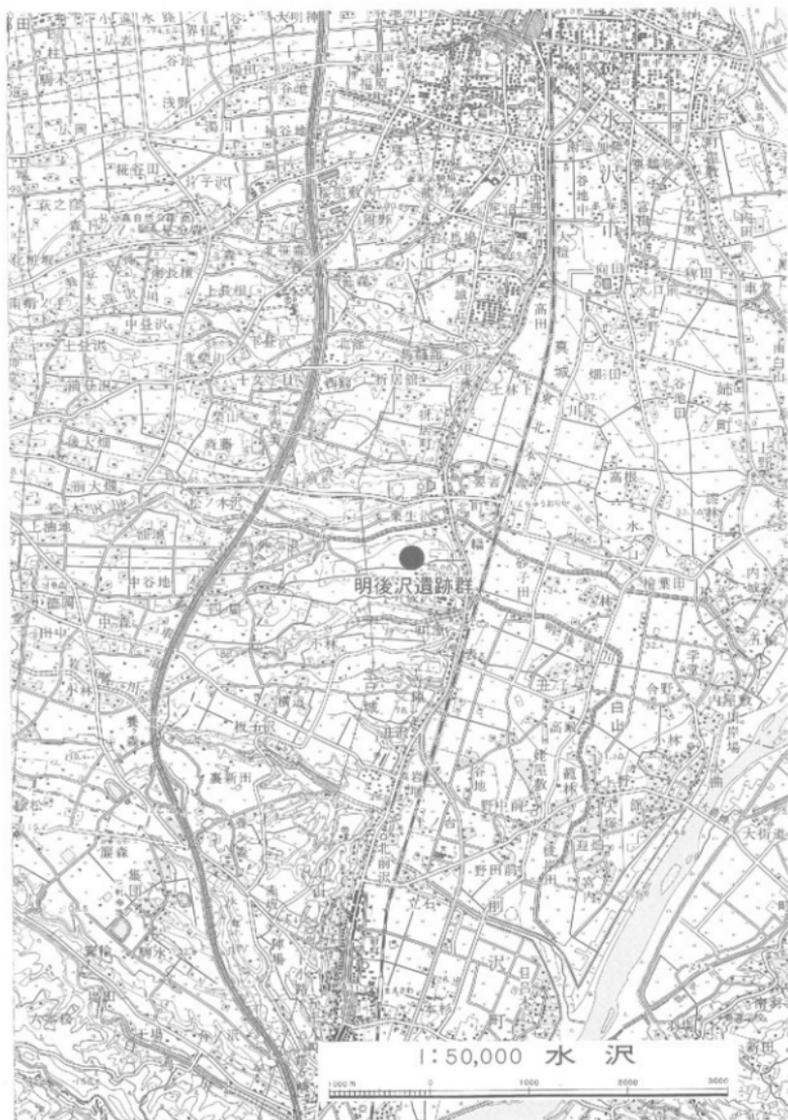
写真図版18	SD147~148溝1・2号竪土遺構	202
写真図版19	S X03~06焼土遺構	203
写真図版20	S X07焼土遺構, S X13・14	204
写真図版21	S K31~35	205
写真図版22	S K35~36	206
写真図版23	S K37~40	207
写真図版24	S X02陥し穴・S K42~44	208
写真図版25	S K45~47	209
写真図版26	S K48~51	210
写真図版27	S K52~54・S X01陥し穴	211
写真図版28	S K01・02墓壇・S K59	212
写真図版29	S K60~63	213
写真図版30	S X03・05陥し穴 S K66・67	214
写真図版31	S X06陥し穴・S K69~71	215
写真図版32	S K72~75	216
写真図版33	S K76~79	217
写真図版34	S K80~83	218

写真図版35	SK84~86・SX04陥し穴	219
写真図版36	SK88~91	220
写真図版37	SD67~68溝跡	221
写真図版38	SD69~71	222
写真図版39	SD72	223
写真図版40	SD73	224
写真図版41	SD74~76	225
写真図版42	SD77~78	226
写真図版43	SD79~80	227
写真図版44	SD80~82	228
写真図版45	SD83~86	229
写真図版46	SD84~88	230
写真図版47	SD89~91	231
写真図版48	SD92~93	232
写真図版49	SD94~95	233
写真図版50	SD96~99	234
写真図版51	SD100~102	235
写真図版52	SD103~105	236
写真図版53	SD106~114	237
写真図版54	SD111~113, 116	238
写真図版55	SD115, 117~120	239
写真図版56	SD121~123	240
写真図版57	SD124~125, 128	241
写真図版58	SD126~127	242

写真図版59	SD129~130	243
写真図版60	SD131~133	244
写真図版61	SD134~135	245
写真図版62	SD136~137, 調査前風景	246
写真図版63	SD138~140	247
写真図版64	SD141~143	248
写真図版65	SD144~146, H区終了風景	249
写真図版66	粘土探掘土坑群	250
写真図版67	出土遺物(1)	251
写真図版68	出土遺物(2)	252
写真図版69	出土遺物(3)	253
写真図版70	出土遺物(4)	254
写真図版71	出土遺物(5)	255
写真図版72	出土遺物(6)	256
写真図版73	出土遺物(7)	257
写真図版74	出土遺物(8)	258
写真図版75	出土遺物(9)	259
写真図版76	出土遺物(10)	260
写真図版77	出土遺物(11)	261
写真図版78	出土遺物(12)	262
写真図版79	出土遺物(13)	263
写真図版80	出土遺物(14)	264
写真図版81	出土遺物(15)	265



第1回 岩手県園に見る遺跡の位置



第2図 遺跡位置図

I 調査に至る経過

明後沢遺跡群は、「担い手育成基盤整備事業総沢上野地区」の施行に伴って、その事業区域に位置することから発掘調査することとなったものである。

「担い手育成基盤整備事業総沢上野地区」は、胆沢郡前沢町古城地内の受益面積52haの地区が昭和7～15年頃10区画に整理されたが、区画形状が小さく農道の幅員も狭く大型機械化体制の導入に支障をきたしている。

又小水路は土水路で用排兼用となっているため浅く、排水不良地帯が大部分を占め、耕地の汎用が困難な状況である。これらの災害要因を除去し、効率的で安定的な経営体に農地を集積し、高生産性農業の確立を図り、併せての村環境水準の向上を資するために、大区画ほ場整備を実施するものとして、平成9年に新規採択された地区で、平成12年度で4年目である。

当事業の施行に係る埋蔵文化財の取扱については、岩手県水沢地方振興局胆沢土地改良事業所から（平成10年度から水沢農村整備事務所）平成9年5月15日付け旭土地第146号「泉宮ほ場整備実施に伴う遺跡の分布調査について（依頼）」の文書によって岩手県教育委員会にたいして分布調査の依頼をしたのが最初である。依頼を受けた岩手県教育委員会では、平成9年6月12、17、19日に分布調査を実施したが、その結果は平成9年7月15日付け教文第353号「泉宮ほ場整備実施に伴う遺跡の分布調査について（回答）」で岩手県水沢地方振興局旭土地改良事業所へ回答し、その際上事施工範囲が明後沢遺跡群の範囲内であることが付記された。

回答を受けた岩手県水沢地方振興局水沢農村整備事務所では、明後沢遺跡群を含む面工事実施年度である平成10年10月2日付け水農農869-4号「担い手育成基盤整備事業総沢上野地区における埋蔵文化財の試掘調査について（依頼）」の文章によって岩手県教育委員会にたいして、試掘調査を依頼した。依頼を受けた岩手県教育委員会では平成10年12月14日～18日に試掘調査を実施したが、その結果は平成10年12月28日付け教文第1039号「担い手育成基盤整備事業総沢上野地区における埋蔵文化財の試掘調査について（回答）」で水沢地方振興局水沢農村整備事務所へ回答し、その際原指定明後沢遺跡隣接地であり、同じ性格と考えられる遺構が確認されたため再調査の実施と発掘調査が必要である旨が付記された。

（岩手県水沢地方振興局農政部農村整備室）

II 遺跡の立地と環境

1 遺跡の位置

明後沢遺跡群は、第2図に示すようにJ東北本線陸中折居駅（陸中折居駅）の南西側約1.6kmにあり、胆沢扇状地の東端部に形成された舌状台地上に立地する。国土地理院発行の5万分の1地形図「水沢 N J - 54-14-14（一図14号）」の図幅に含まれ、北緯39度05分15秒、東経141度07分53秒付近にあたる。

遺跡が所在する前沢町は、県の南西部に位置しており、町の中央部を国道4号とJ東北本線が南北に縦走し、その東側を東北地方第一の河川である北上川が北東～南西方向に貫流している。東側は東山町、西側が胆沢町、南側が平泉町・衣川村、北側が水沢市の1市3町1村と隣接している。規模は東西13.3km、南北9kmのやや菱形を呈しており、総面積が71.67㎢である。町域の大部分は水田と畑地で占められている。昭和30（1955）年に胆沢町と古城・白山・生母の1町3村が合併し、町内の人口は15,429人（平成15年）である。

2 遺跡周辺の地形と地質

前沢町の地形区分（第3図）をすれば、東部の北上山地西縁の山麓丘陵地区、町の中央部を南流する北上

川両岸に発達する沖積低地及び後述の低位段丘面を含む低地地区、町の西部に形成された段丘地区の3つに区分される。

岩手県を縦断する北上川と、これに注ぐ大小支流の河川は、中流域の兩岸、特に右岸部（西側）に大規模な扇状地形とこれを刻む河岸段丘を形成してきたが、本町はこの地形発達地区の中央部、すなわち胆沢扇状地の扇端部の南端に位置している。

胆沢扇状地は、高位から順に一首坂段丘（長根段丘）、胆沢段丘（村崎野段丘）、水沢段丘（金ヶ崎段丘）の3つに区分される。この胆沢扇状地に形成された河岸段丘の基盤地層は、新第三系、更新統の本畑層（金沢層）である。本層は、夏油川流域の本畑（北上川瀬美温泉付近）を標識とする地層で、岩相構成は、礫岩、砂岩、シルト岩、凝灰岩を主とし、部分的に亜炭層を挟み込む。このうち一首坂段丘の構成層は、上部、下部2枚の礫層とローム層で、レンズ状に凝灰岩の砂岩層がある。数枚の火山灰があるが、焼石火山と華駒火山が供給源と見られる上部の黒沢尻火山灰層（ローム層）と、これと整合する下部の前沢火山灰層が著名である。

中位の胆沢段丘の構成層は、折居礫層とこれを被覆する黒沢尻火山灰層（ローム層）で構成される。この段丘には、一首坂段丘にある前沢火山灰はのらない。黒沢尻火山灰は礫層となる淡紅色軽石と細かい明褐色火山灰からなる。

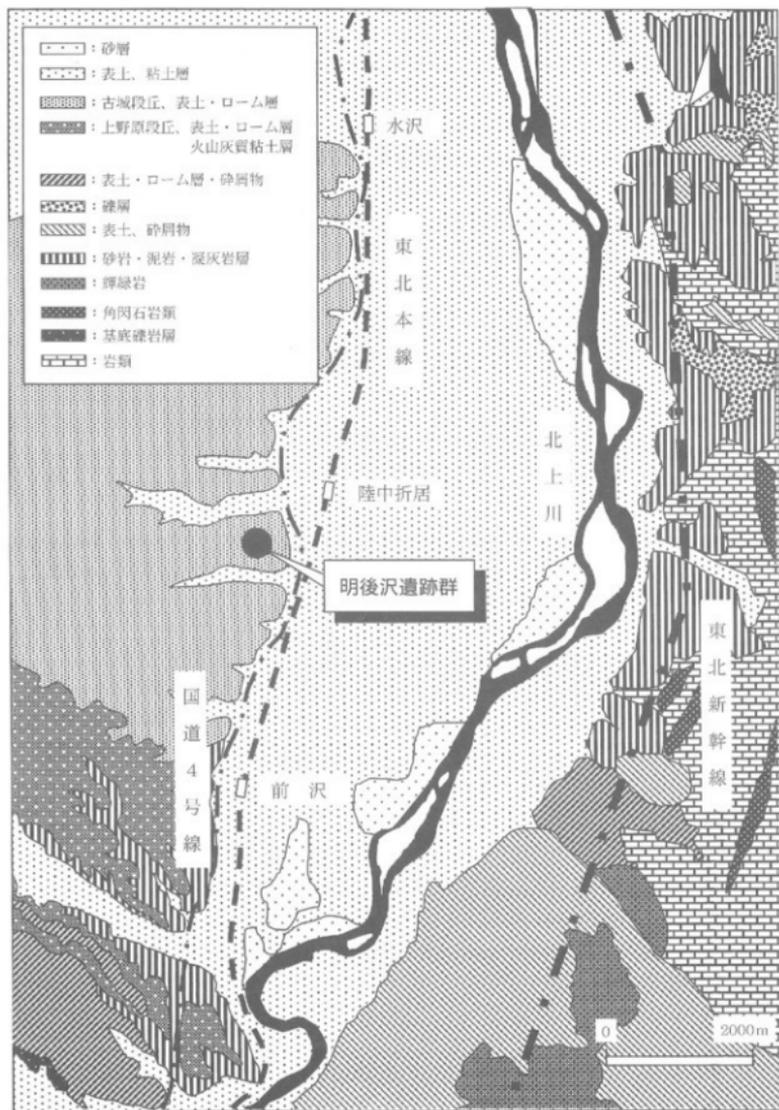
低位の水沢段丘は基底礫層と砂・粘土の互層で黒色帯の泥炭層を挟む。この面を黒沢尻火山灰は被覆せず、新規段丘で最終氷期以降の形成と見られる。沖積面の小段丘は完新生以降の北上川水系の浸食面である。東側の生母地区には、古生界・中生界の古い地層が分布し、西方の段丘地帯とは対照的となっている。北部の母体地区は、母体層と呼ばれる変成岩が主体で構成され、南部の赤生津地区は、半深成岩類の輝緑岩層が主体となって構成されている。

本遺跡群が所在する古城段丘は胆沢段丘に含まれる。この段丘を刻むように南から岩櫃川・明後沢川・松ノ木沢川が北上川にそそぎ込み、明後沢川と松ノ木沢川に開析された段丘上、標高70～72m立地している。

明後沢遺跡群はこれまで「明後沢遺跡」と呼称されてきたが、発掘調査の結果及び岩手県教育委員会・前沢町教育委員会の分布調査をもとに遺跡を細分化し、「明後沢遺跡群」と呼称するようになった。明後沢遺跡群は、明後沢遺跡、八郎館遺跡、宗角館遺跡、熊野遺跡、鳥小沢遺跡、幅遺跡、前堀遺跡の7つから構成される。昨年度までに14回の調査が行われている。今回の16次調査は明後沢遺跡群の南東に位置する八郎館遺跡と宗角館遺跡内を行った。なお、15次調査については前沢町教育委員会が行った。

<引用参考文献>

1. 前沢町史編纂委員会 1978『前沢町史』上巻通史
2. 前沢町教育委員会1997『田高II遺跡発掘調査報告書』岩手県前沢町文化財調査報告書第4集
3. 前沢町教育委員会1998『町内遺跡詳細分布図調査報告書I古城・白山地区』岩手県前沢町文化財調査報告書第6集
4. 鳥居達人・亀大二郎2002『明後沢遺跡群第11次調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第411集



第3図 地形分類図

3 周辺の遺跡

前沢町には現在140カ所あまりの遺跡が確認されているが、部分的な狭い範囲での調査が多いため、遺跡の全容が明らかとなっているものは少ない。

旧石器時代の遺跡は白鳥水沢遺跡があるが、詳しいことは分かっていない。また、この時代のものと思われる石刃数点が見つかったという記録は残っている。

縄文時代の遺跡としては中期の小林繁永遺跡44、晩期の川岸場1・II遺跡40・41が知られている。弥生時代の遺物は同じく川岸場II遺跡から発見されている。

古墳時代の遺跡は、胆沢町南都田の角塚古墳が有名であるが、前沢町内で古墳と確認されるものは現在存在していない。白鳥地区に「七つ盛」と呼ばれた7つの古墳があったと記録にあるが、明治23年の鉄道施設工事の際に破壊され消滅したと伝えられる。

平安時代の遺跡としては、今回調査した明後沢遺跡群に含まれる県指定史跡・明後沢遺跡2が知られている。この遺跡は、古代城柵説、古代寺院説、瓦の窯場説等があるが、幾度かの調査を経た今でもまだその性格はわかっていない。ただ、水沢市の胆沢城と同一の治を用いた布目瓦が多数出土することから、胆沢城とほぼ同時代に朝廷によって建てられた施設が存在する可能性が高く、古代東北開発史上重要な遺跡である。

安倍氏の時代になると、安倍頼時の子・伝白鳥八郎行任の白鳥館69、臣・伝麻生治長の大麻生館45、六日入館34等の遺跡が見られる。安倍氏滅亡の後には「後三年」に「白鳥村の在家四百戸を焼く」の文獻記述からこの土地は清原氏の中心地であったことが推定されるが、それを実証するような遺跡は今のところ見つからない。藤原氏の時代には秀衡の臣・伝照井太郎の照井館65がある。

源頼朝によって藤原氏が滅ぼされ、胆沢の地は葛西氏の臣・柏山氏が治めるところとなる。中世と呼ばれるこの時代の城館については、柏山氏の家臣・三田村監の築いた前沢城73をはじめ九郎館9、中畑家城25、赤生津城106などがある。

4 基本層序

調査区内の現況は、水田と畑地で占められている。大部分が昭和30年代の開田により削平を受けていた。また、一部には客土も敷かれていた。第4図は調査区D区とH区で観察された土層断面図である。その他の区については表十直下が地山となっていた。層序はI位から順にI層～V層に大別される。遺構はIV層からV層上面で多く検出している。

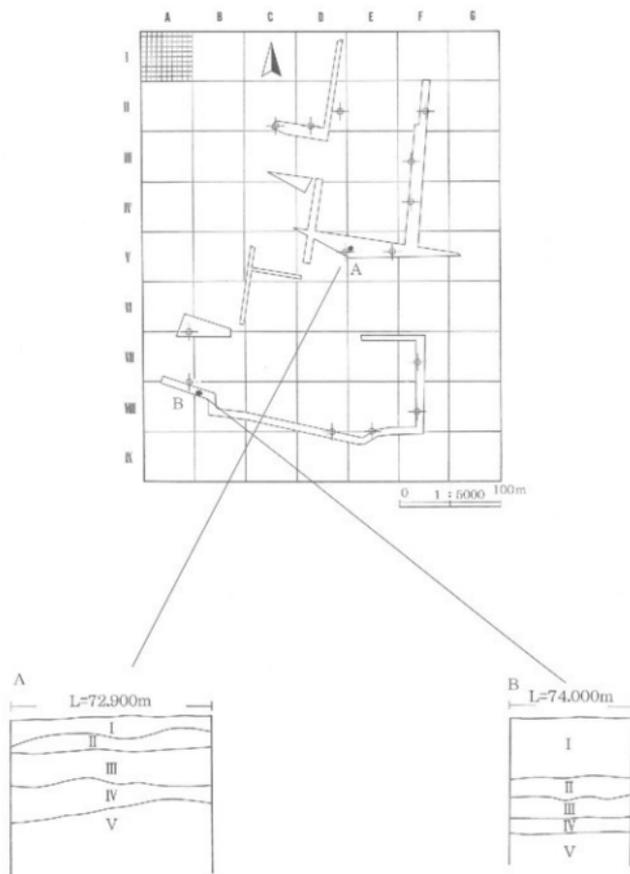
I層：暗褐色砂質土（10YR3/3～4/3）表土。層厚は10～30cm、全体に堅く締まっている。

II層：黄褐色シルト質土（10YR5/8）とI層の混合土。層厚は30～50cm。昭和30年代に行われた開田時に敷かれた客土。

III層：黒褐色土シルト質土（10YR2/3）旧耕作土。層厚は10～20cm。無遺物層。

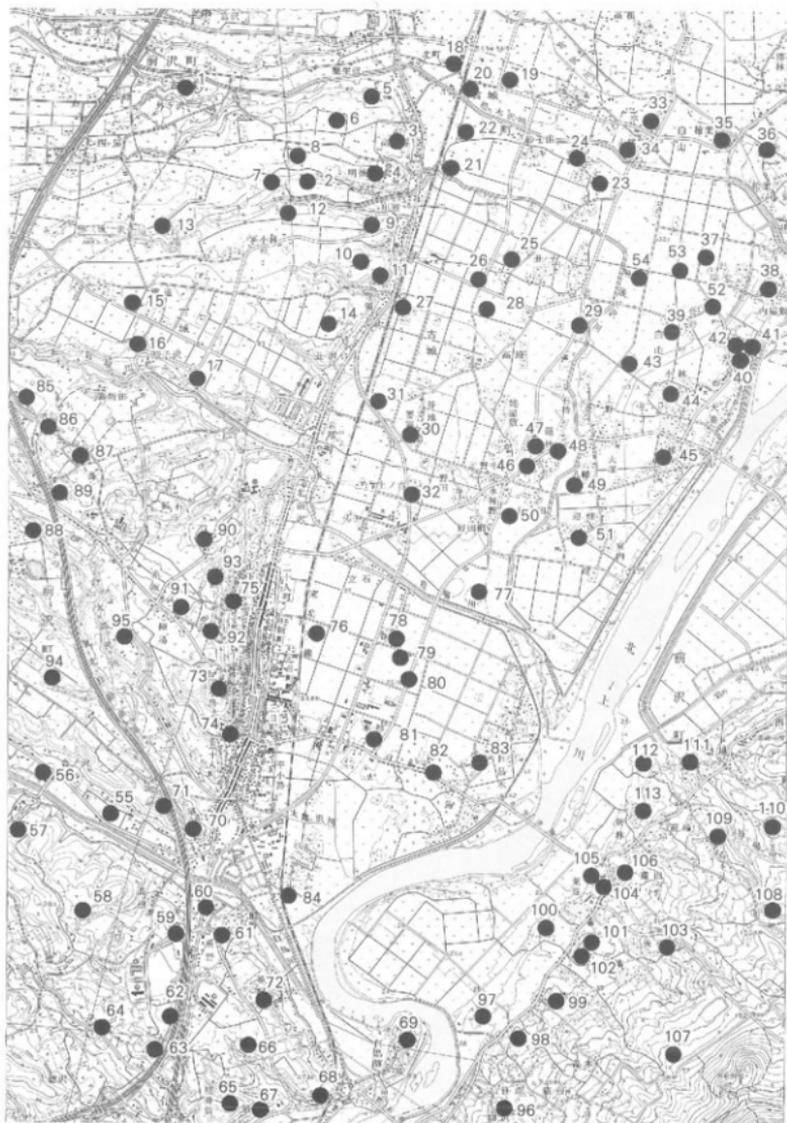
IV層：黒色土シルト質土（10YR2/1）中央部と南側の一部のみ存在。層厚10～30cm。遺物を若干含む。

V層：黄褐色粘土質土（10YR6/6）層厚は不明。遺構検出面。



※ この他の区は表土直下が地山 (V層) となっている。

第4図 基本層序 (各地区)



第5図 周辺の遺跡

第1表 周辺の遺跡

No	遺跡名	遺跡の種類	時代	所在地	備考
1	古城外ヶ沢	散布地	縄文前期・古代	古城字外ヶ沢	H9年位置変更
2	明後沢	散布地・城跡跡?	平安	古城字明後沢・姥沢	
3	八郎館	城跡跡・散布地	縄文・平安・中世	古城字高代寺	H9年範囲拡大
4	宗角館	城跡跡	平安・中世	古城字高代沢	H9年範囲拡大
5	熊野	散布地	平安	古城字熊	H9年新規
6	福	散布地・瓦窯跡?	縄文・平安	古城字福・内沼・志入沢	H9年新規及び範囲古遺
7	鳥子沢	散布地・城跡跡	平安・中世	古城字鳥子沢	H9年新規
8	前	散布地	縄文・古代	古城字前	H11年新規
9	九郎	城跡跡	中世	古城字南上野	
10	寺ノ上	散布地	古代	古城字寺ノ上	H9年新規
11	寺ノ上	塚	中世	古城字寺ノ上	H9年新規
12	長苔館	城跡跡	中世	古城字南上野	H9年新規
13	高日向	散布地	弥生・平安	古城字高日向	H9年新規
14	古城上野	散布地	縄文中期・古代	古城字高日向	H9年範囲拡大
15	雷神II	散布地	縄文中期	古城字横道前	H9年位置変更
16	古城合ノ沢I	集落跡?	縄文	古城字合ノ沢	H9年新規
17	古城合ノ沢II	散布地	縄文	古城字合ノ沢	H9年新規
18	北館	城跡跡	中世	古城字北	
19	北館東I	散布地	古代	古城字北館東	
20	北館東II	散布地	縄文・古代	古城字北館東	H9年新規
21	館合下	散布地	平安	古城字館台下	H9年範囲拡大
22	砂子田	散布地	古代	古城字砂小田	H9年新規
23	林I	散布地	古代	古城字林(一帯山松+杉)	H9年新規
24	林II	散布地	古代	古城字林後	H9年新規
25	中畑城(標山城)	城跡跡	中世	古城字水西	
26	内ノ山	燧燧遺跡	中世	古城字内ノ山	H9年位置変更
27	寺館	散布地	古代	古城字寺館	
28	水尻	散布地	縄文・古代	古城字水尻	H9年新規
29	古城方八丁	散布地	縄文・古代	古城字館ノ前	
30	要害	散布地・燧燧遺跡	古代・中世	古城字要害	
31	龜田	環濠環壕跡	中世	古城字龜田	
32	上ノ台	環濠環壕跡	中世	古城字上ノ台	
33	水ノ口	集落跡	縄文・平安	白山字水ノ口	H9年範囲拡大
34	六日入	城跡跡	古代・中世	白山字古館	
35	松葉田	散布地	平安	白山字松葉田	H9年新規
36	松葉	散布地	平安	白山字松葉	H9年新規
37	字堂	散布地	平安	白山字字堂	H9年新規
38	内屋敷	散布地	平安	白山字内屋敷	
39	野	散布地	古代	白山字合野	H9年位置変更
40	川岸堀I	散布地	縄文晩期・弥生・平安	白山字川岸堀	
41	川岸堀II	集落跡・環濠環壕跡	縄文晩期・弥生・平安・近世	白山字川岸堀	
42	大空経塚	一丁一石経塚	中世末	白山字川岸堀	H9年新規
43	白山上野	散布地	縄文後期	白山字上野	H9年新規
44	小林繁長	散布地	縄文中期・弥生・弥生・平安	白山字小林・古宮	H9年範囲拡大
45	上麻生城(大麻生城)	城跡跡	古代・中世	白山字館	
46	田高I	散布地	縄文	白山字田高・帯林	
47	田高II	散布地・環濠跡	縄文晩期・中世・古代・中世	白山字田高	
48	五輪経塚	経塚	平安末	白山字堀林	H11年新規
49	八幡	散布地	縄文晩期	白山字八幡	H9年新規
50	彼岸田	散布地	縄文・平安	白山字彼岸田	H11年新規
51	野畑	散布地	奈良・平安	白山字野畑・宮内	H11年新規
52	字堂	散布地	古代	白山字合野・字堂	H11年新規
53	蓮上	散布地	古代	白山字蓮上	H11年新規
54	川前	散布地	古代	白山字川前	H11年新規
55	合ノ沢A	散布地	縄文	字合ノ沢	H10年範囲拡大
56	合ノ沢B	散布地	縄文	字合ノ沢	
57	水尻	散布地	縄文	字水尻	
58	長根	散布地	縄文	字長根	H11年位置変更
59	新城I	城跡跡	縄文・平安・中世	字新城	H11年位置変更
60	新城II	散布地	平安	字新城	H10年新規

No	遺跡名	遺跡の種類	時代	所在地	備考
81	新 城 田	その他の墓	近世	字新城	H10年新規
82	舞 鶴 公 園	散布地	縄文中期・古代	字鶴沢	
83	袖 沢 ・ 甲 塚		甲塚	甲塚	字徳沢
84	徳 沢 丁	散布地	縄文	字徳沢	H10年新規
85	照 井 沼	散布地・城跡跡	縄文・中世	字照井沼	H10年範囲拡大
86	南 陣 場 堀	散布地	縄文	字南陣場	H10年新規
87	小 沢 口	散布地	縄文・平安	字小沢口・照井沼	H10年範囲拡大
88	衣 岡	散布地	平安	字衣岡	H10年範囲拡大
89	戸 島 館	城跡跡	古代・中世	字白鳥館	
90	旗 ケ 崎	寺院跡?	鎌石?	字合ノ沢・旗ヶ崎	
91	沼 ケ 崎	散布地	縄文・平安	字合ヶ崎	
92	南 陣 場 堀 跡	堀跡	近代	字南陣場	H10年新規
93	前 沢 城	城跡跡	中世	字陣場	
74	三 沢 氏 邸 跡	城跡跡	近世	字下小路	H10年新規
75	尊 念 寺 山 奥 跡	遺跡	近世	字山下	H10年新規
76	栗 山 ケ 馬	散布地・縄文遺跡	中世・近世	字新町栗	H10年新規
77	阿 部	城跡跡?	古代~中世	字阿部館	
78	竹 沼	集落跡	平安	字竹沼	H10年範囲拡大
79	谷 地	散布地	縄文	字谷地	H10年新規
80	五 合 田	その他の墓	近世	字五合田	H10年新規
81	日 月 水 本 松	散布地	古代	字本杉	
82	長 畑 高 畑	散布地	平安	字長畑・高畑	H10年新規
83	道 堀	散布地	縄文	字道堀・沼	
84	大 坂	集落跡	平安	字大坂・原敷・赤面	H10年範囲拡大
85	森 ケ 森 B	散布地	縄文	字森ヶ森	H10年新規
86	森 ケ 森 C	散布地	縄文	字森ヶ森	H10年新規
87	森 ケ 森	集落跡	平安	字森ヶ森	H11年位置変更
88	笹 森	散布地	縄文	字笹森	H10年新規
89	上 ノ 原	散布地	縄文	字養ヶ森	
90	狐 石	散布地	縄文	字狐石	H10年新規
91	赤 坂 丁	散布地	縄文	字赤坂	H10年範囲拡大
92	赤 坂 田	散布地	平安	字赤坂	H10年新規
93	赤 坂 田	散布地	縄文	字赤坂	旧清水沢
94	駒 水	散布地	縄文	字駒水	H10年新規
95	陣 場	散布地	縄文	字陣場	H10年新規
96	柳 沢	散布地	縄文	字柳沢	H11年新規
97	上 水	散布地	縄文後期	生母字上水・吉田	H11年新規
98	沼 根	散布地	縄文	生母字沼根	旧笹森
99	青 木	散布地	縄文後期・晩期	生母字青木・吉ノ沢	
100	田 谷	散布地	平安	生母字田谷	H11年新規
101	生 母 長 根 丁	散布地・経塚?	縄文・平安末?	生母字長根	H11年新規
102	生 母 長 根 田	経塚?	平安末	生母字長根	H11年新規
103	気 仙 防 塚	その他の塚	近世	生母字長根	H11年新規
104	生 母 谷	散布地・城跡跡	旧石器・近世	生母字栗谷	
105	荒 前	散布地	弥生	生母字荒谷	H11年新規
106	東 館 (赤 生 津 城)	城跡跡	中世	生母字西田	
107	滝 水	散布地	縄文	生母字新地	H11年新規
108	峠 丁	散布地	縄文	生母字峠	H11年新規
109	養 輪	散布地	縄文前期・中期	生母字養輪	H11年新規
110	日 向	散布地	縄文	生母字日向	H11年新規
111	羽 場	堀跡跡	中世	生母字羽場	
112	竹 ノ 内	散布地	縄文	生母字竹ノ内	H11年新規
113	吉 船	城跡跡	中世	生母字薬林	

III 調査の方法と室内整理

1 野外調査の方法

(1) 調査区の区割設定

明後沢遺跡群の区割設定は、平成13年度の第11次調査を踏襲し整合性を持たせている。遺跡群の最西端を始点とし、遺跡全域をカバーできるように平面直角座標X系(日本測地系)に合わせてグリッドの設定を行っている。また、一辺50×50mの大区画に区割を行い、東から西側に1～Vのアラビア数字、北から南側に西側にアルファベットの大文字A～Dを付している。さらに大区画を5×5mの20小区画に細分し、東西方向に数字の1～10、南北方向にアルファベットの小文字a～jを与えている。

調査区の名称は大区画と小区画の組合せで、I A 1 aやII B 2 bというように呼称する。調査区内における各基準点と補助杭の成果値は、次のとおりである。(日本測地系)

区域	杭名	X座標(m)	Y座標(m)	区域	杭名	X座標(m)	Y座標(m)
A	基準点1	-101,530.000	26,100.000	G	補点7	-101,750.000	25,950.000
A	基準点2	-101,670.000	26,165.000	H	補点8	-101,800.000	25,950.000
E	補点1	-101,374.000	26,035.000	I	補点9	-101,830.000	26,175.000
A	補点2	-101,545.000	26,070.000	I	補点10	-101,830.000	26,175.000
B	補点3	-101,530.000	26,150.000	I	補点11	-101,850.000	26,090.000
B	補点4	-101,580.000	26,175.000	I	補点12	-101,850.000	26,130.000
B	補点5	-101,620.000	26,175.000	B	補点13	-101,530.000	26,185.000
E	補点6	-101,670.000	26,150.000				

(2) 粗掘りと遺構検出

本調査に先立ち岩手県教育委員会生涯学習文化課による試掘調査(トレンチ)が実施されており、今年度第16次調査区も遺構の分布がある程度把握されていたことから、表土除去と粗掘りは重機(エンボ)を使用することとし、その後に入力(鋤簾掛け)で遺構検出作業を行っている。

(3) 遺構の命名

検出された遺構の命名は、昨年度調査が行われた明後沢遺跡群第11次調査からの継続ということもあり昨年に習い以下のアルファベットの略号を使用した。昨年度の調査で検出されなかった遺構で今回の調査において新たに検出した遺構については略号を使用していない。遺構番号については昨年度検出された遺構についてはその続き番号を付し、新たに検出した遺構については新しく番号を付した。なお、柱穴土坑については昨年度も検出されているが、数が多いことから新たに番号を付した。陥し穴状遺構・粘土採掘場など略号は、全てSXとして扱っている。

陥穴住居跡……SI 陥穴状遺構……SKI 土坑……SK 溝跡……SD

その他の遺構……SX (陥し穴状遺構・粘土採掘場など)

また、野外調査時に遺構として認定したものの精査途中で変更したものは新遺構名を記し、室内整理段階で登録抹消したものは欠番とした。なお、遺物の注記は変更前の遺構名(旧名)でしている。

(4) 遺構の精査と実測

検出された竪穴住居跡の精査は4分法、土坑や焼土の精査は2分法で実施している。遺構の平面実測は従来の簡易遺り方測量で行い、溝跡と柱穴状土坑の一部は光波測量・平板測量で作成した。各遺構の実測図縮尺は1/20を基本とし、溝跡と溝状遺構の平面図は1/20である。遺構内から出土した遺物は必要に応じて番号を付し、写真撮影と記録後に取り上げている。

(5) 写真撮影

野外調査における写真撮影は、6×7cm判カメラ1台（モノクロ）と35mm判カメラ2台（モノクロ・リバーサル）を使用し、遺構検出、遺物の出土状況、断面、掘り上げ等を必要に応じて行っている。他にデジタルカメラ1台をメモ的に活用し、遺跡上空からセスナ機による空中写真も実施している。撮影にあたっては撮影内容を記載した「撮影カード」を多用し、アルバム整理を行いやすくした。

(6) 広報活動

埋蔵文化財に対する啓蒙活動は、平成14年10月17日(木)に今年度の調査成果を報告する現地公開会を開催している。

2 室内整理の方法

(1) 作業手順

遺物の整理作業は現場で残った遺物の水洗から行い、次に①注記、②各遺物ごとの仕分け・登録、③接合復元、④拓本、⑤写真撮影、⑥実測、⑦トレース、⑧遺物図版作成の順に行っている。

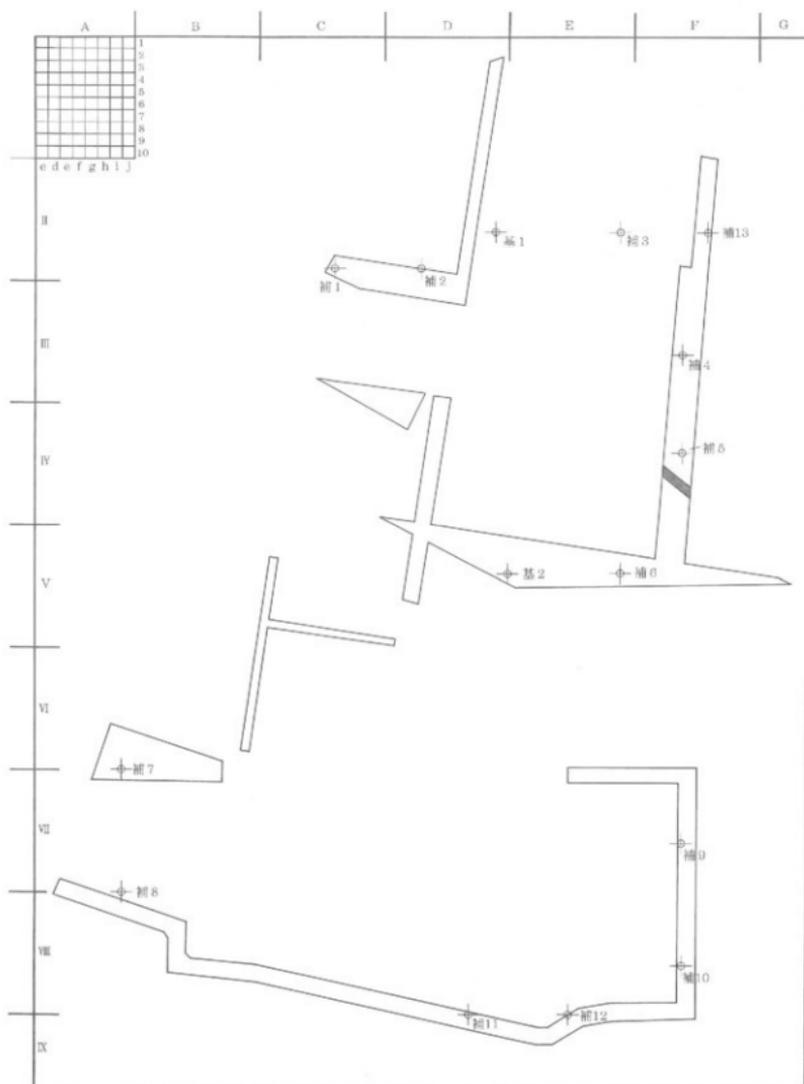
遺構の整理作業は最初に①原図の点検・合成、②第2原図の作成、③トレース、④遺構図版作成の順に進めた。また、これらと並行して各種の⑤計測、⑥鑑定・分析、⑦鉄製品の保存処理、⑧原稿の執筆を行い報告書に掲載している。

(2) 遺構図版

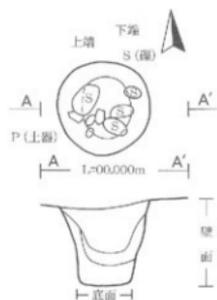
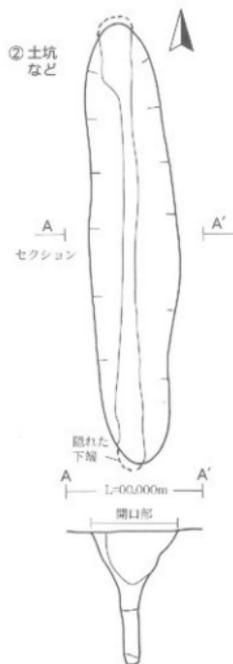
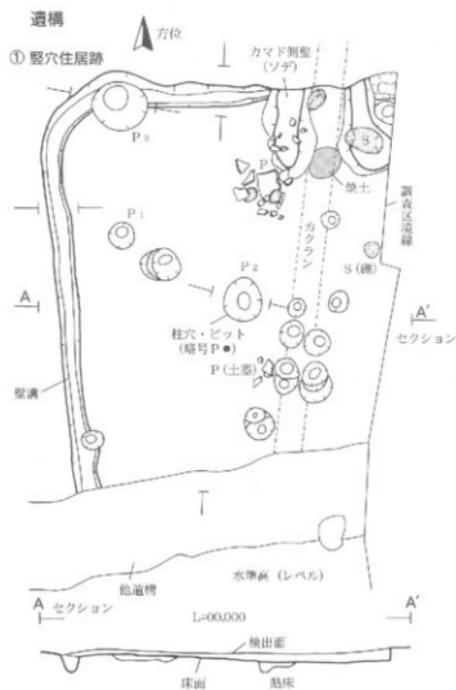
各遺構図版は次の縮尺を原則とし、各図面にスケールを付している。遺構位置図は調査時に作成した図面を基に1/200で掲載している。S I 竪穴住居跡・S K I 竪穴状遺構は平面・断面1/60、S K 土坑・S X 墓壕・S X 陥穴状遺構は平面・断面1/50、S D 溝跡は平面1/200・断面1/40、S X 焼土は平面・断面1/20、上取り場平面・断面は1/80、柱穴状土坑は平面 1/250・断面不定等である。図版中の方位は座標北（基準点1の真北方向角は0度15分55秒西偏）を示している。

(3) 遺物図版

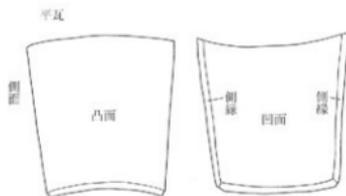
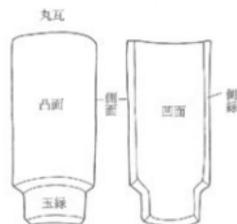
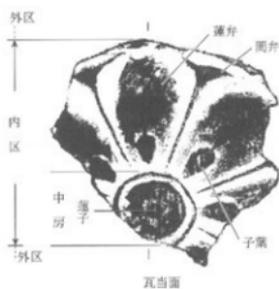
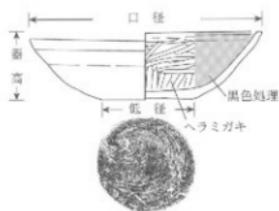
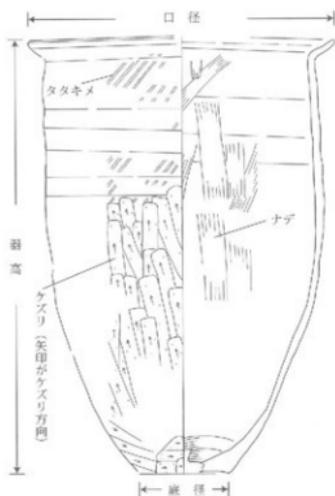
土器の残存率は口縁上端部の表現で区別し、器面調整は中軸線の両側の半分を図化している。掲載遺物図版の縮尺率は、小型土製品・鉄製品・陶磁器破片が原寸、土器（土師器・須恵器）・拓影が1/3である。なお、細片のため図化せず写真掲載のみに止めたものもある。土器の調整技法の表現は、凡例に示すとおりである。



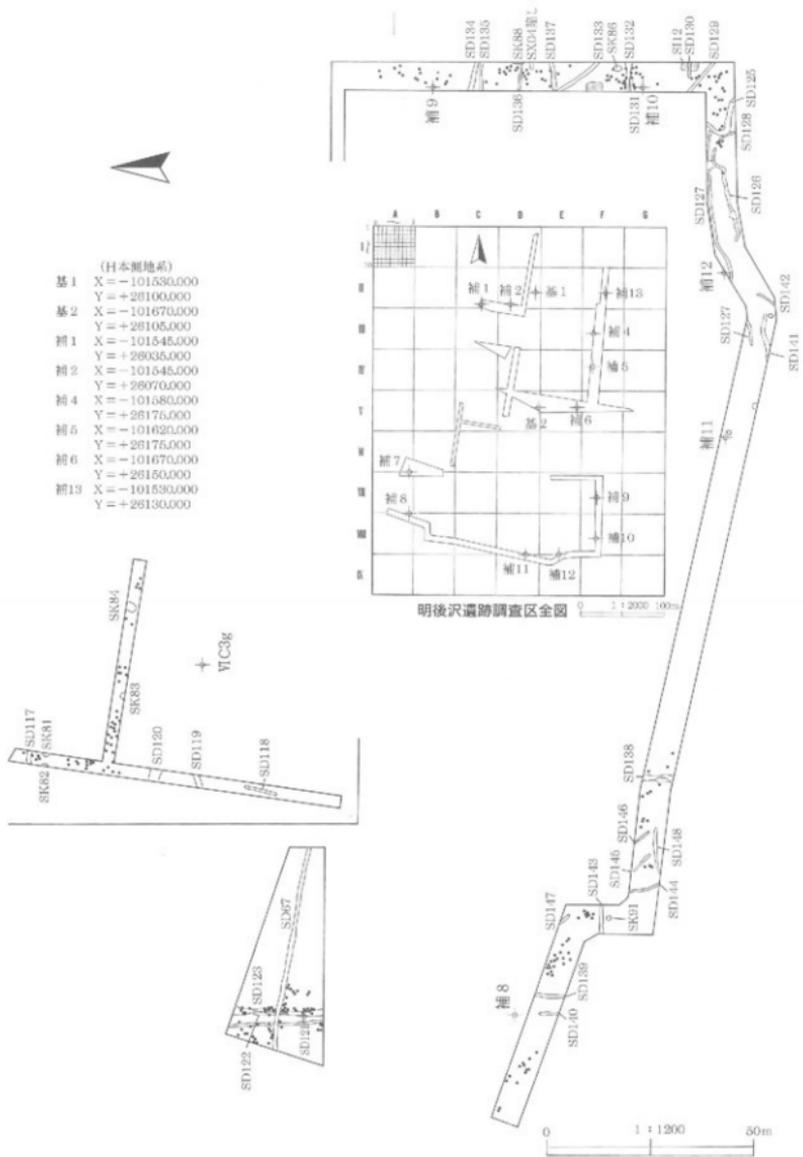
第6図 グリット配置図



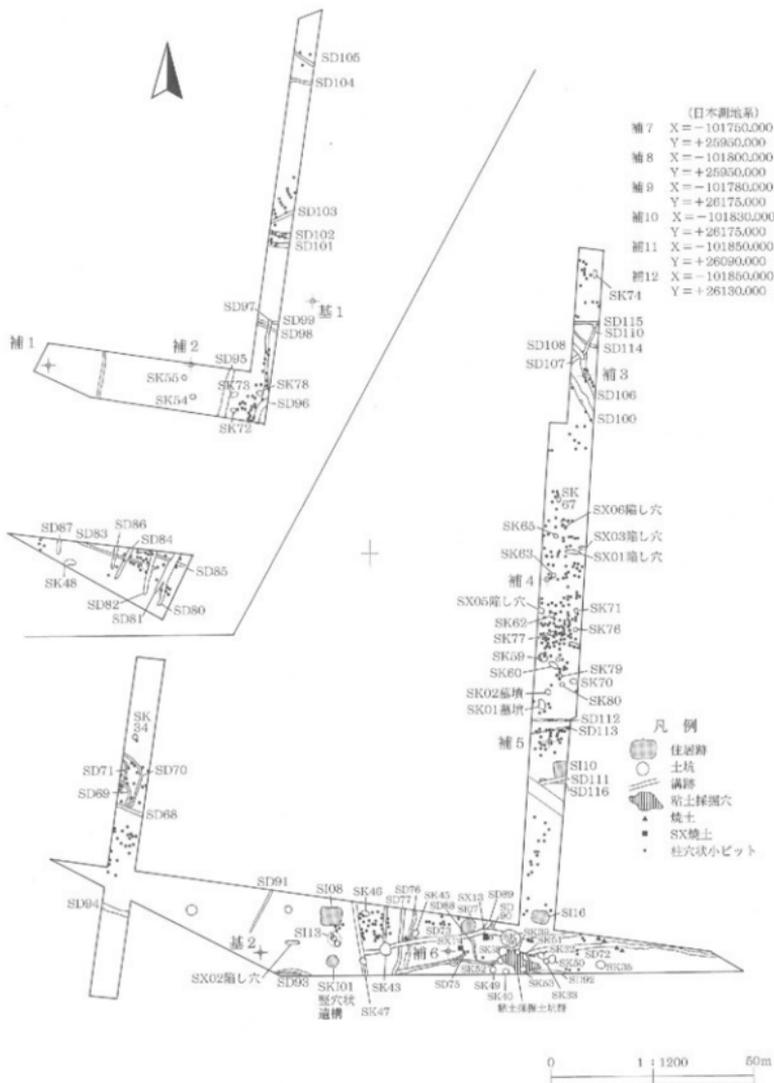
第7図 凡例図(1)



第8図 凡例図(2)



第9図 遺構配置図(1)



第10図 遺構配置図(2)

III 検出された遺構と遺物

1 概要

明後河遺跡群第16次調査で検出された遺構は、平安時代の竪穴住居跡6棟をはじめとし、竪穴状遺構1棟、平安～中世の土坑52基、墓坑2基、溝跡81条、粘土採掘坑群、焼土遺構7基、柱穴状土坑852基等である。柱穴状土坑については調査範囲が狭いこともあり建物跡を復元することができなかった。しかし、陶器片等中世の遺物が多く出土していることから建物跡が存在する可能性は高いと思われる。

出土した遺物の大部分は平安時代の土師器、須恵器を中心に12世紀の陶磁器片、手づくね・ロクロかわらけ古瓦、土鈴等が出土している。縄文土器片も出土しているが、ごく僅かである。土師器・須恵器の器種は、坏、高台付坏、甕、長頸甕、大甕、長頸瓶、土鍋、小皿である。縄文時代の遺物は土器、石器である。また、特筆すべきは湯美産、常滑産の陶器片と中国産の磁器片と手づくねかわらけの出土である。これらの遺物は平泉遺跡群からはよく出土するがそれ以外の遺跡からまとめて出土することは少ない。古代の古瓦が出土する遺跡として有名な木遺跡群であるが、今回の調査によって12世紀における藤原氏との関係についてもこれからの検討課題になるとと思われる。

2 遺構

(1) 竪穴住居跡

調査区中央部から3棟、北側から1棟、南側から2棟が検出されている。大半が東側にカマドが設置されており、時期は9世紀後半～10世紀初頭に属するものがほとんどである。

S106竪穴住居跡（第11回、写真図版7）

<位置・重複関係> 調査区中央部東よりのVF3c～VF3dグリッド、標高70.1mに位置する。重複関係はない。

<検出状況> 暗褐色上の方形プランとして確認し、竪穴住居跡とした。検出面はIV層面である。

<平面形・規模> 後世の開田により大部分が削平されているが、平面形はほぼ長方形を呈し、規模は、4.0×3.0mである。主軸方位はN-11°-E、床面積は11.43㎡である。

<埋土> 単層で黄褐色土粒を含む堅く締まった暗褐色土を主体に構成される。開田の際に大部分が削平されており、4～12cm程の残存である。

<壁・床> 壁は床面から緩やかに立ち上がるが、削平されているため全容は不明である。壁高は残存部分で、南北壁10cm、東西壁4cmである。床面は平坦で堅く締まる。貼り床は検出されなかった。

<柱穴・他の施設> 貯蔵穴P1～4、柱穴状土坑P5～8の計8基と焼土1基を検出した。埋土は暗褐色土の単層である。P5～8は後世の掘削の可能性も考えられる。規模・形状などからP1～4は貯蔵穴と思われる。埋土中から土師器片が出土している。

<カマド> カマドは北壁と東壁側で2基検出した。Aは北壁の東よりに設置され、残存状況は良くなく、燃焼部焼土と芯材として使用されていたと思われる自然石しか残存していなかった。Bは東壁のやや北よりに設置され、本体上部は削平により、残存していない。軸部には芯材として土師器等の土器が使用され、黒褐色土主体で構築されていた。当初Bカマドに付随するP1・2を貯蔵穴と考え精査を進めていたが、これらのピットを埋めて、その上にカマドBを構築していることが判明した。このことから、何らかの理由でカマドAを作り替える際にP1・2を埋め、その上に新しいカマドBを構築したものと思われる。カマドAより

カマドBが新しい。両カマドともに煙道と煙出しピットは認められなかった。燃焼部はカマドAが25×18cmのほぼ円形を呈し、層厚は5cm、カマドBは55×28の円形の焼土が形成され、層厚は2cmを測る。

<遺物> 1～3、5・9、6～8の坏、10・11の小型甕、15の甕等が出土している。

<時期> 出土遺物から平安時代と思われる。

S107竪穴住居跡（第12図、写真図版9）

<位置・重複関係> 調査区中央部VE3j～VF3aグリッド、標高70.9mに位置する。南側をSD73に切られる。

<検出状況> 文化課トレンチ38を調査中にカマド跡（袖の芯材）を見つけ、その後に暗褐色の歪んだ方形のプランを検出し、竪穴住居跡とした。検出面はIV層面である。

<平面形・規模> 後世の開田により上部は削平されている。平面形は歪んだ方形を呈し、奥横は長軸4.1m、短軸3.3mを測る。主軸方位はS-18°-W、床面積は11.55㎡である。

<埋上> 7層に区分した。赤褐色焼土・黄褐色土粒を含む、堅く締まった暗褐色土を主体に構成される。炭化物と焼土が多く混入していることから焼失住居跡と考えられる。

<壁・床> 壁は床面から緩やかに立ち上がるが、削平されているため全容は不明である。壁高は残存部分で、北壁25cm、東西壁20cmを測る。床には焼土や炭化物が多量に広がっていることから焼失住居跡と考えられる。床面はほぼ平坦で堅く締まる。貼り床は検出されなかった。

<柱穴・他の施設> 柱穴状土坑・貯蔵穴P1～5と焼土1基を検出した。貯蔵穴の埋土は暗褐色土の単層である。主柱穴は確認できなかった。P1は貯蔵穴と思われ、埋土中から土師器片が出土している。

<カマド> カマドは1基検出した。南壁側に設置される。文化課の試掘による攪乱とSD73に切られているため残存状況は良くない。燃焼部焼土と芯材として使用されていたと思われる自然石・土師器等のみ残存していた。燃焼部は45×25cmのほぼ円形の焼土が形成され、層厚は5cmを測る。煙道、煙出しピットはSD73に切られているため残存していない。

<遺物> 22の高台付皿？と23の長胴甕が出土している。

<時期> 出土遺物から平安時代と思われる。

S108竪穴住居跡（第12図、写真図版10）

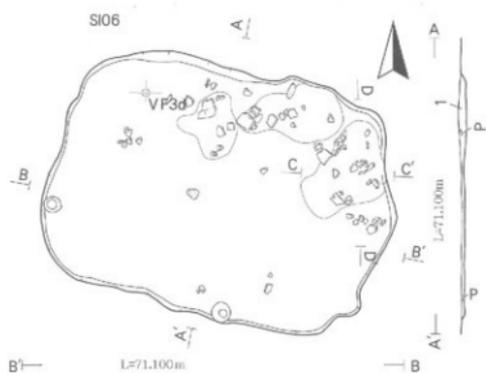
<位置・重複関係> 調査区中央部VI2d～VE3dグリッド、標高71.4mに位置する。重複関係はない。

<検出状況> 文化課トレンチ75を調査中に南北に走る幅40～70cmの細長いプランを検出したため、当初は溝跡と考えていたが、検出を進める内に溝跡がU字形のプランとなり、南側に壁と思われる立ち上がりと埋土の一部を検出した。掘り方の一部が溝跡のように見えたもので竪穴住居跡と判明したものである。検出面はV層面である。

<平面形・規模> U字形の掘り方と南側に残った壁から推測すると、平面形はほぼ隅丸方形を呈し、規模は5×4m、主軸方位はE-6°-S、床面積は20.18㎡と推定される。

<埋上> ほとんど残存していない。南側に一部残った埋土は暗褐色土を主体に構成されているが、掘り方理上の可能性がある。

<壁・床> 壁は後世の攪乱と文化課トレンチにより残存していないため全容が不明である。検出段階で壁と思われた立ち上がりは、床面まで削平されていることから掘り方の一部であると思われる。床面は一部残

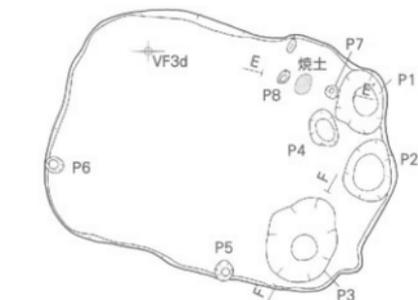


SI06AA'

1. 10YR2/3 黒褐色シルト 黒褐色粘土質土(10YR5/6)
30~50%混入 粘性ややあり 締まりあり

SI06BB'

1. 10YR2/3 黒褐色シルト 黄褐色粘土質土(10YR5/6)
30~50%混入 粘性ややあり 締まりあり



SI06F3 FF'

1. 10YR2/2 黒褐色シルト 明褐色粘土質土
(10YR7/6)ブロック混入
炭化物少量混入 粘性ややあり 締まりややあり

E—E L=71.000m

焼土

SI06 焼土 EE'

1. 5YR4/6 赤褐色粘土 焼成なし 締まりややあり
2. 10YR3/2 黒褐色シルト 焼土粒・炭化物粒・黄褐色シルトブロック混入 粘性なし 締まりややあり

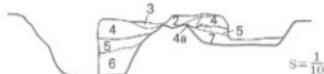
SI06カマド CC'

1. 10YR3/2 黒褐色シルト 炭化物粒・焼土粒少量混入 粘性あり 締まりややあり
2. 5YR4/6 赤褐色粘土主体に黒褐色土(10YR3/2)30%混入 粘性あり 締まりあり
3. 5YR4/6 赤褐色粘土と黒褐色土(10YR3/2)20~50%混入 粘性あり 締まりあり (天井部炭化物)
4. 5YR4/8 赤褐色粘土 粘性あり 締まりかなりあり (煙突部)

C—C L=71.200m



D—D L=71.200m

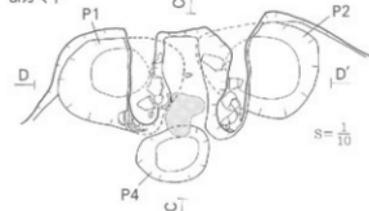


SI06カマド D'

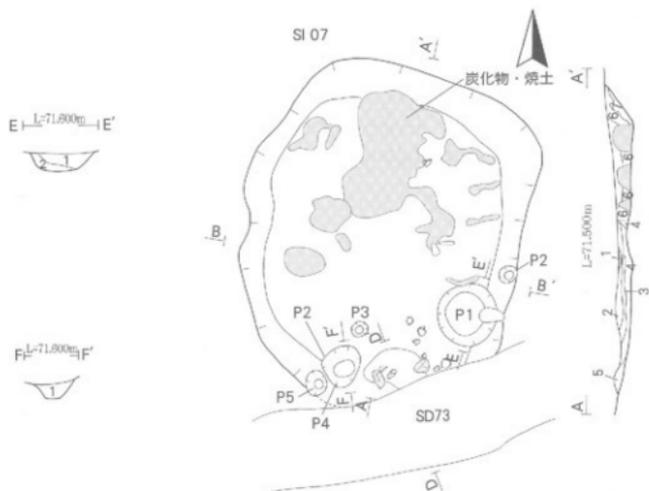
1. 10YR3/2 黒褐色シルト 炭化物粒・焼土粒少量混入 粘性あり 締まりややあり
2. 5YR4/6 赤褐色粘土主体に黒褐色土(10YR3/2)30%混入 粘性あり 締まりあり
3. 10YR3/2 黒褐色土と赤褐色土(5YR4/6)の混合土 炭化物粒混入
4. 10YR3/0 黄褐色粘土と黒褐色土(10YR2/3)60%混合土 焼土(2)5YR5/8)混入 炭化物粒少量混入 粘性かなりあり 締まりかなりあり
5. 10YR2/3 黒褐色土 黄褐色粘土質土(10YR7/8)50%と粘土(2)5YR5/8)少量混入
6. 10YR2/2 黒褐色土 黄褐色粘土粒少量混入 粘性あり 締まりややあり
7. 10YR2/3 黒褐色土と黄褐色土質土(10YR7/8)の混合土 炭化物粒30%混入

0 1 : 50 2m

シカマド



第11回 S I 06竪穴住居跡

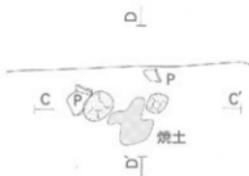


SD07BE'

1. 10YR2/3 黒褐色シルト 黄褐色粘土質土(10YR8/8)ブロック状集積体入 粘性なし 締まりややあり
2. 10YR3/4 暗褐色シルトと黄褐色粘土質土(10YR8/8)の混合土 粘性なし 締まりややあり

SI07FP'

1. 10YR2/2 黒褐色シルト 黄褐色粘土質土(10YR5/8)粒状集積体入 粘性なし 締まりあり



SI07CC'

1. 10YR3/3 暗褐色シルト 炭化物・焼土混入 粘性なし 締まりあり
2. 10YR0/8 明黄褐色シルト 粘性あり 締まりあり
3. 10YR5/8 明黄褐色シルト 粘性ややあり 締まりあり



SI07AA'

1. 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性なし 締まりややあり
2. 10YR2/3 黒褐色シルト 明黄褐色土ブロック状20%混入 粘性なし 締まりややあり
3. 10YR2/3 黒褐色シルト 明黄褐色土ブロック状10%混入 粘性なし 締まりややあり
4. 10YR6/8 明黄褐色粘土質土と明褐色シルト(10YR 3/4)の混合土 粘性なし 締まりややあり
5. 10YR2/3 黒褐色シルト 明褐色土(7.5YR5/8)ブロック状混入
6. 10YR3/8 暗褐色シルトと黒褐色シルト(10YR2/3)混合土 粘性あり 締まりややあり
7. 10YR3/8 黄褐色粘土質土を主体に暗褐色シルト(10YR3/5)混入 粘性なし 締まりややあり

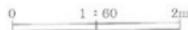
SI07BE'

1. 10YR3/3 暗褐色シルト 焼土混入 粘性なし 締まりあり
2. 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性なし 締まりあり
3. 10YR2/2 黒褐色シルト 黄褐色粘土質土(10YR5/8)混入 粘性なし 締まりあり
4. 10YR2/2 黒褐色シルトと黄褐色粘土質土(10YR5/8)の混合土 粘性なし 締まりあり
5. 10YR5/8 黄褐色粘土質土 粘性なし 締まりあり



SD07DD'

1. 10YR3/3 暗褐色シルト 炭化物・焼土混入 粘性あり 締まりあり
2. 10YR6/8 明黄褐色シルト 粘性あり 締まりあり
3. 10YR3/8 明黄褐色シルト 粘性ややあり 締まりあり



第12図 SI 07 竪穴住居跡

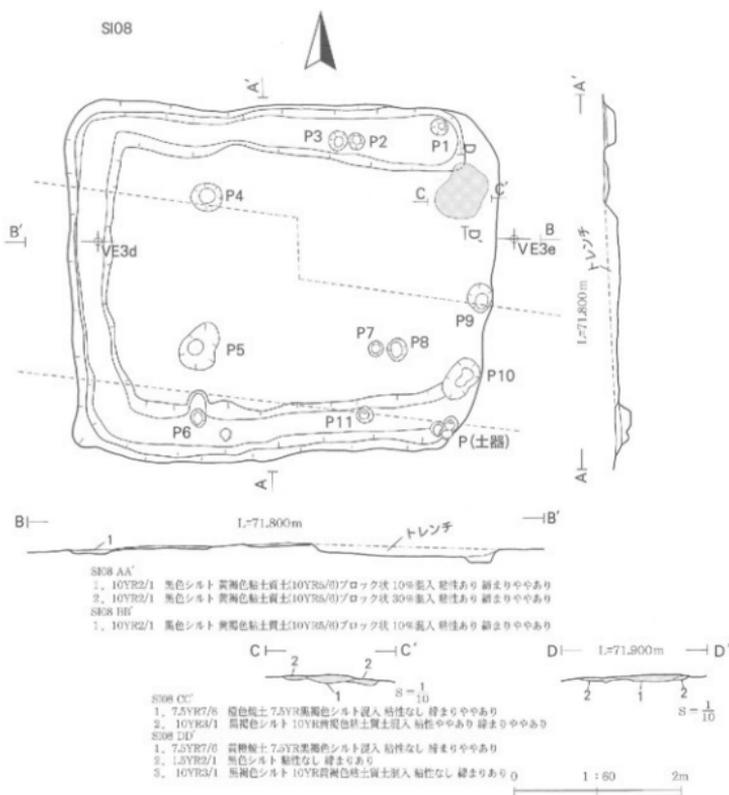
存している部分では平坦で堅くしまっている。貼り床は検出されなかった。

〈柱穴・他の施設〉 柱穴状土坑P1～11と焼土I基を検出した。柱穴状土坑の埋土は暗褐色土の単層である。P1～6・8・10は規則性が見受けられないことと削平がかなり進んでいたことを鑑みて後世の攪乱の可能性も考えられる。大きさ位置等からP7・9が柱穴と思われる。埋土中から土師器片が出土している。

〈カマド〉 カマド本体部は検出されなかったが、燃焼部跡を確認した。燃焼部位置から推測するに東壁側の北よりに設置されていたと考えられる。燃焼部は長軸66×短軸60cmのだ円形の焼土が形成され、層厚は10cmを測る。

〈遺物〉 完形の杯24～27が南東隅より出土している。

〈時期〉 出土遺物から平安時代と思われる。



第13図 S108竪穴住居跡

S I 10 竪穴住居跡 (第14図、写真図版11・12)

<位置・重複関係> 調査区北の東側区ⅣF 6 d グリッド、標高71.8mに位置する。南側をS D 111とS D 106に切られる。

<検出状況> 検出面はⅤ層面である。南北に走る現代の農業用水溝により削平を受けていた。

<平面形・規模> 竪穴住居跡の東部分が調査区外に延び、全体を検出できなかった。また、南側が溝跡に切られているため全容は不明だが、平面形はほぼ方形を呈し、規模は長軸4.5m、短軸4.0m前後と推定される。主軸方位はN、床面積は12.61㎡と推測される。

<埋 土> 2層に大別される。黄褐色土粒を含む、堅く締まった暗褐色土を主体に構成されている。

<壁・床> 壁は床面から鋭角的に立ち上がる。上部全体が後世の間田による削平を受けて全容は不明である。残存する壁高は、北壁10cm、西壁2cmを測る。床面は平坦で堅く締まっている。断面の観察から部分的に貼り床を施していたと思われるが、平面上からは確認できなかった。

<柱穴・他の施設> 西側から北側にかけて壁溝が走り、全容は不明だが、おそらく全体に巡っているものと思われる。幅16～22cm、深さ12～26cmを測る。柱穴はP 1～15を検出した。埋土は暗褐色土の単層である。規則的な並びが見受けられないため、後世における杭穴等の攪乱の可能性も高いと思われる。

<カマド> カマドは1基検出した。北壁側の若干東よりに設置された。ちょうどカマドの中央部分は農業用水溝により破壊されていたが、両軸部分と燃焼部焼上は残存していた。袖部には芯材として土師器片が使用され、黄褐色粘土と暗褐色土で被覆されていた。燃焼部は28×22cmのほぼ円形の焼土が形成され、層厚は2cmである。煙道と煙出しピットは攪乱により残存していない。

<遺 物> 35・37の坏、36の高台付皿、38の小型甕、39～42の長胴甕43～44の甕が出土している。

<時 期> 出土遺物から平安時代と思われる。

S I 11 竪穴住居跡 (第15図、写真図版13・14)

<位置・重複関係> 調査区南の東端ⅣF 4 d～ⅣF 5 d グリッド、標高71.3mに位置する。重複関係はない。

<検出状況> 検出面はⅣ層面である。プランの中央部分は文化課トレンチにより削平を受けている。

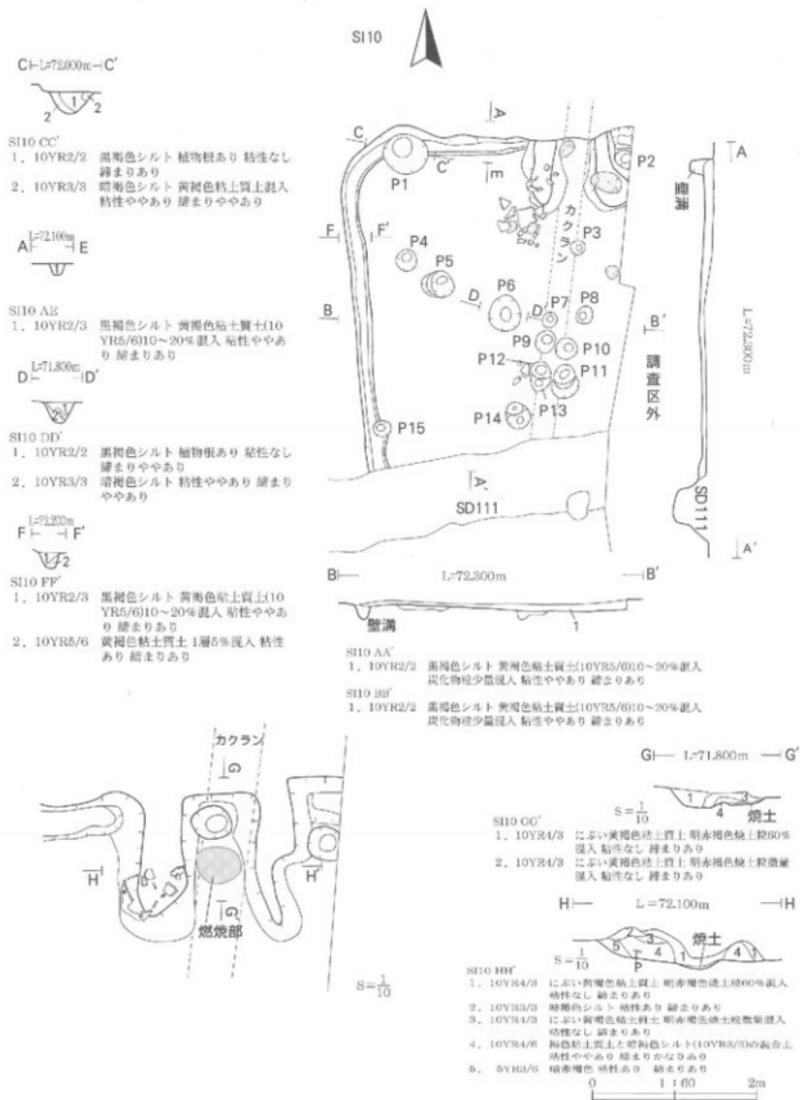
<平面形・規模> 竪穴住居跡の西側部分が調査区外に延びており、全体を検出できなかったため全容は不明である。検出した部分から平面形はほぼ方形を呈し、規模は長軸4m前後、短軸3.6mと推定される。主軸方位はE、床面積は12㎡前後と思われる。

<埋 土> 4層に大別した。黄褐色土粒を含む、堅く締まった暗褐色土を主体に構成されている。

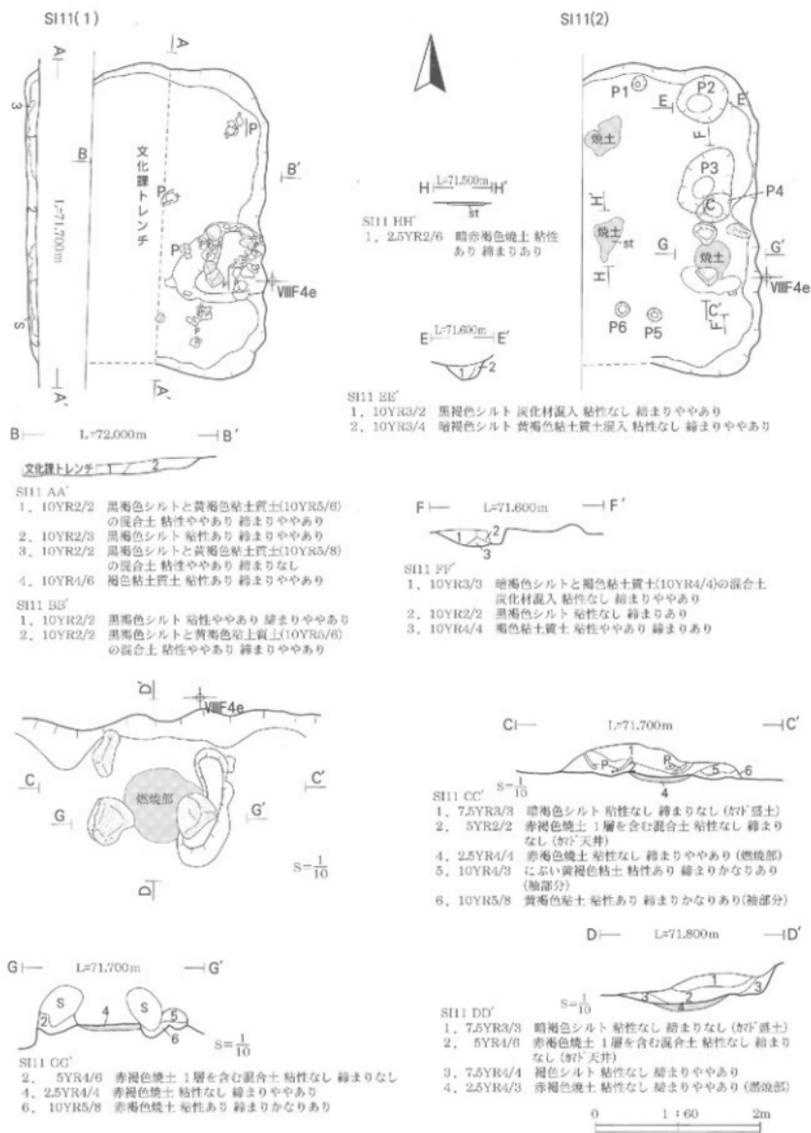
<壁・床> 壁は床面から緩やかに立ち上がる。残存する壁高は、北壁16cm、南壁8cm、東壁12cmを測る。床面は平坦で堅く締まる。貼り床は検出されなかった。

<柱穴・他の施設> 柱穴はP 1～6を検出した。埋土は暗褐色土の単層である。規則的な並びが見受けられないため、後世の杭穴の可能性も高いと思われる。また、住居跡やや中央に2基の焼土を検出した。焼土1は層厚1cm、焼土2の層厚は1cmを測る。文化課トレンチにより削平を受けているため用途については不明である。P 3は貯蔵穴と思われる。

<カマド> カマドは1基検出した。東壁側のほぼ中央に付設される。袖部には芯材として土師器片や自然石が使用され、黄褐色粘土と暗褐色土で構築されていた。燃焼部は50×45cmのほぼ円形の焼土が形成され、層厚は6cmである。煙道と煙出しピットは検出されなかった。



第14図 SI10竪穴住居跡



第15図 S I 11 竪穴住居跡

<遺物> 48～50の環、51の柱状高台、52～54・56の小型甕、55・57・59・60・62の甕、58・61・63の長胴甕、64の鍋等が出土している。

<時期> 出土遺物から平安時代と思われる。

S112 竪穴住居跡 (第10図、写真図版15)

<位置・重複関係> 調査区北の東側区ⅧF9c～ⅧF9dグリッド、標高70.7mに位置する。中央部をSD130に切られる。

<検出状況> 試掘で検出していたもので、検出面はⅣ層面である。

<平面形・規模> 竪穴住居跡の東部分が調査区外に延びており、全体を検出できなかった。全容は不明だが、平面形はほぼ方形を呈し、規模は長軸4.5m、短軸3.8m前後と推定される。主軸方位は不明、床面積は17.1m前後と思われる。

<埋土> 2層に細分され、黄褐色土粒を含む堅く締まった暗褐色土を主体に構成される。

<壁・床> 壁は床面から鋭角的に立ち上がる。上部全体が後世の開田による削平を受けて全容は不明である。残存する壁高は、北壁5cm、南壁10cm、西壁15cmを測る。床面は平坦で堅く締まる。断面の観察から部分的に貼り床を施していたと思われるが、平面上からは確認できなかった。

<柱穴・他の施設> P1～2を検出した。埋土は暗褐色土の単層である。規則的な並びが見受けられないため、後世の杭穴の可能性も高いと思われる。一部、持ち込んだと思われる白色粘土が少量残っていた。

<カマド> カマドは検出されなかった。

<遺物> 68の高台付環や細片のため固化しなかったが69～74の環が出土している。

<時期> 出土遺物から平安時代と思われる。

S113 竪穴住居跡 (第16図、写真図版16)

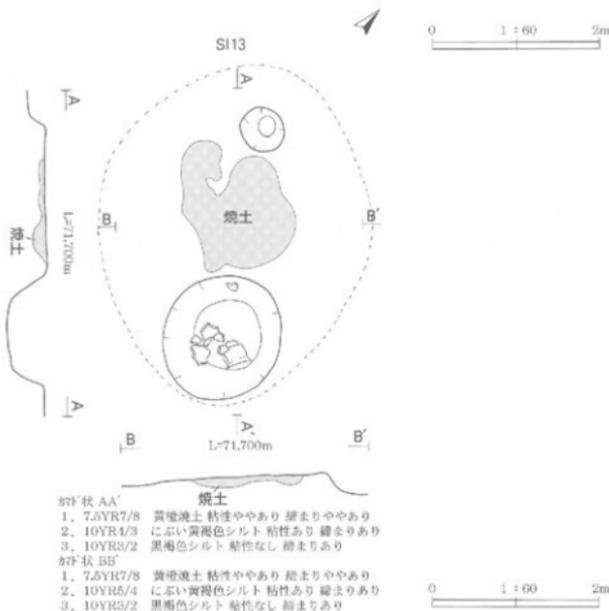
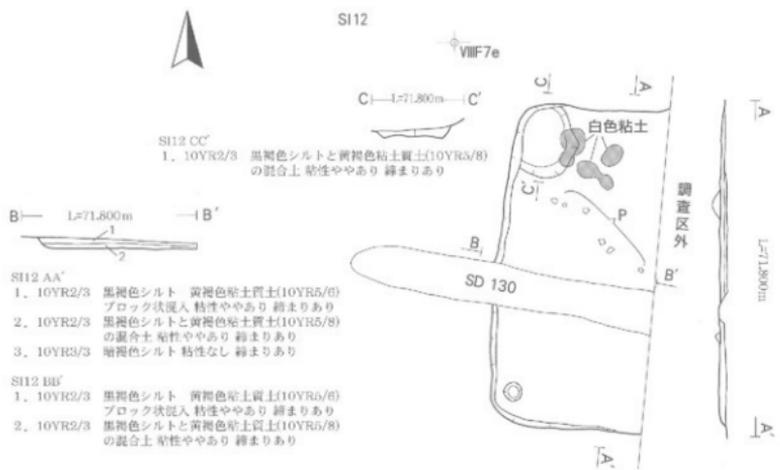
<位置> 調査区中央ⅤE4d～ⅤE4eグリッド、標高71.2mに位置する。重複関係はない。

<検出状況> 部分的に残るⅢ層黒色面で赤褐色焼土の広がりを検出し、焼土付近からは土師器片等がまとまって出土した。また、焼土脇には貯蔵穴と思われるピットを有していたため竪穴住居跡と判断したものである。床や壁などその他の付属施設は開口時の削平を受けたため残存しなかったと考えられる。

<規模・平面形> 焼土部の規模は長軸59～81cm、短軸27～57cmを測り、平面形は不整である。焼土両脇にP1～P2を有し、土師器片等が出土していることから貯蔵穴と思われる。袖部や袖部の芯材として使用されることが多い自然礫や土器片等は検出されなかった。主軸方位は東方向と推定される。

<遺物> 170～173の環、174・175の甕が出土している。

<時期> 出土遺物から平安時代と思われる。



第16図 S I 12・13竪穴住居跡

(2) SK101竪穴状遺構

調査区中央部から1棟検出された。平面形が円形を呈しているが、焼土周辺から土師器片などが出土して
る。カマドなどの施設が検出されないことから竪穴状遺構としたものである。

SK101竪穴状遺構 (第17図、写真図版17)

〈位置・重複関係〉 調査区中央部VE2d～VE3dグリッド、標高71.4mに位置する。重複関係はない。

〈検出状況〉 7号焼土を精査後に掘り下げ、廃棄されたと思われる焼土の広がりとはっきりと確認しにくい
か円形の暗褐色のプランを検出した。当初は竪穴住居跡と考えていたが、カマド等の施設が検出されなかつ
たことから竪穴状遺構としたものである。

〈平面形・規模〉 平面形は楕円形を呈する。南壁の立ち上がりが明瞭でないため長軸3m、短軸2.8m前
後と推測される。

〈埋土〉 2層に大別した。暗褐色土主体に焼土ブロックが混入する。

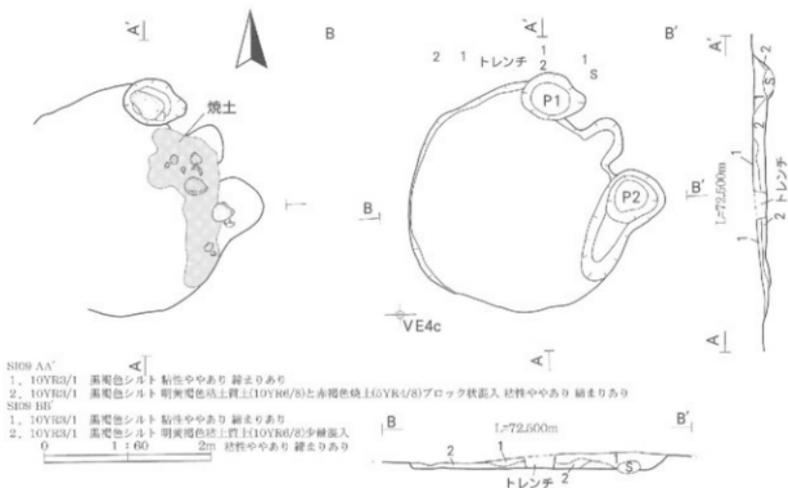
〈壁・床〉 明瞭な立ち上がりがみられないが、北壁5cm、東壁5～10cm、西壁3cmを測る。床面はほぼ平
らで堅く締まる。

〈柱穴・他の施設〉 P1～2を検出した。P1から大きな礫が出土し、P2から土師器片が出土している。
その他の施設は検出されなかった。

〈遺物〉 土鈴と28～34の坏が(内2点内黒処理)、図化しなかったが粘土焼成塊が出土している。

〈時期〉 出土遺物から平安時代と思われる。

〈その他〉 プランは円形を呈しており、焼土が広範囲で検出されたことや焼成粘土塊等が出土しているこ
とから土器焼成遺構の可能性も考えた。しかし現地性焼土等もなくそれを裏付けることはできなかった。よつ
て本遺構の詳細については不明である。



第17図 SK101竪穴状遺構

(4) 焼土遺構

焼土遺構は7基検出した。全て調査区中央部からの検出である。中には焼土中や焼土周辺に土師器等の土器が出土しているものがある。これらの焼土遺構は住居のカマド跡の可能性が高いと考えられる。恐らく一帯が開田時の削平、または後世の耕作による擾乱を受けたため焼土部分しか残存しなかったものと推測される。

S X 01 焼土遺構 (第18図、写真図版18)

<位置> 調査区中央部V F 4 f グリッド、標高71.2mに位置する。

<検出状況> 赤褐色土の広がりとして検出した。土師器等の上器片が多く出土することから竪穴住居カマド跡の可能性が高い。

<規模・平面形> 規模は長軸83cm、短軸22~69cmで、層厚7~15cmを測る。平面形は不整を呈している。

<遺物> 149~151の環、152の高台付環?が出土している。

<時期> 出土遺物から平安時代と思われる。

S X 02 焼土遺構 (第18図、写真図版18)

<位置> 調査区中央部V F 4 b グリッド、標高71.2mに位置する。

<検出状況> 赤褐色焼土の広がりとして検出した。

<規模・平面形> 規模は長軸76cm、短軸20cm~42cm、層厚5~8cmを測る。平面形は不整な楕円形を呈する。

<遺物> 出土していない。

<時期> 不明である。

S X 03 焼土遺構 (第18図、写真図版19)

<位置> 調査区中央部V F 5 f グリッド、標高71.2mに位置する。

<検出状況> 赤褐色焼土の広がりとして検出した。

<規模・平面形> 規模は長軸24cm、短軸21cm、層厚5cmを測る。平面形はほぼ円形を呈する。

<遺物> 出土していない。

<時期> 不明である。

S X 04 焼土遺構 (第18図、写真図版19)

<位置> 調査区中央部V F 5 f グリッド、標高71.2mに位置する。

<検出状況> 赤褐色焼土の広がりとして検出した。焼土中から土師器片が出土していることから、竪穴住居カマド跡の可能性が高いと考えられるが、詳細については不明である。

<規模・平面形> 規模は長軸52cm、短軸49cm、層厚6~10cmを測る。平面形は歪んだ楕円形を呈する。

<遺物> 焼土中から環破片154・155が出土している。

<時期> 出土遺物から平安時代と思われる。

S X 05 焼土遺構 (第18図、写真図版19)

<位置> 調査区中央V F 5 g グリッド、標高71.2mに位置する。

<検出状況> 赤褐色焼土の広がりとして検出した。焼土検出面上、焼土中から土師器環や甕の破片が多く出土していることから竪穴住居カマド跡の可能性が高い。

<規模・平面形> 規模は長軸64cm、短軸35~57cm、層厚5~7cmを測る。平面形は不整である。

<遺物> 151・156・164の甕破片、155・159~163の環、158の須恵器片が出土している。

<時期> 出土遺物から平安時代の可能性が高いと思われる。

S X 06焼土遺構 (第18図、写真図版19)

<位置> 調査区中央中央部 V E 5 g グリッド、標高71.3mに位置する。

<検出状況> 赤褐色焼土の広がりとして検出した。一部攪乱を受けている。

<規模・平面形> 規模は攪乱のためはっきりしないが、確認できる部分では長軸07cm、短軸47cm、層厚7cmを測る。平面形は菱形を呈する。

<遺物> 165の須恵器片が出土している。

<時期> 出土遺物から平安時代と思われる。

S X 07焼土遺構 (第18図、写真図版20)

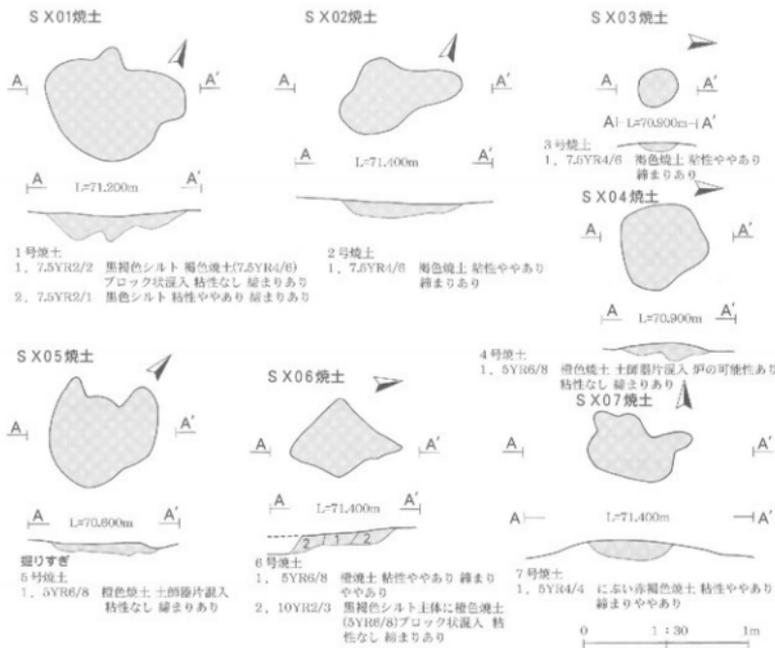
<位置> 調査区中央部 V E 4 e グリッド、標高71.1mに位置する。

<検出状況> 赤褐色焼土の広がりとして検出した。焼土検出面上、焼土中から土師器の坏、甕破片が出土していることから、竅穴住居カマド跡だったと思われる。

<規模・平面形> 規模は長軸52~52cm、短軸28~38cm、層厚12cmを測る。平面形は不整である。

<遺物> 焼土検出面上、焼土中から166・167・169の甕片、168の坏片が出土している。

<時期> 出土遺物から平安時代の可能性が高いと思われる。



第18図 S X 01~07焼土遺構

(4) 墓塚

調査区北側で2基を検出した。どちらも濫美産と思われる陶器片と骨片が出土した。骨片については少量のうえ細片で詳細については不明である。

SK01墓塚 (第19回、写真図版28)

〈位置・重複関係〉 調査区北の東側VF2c～VF3cグリッド、標高72.1mに位置する。重複関係はない。

〈検出状況〉 表土除去中に暗褐色土の楕円形のプランを検出し土坑と考えていたが、精査中に陶器片と骨片が出土したため、後で墓塚としたものである。

〈平面形・規模〉 平面形は卵型に近い楕円形を呈する。規模は開口部径2.7×1.2m、深さ64cm、面積3.24㎡を測る。長軸の軸線方向はN-Wである。

〈底面・壁〉 底面は緩く湾曲し、やや堅く締まる。壁は底面から緩やかに立ち上がる。

〈埋土〉 黄褐色土ブロックを含む、暗褐色土を主体に構成される。埋土上位には自然石が6個入れられていた。

〈出土状況〉 土坑底部、埋土下位～上位にかけて濫美産と思われる陶器片30点が出土し、埋土中位から骨片が出土している。また、埋土上位からはロクロかわらけが出土している。炭化物も混入しており、種実はコナラと同定された。

〈遺物〉 濫美産の陶器片格子状押印文20数点が出土している。

〈時期〉 出土遺物などから12世紀の遺構と考えられる。

SK02墓塚 (第19回、写真図版28)

〈位置・重複関係〉 調査区北の東側VF2cグリッド、標高72.1m、1号墓塚の北東1.8m位置する。重複関係はない。

〈検出状況〉 表土除去中に暗褐色土の楕円形のプランを検出し土坑と考えていたが、精査中に陶器片と骨片が出土したため、後で墓塚としたものである。

〈平面形・規模〉 平面形は楕円形を呈する。規模は開口部径1.5×1.2m、深さ55cm、面積1.38㎡を測る。長軸の軸線方向はN-Wである。

〈底面・壁〉 底面は緩く湾曲し、やや堅く締まる。壁は底面から緩やかに立ち上がる。

〈埋土〉 黄褐色土ブロックを含む、暗褐色土を主体に構成される。埋土上位には自然石が2個入れられていた。配置等に規則性は見られなかった。

〈出土状況〉 埋土中位から修復痕のある濫美産と思われる陶器片1点が出土し、埋土中位から骨片が出土している。

〈遺物〉 濫美産の陶器片1点が出土している。この陶器片には修復痕がみられる。

〈時期〉 出土遺物などから12世紀の遺構と考えられる。

(5) 土坑

調査区全体で51基を検出した。遺物が出土する土坑が少なく詳細について不明なものが多い。また、単独の遺構としては精査した土坑の中には後述する粘土採掘土坑群に属する可能性が高いものも含まれていると思われる。

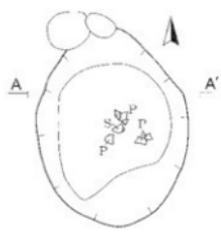
第2表 土坑観察表(1)

遺構名	S K 31土坑	遺構名	S K 32土坑	遺構名	S K 33土坑			
図版	第19図	図版	第19図	図版	第19図			
写真図版	第21図	写真図版	第21図	写真図版	第21図			
位置	VE 2 b~VE 2 c	位置	VF 5 d	位置	VF 5 d			
重複関係	なし	重複関係	なし	重複関係	なし			
平面図	円形	平面図	不整な楕円形	平面図	円形			
規模 cm	開口部径	165×168	規模	開口部径	148×200	規模	開口部径	115×124
	底部径	100×105	規模	底部径	94×120	規模	底部径	65×80
	深さ	35	cm	深さ	46	cm	深さ	46
埋土	黒褐色土主体の単層である	埋土	暗褐色土と黄褐色土が主体の4層に大別される	埋土	黒褐色土と黄褐色土が主体の3層に大別される			
底面	ほぼ平坦で、締まりはあまりない	底面	やや湾曲し締まりはあまりない	底面	平坦であり締まりはあまりない			
壁	底面から外傾して立ち上がる	壁	底面から左側は内湾し、右側は緩やかに外傾し立ち上がる	壁	底面から外傾しながら立ち上がる			
副穴	なし	副穴	なし	副穴	なし			
遺物	なし	遺物	なし	遺物	75の須恵器表、土師器片			
時期	不明である	時期	不明である	時期	平安時代			

遺構名	S K 34土坑	遺構名	S K 35土坑	遺構名	S K 36土坑			
図版	第19図	図版	第19図	図版	第19図			
写真図版	第21図	写真図版	第22図	写真図版	第22図			
位置	VD 3 c	位置	VF 5 g	位置	VF 4 b~VF 4 c			
重複関係	なし	重複関係	なし	重複関係	なし			
平面図	ほぼ円形	平面図	不整な楕円形	平面図	不整な楕円形			
規模 cm	開口部径	106×118	規模	開口部径	185×230	規模	開口部径	405×475
	底部径	22×32	規模	底部径	80×145	規模	底部径	335×470
	深さ	65	cm	深さ	75	cm	深さ	53
埋土	黒褐色が主体の3層に大別される	埋土	黒褐色土と明黄褐色土が主体の3層に大別される	埋土	黒褐色土が主体の4層に大別される			
底面	狭く湾曲し締まりはあまりない	底面	ほぼ平坦で締まりはあまりない	底面	ほぼ平坦で堅く締まっている			
壁	底面から内湾気味に外傾し立ち上がる	壁	底面から外傾し立ち上がる	壁	底面からやや直立気味に立ち上がる			
副穴	なし	副穴	なし	副穴	なし			
遺物	なし	遺物	79・80の須恵器片、	遺物	青磁片302 常滑陶器片230			
時期	不明である	時期	平安時代	時期	12世紀			

※ユニ=ユニバック

SK 01墓坑



A-A' L=72.400m A'-A'



SK67

1. 10YR2/2 黒褐色シルト 明褐色粘土質土30%混入 粘性あり 締まりあり
2. 10YR3/3 暗褐色シルト 暗褐色粘土質土ブロック混入 脆土粒混入 粘性あり 締まりあり
3. 10YR3/3 暗褐色シルト 明褐色粘土質土30%混入 脆土粒混入 粘性あり 締まりあり

SK32



A-A' L=70.600m A'-A'



SK32

1. 10YR3/1 黒褐色シルト 粘性なし 締まりあり
2. 10YR2/0 暗褐色シルトに黄褐色粘土質土の混合土 粘性ややあり 締まりあり
3. 10YR3/1 暗褐色シルトに黄褐色粘土質土の混合土 水分を多く含む 粘性あり 締まりなし
4. 10YR3/8 黄褐色粘土質土 水分を多く含む 粘性あり 締まりなし

SK35



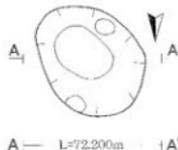
A-A' L=71.000m A'-A'



SK35

1. 10YR2/1 ~ 2/2 黒褐色シルト 灰化物微塵混入 粘性あり 締まりあり
2. 10Y10/3 暗褐色粘土質土 人為埋積の可能性あり 粘性あり 締まりかなりあり
3. 10YR2/1 黒褐色シルトに黄褐色粘土質土ブロック少量混入 粘性あり 締まりややなし

SK 02墓坑

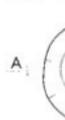


A-A' L=72.200m A'-A'



SK58

1. 10YR2/2 黒褐色シルト 灰化物粒、脆土粒混入 粘性あり 締まりあり
2. 10YR3/3 暗褐色シルト 暗褐色粘土質土60%混入 粘性あり 締まりあり



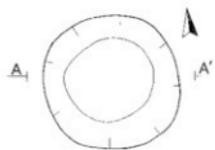
A-A' L=70.900m A'-A'



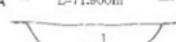
SK31

1. 10YR2/2 黒褐色シルト 灰化物微塵混入 粘性あり 締まりややあり
2. 10YR2/2 黒褐色シルトを主体に黄褐色粘土40%混入 粘性あり 締まりあり
3. 10YR2/8 黄褐色粘土に黒褐色シルトの混合土 粘性あり 締まりあり

SK31

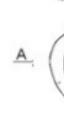


A-A' L=71.900m A'-A'



SK31

1. 10YR2/2 黒褐色シルト 10YR4/6 褐色粘土質土を含む 粘性ややあり 締まりややなし



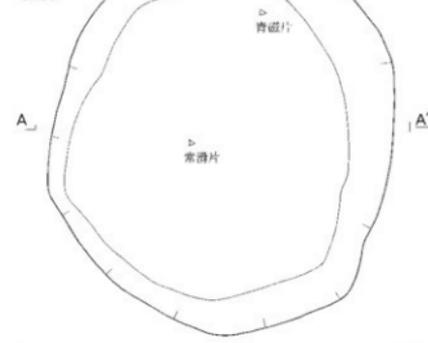
A-A' L=72.600m A'-A'



SK34

1. 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし 締まりあり
2. 10YR3/3 暗褐色シルト 黄褐色粘土質土粒状混入の 粘性ややあり 締まりややなし
3. 10YR3/6 黄褐色粘土質土に黒褐色シルト混合土 粘性ややあり 締まりややなし

SK36



A-A' L=71.400m A'-A'



SK36

1. 10YR2/3 黒褐色シルト 黄褐色粘土質土ブロック少量混入 粘性ややあり 締まりかなりあり
2. 10YR2/2 黒褐色シルト 黄褐色粘土質土ブロック50%、灰化物微塵混入 粘性あり 締まりあり
3. 10YR3/3 暗褐色シルト 黄褐色粘土質土ブロック70% 粘性かなりあり 締まりあり
4. 10YR3/1 暗褐色シルト 黄褐色粘土質土ブロック80%、灰化物微塵混入 粘性かなりあり 締まりかなりあり

0 1 : 60 2m

第19図 SK 01・02墓坑・SK 31~36土坑

第2表 土坑観察表(2)

遺構名		S K37土坑	遺構名		S K38土坑	遺構名		S K39土坑
図版	第20図		図版	第20図	図版	第20図		
写真図版	第23図		写真図版	第23図	写真図版	第23図		
位置	VD 2g~VD 3g		位置	VF 4b~VF 5b	位置	VF 5d		
重複関係	なし		重複関係	なし	重複関係	なし		
平面図	円形		平面図	不整な隅丸方形	平面図	円形		
規模 cm	開口部径	238×258	規模 cm	開口部径	200×268	規模 cm	開口部径	115×124
	底部径	95×121		底部径	128×152		底部径	65×80
	深さ	132		深さ	65		深さ	46
埋土	黒褐色土と暗褐色土が主体の3層に大別される		埋土	黒色土主体の5層に大別される赤褐色焼土混入		埋土	黒色土を主体の6層に大別される。黄橙粘土質土混入	
底面	やや湾曲し締まっている		底面	凹凸があり東に傾斜する。堅く締まっている		底面	ほぼ平坦で締まっている	
壁	底面から直立気味に外傾し立ち上がる		壁	底面から直立気味に立ち上がる		壁	底面から直立気味に立ち上がる	
副穴	なし		副穴	なし		副穴	なし	
遺物	土師器細片ユニD 1袋		遺物	土師器灰86・87、須恵器片88		遺物	土師器細片ユニE 1袋	
時期	平安時代		時期	平安時代		時期	平安時代	

遺構名		S K40土坑	遺構名		S K41土坑	遺構名		S K42土坑
図版	第20図		図版	第20図	図版	第20図		
写真図版	第23図		写真図版	第24図	写真図版	第24図		
位置	VF 5b~VF 6b		位置	VF 4d	位置	VF 4b		
重複関係	なし		重複関係	なし	重複関係	なし		
平面図	不整な隅丸方形		平面図	長楕円形	平面図	不整な円形		
規模 cm	開口部径	135×152	規模 cm	開口部径	65×325	規模 cm	開口部径	75×80
	底部径	95×100		底部径	28×278		底部径	50×55
	深さ	60		深さ	50		深さ	30
埋土	黒褐色土と明黄褐色粘土質土が主体の5層に大別される		埋土	黄橙粘土質土が主体の5層に大別される		埋土	黒色土と黄褐色粘土質土が主体の2層に大別される	
底面	中心部が狭く湾曲する		底面	やや平坦で締まっている		底面	湾曲し締まっている	
壁	底面から緩やかに外傾し立ち上がる		壁	底面から直角気味に立ち上がる		壁	底面から緩やかに外傾し立ち上がる	
副穴	なし		副穴	なし		副穴	なし	
遺物	なし		遺物	なし		遺物	なし	
時期	不明である		時期	不明である		時期	不明である	

第2表 土坑観察表(3)

遺構名		S K 43土坑	遺構名		S K 44土坑	遺構名		S K 45土坑
図	版	第20図	図	版	第20図	図	版	第20図
写真図	版	第24図	写真図	版	第24図	写真図	版	第25図
位置	VE 4 g ~ VE 5 g		位置	VE 5 j		位置	VE 4 h	
重複関係	SD 7 3を切る		重複関係	SD 7 2に切られる		重複関係	なし	
平面図	不整な円形		平面図	ほぼ半円形		平面図	ほぼ円形	
規模 cm	開口部径	290×300	規模 cm	開口部径	95×130	規模 cm	開口部径	135×162
	底部径	70×105		底部径	70×105		底部径	110×130
	深さ	122		深さ	18		深さ	22
埋土	暗褐色土が主体の5層に大別される。黄褐色粘土質土混入		埋土	黒褐色土が主体の2層に大別される。炭が多く混入		埋土	黒色土が主体の2層に大別される	
底面	ほぼ平坦で締まっている		底面	やや平坦で締まっている		底面	凸凹があり締まっている	
壁	底面から外傾し立ち上がる		壁	底面から直立気味に立ち上がる		壁	底面から緩やかに外傾し立ち上がる	
副穴	なし		副穴	なし		副穴	なし	
遺物	なし		遺物	炭灰の可能性ある		遺物	93・94の土師器片	
時期	不明である		時期	不明である		時期	平安時代	

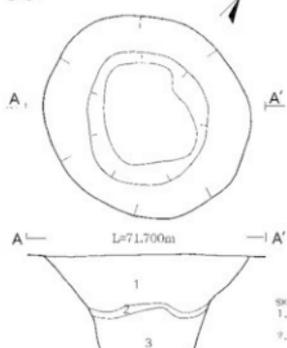
遺構名		S K 46土坑	遺構名		S K 47土坑	遺構名		S K 48土坑
図	版	第21図	図	版	第21図	図	版	第21図
写真図	版	第25図	写真図	版	第25図	写真図	版	第26図
位置	VE 3 f		位置	VE 5 e ~ VE 5 f		位置	III C 1 0 h	
重複関係	なし		重複関係	SD 7 9を切る		重複関係	なし	
平面図	隅丸方形		平面図	ほぼ円形		平面図	不整形	
規模 cm	開口部径	110×185	規模 cm	開口部径	195×235	規模 cm	開口部径	130×285
	底部径	65×145		底部径	85×110		底部径	50×255
	深さ	60		深さ	85		深さ	60
埋土	黒褐色土が主体の3層に大別される		埋土	黒褐色土が主体の3層に大別される		埋土	黒色土が主体の4層に大別される	
底面	平坦で締まっている		底面	狭くやや傾斜し礫を含み堅く締まっている		底面	凸凹あり締まっている	
壁	底面から直立気味に立ち上がる		壁	底面から設状に緩やかに外傾し立ち上がる		壁	底面から外傾し立ち上がる	
副穴	なし		副穴	なし		副穴	なし	
遺物	なし		遺物	土師器類95~100、環101		遺物	なし	
時期	不明である		時期	平安時代		時期	不明である	

第2表 土坑観察表(4)

遺構名	SK49土坑		遺構名	SK50土坑		遺構名	SK51土坑	
図版	第21図		図版	第21図		図版	第21図	
写真図版	第26図		写真図版	第26図		写真図版	第26図	
位置	VF5b		位置	VF5d~VF5d		位置	VF5c	
重複関係	なし		重複関係	なし		重複関係	粘土採掘土坑	
平面図	不整な円形		平面図	ほぼ円形		平面図	不整形	
規模 cm	開口部径	135×152	規模 cm	開口部径	172×184	規模 cm	開口部径	106×190
	底部径	50×75		底部径	55×95		底部径	45×105
	深さ	28		深さ	100		深さ	72
埋土	黒褐色土が主体の2層に大別される		埋土	黒色土と黄褐色粘土質土が主体の5層に大別される		埋土	黒褐色土を主体の単層である黄褐色粘土質土混入	
底面	やや湾曲しやや締まっている		底面	傾斜湾曲し締まっている		底面	起伏があり粘土で堅く締まっている	
壁	底面から緩やかに内湾するように立ち上がる		壁	底面から緩やかに立ち上がる		壁	底面から緩やかに立ち上がる	
副穴	なし		副穴	なし		副穴	なし	
遺物	土師器細片		遺物	土師器残片105、坏106、須恵器片		遺物	土師器細片2点	
時期	平安時代以降		時期	平安時代		時期	平安時代以降	

遺構名	SK52土坑		遺構名	SK53土坑		遺構名	SK54土坑	
図版	第21図		図版	第21図		図版	第21図	
写真図版	第27図		写真図版	第27図		写真図版	第27図	
位置	VF5b		位置	VF5c		位置	IID1c~IID1d	
重複関係	粘土採掘土坑		重複関係	粘土採掘土坑		重複関係	なし	
平面図	楕円形		平面図	ほぼ円形(欠損)		平面図	不整な隅丸方形	
規模 cm	開口部径	110×152	規模 cm	開口部径	152×190	規模 cm	開口部径	102×130
	底部径	45×62		底部径	105×130		底部径	22×80
	深さ	52		深さ	45		深さ	72
埋土	明黄褐色粘土質土が主体の3層に大別される		埋土	黒色土と黄褐色粘土質土が主体の3層に大別される		埋土	暗褐色土が主体の3層に大別される	
底面	起伏があり湾曲する		底面	平坦で軽く締まっている		底面	狭くやや湾曲し締まりはあまりない	
壁	底面から凸凹に外傾して立ち上がる		壁	底面から緩やかに外傾して立ち上がる		壁	やや直角に外傾し立ち上がる	
副穴	なし		副穴	なし		副穴	なし	
遺物	なし		遺物	なし		遺物	なし	
時期	不明である		時期	不明である		時期	不明である	

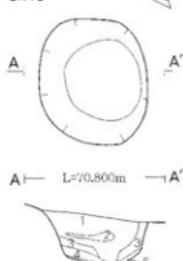
SK37



SK37

1. 10YR2/2 黒褐色シルト 炭化なし 締まりや中密 粘りや中密
- 10YR2/3 暗褐色シルト 炭化層が厚く赤む 粘りや中密 粘りや中密
- 10YR1/1 赤褐色シルト マリアー層が赤土の割合が約50% 粘りや中密 粘りや中密

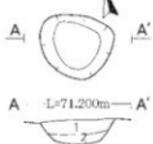
SK40



SK40

1. 10YR2/2 黒褐色シルト 粘りや中密 締まりや中密
- 10YR1/8 暗褐色粘土質土 1層に侵入 粘りや中密 粘りや中密
- 10YR2/2 黒褐色シルト 粘りや中密 粘りや中密
- 10YR2/2 黒褐色シルト 粘りや中密 粘りや中密
- 10YR2/2 黒褐色シルト 粘りや中密 粘りや中密

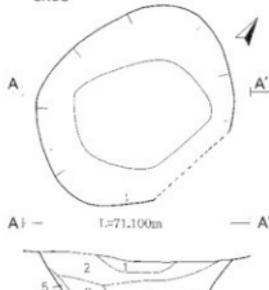
SK42



SK42

1. 10YR2/2 黒褐色シルト 炭化層が厚く赤む 粘りや中密 粘りや中密
- 10YR2/2 黒褐色シルト 炭化層が厚く赤む 粘りや中密 粘りや中密

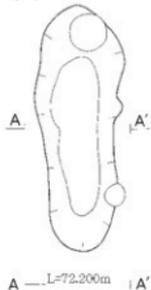
SK38



SK38

1. 10YR2/1 黒褐色シルト 炭化層が厚く赤む 粘りや中密 粘りや中密
- 10YR1/1 赤褐色シルト 粘りや中密 粘りや中密
- 10YR2/2 黒褐色シルト 炭化層が厚く赤む 粘りや中密 粘りや中密
- 10YR1/8 暗褐色粘土質土 1層に侵入 粘りや中密 粘りや中密
- 10YR2/2 黒褐色シルト 炭化層が厚く赤む 粘りや中密 粘りや中密

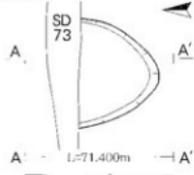
SK61



SK61

1. 10YR2/2 黒褐色シルト 炭化層が厚く赤む 粘りや中密 粘りや中密

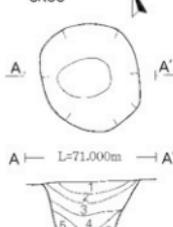
SK44



SK44

1. 10YR2/2 黒褐色シルト 炭化層が厚く赤む 粘りや中密 粘りや中密
- 10YR2/2 黒褐色シルト 炭化層が厚く赤む 粘りや中密 粘りや中密

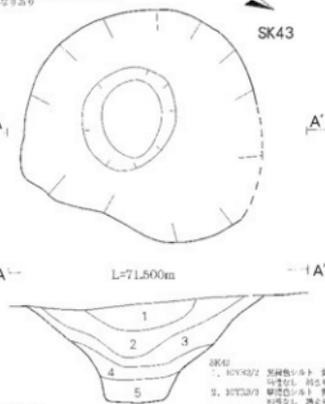
SK39



SK39

1. 10YR2/2 黒褐色シルト 炭化層が厚く赤む 粘りや中密 粘りや中密
- 10YR2/3 暗褐色シルト 炭化層が厚く赤む 粘りや中密 粘りや中密
- 10YR1/8 暗褐色粘土質土 1層に侵入 粘りや中密 粘りや中密
- 10YR2/1 黒褐色シルト 炭化層が厚く赤む 粘りや中密 粘りや中密
- 10YR2/2 黒褐色シルト 炭化層が厚く赤む 粘りや中密 粘りや中密

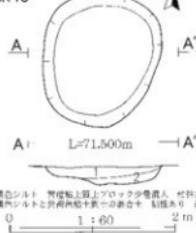
SK43



SK43

1. 10YR2/2 黒褐色シルト 炭化層が厚く赤む 粘りや中密 粘りや中密
- 10YR2/3 暗褐色シルト 炭化層が厚く赤む 粘りや中密 粘りや中密
- 10YR1/8 暗褐色粘土質土 1層に侵入 粘りや中密 粘りや中密
- 10YR2/2 黒褐色シルト 炭化層が厚く赤む 粘りや中密 粘りや中密

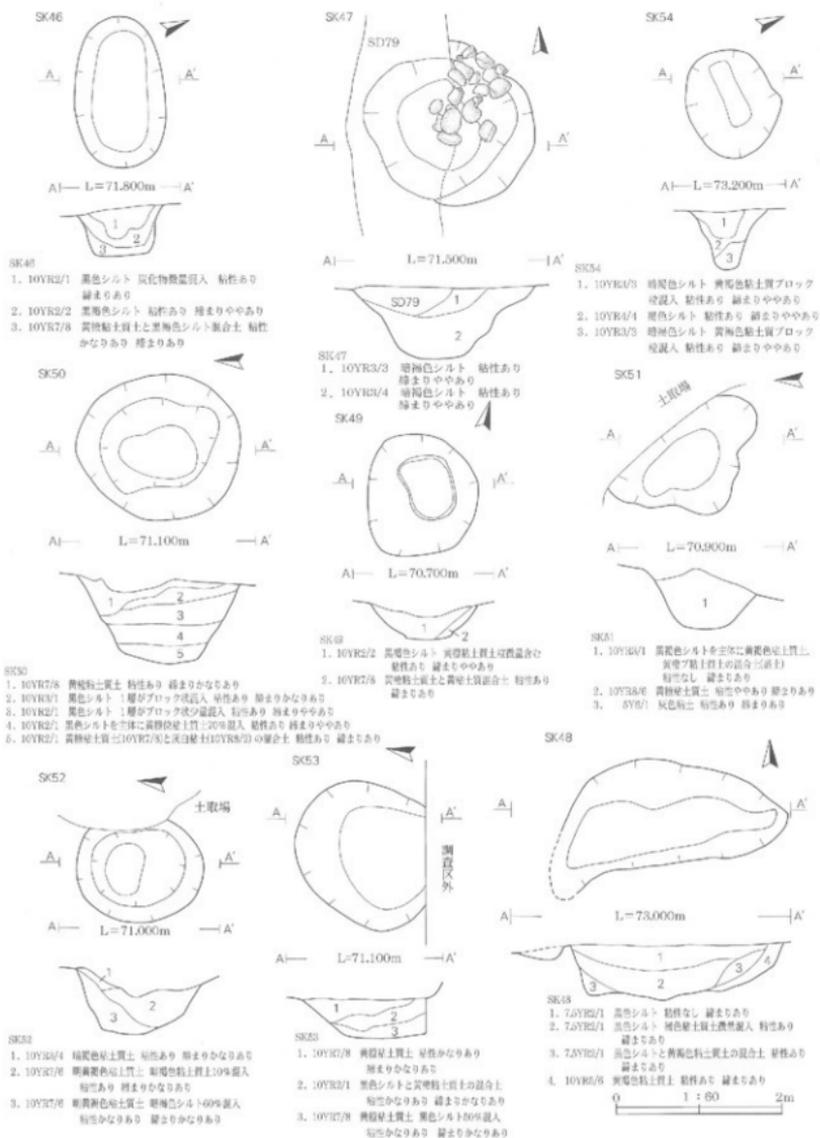
SK45



SK45

1. 10YR2/2 黒褐色シルト 炭化層が厚く赤む 粘りや中密 粘りや中密
- 10YR2/3 暗褐色シルト 炭化層が厚く赤む 粘りや中密 粘りや中密

第20図 S K37~45土坑



第21図 SK46~54土坑

第2表 土坑観察表(5)

遺構名	S K 59土坑	遺構名	S K 60土坑	遺構名	S K 62土坑	
図版	第22図	図版	第22図	図版	第22図	
写真図版	第28図	写真図版	第29図	写真図版	第29図	
位置	ⅢF 10 c	位置	ⅣF 1 d	位置	ⅢF 8 d	
重複関係	なし	重複関係	なし	重複関係	なし	
平面図	ほぼ円形	平面図	不整な楕円形	平面図	円形	
規模 cm	開口部径	205×228	開口部径	115×245	開口部径	120×123
	底部径	165×170	底部径	65×72	底部径	85×103
	深さ	35	深さ	34	深さ	30
埋土	黒褐色土が主体の単層である	埋土	黒褐色土が主体	埋土	暗褐色土と明黄褐色粘土質土が主体の5層に大別される	
底面	凸凹していて堅く締まっている	底面	やや湾曲する	底面	ほぼ平坦で締まっている	
壁	底面から浅く緩やかに立ち上がる	壁	底面から緩やかに外傾し立ち上がる	壁	底面から直立気味に立ち上がる	
副穴	なし	副穴	ビット1基	副穴	なし	
遺物	なし	遺物	なし	遺物	なし	
時期	不明である	時期	不明である	時期	不明である	

遺構名	S K 63土坑	遺構名	S K 65土坑	遺構名	S K 67土坑	
図版	第22図	図版	第22図	図版	第22図	
写真図版	第29図	写真図版	第30図	写真図版	第30図	
位置	ⅣF 6 d	位置	ⅣF 5 e	位置	ⅢF 4 c	
重複関係	なし	重複関係	なし	重複関係	なし	
平面図	円形	平面図	円形	平面図	隅丸方形	
規模 cm	開口部径	105×115	開口部径	95×105	開口部径	98×125
	底部径	90×95	底部径	75×80	底部径	75×105
	深さ	26	深さ	32	深さ	18
埋土	黄褐色粘土質土と暗褐色土が主体の4層に大別される	埋土	黄褐色粘土質土と暗褐色土が主体の3層に大別される	埋土	黄褐色粘土質土と黒色土が主体の2層に大別される	
底面	ほぼ平坦で締まっている	底面	湾曲していて締まっている	底面	平坦で締まっている	
壁	底面から直立気味に立ち上がる	壁	底面から緩やかに外傾して立ち上がる	壁	底面から浅く外傾し立ち上がる	
副穴	なし	副穴	なし	副穴	なし	
遺物	なし	遺物	なし	遺物	なし	
時期	不明である	時期	不明である	時期	不明である	

第2表 土坑観察表(6)

遺構名	S K 69土坑	遺構名	S K 70土坑	遺構名	S K 71土坑	
図版	第22図	図版	第22図	図版	第22図	
写真図版	第31図	写真図版	第31図	写真図版	第31図	
位置	II F 8 f	位置	IV F 1 e ~ VF 2 c	位置	III F 8 c	
重複関係	SD 1 0 0に切られる	重複関係	なし	重複関係	なし	
平面図	円形	平面図	不整な円形	平面図	不整な円形	
規模 cm	開口部径	75×78	開口部径	145×160	開口部径	115×120
	底部径	55×60	底部径	90×105	底部径	95×100
	深さ	105	深さ	48	深さ	36
埋土	黒褐色土と暗褐色土が主体の6層に大別される	埋土	黒褐色土が主体の3層に大別される	埋土	黒褐色土が主体の単層である	
底面	平坦でやや傾斜し締まっている	底面	湾曲し堅く締まっている	底面	ほぼ平坦で堅く締まっている	
壁	底面から直角気味に立ち上がる	壁	底面から緩やかに内湾し立ち上がる	壁	底面から外傾し立ち上がる	
副穴	なし	副穴	なし	副穴	なし	
遺物	なし	遺物	土師器片等ユニD 1袋	遺物	土師器片、手づくねかわらけ	
時期	不明である	時期	平安時代	時期	平安～中世	

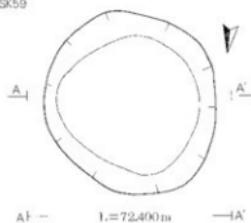
遺構名	S K 72土坑	遺構名	S K 73土坑	遺構名	S K 74土坑	
図版	第23図	図版	第23図	図版	第23図	
写真図版	第32図	写真図版	第32図	写真図版	第32図	
位置	III D 2 f	位置	III D 1 e ~ III D 1 f	位置	II F 1 g ~ II F 4 g	
重複関係	なし	重複関係	なし	重複関係	なし	
平面図	円形	平面図	不整形	平面図	不整な隅丸方形	
規模 cm	開口部径	125×130	開口部径	100×152	開口部径	92×205
	底部径	83×85	底部径	38×65	底部径	15×85
	深さ	52	深さ	32	深さ	42
埋土	黒褐色土が主体の3層に大別される	埋土	黒色土が主体の単層である	埋土	黒褐色土が主体の2層に大別される	
底面	平坦で締まっている	底面	やや湾曲し締まりはあまりない	底面	やや湾曲していて締まっている	
壁	底面から直角気味に外傾し立ち上がる	壁	底面から直立気味に緩やかな外傾し立ち上がる	壁	底面から緩やかに外傾し立ち上がる	
副穴	なし	副穴	なし	副穴	ビット2基	
遺物	なし	遺物	なし	遺物	なし	
時期	不明	時期	不明	時期	不明	

第2表 土坑観察表(7)

遺構名	S K75土坑	遺構名	S K76土坑	遺構名	S K78土坑	
図版	第23図	図版	第23図	図版	第23図	
写真図版	第32図	写真図版	第33図	写真図版	第33図	
位置	III F 10 d	位置	III F 9 e	位置	III D 1 g	
重複関係	なし	重複関係	なし	重複関係	なし	
平面図	円形	平面図	ほぼ円形	平面図	不整な円形	
規模 cm	開口部径	85×90	開口部径	105×120	開口部径	123×130
	底部径	45×50	底部径	38×45	底部径	83×85
	深さ	38	深さ	22	深さ	48
埋土	黒褐色土が主体の単層である	埋土	黒褐色土が主体の2層に大別される	埋土	黒褐色土が主体の単層である	
底面	平坦で締まっている	底面	ほぼ平坦で締まっている	底面	平坦でやや締まっている	
壁	底面から急に外傾し立ち上がる	壁	緩やかに外傾する	壁	底面から垂直気味に立ち上がりさらに段状に外傾し立ち上がる	
副穴	なし	副穴	なし	副穴	なし	
遺物	礎	遺物	なし	遺物	なし	
時期	不明	時期	不明	時期	不明	

遺構名	S K79土坑	遺構名	S K80土坑	遺構名	S K81土坑	
図版	第23図	図版	第23図	図版	第23図	
写真図版	第33図	写真図版	第34図	写真図版	第34図	
位置	IV D 1 d	位置	IV F 2 d	位置	VC 5 b~VC 6 d	
重複関係	なし	重複関係	なし	重複関係	なし	
平面図	ほぼ円形	平面図	円形	平面図	半円形	
規模 cm	開口部径	90×102	開口部径	75×76	開口部径	72×150
	底部径	60×62	底部径	40×50	底部径	45×72
	深さ	94	深さ	60	深さ	85
埋土	黒色土と黒褐色土が主体の3層に大別される	埋土	黒色土が主体の3層に大別される	埋土	黒褐色土が主体の3層である	
底面	平坦で締まっている	底面	平坦で締まっている	底面	ほぼ平坦でやや締まっている	
壁	底面からほぼ直角に外傾し立ち上がる	壁	底面から直角気味に外傾し立ち上がる	壁	底面から直角気味に外傾し立ち上がる	
副穴	なし	副穴	なし	副穴	なし	
遺物	なし	遺物	土師器片数点	遺物	なし	
時期	不明	時期	平安時代	時期	不明	

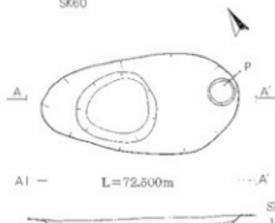
SK59



SK59

1. 10YR2/3 黒褐色シルト 明黄褐色粘土質土ブロック混入
粘性あり 締まり

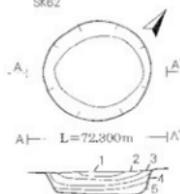
SK60



SK60

1. 10YR2/2 黒褐色シルト 明黄褐色粘土質土
ブロック混入 粘性あり
締まりかなりあり

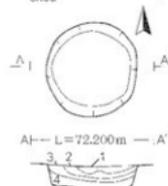
SK62



SK62

1. 10Y1/3 暗褐色シルト 粘性あり 締まりあり
2. 10YR6/6 明黄褐色粘上質土 粘性あり 締まりあり
3. 10Y1/3 暗褐色シルト 粘性あり 締まりあり
4. 10YR3/3 暗褐色シルトと暗黄褐色粘土質土
(10YR6/6)の混合土 粘性あり 締まりあり
5. 10YR3/3 暗褐色シルトと明黄褐色粘上質土(10YR6/6)
多の混合土 粘性あり 締まりあり

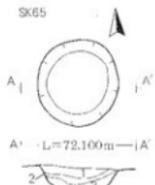
SK63



SK63

1. 10YR5/8 黄褐色粘上質土 粘性かなりあり 締まり
かなりあり
2. 10YR3/2 黄褐色シルト 粘性ややあり 締まりあり
3. 10YR5/8 黄褐色粘上質土と黄褐色シルト(10YR3/2)の
混合土 粘性あり 締まりあり
4. 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性あり 締まりあり

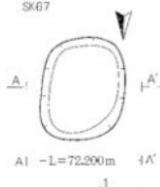
SK65



SK65

1. 10YR5/8 黄褐色粘上質土 粘性かなりあり
締まりかなりあり
2. 10YR3/2 暗褐色シルト 粘性ややあり
締まりあり
3. 10YR5/8 黄褐色粘上質土と黒褐色シルト
(10YR3/2)の混合土 粘性あり 締まりあり

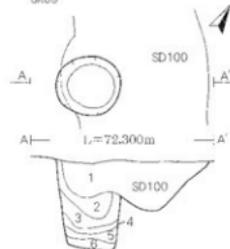
SK67



SK67

1. 10YR5/6 黄褐色粘上質土 粘性かなりあり
締まりかなりあり
2. 10YR5/6 黄褐色粘上質土と黒褐色シルト
(10YR3/1)の混合土 粘性あり
締まりあり

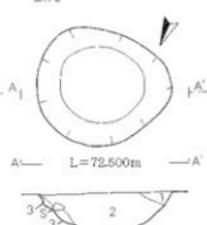
SK69



SK69

1. 10YR3/2 暗褐色シルト 黄褐色ブロック粘混入
炭化物混入 粘性あり 締まりあり
2. 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性あり 締まりややあり
3. 10YR3/3 暗褐色シルト 炭化物混入 粘性あり 締まりあり
4. 10Y1/3/4 暗褐色シルト 粘性あり 締まりあり
5. 10YR3/4 暗褐色シルト30%混入 粘性あり 締まりあり
6. 10YR2/1 黒色シルト 粘性あり 締まりあり

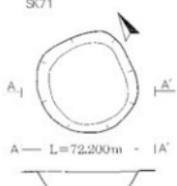
SK70



SK70

1. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性ややあり 締まりかなりあり
2. 10YR2/1 黒褐色シルト 炭化物少量混入 粘性あり 締まりあり
3. 10YR5/6 黄褐色粘上質土 2層50%混入 粘性かなりあり
締まりかなりあり

SK71

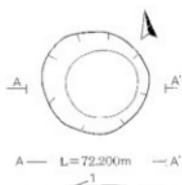


SK71

1. 10YR2/2 暗褐色シルト 黄褐色粘上質土ブ
ロック30%混入 炭化物少量混入
粘性ややあり 締まりかなりあり



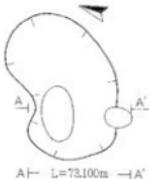
SK72



SK72

1. 10YR2/3 黒褐色シルト 明黄褐色粘土質土
細小粒腐植質含む 粘性なし 締まりあり
2. 10YR2/3 黒褐色シルト 明黄褐色粘土質土ブロック状混入 粘性ややあり 締まりあり
3. 10YR6/8 明黄褐色粘土質土 粘性ややあり 締まりあり

SK73



SK73

1. 7.5YR2/1 黒色シルト 粘性なし 締まりややあり

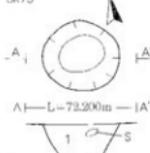
SK74



SK74

1. 10YR3/2 黒褐色シルト 黄褐色粘土質土ブロック混入 粘性あり 締まりあり
2. 10YR5/6 黄褐色粘土質土 1層20%混入 粘性かなりあり 締まりあり

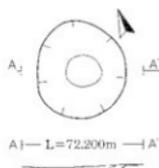
SK75



SK75

1. 10YR2/3 黒褐色シルト 黄褐色粘土質土 60%混入 粘性あり 締まりあり

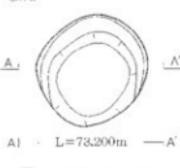
SK76



SK76

1. 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性ややあり 締まりあり
2. 10YR5/6 黄褐色粘土質土 1層少混入 粘性ややあり 締まりあり

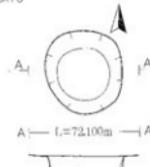
SK78



SK78

1. 10YR2/2 黒褐色シルトと黄褐色粘土質土 (10YR5/6)の混合土 人為堆積の可能性あり 1層少混入 粘性ややあり 締まりややあり

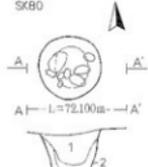
SK79



SK79

1. 10YR2/1 黒色シルト 炭化材少量混入 粘性あり 締まりあり
2. 10YR2/2 黒褐色シルト 黄褐色粘土質土 20%混入 粘性あり 締まりあり
3. 10YR2/2 黒褐色シルト 黄褐色粘土質土 少量混入 炭化物少量混入 粘性あり 締まりあり

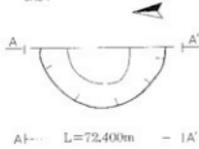
SK80



SK80

1. 10YR2/2 黒色シルト 明黄褐色粘土質土30%混入 炭化材腐植質混入 粘性ややあり 締まりあり
2. 10YR6/8 明黄褐色粘土質土 1層20%混入 粘性あり 締まりあり
3. 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性ややあり 締まりあり

SK81



SK81

1. 7.5YR2/1 黒褐色シルト 明黄褐色粘土質土ブロック状 10%混入 粘土土の可能性あり
2. 7.5YR2/1 黒褐色シルト 明黄褐色粘土質土ブロック状2%混入 粘性あり 締まりややあり
3. 7.5YR2/1 黒褐色シルト 明黄褐色粘土質土ブロック状50%混入 粘性あり 締まりややあり

0 1:60 2m

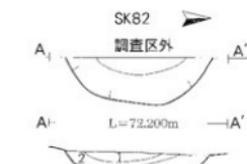
第2表 土坑観察表(8)

遺構名	S K82土坑	遺構名	S K83土坑	遺構名	S K84土坑	
図版	第24図	図版	第24図	図版	第24図	
写真図版	第34図	写真図版	第34図	写真図版	第35図	
位置	VC5a~VC6d	位置	VC9d~VC9d	位置	VC10i	
重複関係	なし	重複関係	なし	重複関係	なし	
平面図	半円形(欠損)	平面図	半円形(欠損)	平面図	不整な円形	
規模 cm	開口部径	50×175	開口部径	102×165	開口部径	205×248
	底部径	20×102	底部径	60×65	底部径	115×160
	深さ	35	深さ	60	深さ	110
埋土	黒褐色土が主体の3層に大別される	埋土	黒褐色土が主体の3層に大別される	埋土	黒色土が主体の3層に大別される	
底面	やや湾曲し締まっている	底面	やや湾曲していて締まりはない	底面	ほぼ平坦で締まりはない	
壁	底面から緩やかに外傾し立ち上がる	壁	底面の一方は緩やかに、もう一方は急に外傾し立ち上がる	壁	底面からすり鉢状に外傾して立ち上がる	
削穴	なし	削穴	なし	削穴	なし	
遺物	なし	遺物	なし	遺物	なし	
時期	不明	時期	不明	時期	不明	

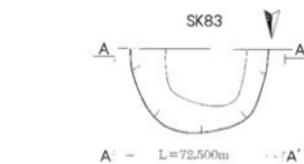
遺構名	S K85土坑	遺構名	S K86土坑	遺構名	S K88土坑	
図版	第24図	図版	第24図	図版	第24図	
写真図版	第35図	写真図版	第35図	写真図版	第36図	
位置	IX F 3 c	位置	VIII F 5 c	位置	VIII F 10 e~VIII F 1 e	
重複関係	なし	重複関係	なし	重複関係	なし	
平面図	ほぼ楕円形	平面図	不整な円形	平面図	長半楕円(欠損)	
規模 cm	開口部径	65×145	開口部径	132×172	開口部径	40×270
	底部径	35×95	底部径	15×52	底部径	20×225
	深さ	45	深さ	32	深さ	28
埋土	暗褐色土が主体の4層に大別される	埋土	黒褐色土が主体の4層に大別される	埋土	黒褐色土が主体の3層に大別される	
底面	ほぼ平坦で締まっている	底面	狭く湾曲しやや締まっている	底面	多少起伏があり締まっている	
壁	底面から直角気味に外傾し立ち上がる	壁	底面から波状に外傾し緩やかに立ち上がる	壁	底面から浅く外傾し立ち上がる	
削穴	なし	削穴	ビット1基	削穴	なし	
遺物	なし	遺物	なし	遺物	なし	
時期	不明	時期	不明	時期	不明	

第2表 土坑観察表(9)

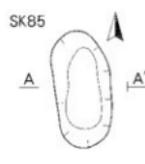
遺構名		S K 89土坑	遺構名		S K 90土坑	遺構名		S K 91土坑
図	版	第24図	図	版	第24図	図	版	第24図
写真	図版	第36図	写真	図版	第36図	写真	図版	第36図
位	置	ⅧD 6 i	位	置	ⅧD 5 h	位	置	ⅧB 5 d
重複	関係	なし	重複	関係	なし	重複	関係	なし
平面	図	半円形(欠損)	平面	図	楕円形	平面	図	円形
規模 cm	開口部径	110×115	規模	開口部径	98×120	規模	開口部径	120×128
	底部径	90×105		底部径	65×70		底部径	38×40
	深さ	30	cm	深さ	35	cm	深さ	55
埋土	褐色土が主体の3層に大別される		埋土	暗褐色土と黒褐色土が主体の4層に大別される		埋土	黒褐色土が主体の3層に大別される	
底面	起伏があり締まっている		底面	ほぼ平坦で締まっている		底面	ほぼ平坦で締まっている	
壁	底面から外傾し立ち上がる		壁	底面から外傾し立ち上がる		壁	底面から直角気味に外傾し緩やかに立ち上がる	
副穴	なし		副穴	なし		副穴	なし	
遺物	なし		遺物	なし		遺物	なし	
時期	不明		時期	不明		時期	不明	



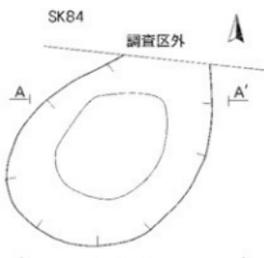
- SK82
1. 10YR6/8 明黄褐色粘土質土 粘性あり 締まりあり
 2. 7.5YR2/1 黒色シルトに1層 斑状混入 粘性あり 締まりあり
 3. 7.5YR4/1 黒褐色シルト 粘性あり 締まりあり



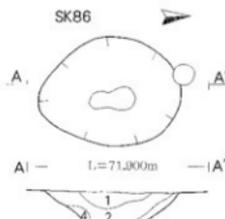
- SK83
1. 10YR2/1 黒褐色シルト 明赤褐色酸化土含む 粘性あり 締まりややあり
 2. 7.5YR2/2 黒褐色シルト 粘性ややあり 締まりなし
 3. 10YR2/1 黒褐色シルト 明赤褐色粘土質土 (10YR2/6)の混入土 粘性あり 締まりなし



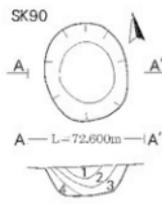
- SK85
1. 10YR4/6 褐色シルト 粘性かなりあり 締まりあり
 2. 10YR3/8 暗褐色シルト 褐色シルトブ ロック状混入 粘性あり 締まりあり
 3. 10YR4/3 暗褐色シルト 粘性あり 締まりあり
 4. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性あり 締まりあり



- SK84
1. 10YR2/1 黒色シルト 粘性あり 締まりなし
 2. 10YR2/1 黒色シルト 黄褐色粘土質土(10YR5/6)の混入土 粘性あり 締まりなし
 3. 10YR1.7/1 黒色シルト 粘性あり 締まりなし



- SK86
1. 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性あり 締まりややあり
 2. 10YR2/2 黒褐色シルト 黄褐色粘土質土少量混入 粘性あり 締まりややあり
 3. 10YR3/3 暗褐色シルト 黄褐色粘土質土30%混入 粘性あり 締まりややあり
 4. 10YR5/6 黄褐色シルト 黄褐色粘土質土50%混入 粘性あり 締まりややあり



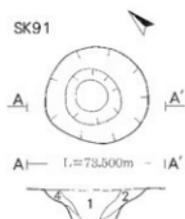
- SK90
1. 10YR3/3 暗褐色シルト にぶい黄褐色 粘土質土含む 粘性ややあり 締まりあり
 2. 10YR3/4 黄褐色シルト 褐色粘土質土 含む 粘性ややあり 締まりあり
 3. 10YR5/6 黄褐色粘土質土 粘性ややあり 締まりあり
 4. 10YR3/4 黄褐色シルト 褐色粘土質土 10%含む 粘性ややあり 締まりあり



- SK88
1. 10YR2/2 黄褐色シルト 褐色粘土質土を微量含む 粘性なし 締まりあり
 2. 10YR3/2 黄褐色シルトと褐色粘土質土(10YR4/6) 15%の混入土 粘性なし 締まりあり
 3. 10YR2/2 黄褐色シルトと褐色粘土質土(10YR4/6) 粘性なし 締まりあり



- SK89
1. 10YR4/6 褐色シルト 粘性ややあり 締まりあり
 2. 10YR6/8 明黄褐色粘土質土 粘性ややあり 締まりあり
 3. 10YR5/6 黄褐色粘土質土 粘性ややあり 締まりあり



- SK91
1. 10YR2/8 黒褐色シルト 粘性なし 締まりあり
 2. 10YR3/4 暗褐色シルトと黄褐色粘土質土 (10YR5/6)の混入土 粘性なし 締まりあり
 3. 10YR4/6 暗褐色粘土質土 粘性ややあり 締まりあり



第24図 SK82~91土坑

(6) 粘土探掘土坑群 (第25図、写真図版66)

調査区中央部において検出された。なお、検出段階で確認できた土坑には遺構名を付しているが、それ以外については、断面等の観察でも土坑の新旧の判別が難しく、完掘後にわかった土坑も多いため、一括して土坑群としている。

〈位置〉 調査区中央部V F 4 b～V F 6 dグリッド、標高70.9～71.1mに位置する。

〈検出状況〉 当初は単独で検出された土坑を精査していたが、土坑の壁面が人為堆積の様な黄褐色土と黒褐色土の混合土であることから、トレンチを入れて確認したところ、人為堆積の様相を示していることがわかった。また、その範囲は広範囲に渡る事が確認できた。これらのことから整地層と考えて精査を進めたが、完掘の結果、底部が複数の上坑の切り合いの様相を呈し、また全てが白色の粘土層で終わっていることから粘土探掘土坑と判断した。周辺の上坑についても白色粘土層で終わっているものは粘土探掘土坑の可能性が高いと思われる。

〈規模・平面形〉 規模はおおよそ東西9m、南北は検出された部分で4m、面積36㎡程である。南側は調査区外に延びており本来はもっと広い範囲に及ぶものと思われる。平面形はいくつもの土坑が切り合い不整となっている。

〈埋土〉 人為堆積の様相を呈している。断面の観察で上坑の切り合いが確認できなかったことについては、粘土を採掘し終えた土坑に新たに採掘した上坑の上を捨てることの繰り返しを行ったためと思われる。そのため断面における土坑の切り合いが明瞭に見れなかったと考えらる。なお、断面については一部しか図化できなかった。

〈底面〉 上坑の切り合いのため起伏に富んでいる。白色粘土層下位から礫が出土し始めるためかほとんどがその礫上面で採掘を終えている。

〈遺物〉 176・179・180の杯、147・181の高台付杯、178の甕、182の須恵器長頸瓶が出土している。

〈時期〉 出土遺物やその検出状況から平安時代に属すると思われる。

(7) 陥し穴状遺構

調査区全体で6基を検出した。遺物等が出土していないため具体的な時期等は不明だが規模・形状などから縄文時代に属すると思われる。楕円形を呈する2基については逆杭痕を確認できたものと湧水がひどく確認できなかったものがあるが、形状や位置的な関係から2基とも陥し穴状遺構だったと思われる。なお、1号陥し穴状遺構埋土上位から須恵器片等が出土しているが、流れ込みと思われる。

第3表 陥し穴遺構観察表

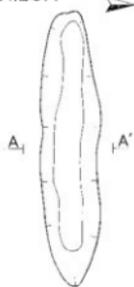
遺構名	S X01陥し穴	遺構名	S X02陥し穴	遺構名	S X03陥し穴	
図版	第25図	図版	第25図	図版	第25図	
写真版	第27図	写真版	第29図	写真版	第30図	
位置	ⅣF 5 e	位置	ⅢF 1 0 e	位置	ⅣF 5 c	
重複関係	なし	重複関係	なし	重複関係	なし	
平面図	長い楕円形	平面図	長い楕円形	平面図	長楕円形	
規模 cm	開口部径	75×360	開口部径	85×280	開口部径	68×150
	底部径	15×370	底部径	48×185	底部径	10×150
	深さ	105	深さ	22	深さ	80
埋土	黒褐色土が主体の4層に大別される	埋土	黒褐色土が主体	埋土	黒褐色土が主体の3層に大別される	
底面	狭くほぼ平坦で締まっている	底面	ほぼ平坦	底面	狭く平坦で締まっている	
壁	底面からほぼ垂直気味に立ち上がり、上部で外向する	壁	底面から外傾し立ち上がる	壁	底面からほぼ垂直気味に立ち上がり、上部で外向する	
副穴	なし	副穴	なし	副穴	なし	
遺物	なし	遺物	なし	遺物	なし	
時期	縄文時代	時期	縄文時代	時期	縄文時代	

遺構名	S X04陥し穴	遺構名	S X05陥し穴	遺構名	S X06陥し穴	
図版	第25図	図版	第25図	図版	第25図	
写真版	第35図	写真版	第30図	写真版	第31図	
位置	ⅦF 1 e	位置	ⅢF 8 c	位置	ⅢF 5 c～ⅣF 5 d	
重複関係	なし	重複関係	なし	重複関係	なし	
平面図	楕円形	平面図	楕円形	平面図	長楕円形	
規模 cm	開口部径	70×185	開口部径	78×110	開口部径	105×195
	底部径	20×185	底部径	60×85	底部径	63×160
	深さ	85	深さ	90	深さ	82
埋土	黒色土と黄褐色土が主体の6層に大別される	埋土	黒色土と黄褐色粘土質土が主体の4層に大別される	埋土	黒色土と黄褐色粘土質土が主体の4層に大別される	
底面	狭く湾曲し締まっている	底面	平坦で締まっている	底面	平坦でやや傾斜し締まっている	
壁	底面から垂直気味に立ち上がり、上部で外向する	壁	底面から鋭角的に立ち上がり、上部でやや外向する	壁	底面から鋭角的に立ち上がる	
副穴	なし	副穴	なし	副穴	ビット2基	
遺物	なし	遺物	なし	遺物	なし	
時期	縄文時代	時期	縄文時代	時期	縄文時代	

粘土探掘土坑

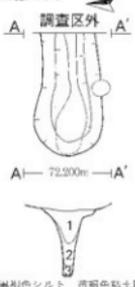


SX01陥し穴



1. 10YR17/1 黒褐色シルト 粘性あり 締まりあり
2. 10YR5/4 濃い黄褐色粘土質土と何層粘土質土の混合 粘性あり 締まりあり
3. 10YR5/4 濃い黄褐色粘土質土 粘性あり 締まりあり
4. 10YR7/8 黄褐色粘土質土 粘性あり 締まりあり
5. 10YR6/7 黄褐色粘土質土 粘性あり 締まりあり

SX02陥し穴



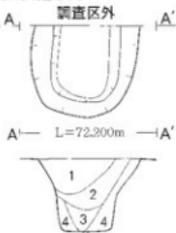
1. 10YR2/2 黒褐色シルト 黄褐色粘土質土ブロック状混入 粘性あり 締まりあり
2. 10YR3/2 黒褐色シルト 黄褐色粘土質土ブロック状混入 粘性あり 締まりあり
3. 10YR2/2 黒褐色シルトと黄褐色シルト(10YR3/2)の混合土 粘性あり 締まりややあり

SX03陥し穴



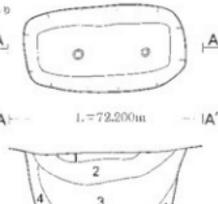
1. 10YR2/1 黒褐色シルト 粘性あり 締まりあり
2. 10YR2/2 黒褐色シルト 黄褐色粘土質土少量混入 粘性あり 締まりあり
3. 10YR6/6 黄褐色粘土質土 粘性あり 締まりややあり
4. 10YR2/1 黒褐色シルトと黄褐色粘土質土(10YR6/6)の混合土 粘性あり 締まりあり

SX04陥し穴



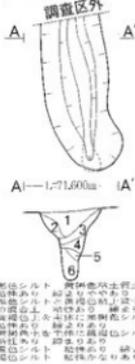
1. 10YR2/1 黒色シルト 粘性あり 締まりややあり
2. 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性あり 締まりややあり
3. 10YR5/6 黄褐色粘土質土 黄褐色シルト50%混入 粘性あり 締まりあり
4. 10YR5/6 黄褐色粘土質土 黄褐色シルト40%混入 粘性あり 締まりあり

SX05陥し穴



1. 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性ややあり 締まりややあり
2. 10YR2/1 黒色シルト 粘性あり 締まりあり
3. 10YR2/2 黒褐色シルトと黄褐色粘土質土の混合土 粘性あり 締まりややあり
4. 10YR5/8 黄褐色粘土質土 黒色シルト20%混入 粘性あり 締まりあり

SX06陥し穴



1. 10YR2/1 黒色シルト 黄褐色粘土質土少量混入 粘性あり 締まりややあり
2. 10YR5/6 黄褐色粘土質土 粘性あり 締まりややあり
3. 10YR5/6 黄褐色粘土質土 粘性あり 締まりややあり
4. 10YR5/6 黄褐色粘土質土 粘性あり 締まりややあり
5. 10YR2/1 黒色シルト 粘性あり 締まりややあり
6. 10YR2/1 黒色シルト 粘性あり 締まりややあり

第25図 粘土探掘土坑群 SX01~06陥し穴状遺構

(8) 溝跡

調査区全体から81条検出した。調査範囲が狭く全容が明らかでない溝跡が多い。重複関係も複雑で遺物等も大部分が出土していない。一部の溝跡は平安時代から12世紀にかけてのものと思われる。なお、溝跡については区ごとの掲載とされているため連番になっていない。また、全体を検出していない部分は点線で示した。

「A区 (SD95~100・101~105)」

SD95溝跡 (第27図、写真図版49)

〈位置・重複関係〉 A区東部IID16e~III D2eグリット、標高71.8mに位置する。柱穴状ピット6基及び不整形ピットを有する。

〈規模・方向・形態〉 規模は上幅75~92cm、下幅16~24cm、深さ52~68cm、検出した総延長は4.4mを測る。方向はほぼ北~南で幅広く深くピットを有する。両端が調査区外に延びるため全容は不明である。断面形は不整形を呈し、底面の高低差は14cmで北側に傾斜している。

〈埋土〉 3層に大別した。黒褐色土が主体に構成されている。自然堆積の様相を呈している。

〈遺物〉 出土していない。

〈時期〉 不明である。

SD96溝跡 (第27図、写真図版50)

〈位置・重複関係〉 A区東部III D1g~III D2gグリット、標高72.7mに位置する。SD97を切る。

〈規模・方向・形態〉 規模は上幅120~160cm、下幅60~70cm、深さ15~35cm、検出した総延長は6.3mを測る。方向は北北東~南で北側が湾曲して調査区外に延びる。よって全容については不明だが、断面形は皿状を呈し、底面の高低差はほとんどない。

〈埋土〉 暗褐色土が主体の単層である。自然堆積の様相を呈している。

〈遺物〉 出土していない。

〈時期〉 不明である。

SD97溝跡 (第27図、写真図版50)

〈位置・重複関係〉 A区東部IID7g~III D2gグリット、標高72.7mに位置する。SD96に切られる。柱穴状ピット5基を有する。

〈規模・方向・形態〉 規模は上幅15~145cm、下幅22~68cm、深さ8~15cm、検出した総延長は24.6mを測る。方向はほぼ北~南で直線的に延びるが、溝は中央付近で一端消滅し再び現れ北に延びて終わる。断面形は皿状を呈し、底面の高低差は17cmで、北側に傾斜している。

〈埋土〉 暗褐色土が主体の単層である。自然堆積の様相を呈している。

〈遺物〉 出土していない。

〈時期〉 不明である。

SD98溝跡 (第27図、写真図版50)

〈位置・重複関係〉 A区東部IID8gグリット、標高72.5mに位置する。SD97に切られる。

〈規模・方向・形態〉 規模は上幅28~38cm、下幅8~15cm、深さ5~10cm、検出した総延長は3.8mを測る。方向は東南東~西北西で直線的に延びる。両端が調査区外に延びているため全容は不明である。断面形は皿状を呈し、底面の高低差はほとんどない。

〈埋土〉 黒褐色土が主体の単層である。自然堆積の様相を呈している。

〈遺物〉 出土していない。

<時期> 不明である。

S D 99溝跡 (第27図、写真図版50)

<位置・重複関係> A区東部II D7gグリット、標高72.5mに位置する。S D97に切られる。

<規模・方向・形態> 規模は上幅20～45cm、下幅8～16cm、深さ5～8cm、検出した総延長は3.6mを測る。方向はほぼ東～西で直線的に延びる。両端が調査区外に延びているため全容は不明である。断面形は皿状を呈し、底面の高低差は6cmで、東側に多少傾斜している。

<埋上> 黒褐色土が主体の単層である。自然堆積の様相を呈している。

<遺物> 出土していない。

<時期> 不明である。

S D 101溝跡 (第26図、写真図版51)

<位置・重複関係> A区中央部II D4hグリット、標高72.4mに位置する。柱穴状ピット3基を有する。

<規模・方向・形態> 規模は上幅60～95cm、下幅30～40cm、深さ11～18cm、検出した総延長は3.0mを測る。方向はほぼ東～西で短く調査区外に延びる。断面形は不整形を呈し、底面の高低差はほとんどない。

<埋上> 2層に細分され黒色土が主体に構成されている。自然堆積の様相を呈している。

<遺物> 出土していない。

<時期> 不明である。

S D 102溝跡 (第26図、写真図版51)

<位置・重複関係> A区中央部II D3hグリット、標高72.4mに位置する。柱穴状ピット6基を有する。

<規模・方向・形態> 規模は上幅90～130cm、下幅20～40cm、深さ20～25cm、検出した総延長は3.5mを測る。方向はほぼ東～西で短く調査区外に延びる。断面形は不整形を呈し、底面の高低差は7cmで、東側に傾斜している。

<埋上> 黒色土が主体の単層である。自然堆積の様相を呈している。

<遺物> 出土していない。

<時期> 不明である。

S D 103溝跡 (第26図、写真図版52)

<位置・重複関係> A区中央部II D2hグリット、標高72.5mに位置する。

<規模・方向・形態> 規模は上幅55～70cm、下幅25～35cm、深さ12～25cm、検出した総延長は3.8mを測る。方向は北北東～南南西で短く直線的に延びる。両端は調査区外に延びているため全容は不明である。断面形は不整形を呈し、底面の高低差は33cmで東側に傾斜している。

<埋上> 2層に細分され黒褐色土が主体に構成されている。自然堆積の様相を呈している。

<遺物> 出土していない。

<時期> 不明である。

S D 104溝跡 (第26図、写真図版52)

<位置・重複関係> A区北部1 D9h～1 D10iグリット、標高72.0mに位置する。

<規模・方向・形態> 規模は上幅32～46cm、下幅12～16cm、深さ6～9cm、検出した総延長は40mを測る。方向はほぼ東～西で短く西端でやや曲がる。両端が調査区外に延びているため全容は不明である。断面形は皿状を呈し、底面の高低差はほとんどない。

<埋上> 黒褐色土が主体の単層である。自然堆積の様相を呈している。

<遺物> 出土していない。

<時期> 不明である。

SD105溝跡 (第26図、写真図版52)

<位置・重複関係> A区北部1D6i～1D6jグリット、標高71.8mに位置する。

<規模・方向・形態> 規模は上幅35～48cm、下幅12～15cm、深さ2～8cm、検出した総延長は4.7mを測る。方向は東南東～西北西である。短く直線的で調査区外に延びるため全容は不明である。断面形は皿状を呈し、底面の高低差はほとんどない。

<埋上> 黒褐色土が主体の単層である。自然堆積の様相を呈している。

<遺物> 出土していない。

<時期> 不明である。

「B区 (SD100・106～108・110～116)」

SD100溝跡 (第29図、写真図版51)

<位置・重複関係> B区北部II F7f～II F9gグリット、標高72.1mに位置する。SK69を切る。

<規模・方向・形態> 規模は上幅142～152cm、下幅32～40cm、深さ50～65cm、検出した総延長は10.5mを測る。方向は北北西～南南東で幅広く平面形は不整な溝状である。両端が調査区外に延びるため全容は不明である。断面形は不整形を呈し、底面の高低差は19cmで、北側に傾斜している。

<埋上> 黒褐色土が主体に構成されている。自然堆積の様相を呈している。

<遺物> 須恵器片1点が出土している。

<時期> 出土遺物から平安時代のもと思われるが、流れ込みの可能性もある。

SD106溝跡 (第29図、写真図版53)

<位置・重複関係> B区北部II F6f～II F7gグリット、標高72.1mに位置する。SD108とSD111に切られる。

<規模・方向・形態> 規模は上幅125～130cm、下幅25～35cm、深さ42～60cm、検出した総延長は10.4mを測る。幅広く深い溝である。全容は不明だが方向はほぼ北～南南東で調査区外に延びる。断面形は逆台形状・皿状呈し、底面の高低差は10cmで南側に傾斜している。

<埋上> 暗褐色土が主体の単層である。自然堆積の様相を呈している。

<遺物> 出土していない。

<時期> 不明である。

SD107溝跡 (第29図、写真図版53)

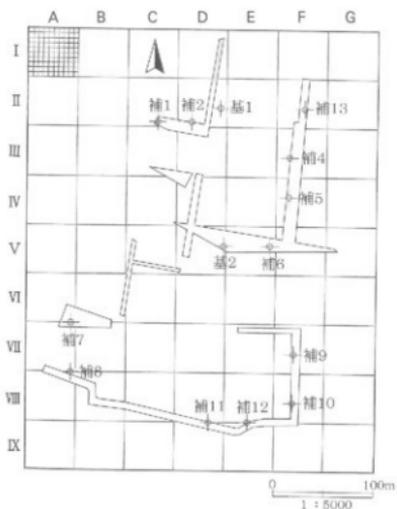
<位置・重複関係> B区北部2 F6fグリット、標高72.0mに位置する。SD108とSD110に切られる。

<規模・方向・形態> 規模は上幅90～110cm、下幅15～22cm、深さ21～23cm、検出した総延長は2.3mを測る。幅広く深い溝である。方向は東北東～西南西で短く調査区外に延びる。断面形は不整形を呈し、底面の高低差はほとんどない。

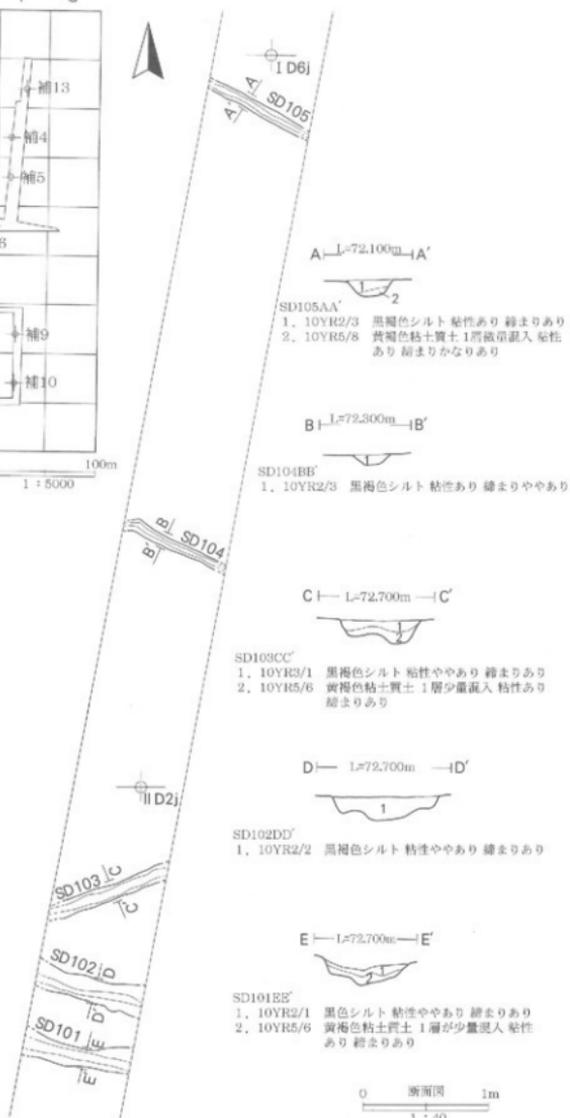
<埋上> 黒褐色土が主体の単層である。自然堆積の様相を呈している。

<遺物> 出土していない。

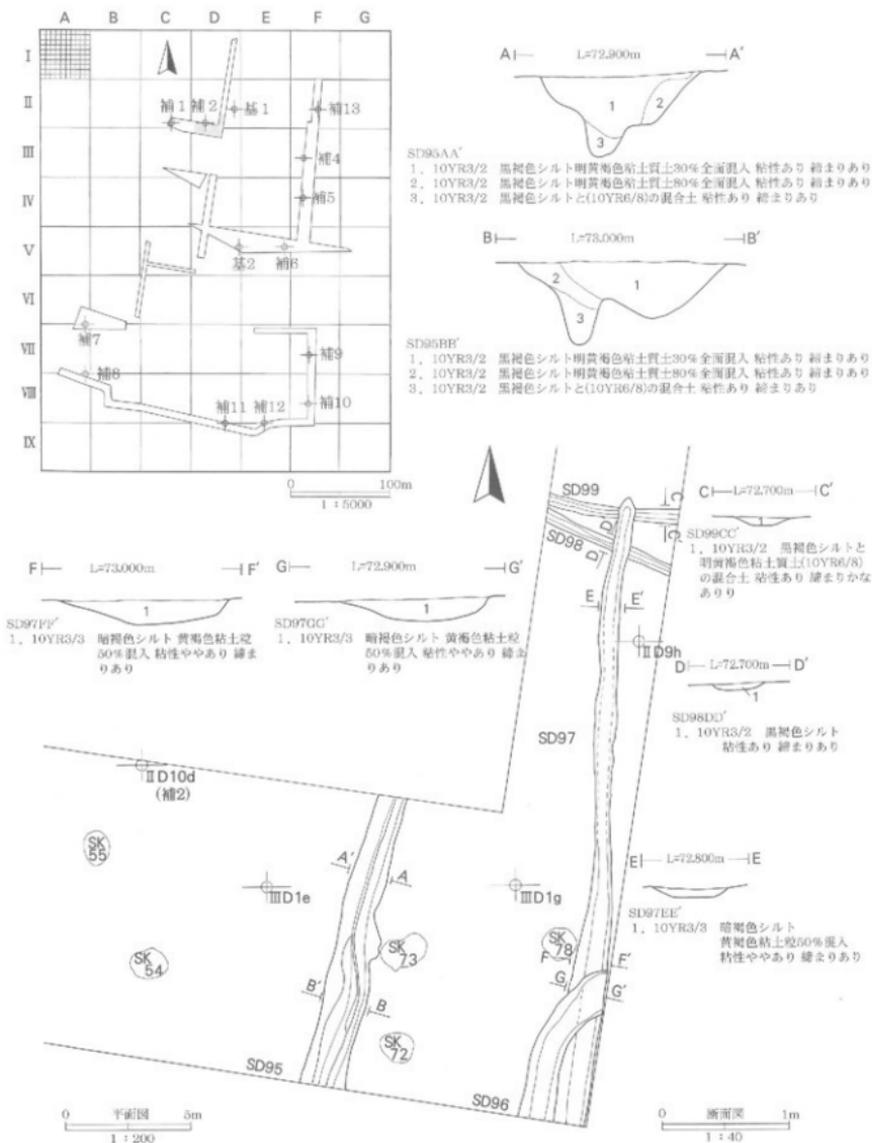
<時期> 不明である。



0 平面図 5m
1 : 200



第26図 A区溝跡(1)



第27図 A区溝跡(2)

SD108溝跡 (第29図、写真図版53)

<位置・重複関係> B区北部II F5～II F5gグリット、標高72.0mに位置する。SD106・SD107・SD110を切る。

<規模・方向・形態> 規模は上幅90～105cm、下幅30～42cm、深さ50～54cm、検出した総延長は4.1mを測る。方向は北北西～南南東に延び南側で溝が切りあって終わる。断面形は逆台形を呈し、底面の高低差は20cmで南側に傾斜している。

<埋土> 2層に細分され黒褐色土が主体に構成されている。自然堆積の様相を呈している。

<遺物> 細片のため図化しなかったが、土師器片3点が出土している。

<時期> 出土遺物から平安時代のものと思われるが、流れ込みの可能性もある。

SD110溝跡 (第29図、写真図版53)

<位置・重複関係> B区北部II F4g～II F5gグリット、標高72.0mに位置する。SD106・SD107を切り、SD108に切られる。

<規模・方向・形態> 規模は上幅45～72cm、下幅20～30cm、深さ7～27cm、検出した総延長は5.5mを測る。方向は北北東～南南西に延び南側で溝が切りあって終わる。断面形は逆台形を呈し、底面の高低差は18cmで南側に傾斜している。

<埋土> 3層に細分され黒褐色土が主体に構成されている。自然堆積の様相を呈している。

<遺物> 出土していない。

<時期> 出土遺物はないが、SD108との重複関係を鑑みて平安時代のものと思われる。

SD111溝跡 (第28図、写真図版54)

<位置・重複関係> B区南部IV F6c～IV F6dグリット、標高71.9mに位置する。SI110堅穴住居とSD106を切る。両端は調査区に延びている。

<規模・方向・形態> 規模は上幅95～98cm、下幅35～48cm、深さ19～45cm、検出した総延長は7.2mを測る。方向は東北東～西南西に延びる。断面形は浅鉢状を呈し、底面の高低差は10cmで、西側に傾斜している。

<埋土> 2層に細分され黒褐色土が主体に構成されている。自然堆積の様相を呈している。

<遺物> 細片のため図化しなかったが、土師器、須恵器片等が9号袋で0.5袋出土している。

<時期> 出土遺物から平安時代のものと思われるが、SI110からの流れ込みの可能性も否めない。

SD112溝跡 (第28図、写真図版54)

<位置・重複関係> B区南部III F3c～III F3dグリット、標高72.1mに位置する。柱穴状ピット3基を有する。

<規模・方向・形態> 規模は上幅20～70cm、下幅22～25cm、深さ4～30cm、検出した総延長は9.9mを測る。方向はほぼ東～西に延びるが、両端が調査区外に延びているため全容は不明である。平面形は溝状だが浅く部分的に残存していない。断面形は浅鉢状を呈し、底面の高低差は11cmで西側に傾斜している。

<埋土> 2層に細分され黒褐色土が主体に構成されている。自然堆積の様相を呈している。

<遺物> 出土していない。

<時期> 不明である。

S D113溝跡 (第28図、写真図版54)

- <位置・重複関係> B区南部ⅢF4c～ⅢF4dグリット、標高72.1mに位置する。不整形ピットを有する。
- <規模・方向・形態> 規模は上幅25～40cm、下幅10～15cm、深さ3～15cm、検出した総延長は9.5mを測る。方向はほぼ東～西に延びるが、向端が調査区外に延びているため全容は不明である。平面形は溝状だが浅く一部に消滅が見られる。断面形は浅鉢状を呈し、底面の高低差は9cmで西側に傾斜している。
- <埋土> 2層に細分され黒褐色土が主体に構成されている。自然堆積の様相を呈している。
- <遺物> 出土していない。
- <時期> 不明である。

S D114溝跡 (第29図、写真図版53)

- <位置・重複関係> B区北部ⅡF4f～ⅡF5gグリット、標高72.0mに位置する。S D110に切られる。
- <規模・方向・形態> 規模は上幅35～65cm、下幅15～30cm、深さ6～16cm、検出した総延長は6.8mを測る。方向は北北西～南南東に湾曲気味に延び南側で終わる。断面形は逆台形を呈し、底面の高低差はほとんどない。
- <埋土> 2層に細分され黒褐色土が主体に構成されている。自然堆積の様相を呈している。
- <遺物> 出土していない。
- <時期> 不明である。

S D115溝跡 (第29図、写真図版55)

- <位置・重複関係> B区北部ⅡF4f～ⅡF4gグリット、標高72.0mに位置する。
- <規模・方向・形態> 規模は上幅40～55cm、下幅30～40cm、深さ6～11cm、検出した総延長は6.8mを測る。方向はほぼ東～西に直線的に延び、円形のみ出しを持つ。断面形は皿状を呈し、底面の高低差はほとんどない。
- <埋土> 2層に細分され暗褐色土が主体に構成されている。自然堆積の様相を呈している。
- <遺物> 丸縄数十個を有するが、その他の遺物は出土していない。
- <時期> 時期は不明だが、現代の暗渠排水溝の可能性が高い。

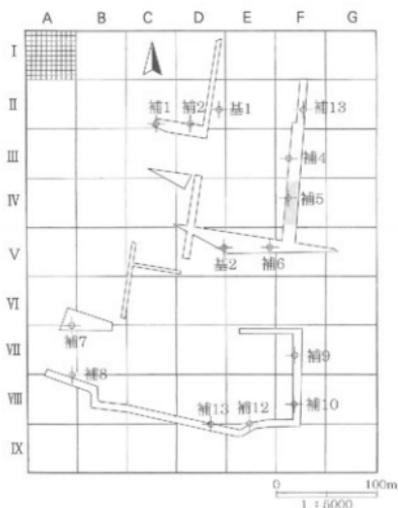
S D116溝跡 (第28図、写真図版54)

- <位置・重複関係> B区南部ⅣF6c～ⅣF6dグリット、標高71.9mに位置する。S D111に切られる。
- <規模・方向・形態> 規模は上幅50～55cm、下幅25～32cm、深さ7～15cm、検出した総延長は6.8mを測る。方向は東北東～西南西で延びる。断面形は逆台形状を呈し、底面の高低差はほとんどない。
- <埋土> 2層に細分され黒褐色土が主体に構成されている。自然堆積の様相を呈している。
- <遺物> 出土していない。
- <時期> 不明である。

C区 (S D80～87)

S D80溝跡 (第30図、写真図版43、44)

- <位置・重複関係> C区中央部ⅢD10c～ⅣD3bグリット、標高72.8mに位置する。S D81を切っている。18基のピットを有する。
- <規模・方向・形態> 規模は上幅65～105cm、下幅15～35cm、深さ28～90cm、検出した総延長は13.2mを測る。方向は北北東～南南西に延びて終わる。断面形は逆台形状を呈し、底面の高低差は28cmで、南側に傾



A — L=72.100m — A'



SD112AA'

1. 10YR2/3 黒褐色シルト 黄褐色粘土質土全面混入 粘性なし 締まりあり
2. 10YR5/8 黄褐色粘土質土 粘性ややあり 締まりあり

B — L=72.100m — B'



SD113BB'

1. 10YR2/3 黒褐色シルト 黄褐色粘土質土全面混入 粘性なし 締まりあり

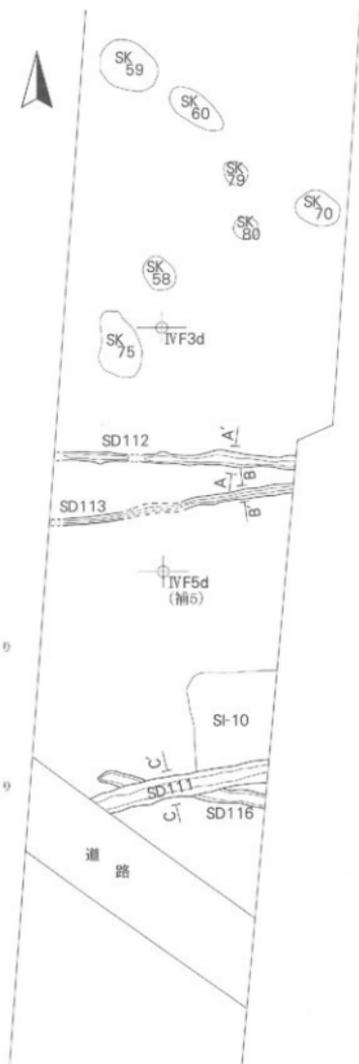
C — L=72.100m — C'



SD111CC'

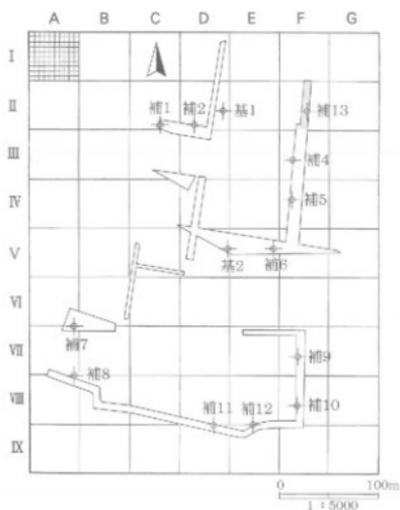
1. 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性ややあり 締まりあり
2. 10YR2/2 黒褐色シルトと黄褐色粘土質土(10YR5/0)の混合土 粘性ややあり 締まりややあり

0 平面図 5m
1 : 200

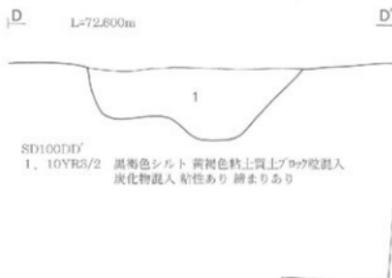


0 断面図 1m
1 : 40

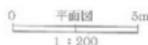
第28図 B区溝跡(1)



SD106CC'
1. 10YR2/2 暗褐色シルト 黄褐色粘土質上ブワ状20%混入
粘性あり 締まりかなりあり



SD100DD'
1. 10YR3/2 黒褐色シルト 黄褐色粘土質上ブワ状混入
炭化物混入 粘性あり 締まりあり



A1— L=72,200m —A'

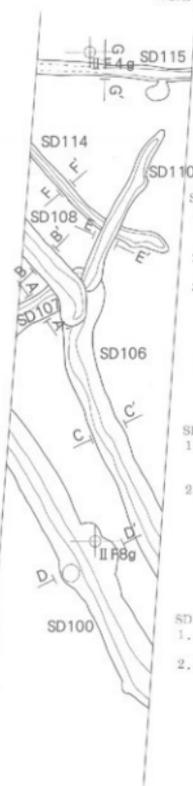


SD107AA'
1. 10YR2/3 黒褐色シルト 黄褐色粘土質上ブワ状20%混入
粘性あり 締まりややあり
2. 10YR5/6 黄褐色粘土質土 40%混入 粘性かなりあり
締まりあり

B— L=72,300m —B'



SD108BB'
1. 10YR2/2 黒褐色シルト 炭化物粒微量混入 下に黄褐色粘土質土20%混入 粘性あり 締まりあり
2. 10YR3/2 黒褐色シルトと黄褐色粘土質土(10YR5/6)の混入土 粘性ややあり 締まりあり



E— L=72,300m —E'



SD110EE'
1. 10YR2/2 黒褐色シルト 黄褐色粘土質土ブワ状混入 粘性ややあり 締まりあり
2. 10YR5/6 黄褐色粘土質シルト 粘性あり 締まりあり
3. 10YR2/3 黒褐色シルト 2層混入 粘性あり 締まりややあり

F— L=72,300m —F'



SD114FF'
1. 10YR2/3 黒褐色シルトと褐色粘土質土(10YR4/6)の混入土 粘性なし 締まりややあり
2. 10YR4/6 褐色粘土質シルト 粘性ややあり 締まりあり

G— L=72,300m —G'



SD116GG'
1. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし 締まりあり
2. 10YR5/8 黄褐色粘土質土 粘性ややあり 締まりあり



第29図 B区溝跡(2)

斜している。

<埋土> 3層に細分され黒褐色土が主体に構成されている。自然堆積の様相を呈している。

<遺物> 出土していない。

<時期> 不明である。

S D81溝跡 (第30図、写真図版43)

<位置・重複関係> C区東部ⅢD10c～ⅣD2bグリット、標高72.8mに位置する。S D80に切られる。

<規模・方向・形態> 規模は上幅55～90cm、下幅40～85cm、深さ8～23cm、検出した総延長は10.2mを測る。方向は北北東～南南西に延びて終わる。断面形は皿状を呈し、底面の高低差は5cmで、南側に傾斜している。

<埋土> 黒褐色土が主体の単層である。自然堆積の様相を呈している。

<遺物> 出土していない。

<時期> 不明である。

S D82溝跡 (第30図、写真図版44)

<位置・重複関係> C区東部ⅢD10b～ⅣD2bグリット、標高72.7mに位置する。S D83とS D85を切る。

<規模・方向・形態> 規模は上幅70～125cm、下幅34～50cm、深さ27～41cm、検出した総延長は11.7mを測る。方向はほぼ南北に延びて終わる。断面形は逆台形を呈し、底面の高低差は20cmで、南側に傾斜している。

<埋土> 4層に細分され黒褐色土が主体に構成されている。自然堆積の様相を呈している。

<遺物> 出土していない。

<時期> 不明である。

S D83溝跡 (第30図、写真図版45)

<位置・重複関係> C区中央部ⅢC10i～ⅣD1bグリット、標高72.8mに位置する。S D82、S D84、S D86に切られる。

<規模・方向・形態> 規模は上幅48～55cm、下幅20～28cm、深さ6～15cm、検出した総延長は19.2mを測る。方向は東南東～西北西で直線的に延びる。S D85と平行する。断面形は浅鉢状を呈し、底面の高低差はほとんどない。

<埋土> 黒褐色土が主体の単層である。自然堆積の様相を呈している。

<遺物> 出土していない。

<時期> 不明である。

S D84溝跡 (第30図、写真図版45)

<位置・重複関係> C区中央部ⅢD10a～ⅣC1jグリット、標高72.7mに位置する。S D83を切る。

<規模・方向・形態> 規模は上幅62～82cm、下幅30～42cm、深さ7～18cm、検出した総延長は8.8mを測る。方向は北北東～南南西で直線的に延びるが、中央部よりから南方向にかけて溝が浅く不明瞭なまま終わる。断面形は皿状を呈し、底面の高低差はほとんどない。

<埋土> 3層に細分され暗褐色土が主体に構成されている。自然堆積の様相を呈している。

<遺物> 出土していない。

<時期> 不明である。

SD85溝跡 (第30図、写真図版43)

〈位置・重複関係〉 C区東部ⅢD10a～ⅣD1cグリット、標高72.9mに位置する。SD80、SD81、SD82に切られるためそれぞれの遺構よりも古い。

〈規模・方向・形態〉 規模は上幅50～68cm、下幅15～35cm、深さ6～12cm、検出した総延長は11mを測る。方向は北北東～南南西で直線的に並びSD83と平行する。断面形は皿状を呈し、底面の高低差はほとんどない。

〈埋土〉 2層に細分され黒褐色土が主体に構成されている。自然堆積の様相を呈している。

〈遺物〉 出土していない。

〈時期〉 不明である。

SD86溝跡 (第30図、写真図版45)

〈位置・重複関係〉 C区中央部ⅢC10j～ⅣC1jグリット、標高72.8mに位置する。不整形ピットを有するがその性格は不明である。SD83を切ることから本遺構が新しい。

〈規模・方向・形態〉 規模は上幅55～90cm、下幅16～28cm、深さ7～15cm、検出した総延長は5.7mを測る。方向はほぼ北～南で平面形は溝状だが不整である。断面形は浅鉢状を呈し、底面の高低差は5cmで、南側に傾斜している。

〈埋土〉 2層に細分され黒色土が主体に構成されている。自然堆積の様相を呈している。

〈遺物〉 出土していない。

〈時期〉 不明である。

SD87溝跡 (第30図、写真図版46)

〈位置・重複関係〉 C区西部ⅢC10hグリット、標高72.7mに位置する。

〈規模・方向・形態〉 規模は上幅60～72cm、下幅44～46cm、深さ9～12cm、検出した総延長は3.2mを測る。方向は北～南で平面形は直線的で短い。断面形は皿状を呈し、底面の高低差は17cmで、南側に傾斜している。

〈埋土〉 黒褐色土が主体の平層である。自然堆積の様相を呈している。

〈遺物〉 出土していない。

〈時期〉 不明である。

D区 (SD68～71・94)

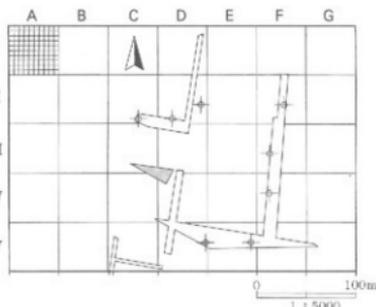
SD68溝跡 (第31図、写真図版37)

〈位置・重複関係〉 D区ⅣD6d～ⅣD6eグリッド、標高72.3～72.4mに位置する。重複関係はSD70を切る。

〈規模・方向・形態〉 規模は上幅48～94cm、下幅25～54cm、深さ28cm、検出した総延長は6.7mを測る。東西両端が調査区外に延びるため全容は不明である。方向は北北西～東南東である。断面形はほぼ逆台形を呈し、底面の高低差は11cmで、西側に傾斜している。

〈埋土〉 3層に細分され黄褐色土粒が混入する暗褐色土が主体となって構成されている。自然堆積の様相を呈している。

〈遺物〉 埋土中位～下位にかけて須恵器片110～112の他、細片のため図化しなかったが、土師器片などユニバックワで1袋出土している。



A— L=73,200m —A'



SD844A'

1. 10YR2/3 黄褐色シルト 黄褐色粘土質土ブロック状混入 粘性なし 締まりあり
2. 10YR2/3 黄褐色シルト 粘性なし 締まりあり
3. 7.5YR5/6 黄褐色粘土質土 黄褐色シルト混入 粘性あり 締まりあり

B— L=73,000m —B'



SD845B'

1. 10YR5/2 黄褐色シルト 粘性なし 締まりあり
2. 7.5YR5/6 黄褐色粘土質土 粘性ややあり 締まりあり

C— L=73,000m —C'



SD870C'

1. 10YR2/2 黄褐色シルト 粘性あり 締まりあり

D— L=73,100m —D'



SD893D'

1. 10YR2/2 黄褐色シルト 黄褐色粘土質土60%混入 粘性ややあり 締まりややあり
2. 10YR3/3 黄褐色シルト 粘性ややあり 締まりあり

E— L=73,100m —E'



SD898E'

1. 10YR2/2 黄褐色シルト 黄褐色粘土60%混入 粘性ややあり 締まりややあり
2. 10YR3/3 黄褐色シルト 粘性ややあり 締まりあり
3. 10YR2/3 黄褐色シルトと黄褐色粘土 (10YR1/8) の混合土 粘性あり 締まりあり

F— L=73,200m —F'



SD821F'

1. 10YR2/2 黄褐色シルト 黄褐色粘土質土粗混入 粘性ややあり 締まりややあり
2. 10YR3/2 黄褐色シルト 黄褐色粘土質土粗混入 粘性ややあり 締まりややあり
3. 10YR3/3 黄褐色シルト 黄褐色粘土質土粗混入 粘性ややあり 締まりややあり
4. 10YR2/2 黄褐色シルト 粘性ややあり 締まりややあり

H— L=73,200m —H'



SD898H'

1. 10YR2/2 黄褐色シルト 粘性あり 締まりあり

G— L=73,200m —G'



SD893G'

1. 10YR2/3 黄褐色シルト 黄褐色粘土質土粗混入 粘性ややあり 締まりややあり
2. 10YR3/4 黄褐色シルトと黄褐色粘土質土 (10YR1/8) の混合土 粘性ややあり 締まりややあり

I— L=73,200m —I'



SD881I'

1. 10YR2/3 黄褐色シルト 粘性ややあり 締まりややあり
2. 10YR2/3 黄褐色シルト 黄褐色粘土質土ブロック状混入 粘性ややあり 締まりややあり

J— L=73,100m —J'



SD884J'

1. 7.5YR5/6 黄褐色シルト 粘性なし 締まりあり

K— L=73,000m —K'



SD883K'

1. 7.5YR3/2 黄褐色シルト 粘性なし 締まりあり
2. 7.5YR5/6 黄褐色粘土質土 粘性あり 締まりあり

0 平面図 5m
1:200

0 断面図 1m
1:40



第30図 C区溝跡

<時期> 出土遺物などから平安時代の遺構と考えられる。

SD69溝跡 (第31図、写真図版38)

<位置・重複関係> D区ND5d～ND6dグリッド、標高72.3mに位置する。重複関係はSD71を切る。

<規模・方向・形態> 規模は上幅30～46cm、下幅20～28cm、深さ15～22cm、検出した総延長は7.2m測る。西側が調査区外に延びるため全容は不明であるが、円形周溝の可能性も考えられる。方向は西から途中で緩やかに南へ向きを変える三日月型を呈する。断面形はほぼ逆台形を呈し、底面の高低差は12cmで、南側に傾斜している。

<底面・壁> 底面はほぼ平坦で、堅く締まる。壁は底面から鋭角的に立ち上がっている。

<埋土> 暗褐色土を主体に構成される。自然堆積の様相を呈している。

<遺物> 出土していない。

<時期> 不明である。

SD70溝跡 (第31図、写真図版38)

<位置・重複関係> D区ND4d～ND6dグリッド、標高72.3mに位置する。南端をSD68に切られるため、本遺構がSD68よりも古い。

<規模・方向・形態> 規模は上幅30～50cm、下幅18～28cm、深さ13～30cm、検出した総延長は11.1mを測る。西側が調査区外に延びるため全容は不明である。方向は西から途中で急に南へ向きを変える逆L字型を呈する。断面形は逆台形を呈し、底面の高低差は26cmで、南側に傾斜している。

<埋土> 暗褐色土を主体に構成される。自然堆積の様相を呈している。

<遺物> 出土していない。

<時期> 重複関係から平安時代かそれより古い時代の遺構と考えられる。

SD71溝跡 (第31図、写真図版38)

<位置・重複関係> D区ND4d～ND5dグリッド、標高72.3mに位置する。南側でSD69と交錯し、本遺構が切られる。このことから本遺構がSD69よりも古い。

<規模・方向・形態> 規模は上幅20～38cm、下幅10～35cm、深さ18～26cm、検出した総延長は6.7mを測る。西側が調査区外に延びるため全容は不明である。方向は西から途中で南へ向きを変える逆L字型を呈する。断面形は半円形を呈し、底面の高低差は5cmで、南側に傾斜している。

<埋土> 暗褐色土を主体に構成される。自然堆積の様相を呈している。

<遺物> 出土していない。

<時期> 不明である。

SD94溝跡 (第31図、写真図版49)

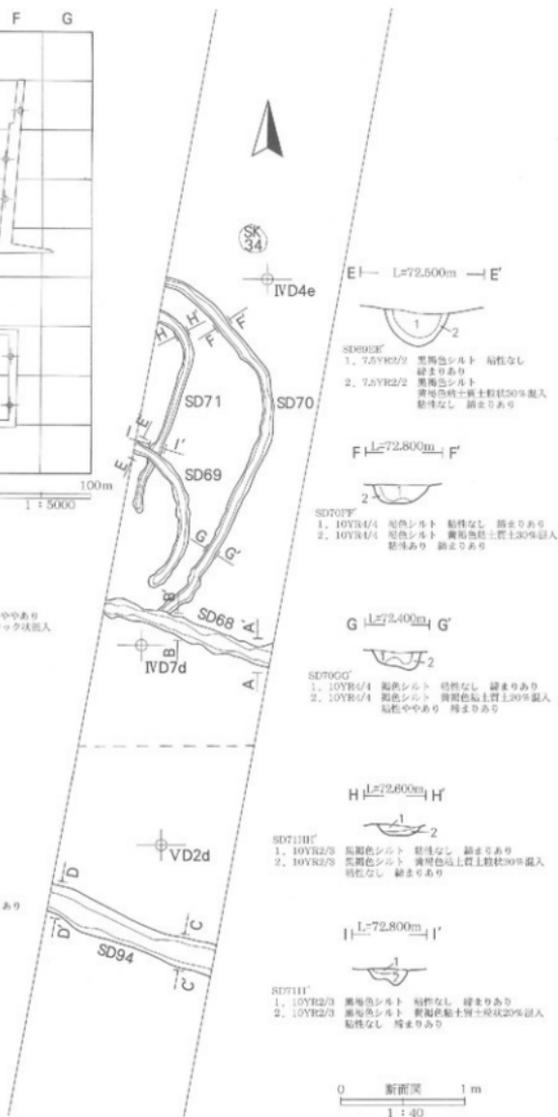
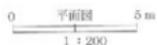
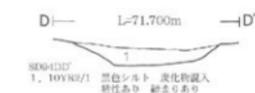
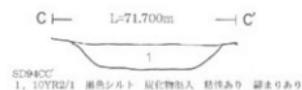
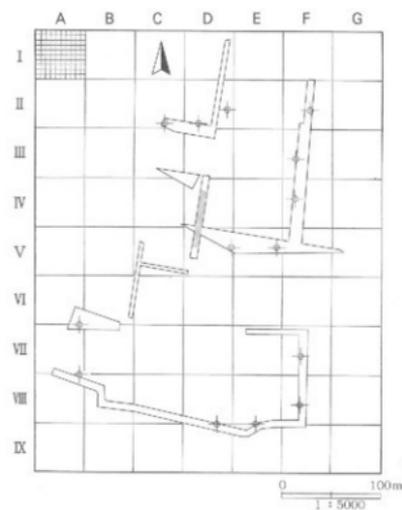
<位置・重複関係> D区VD2c～VD3dグリッド、標高69.6mに位置する。

<規模・方向・形態> 規模は上幅95～140cm、下幅45～80cm、深さ15～25cm、検出した総延長は6.4mを測る。方向は東南東～西南西で平面形は幅広の溝状である。両端が調査区外に延びるため全容は不明である。断面形は皿状を呈し、底面の高低差は10cmで、西側に傾斜している。

<埋土> 黒色土が主体の単層である。自然堆積の様相を呈している。

<遺物> 出土していない。

<時期> 不明である。



第31図 D区溝跡

E区 (SD72~77・88~91・93)

SD72溝跡 (第32図、写真図版39)

〈位置・重複関係〉 E区VE5g~VG5bグリッド、標高70.0~70.8mに位置する。本遺構はSK51・SD10と粘土採掘土坑群を重複し、それぞれの遺構を切る。よって、これらの遺構より本遺構が新しいと考えられる。

〈規模・方向・形態〉 規模は上幅22~70cm、下幅12~54cm、深さ9~26cm、検出した総延長は76.5mを測る。本遺構の東側が調査区外に延びるため全容は不明である。方向はほぼ東~西で、断面形は逆台形を呈し、底面の高低差は80cmで、東側に傾斜している。

〈埋土〉 暗褐色土を主体に構成される。自然堆積の様相を呈している。

〈遺物〉 土師器片等が9号袋で2~3袋、手づくねかわらけ等が出上しているが、部分的に溝の深さが浅い所もあり、流れ込みのものもあると思われる。

〈時期〉 出土遺物などから平安時代~中世の遺構と考えられる。

SD73溝跡 (第32図、写真図版40)

〈位置・重複関係〉 E区中央部5E4f~VF4fグリッド、標高70.7~71.1mに位置する。本遺構はSK36に切られ、SD76・77、SK43を切る。よってSK36より旧く、SD76・77より新しいと考えられる。

〈規模・方向・形態〉 規模は上幅78~125cm、下幅40~100cm、深さ25~53cm、検出した総延長は52mを測る。本遺構の東端が調査区外に延びるため全容は不明である。SD72と並びながら、方向はほぼ東~西である。断面形は逆台形を呈し、底面の高低差は58cmで、東側に傾斜している。

〈埋土〉 暗褐色土を主体に構成されている。自然堆積の様相を呈している。

〈遺物〉 土師器片等が9号袋で3.5袋出土しているが、手づくねかわらけ等も含まれるためSD72と同様に流れ込みの遺物も多く含まれていると考えられる。

〈時期〉 出土遺物から平安時代~中世と思われる。

SD74溝跡 (第32図、写真図版41)

〈位置・重複関係〉 E区中央部VE5g~VE5hグリッド、標高70.9mに位置する。本遺構はSD72の西端で重なるような位置関係にありSD72に切られる。したがって、本遺構がSD72より古い。

〈規模・方向・形態〉 規模は上幅35~55cm、下幅25~48cm、深さ5~11cm、検出した総延長は7.3mを測る。方向はほぼ東~西に延びSD72と重複する。断面形は浅鉢状である。底面の高低差は5cmで、東側に傾斜している。SD75と本遺構はその位置関係から同一のものと考えられる。

〈埋土〉 黒褐色土が主体の単層である。自然堆積の様相を呈している。

〈遺物〉 出土していない。

〈時期〉 不明である。

SD75溝跡 (第32図、写真図版41)

〈位置・重複関係〉 E区中央部VE5jグリッド、標高70.8mに位置する。本遺構はSD72の西端の一部分から発している短い溝である。新旧関係はSD72に切られているので本遺構が古い。

〈規模・方向・形態〉 規模は上幅25~32cm、下幅10~20cm、深さ11~20cm、検出した総延長は5.8mを測る。方向は西南西から北東に短く延びて終わる。断面形は浅鉢状である。底面の高低差は13cmで東側に傾斜している。SD74と本遺構はその位置関係から同一のものの可能性が高い。

〈埋土〉 黒褐色土が主体の単層である。自然堆積の様相を呈している。

<遺物> 出土していない。

<時期> 遺構の重複関係を鑑みて平安時代以降のものと思われる。

SD76溝跡 (第32図、写真図版41)

<位置・重複関係> E区中央部VE3h～VE5hグリット、標高71.2mに位置する。SD73に切られる。

<規模・方向・形態> 規模は上幅42～98cm、下幅25～68cm、深さ11～20cm、検出した総延長は12.6mを測る。方向はほぼ南北にやや蛇行して延びる。断面形は浅鉢状を呈し、底面の高低差は35cmで、南側に傾斜している。

<埋土> 黒色土を主体とした単層である。自然堆積の様相を呈している。

<遺物> 出土していない。

<時期> 出土遺物はないが、遺構の重複関係を鑑みて平安時代以降のものと思われる。

SD77溝跡 (第32図、写真図版42)

<位置・重複関係> E区中央部VE3g～VE5gグリット、標高71.1mに位置する。SD73に切られる。

<規模・方向・形態> 規模は上幅55～80cm、下幅22～35cm、深さ17～35cm、検出した総延長は13.6mを測る。方向はほぼ南北でSD76と平行して延びる。断面形は椀状を呈し、底面の高低差は33cmで、南側に傾斜している。

<埋土> 黒色土を主体とした単層である。自然堆積の様相を呈している。

<遺物> 細片のため同化しなかったが、土師器片等がコニバックCで1袋出土している。

<時期> 出土遺物から平安時代のものと考えられるが、流れ込みの可能性もある。

SD78溝跡 (第34図、写真図版42)

<位置・重複関係> E区中央部VE2g～VE4gグリット、標高71.4mに位置する。柱穴状ピットを1基有する。重複関係はない。

<規模・方向・形態> 規模は上幅55～80cm、下幅33～45cm、深さ5～15cm、検出した総延長は7.9mを測る。方向はほぼ南北で直線的に伸びる。断面形は皿状を呈し、底面の高低差は36cmで、南側に傾斜している。

<埋土> 黒褐色土を主体とした単層である。自然堆積の様相を呈している。

<遺物> 細片のため同化しなかったが、土師器片等が9号袋で1袋出土している。

<時期> 出土遺物から平安時代のものと考えられるが、流れ込みの可能性もある。

SD79溝跡 (第34図、写真図版43)

<位置・重複関係> E区中央部VE2e～VE5eグリット、標高71.3mに位置する。重複関係はない。

<規模・方向・形態> 規模は上幅92～124cm、下幅35～50cm、深さ33～53cm、検出した総延長は11.1mを測る。方向は北西～南南東に直線的に延びる。断面形は逆台形状を呈し、底面の高低差は4.4cmで、南側に傾斜している。

<埋土> 黒褐色土が主体の単層である。自然堆積の様相を呈している。

<遺物> 出土していない。

<時期> 不明である。

SD88溝跡 (第32図、写真図版46)

<位置・重複関係> E区東部VF4a～VF5aグリット、標高70.8mに位置する。SD73に切られる。

<規模・方向・形態> 規模は上幅15～35cm、下幅8～18cm、深さ3～5cm、検出した総延長は4.3mを測る。方向は北北西～南南東で細くやや蛇行気味に延びる。断面形は皿状を呈し、底面の高低差は10cmで、南

側に傾斜している。

〈埋土〉 黒褐色土が主体の単層である。自然堆積の様相を呈している。

〈遺物〉 内黒の土師器片が数点出土している。

〈時期〉 出土遺物から平安時代のものと思われるが、流れ込みの可能性もある。

S D 89溝跡 (第32図、写真図版47)

〈位置・重複関係〉 E区東部V E 3a～V F 3bグリット、標高70.9mに位置する。S D 73に切られる。

〈規模・方向・形態〉 規模は上幅85～95cm、下幅55～60cm、深さ25～31cm、検出した総延長は1.5mを測る。方向は北北東～南南西で調査区と溝に切られ極短い。断面形は逆台形を呈し、底面の高低差は4cmで、南側に傾斜している。

〈埋土〉 黒褐色土が主体の単層である。自然堆積の様相を呈している。

〈遺物〉 出土していない。

〈時期〉 不明である。

S D 90溝跡 (第32図、写真図版47)

〈位置・重複関係〉 E区東部V F 3bグリット、標高70.9mに位置する。S D 73とS D 89に切られる。

〈規模・方向・形態〉 規模は上幅20～50cm、下幅8～25cm、深さ7～10cm、検出した総延長は0.9mを測る。方向は北北西～南南東で両端を溝に切られ極短い。断面形は桶状を呈し、底面の高低差は2cmで、南側に傾斜している。

〈埋土〉 黒褐色土が主体の単層である。自然堆積の様相を呈している。

〈遺物〉 出土していない。

〈時期〉 不明である。

S D 91溝跡 (第34図、写真図版47)

〈位置・重複関係〉 C区西部V E 2a～V D 4jグリット、標高71.6mに位置する。

〈規模・方向・形態〉 規模は上幅22～40cm、下幅8～24cm、深さ8～23cm、検出した総延長は12.1mを測る。方向は北北東～南南西で直線的に伸びて終わる。断面形は深鉢状を呈し、底面の高低差は6cmで、南側に傾斜している。

〈埋土〉 3層に細分され黒褐色土が主体に構成されている。自然堆積の様相を呈している。

〈遺物〉 出土していない。

〈時期〉 不明である。

S D 92溝跡 (第32図、写真図版48)

〈位置・重複関係〉 E区東部9 F 5d～9 F 5eグリット、標高70.1mに位置する。粘土採掘上坑に切られる。一部攪乱を受けている。

〈規模・方向・形態〉 規模は上幅20～60cm、下幅16～50cm、深さ2～25cm、検出した総延長は9.8mを測る。方向はほぼ東～西で直線的に伸びる。断面形は不整形を呈し、底面の高低差は21cmで、東側に傾斜している。一部攪乱を受けている。

〈埋土〉 2層に細分され黒褐色土が主体に構成されている。自然堆積の様相を呈している。

〈遺物〉 土師器片を中心に9号袋で1袋出土している。縄文土器片も数点出土しているが埋土上位からの出土のため流れ込みのものと思われる。

〈時期〉 平安時代と思われる。

SD93溝跡 (第34図、写真図版48)

<位置・重複関係> E区西部V E5a～V E5cグリット、標高71.1mに位置する。

<規模・方向・形態> 規模は上幅50～176cm、下幅40～85cm、深さ10～37cm、検出した総延長は85mを測る。方向はほぼ東～西で平面形は幅広の溝状である。両端が調査区外に延びるため全容は不明である。断面形は逆台形と皿状を合わせた形状呈し、底面の高低差は5cmで、やや西側に傾斜している。

<埋土> 黒褐色土が主体の単層である。自然堆積の様相を呈している。

<遺物> 出土していない。

<時期> 不明である。

F区 (SD117～120)

SD117溝跡 (第35図、写真図版55)

<位置・重複関係> F区北部V C5a～V C5bグリット、標高71.6mに位置する。重複関係はない。

<規模・方向・形態> 規模は上幅75～110cm、下幅40～55cm、深さ13～19cm、検出した総延長は2.5mを測る。方向はほぼ東～西で直線的に延びるが、両端が調査区外に延びているため全容は不明である。断面形は皿状を呈し、底面の高低差は13cmで東側に傾斜している。

<埋土> 2層に区分した。黒色土が主体に構成されている。自然堆積の様相を呈している。

<遺物> 出土していない。

<時期> 時期を特定できる遺物が出土していないため不明である。

SD118溝跡 (第36図、写真図版55)

<位置・重複関係> F区南部VI B5j～VI B6jグリット、標高72.8mに位置する。不整形ピット有する。重複関係はない。

<規模・方向・形態> 規模は上幅35～55cm、下幅15～22cm、深さ12～17cm、検出した総延長は7.9mを測る。方向は北東～南西で直線的に延びる。断面形は浅鉢状を呈し、底面の高低差はほとんどない。

<埋土> 黒褐色土が主体の単層である。自然堆積の様相を呈している。

<遺物> 出土していない。

<時期> 不明である。

SD119溝跡 (第36図、写真図版55)

<位置・重複関係> F区中央部VI C2aグリット、標高72.7mに位置する。重複関係はない。

<規模・方向・形態> 規模は上幅95～130cm、下幅18～25cm、深さ15～30cm、検出した総延長は4.0mを測る。方向は東北東～西南西で直線的に延びるが、両端が調査区外に延びているため全容は不明である。断面形は浅鉢状を呈し、底面の高低差はほとんどない。

<埋土> 黒褐色土が主体の単層である。自然堆積の様相を呈している。

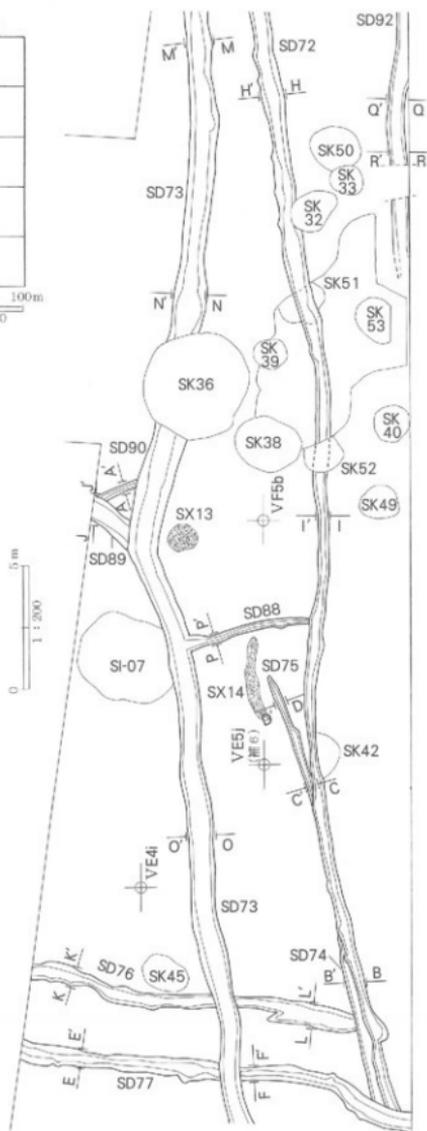
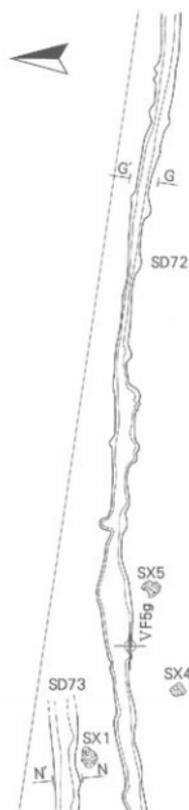
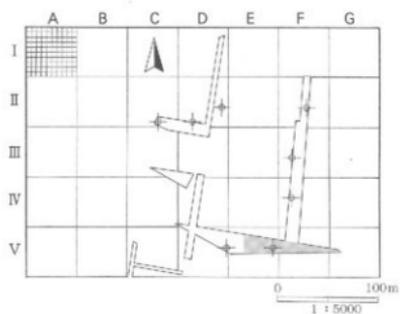
<遺物> 出土していない。

<時期> 不明である。

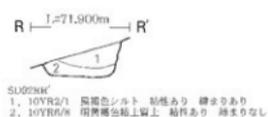
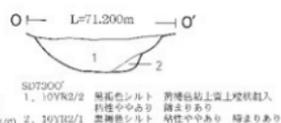
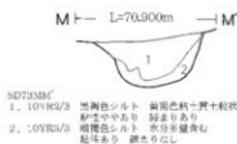
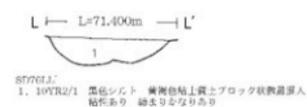
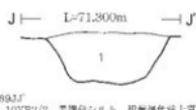
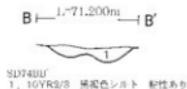
SD120溝跡 (第35図、写真図版55)

<位置・重複関係> F区中央部V C10aグリット、標高72.3mに位置する。重複関係はない。

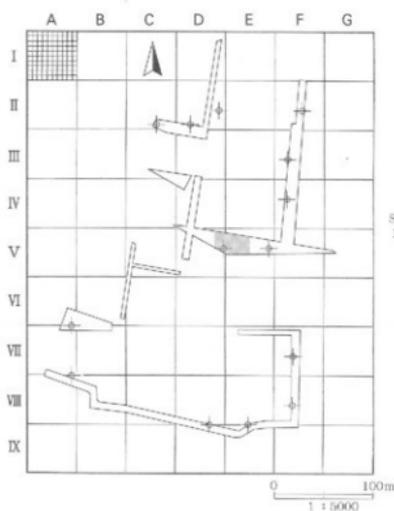
<規模・方向・形態> 規模は上幅235～270cm、下幅175～210cm、深さ24～58cm、検出した総延長は3.1mを測る。方向は北西～南東で直線的に延びるが、両端が調査区外に延びているため全容は不明である。断面



第32图 E区溝跡(1)



第33図 E区溝跡(2)



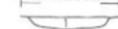
A— L=71.800m —A'



SD91AA'

1. 10YR2/1 黒色シルト 黄褐色粘土質土質80%混入 粘性あり 締まり中やあり
2. 10YR2/1 黒色シルト 粘性あり 締まり中やあり
3. 10YR2/3 黒褐色シルト 黄褐色粘土質土質少量混入 粘性あり 締まりあり

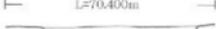
B— L=71.900m —B'



SD78BB'

1. 7.5YR2/1 黒色シルト 粘性なし 締まりあり

C— L=70.400m —C'



SD93CC'

1. 10YR2/1 黒褐色シルト 粘性あり 締まりあり

D— L=72.100m —D'



SD79DD'

1. 10YR2/2 黒褐色シルト 黄褐色粘土質土粒微量混入 粘性なし 締まりあり

E— L=71.900m —E'

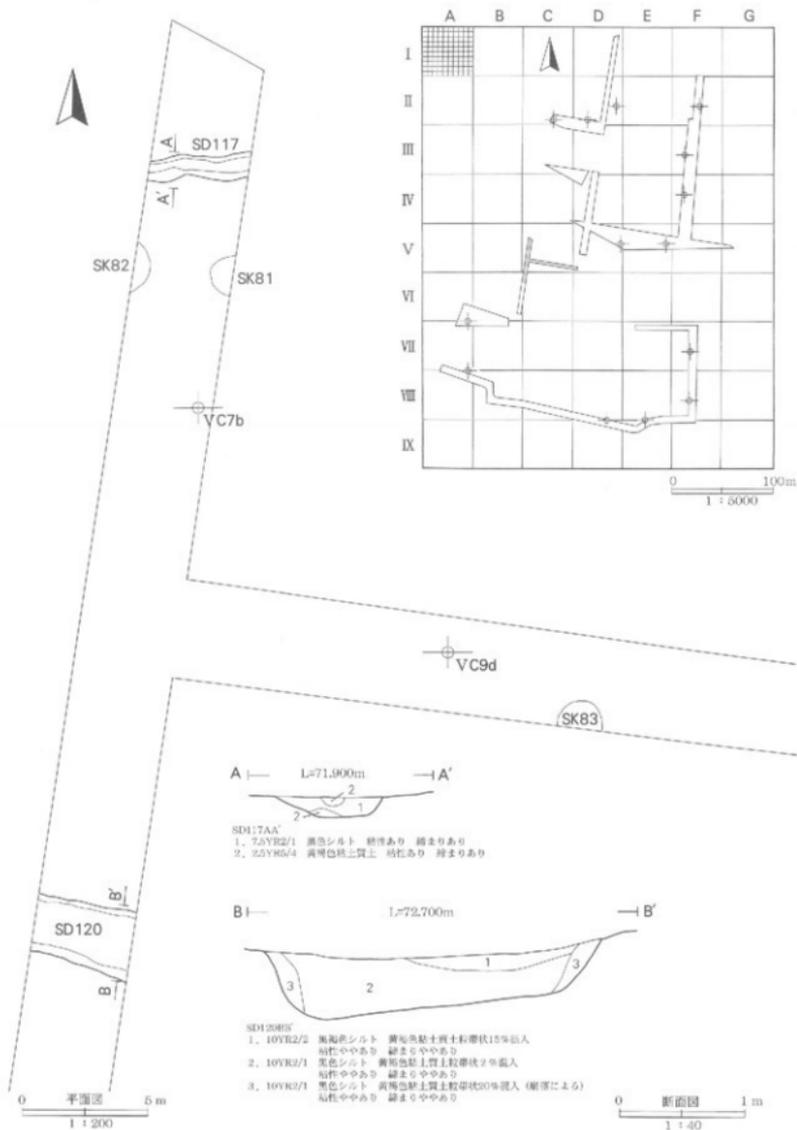


SD79EE'

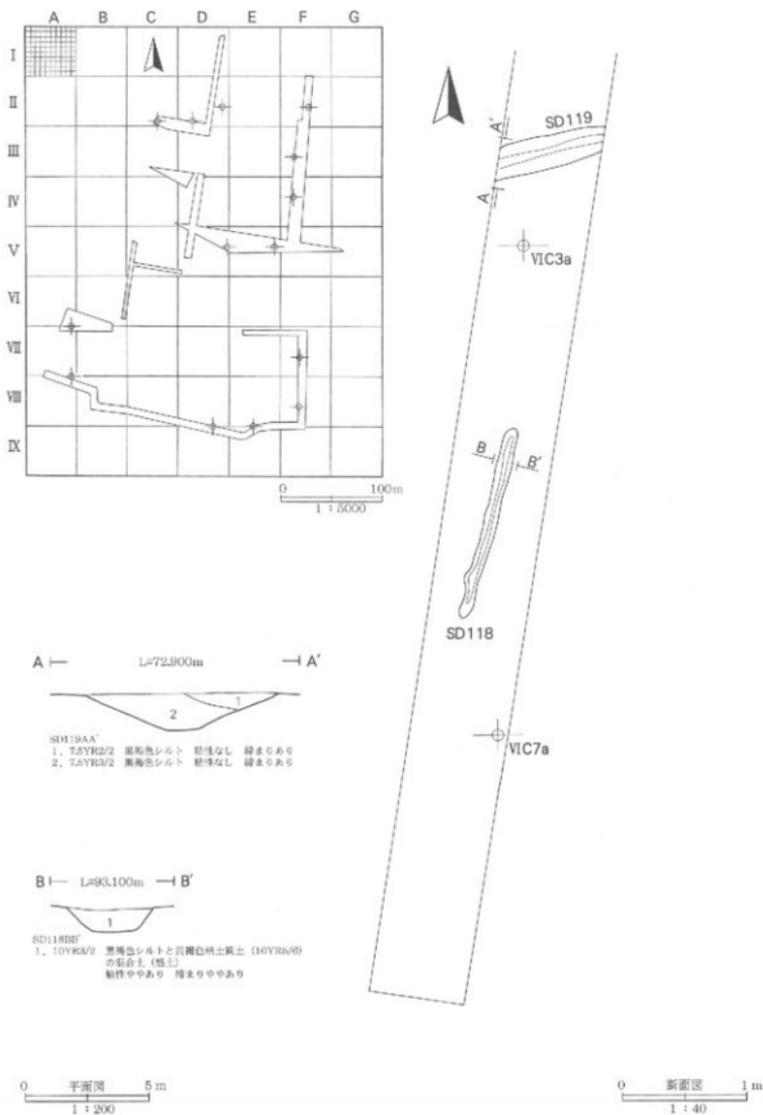
1. 10YR2/1 黒色シルト 黄褐色粘土質土粒微量混入 粘性なし 締まりあり



第34図 E区溝跡(3)



第35図 F区溝跡(1)



第36図 F区溝跡(2)

形は浅鉢状を呈し、底面の高低差はほとんどない。

〈埋 土〉 3層に細分され黒色土が主体に構成されている。自然堆積の様相を呈している。

〈遺 物〉 出土していない。

〈時 期〉 不明である。

G区 (SD67・121~123)

SD67溝跡 (第37図、写真図版37)

〈位置・重複関係〉 G区VI A 9 i ~ VI B 1 i グリッド、標高73.2~73.3mに位置する。重複SD121・122・123を切る。

〈規模・方向・形態〉 規模は上幅58~102cm、下幅24~48cm、深さ102cm、検出した総延長は47.7mを測る。東西両端が調査区外に延びるため全容は不明である。方向はほぼ西~東である。断面形はほぼ逆台形を呈し、底面の高低差は13cmで、西側に傾斜している。

〈埋 土〉 4層に細分され黄褐色土粒が混入する暗褐色土が主体となって構成されている。自然堆積の様相を呈している。

〈遺 物〉 VI B 10 d グリッド付近、埋土中位~上位で「永楽通宝」が出土している。

〈時 期〉 遺物などから中世以降のものと考えられるが、流れ込みの可能性もある。

SD121溝跡 (第37図、写真図版56)

〈位置・重複関係〉 G区区西部VI A 7j ~ VI A 10j グリッド、標高73.3mに位置する。SD67に切られる。柱穴状ピット2基を有する。

〈規模・方向・形態〉 規模は上幅40~105cm、下幅20~45cm、深さ5~18cm、検出した総延長は17.2mを測る。方向はほぼ北~南で蛇行気味に延びる。両端が調査区外に延びるため全容は不明である。断面形は皿状を呈し、底面の高低差は7cmで南側に傾斜している。

〈埋 土〉 黒褐色土が主体の単層である。自然堆積の様相を呈している。

〈遺 物〉 出土していない。

〈時 期〉 不明である。

SD122溝跡 (第37図、写真図版56)

〈位置・重複関係〉 G区区西部VI A 7j ~ VI A 10j グリッド、標高73.2mに位置する。SD123に切られ、また部分的に合流する。

〈規模・方向・形態〉 規模は上幅50~80cm、下幅10~52cm、深さ18~26cm、検出した総延長は18.4mを測る。方向はほぼ北~南で蛇行気味に延びる。両端が調査区外に延びるため全容は不明である。SD123と部分的に重なり合う。断面形は浅鉢状を呈し、底面の高低差は5cmで、やや南側に傾斜している。

〈埋 土〉 3層に細分され黒褐色土が主体に構成されている。自然堆積の様相を呈している。

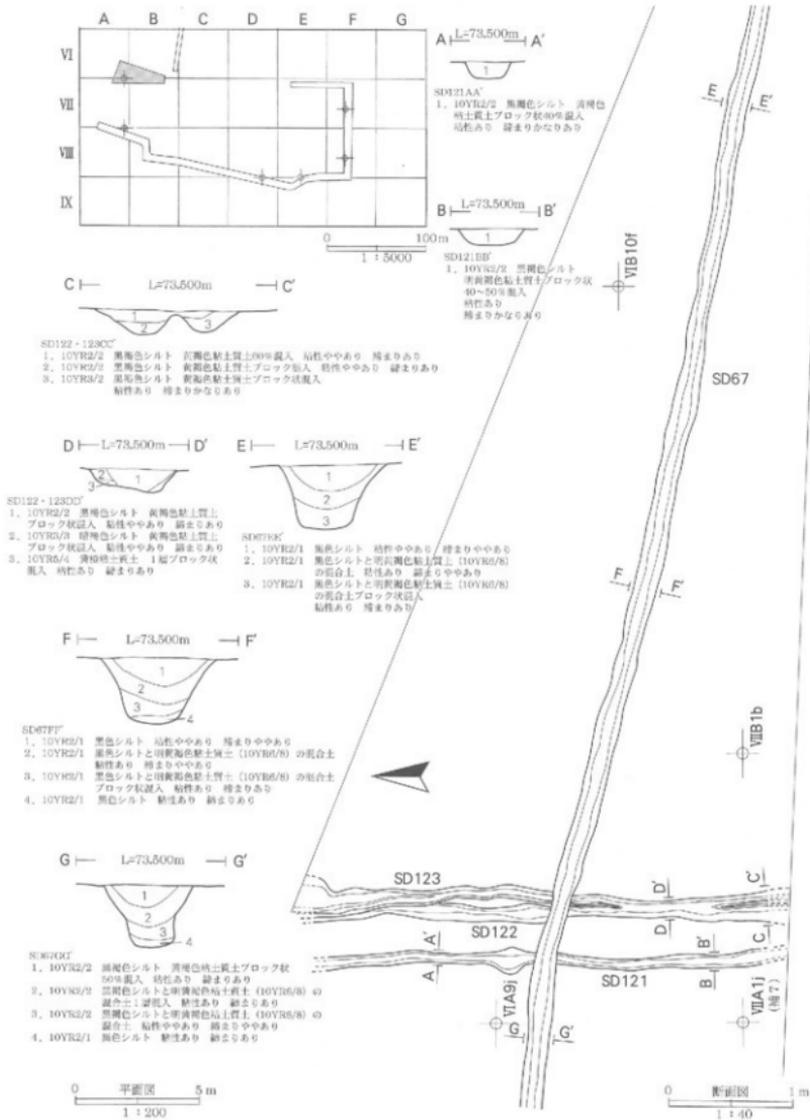
〈遺 物〉 出土していない。

〈時 期〉 不明である。

SD123溝跡 (第37図、写真図版56)

〈位置・重複関係〉 G区西部VI B 7a ~ VI B 10a グリッド、標高73.2mに位置する。SD122を切り、また部分的に合流する。柱穴状ピット10基を有する。

〈規模・方向・形態〉 規模は上幅50~105cm、下幅20~65cm、深さ20~30cm、検出した総延長は18.4mを



第37図 G区溝跡

測る。方向はほぼ北～南で蛇行気味に延びる。両端が調査区外に延びるため全容は不明だが、SD122と部分的に重なり合う。断面形は浅鉢状を呈し、底面の高低差は3cmでやや南側に傾斜している。

<埋土> 3層に細分され黒褐色土が主体に構成されている。自然堆積の様相を呈している。

<遺物> 出土していない。

<時期> 不明である。

H区 (SD138～140・143～148)

SD138溝跡 (第38図、写真図版63)

<位置・重複関係> H区東部ⅦC7a～ⅦC8aグリット、標高72.1mに位置する。重複関係はない。

<規模・方向・形態> 規模は上幅75～135cm、下幅40～70cm、深さ29～45cm、検出した総延長は6.2mを測る。方向は北～南に延び、両端が調査区外に延びるため全容は不明である。一部は擾乱を受けている。断面形は皿状を呈し、底面の高低差はほとんどない。

<埋土> 2層に細分され暗褐色土が主体に構成されている。自然堆積の様相を呈している。

<遺物> 出土していない。

<時期> 不明である。

SD139溝跡 (第39図、写真図版63)

<位置・重複関係> H区西部ⅦA2jグリット、標高73.1mに位置する。重複関係はない。

<規模・方向・形態> 規模は上幅70～95cm、下幅15～20cm、深さ27～37cm、検出した総延長は5.6mを測る。方向は南～北に延びて終わる。断面形はすり皿状を呈し、底面の高低差は10cmで南側に傾斜している。

<埋土> 黒褐色土が主体単層である。自然堆積の様相を呈している。

<遺物> 出土していない。

<時期> 不明である。

SD140溝跡 (第39図、写真図版63)

<位置・重複関係> H区西部ⅦA2jグリット、標高73.1mに位置する。

<規模・方向・形態> 規模は上幅45～52cm、下幅15～30cm、深さ10～13cm、検出した総延長は4.5mを測る。方向は北～南で直線的に延び、両端が調査区外に延びるため全容は不明である。断面形はすり鉢状を呈し、底面の高低差は5cmで南側に傾斜している。

<埋土> 2層に細分され暗褐色土が主体に構成されている。自然堆積の様相を呈している。

<遺物> 出土していない。

<時期> 不明である。

SD143溝跡 (第39図、写真図版64)

<位置・重複関係> H区中央部ⅦB5dグリット、標高73.2mに位置する。重複関係はない。

<規模・方向・形態> 規模は上幅95～105cm、下幅40～45cm、深さ34～43cm、検出した総延長は5.5mを測る。方向はほぼ東～西で直線的に延び、両端が調査区外に延びるため全容は不明である。断面形は不整形を呈し、底面の高低差はほとんどない。

<埋土> 2層に細分され黒褐色土が主体に構成されている。自然堆積の様相を呈している。

<遺物> 出土していない。

<時期> 不明である。

SD144溝跡 (第38図、写真図版65)

<位置・重複関係> H区中央部ⅧB6f～ⅧB7fグリット、標高73.2mに位置する。

<規模・方向・形態> 規模は上幅35～45cm、下幅15～20cm、深さ6～15cm、検出した総延長は3.7mを測る。方向は北北西～南南東にやや湾曲して延び、西端は調査区外に延びるため全容は不明である。断面形は皿状を呈し、底面の高低差はほとんどない。

<埋土> 黒褐色土が主体の単層である。自然堆積の様相を呈している。

<遺物> 出土していない。

<時期> 不明である。

SD145溝跡 (第38図、写真図版65)

<位置・重複関係> II区東部ⅧB6g～ⅧB7gグリット、標高73.2mに位置する。

<規模・方向・形態> 規模は上幅32～50cm、下幅15～18cm、深さ2～9cm、検出した総延長は2.7mを測る。方向は北北西～南南東に短く延びて終わる。断面形は皿状を呈し、底面の高低差はほとんどない。

<埋土> 2層に細分され黒褐色土が主体に構成されている。自然堆積の様相を呈している。

<遺物> 出土していない。

<時期> 不明である。

SD146溝跡 (第38図、写真図版65)

<位置・重複関係> H区東部ⅧB6h～ⅧB7iグリット、標高73.2mに位置する。重複関係はない。

<規模・方向・形態> 規模は上幅22～42cm、下幅8～15cm、深さ3～5cm、検出した総延長は3.9mを測る。方向は北北西～南南東に短く延びて終わる。断面形は不整形を呈し、底面の高低差はほとんどない。

<埋土> 2層に細分され黒褐色土が主体に構成されている。自然堆積の様相を呈している。

<遺物> 出土していない。

<時期> 不明である。

SD147溝跡 (第39図、写真図版64)

<位置・重複関係> H区中央部ⅧB3dグリット、標高3.2mに位置する。重複関係はない。

<規模・方向・形態> 規模は上幅38～50cm、下幅20～25cm、深さ7～14cm、検出した総延長は3.1mを測る。方向は北北西～南南東に短く延び終わる。断面形は皿状を呈し、底面の高低差は5cmでやや西側に傾斜している。

<埋土> 黒褐色土が主体の単層である。自然堆積の様相を呈している。

<遺物> 出土していない。

<時期> 不明である。

SD148溝跡 (第38図、写真図版65)

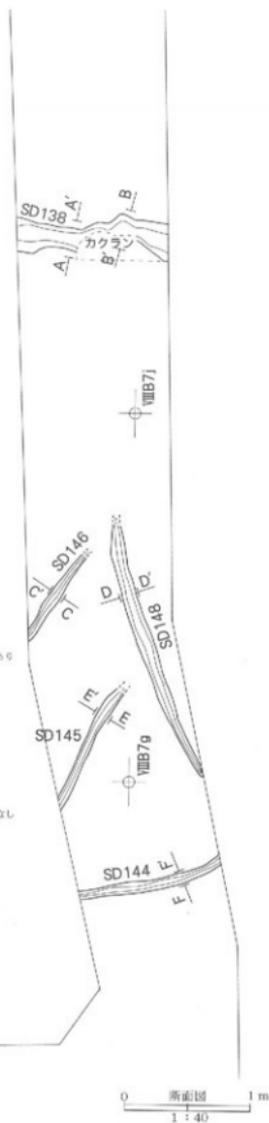
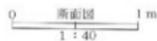
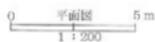
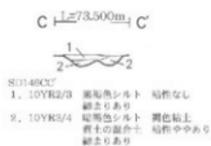
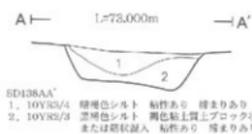
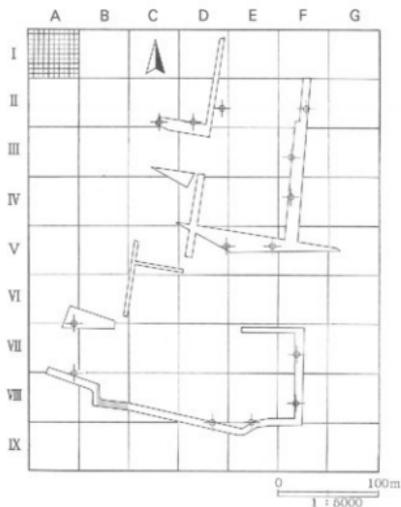
<位置・重複関係> H区東部ⅧB7g～ⅧB7iグリット、標高73.2mに位置する。重複関係はない。

<規模・方向・形態> 規模は上幅35～65cm、下幅15～35cm、深さ4～12cm、検出した総延長は8.2mを測る。方向はほぼ西～東にやや湾曲して延び終わる。断面形は皿状を呈し、底面の高低差は9cmで東に傾斜している。

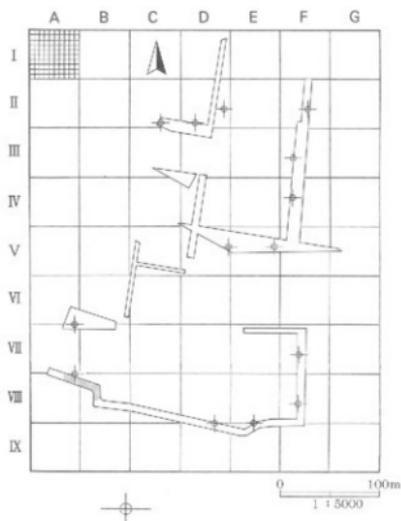
<埋土> 暗褐色土が主体の単層である。自然堆積の様相を呈している。

<遺物> 出土していない。

<時期> 不明である。



第38図 H区溝跡(1)



A — L=73,300m — A'



SD140AA'
1. 10YR3/4 黄褐色シルト 粘りあり 礫まみりあり

B — L=73,400m — B'

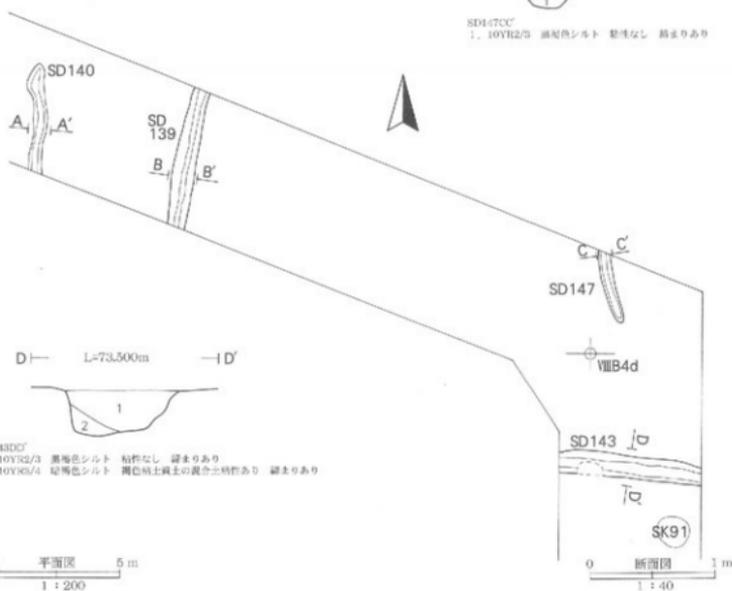


SD139B'
1. 10YR6/4 暗褐色シルト 粘性なし 礫まみりあり
2. 10YR6/6 暗褐色シルトと明褐色粘土質土 (7.5YR6/0) の混合土 粘性なし 礫まみりあり

C — L=73,000m — C'



SD147C'
1. 10YR2/3 黄褐色シルト 粘性なし 礫まみりあり



D — L=73,500m — D'



SD148D'
1. 10YR2/3 黄褐色シルト 粘性なし 礫まみりあり
2. 10YR6/4 暗褐色シルト 褐色粘土質土との混合土粘性あり 礫まみりあり

第39図 H区溝跡(2)

I区 (SD124~137, 147, 148)

SD124溝跡 (第40図、写真図版57)

- <位置・重複関係> I区北西部VII E 2jグリット、標高73.2mに位置する。柱穴状ピット1基を有する。
- <規模・方向・形態> 規模は上幅48~70cm、下幅15~30cm、深さ13~29cm、検出した総延長は3.1mを測る。方向は北北東~南南西に延び、両端が調査区外に延びるため全容は不明である。断面形は逆台形状を呈し、底面の高低差は3cmでやや南側に傾斜している。
- <埋土> 2層に細分され暗褐色土が主体に構成されている。自然堆積の様相を呈している。
- <遺物> 出土していない。
- <時期> 不明である。

SD125溝跡 (第42図、写真図57)

- <位置・重複関係> I区南部VII F 10c~IX F 1dグリット、標高71.1mに位置する。SD128を切る。
- <規模・方向・形態> 規模は上幅80~140cm、下幅20~50cm、深さ20~55cm、検出した総延長は11.8mを測る。方向は北北東~南南西に向かい、その後東に向きを変え調査区外に延びる。全体の様相は不明だが、幅広で深い溝である。断面形はすり鉢状を呈し、底面の高低差は56cmで大きく南側に傾斜している。
- <埋土> 3層に細分され黒褐色土が主体に構成されている。自然堆積の様相を呈している。
- <遺物> 出土していない。
- <時期> 不明である。

SD126溝跡 (第42図、写真図版58)

- <位置・重複関係> I区南部IX E 1g~VII F 10aグリット、標高71.5~71.9mに位置する。柱穴状ピット1基を有する。
- <規模・方向・形態> 規模は上幅35~60cm、下幅7~26cm、深さ13~30cm、検出した総延長は22.5mを測る。方向は東から一端南に蛇行し西に延びて終わる。細長い溝である。断面形はすり鉢状を呈し、底面の高低差は36cmで西側に傾斜している。
- <埋土> 2層に細分され暗褐色土が主体に構成されている。自然堆積の様相を呈している。
- <遺物> 出土していない。
- <時期> 不明である。

SD127溝跡 (第42図、写真図版58)

- <位置・重複関係> I区南部IX E 2b~VII F 10cグリット、標高71.2~71.9mに位置する。SD125に切られる。
- <規模・方向・形態> 規模は上幅30~66cm、下幅10~12cm、深さ5~35cm、検出した総延長は45.8mを測る。方向は東からやや蛇行気味に西に延び、調査区外をまたいでさらに西に延びて終わる。細長い溝である。断面形はすり鉢状を呈し、底面の高低差は53cmで西側に傾斜している。
- <埋土> 暗褐色土が主体の単層である。自然堆積の様相を呈している。
- <遺物> 出土していない。
- <時期> 不明である。

SD128溝跡 (第42図、写真図版58)

- <位置・重複関係> I区南部VII F 10b~IX F 1bグリット、標高71.1mに位置する。SD125に切られる。
- <規模・方向・形態> 規模は上幅30~45cm、下幅18~22cm、深さ5~14cm、検出した総延長は3.5mを測る。

る。方向は南南東～北北西に延びて終わる。断面形は皿状を呈し、底面の高低差は5cmで南側に傾斜している。

＜埋土＞ 黒褐色土が主体の単層である。自然堆積の様相を呈している。

＜遺物＞ 出土していない。

＜時期＞ 不明である。

SD129溝跡（第41図、写真図版59）

＜位置・重複関係＞ I区東部ⅧF9d～ⅧF10fグリット、標高71.5mに位置する。

＜規模・方向・形態＞ 規模は上幅32～50cm、下幅12～25cm、深さ13～19cm、検出した総延長は8.3mを測る。方向は北西～南東で直線的に延びるが、両端が調査区外に延びるため全容は不明である。断面形は桶状を呈し、底面の高低差は21cmで、南側に傾斜している。

＜埋土＞ 2層に細分され暗褐色土が主体に構成されている。自然堆積の様相を呈している。

＜遺物＞ 出土していない。

＜時期＞ 不明である。

SD130溝跡（第41図、写真図版59）

＜位置・重複関係＞ I区東部ⅧF9e～ⅧF9fグリット、標高71.5mに位置する。S111竪穴住居を切る。

＜規模・方向・形態＞ 規模は上幅40～50cm、下幅12～30cm、深さ6～16cm、検出した総延長は3.8mを測る。方向は東～西に直線的に延びて終わる。断面形は皿状を呈し、底面の高低差はほとんどない。

＜埋土＞ 黒褐色土が主体の単層である。自然堆積の様相を呈している。

＜遺物＞ 細片のため図化していないが、土師器片が8点出土しているが、S111住居からの流れ込みの可能性もある。

＜時期＞ 出土遺物から平安時代と思われる。

SD131溝跡（第41図、写真図版60）

＜位置・重複関係＞ I区東部ⅧF6d～ⅧF6eグリット、標高71.6mに位置する。SD132に切られる。

＜規模・方向・形態＞ 規模は上幅48～55cm、下幅15～20cm、深さ8～22cm、検出した総延長は2.8mを測る。方向は東～西に延びる。一端はSD132に切れ、もう一端は調査区外に延びる。断面形は皿状を呈し、底面の高低差はほとんどない。

＜埋土＞ 3層に細分され黒褐色土が主体に構成されている。自然堆積の様相を呈している。

＜遺物＞ 出土していない。

＜時期＞ 不明である。

SD132溝跡（第41図、写真図版60）

＜位置・重複関係＞ I区東部ⅧF6d～ⅧF6eグリット、標高71.6mに位置する。SD131を切る。

＜規模・方向・形態＞ 規模は上幅62～98cm、下幅25～40cm、深さ20～43cm、検出した総延長は5.2mを測る。方向は東～西に延びるが両端が調査区外に延びるため全容は不明である。断面形は皿状を呈し、底面の高低差は10cmで東側に傾斜している。

＜埋土＞ 2層に細分され黒褐色土が主体に構成されている。自然堆積の様相を呈している。

＜遺物＞ 細片のため図化していないが、土師器片数点が出土している。

＜時期＞ 出土遺物から平安時代のものと思われる。

S D133溝跡 (第41図、写真図版60)

<位置・重複関係> I区東部ⅦF2d～ⅦF4fグリット、標高71.5mに位置する。

<規模・方向・形態> 規模は上幅50～70cm、下幅15～28cm、深さ22～35cm、検出した総延長は9.8mを測る。方向は北西～南東に直線的に延びるが、両端が調査区外に延びるため全容は不明である。断面形は深鉢状を呈し、底面の高低差は17cmで西側に傾斜している。

<埋土> 2層に細分され黒褐色土が主体に構成されている。自然堆積の様相を呈している。

<遺物> 細片のため図化していないが、土師器片がユニバックGで1袋出土している。

<時期> 出土遺物から平安時代と思われる。

S D134溝跡 (第40図、写真図版61)

<位置・重複関係> I区東部ⅦF8d～ⅦF8eグリット、標高71.3mに位置する。

<規模・方向・形態> 規模は上幅98～120cm、下幅18～120cm、深さ30～45cm、検出した総延長は4.5mを測る。方向は東南東～西北西に直線的に延びる。両端が調査区外に延びるため全容は不明である。断面形は逆台形状を呈し、底面の高低差はほとんどない。

<埋土> 黒褐色土が主体の単層である。自然堆積の様相を呈している。

<遺物> 出土していない。

<時期> 不明である。

S D135溝跡 (第40図、写真図版60)

<位置・重複関係> I区東部ⅦF10d～ⅦF10eグリット、標高71.3mに位置する。

<規模・方向・形態> 規模は上幅48～58cm、下幅22～38cm、深さ2～7cm、検出した総延長は4.5mを測る。方向はほぼ東～西に直線的に延びるが、両端が調査区外に延びるため全容は不明である。断面形は皿状を呈し、底面の高低差はほとんどない。

<埋土> 黒褐色土が主体の単層である。自然堆積の様相を呈している。

<遺物> 出土していない。

<時期> 不明である。

S D136溝跡 (第40図、写真図版62)

<位置・重複関係> I区東部ⅦF9eグリット、標高71.2mに位置する。SK88に切られる。

<規模・方向・形態> 規模は上幅40～50cm、下幅12～15cm、深さ23～29cm、検出した総延長は4.8mを測る。方向はほぼ東～西に直線的に延び、一端をSK88土坑に切れ、もう一端は調査区外に延びる。断面形は逆台形状を呈し、底面の高低差は5cmでやや東側に傾斜している。

<埋土> 4層に細分され黒褐色土が主体に構成されている。自然堆積の様相を呈している。

<遺物> 出土していない。

<時期> 不明である。

S D137溝跡 (第41図、写真図版62)

<位置・重複関係> I区東部ⅦF4i～ⅦF4hグリット、標高mに位置する。重複関係はない。

<規模・方向・形態> 規模は上幅55～95cm、下幅20～50cm、深さ80cm、検出した総延長は5mを測る。方向はほぼ東～西に直線的に延びるが、両端が調査区外に延びるため全容は不明である。断面形は逆台形状を呈し、底面の高低差は5cmで、東側に傾斜している。

<埋土> 3層に細分され黒褐色土が主体に構成されている。自然堆積の様相を呈している。

<遺物> 細片のため図化していないが、上層器片が数点出土している。

<時期> 出土遺物から平安時代のものと思われる。

S D 141溝跡 (第43図、写真図版64)

<位置・重複関係> I区西部ⅩE3a～ⅩE2cグリット、標高72.1mに位置する。

<規模・方向・形態> 規模は上幅35～105cm、下幅15～35cm、深さ5～24cm、検出した総延長は5mを測る。方向は西～東に蛇行して延び終わる。一部攪乱を受けている。断面形は浅鉢状を呈し、底面の高低差はほとんどない。

<埋土> 黒褐色土が主体に構成されている。自然堆積の様相を呈している。

<遺物> 出土していない。

<時期> 不明である。

S D 142溝跡 (第43図、写真図版64)

<位置・重複関係> I区西部ⅩE2d～ⅩE3dグリット、標高72.1mに位置する。重複関係はない。

<規模・方向・形態> 規模は上幅32～50cm、下幅8～15cm、深さ10～22cm、検出した総延長は5mを測る。方向は南南西～北北東でやや湾曲気味に延びて終わる。断面形はすり鉢状を呈し、底面の高低差はほとんどない。後世の攪乱の可能性も高い。

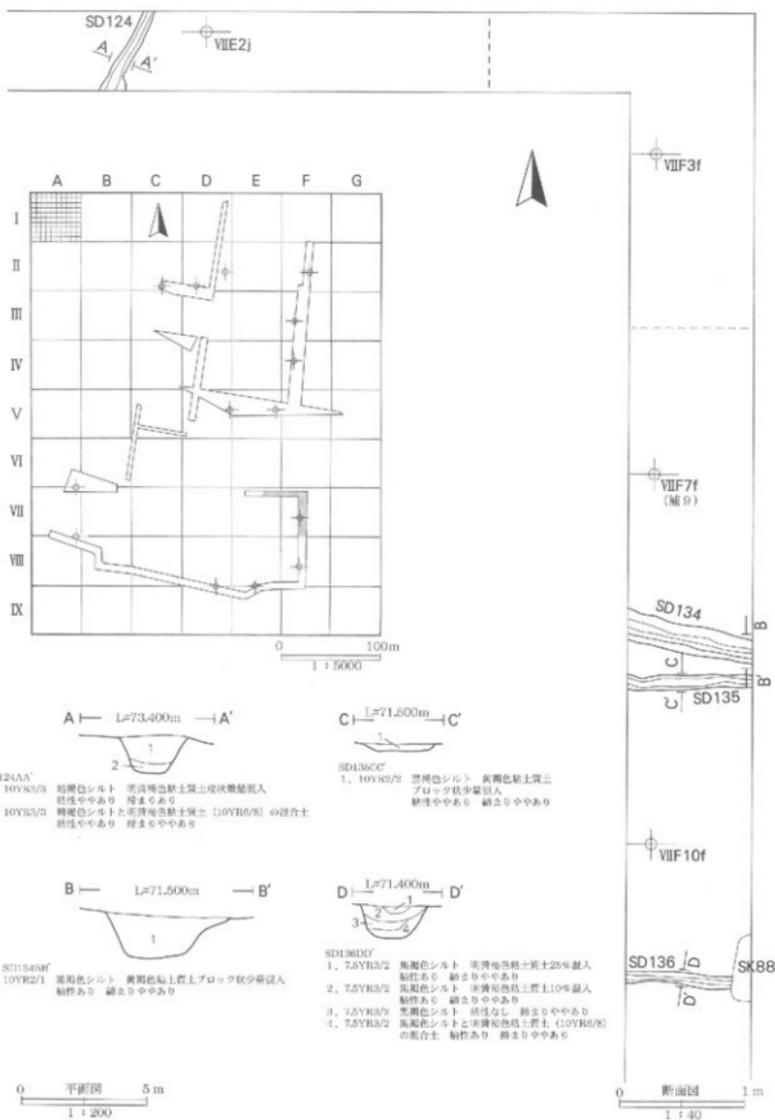
<埋土> 単層で黒褐色土が主体に構成されている。自然堆積の様相を呈している。

<遺物> 出土していない。

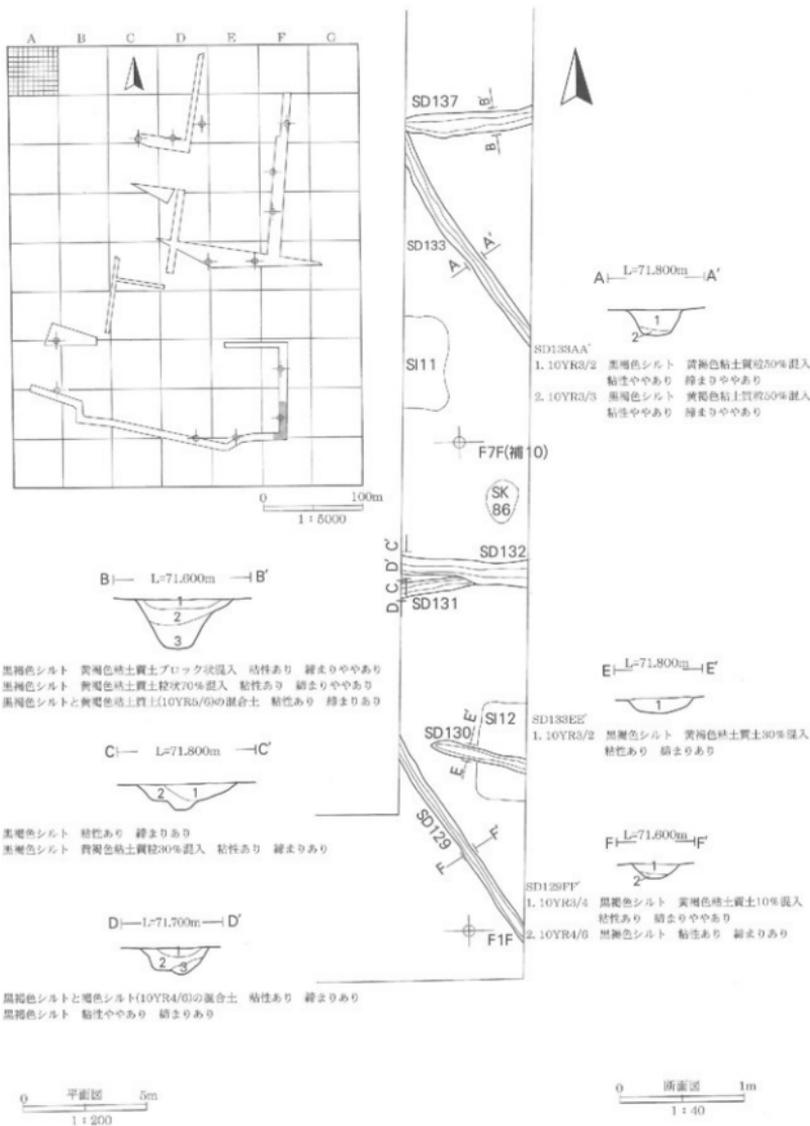
<時期> 不明である。

(10) 柱穴状土坑群

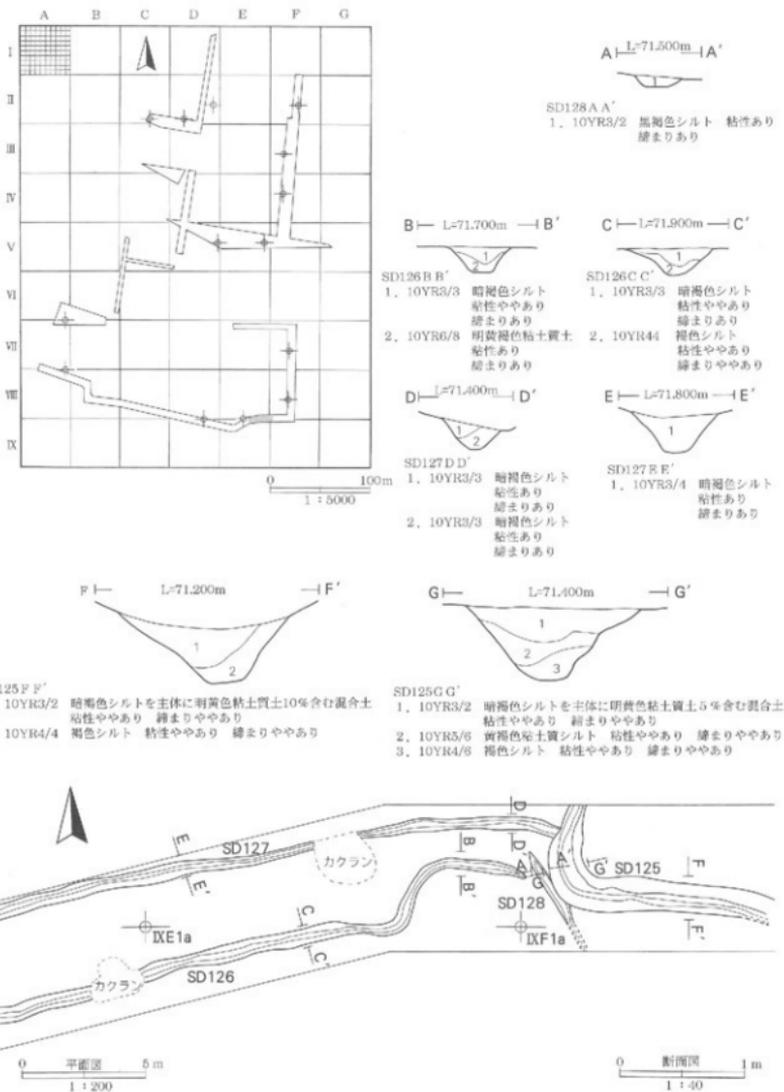
調査区全体で825基の柱穴状土坑を検出した。特に調査区北側は柱穴状土坑が密集している。柱穴状土坑からは中回産白磁が出土したのもあり、12世紀に属する掘立柱建物跡が存在していたと思われる。また、高台寺という地名が残っていることから何らかの建物が存在していた可能性は高いと考えられる。しかし、調査区一帯が開田の際に大きく削平を受けたため、表土下10数cmがV層の遺構検出面となっている。そのため現代の耕作による攪乱や杭穴等も無数にあり、古い柱穴状土坑と杭穴との判別が難しく、検出した柱穴状土坑にもそれらの杭穴が含まれている可能性が高い。調査範囲が狭いこともあり掘立柱建物跡を復元するまでには至らなかった。非常に残念ではあるが、本報告書では検出した柱穴状土坑を図化するに留めた。



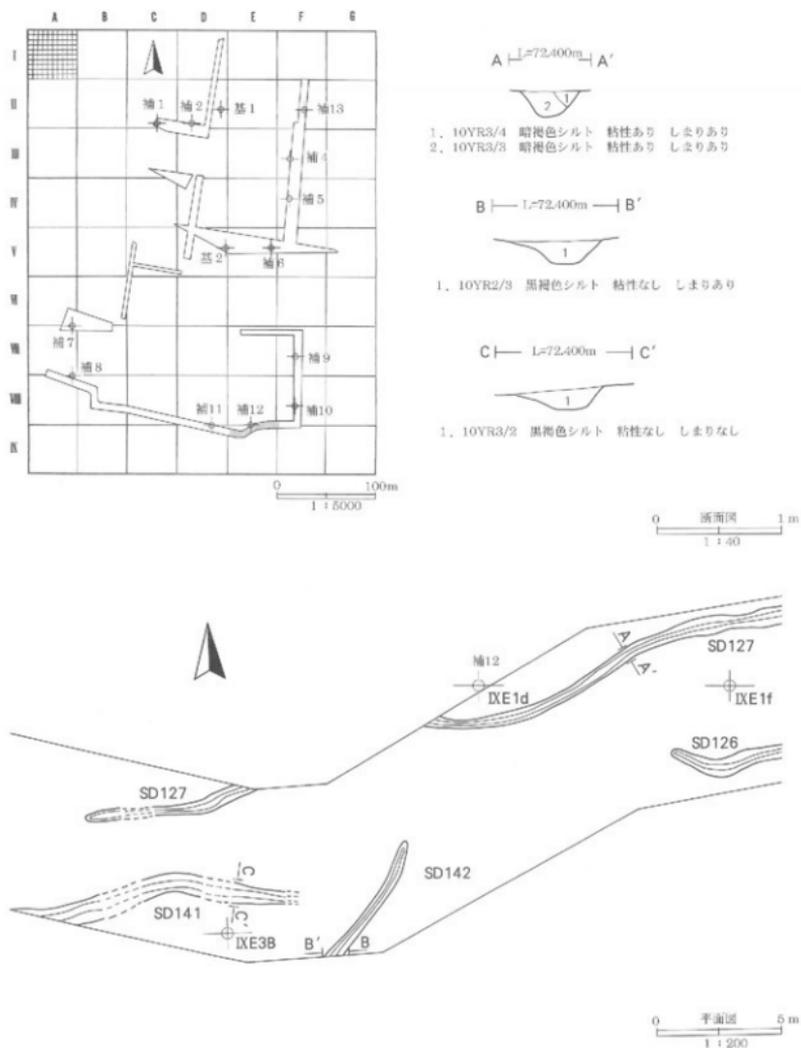
第40図 I区溝跡(1)



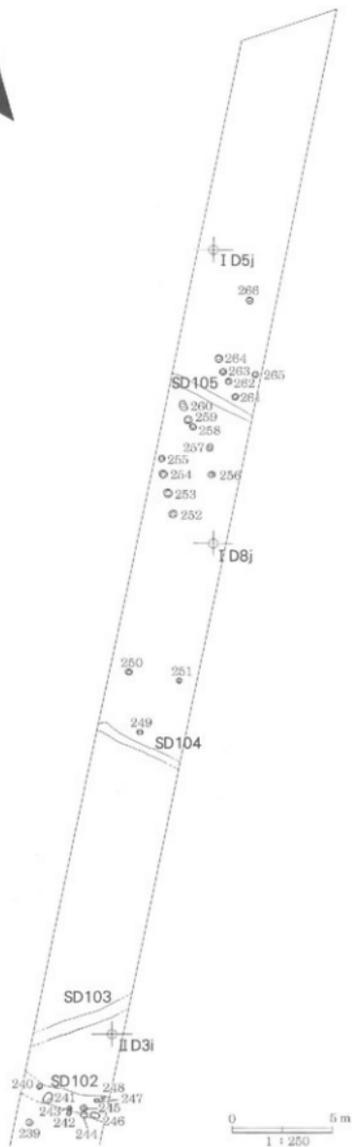
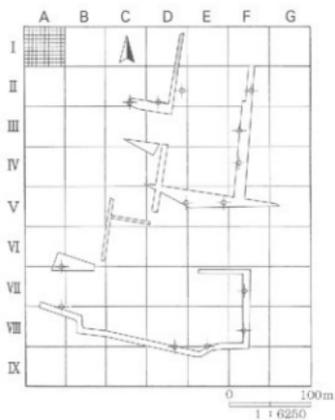
第41図 I区溝跡(2)



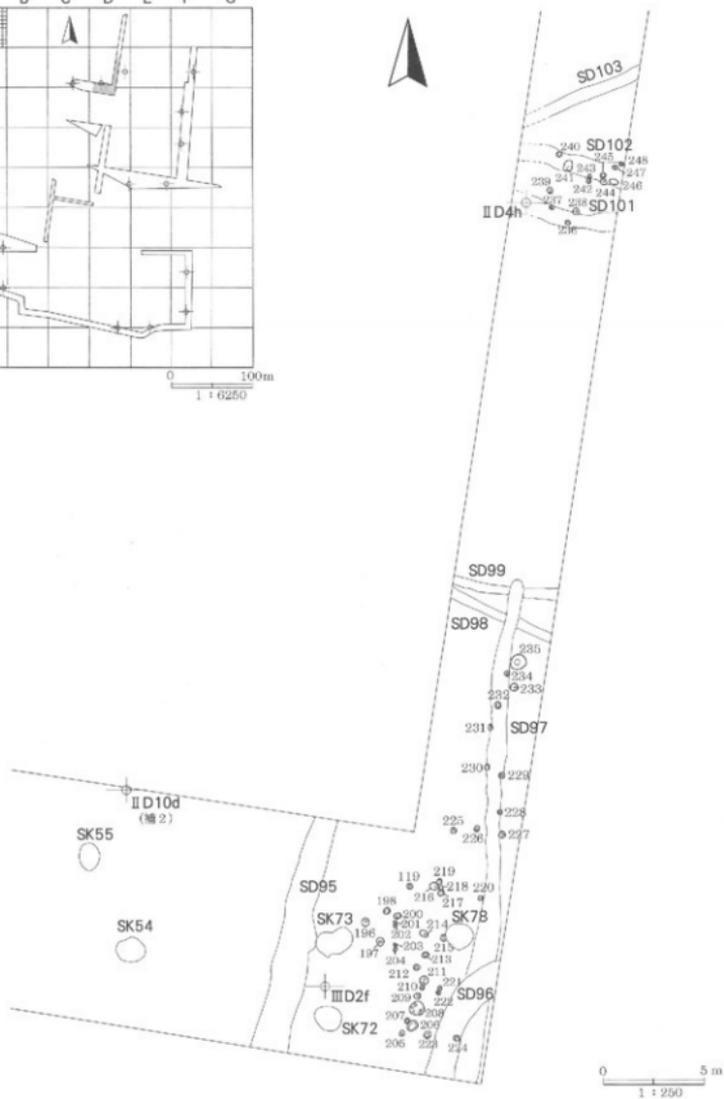
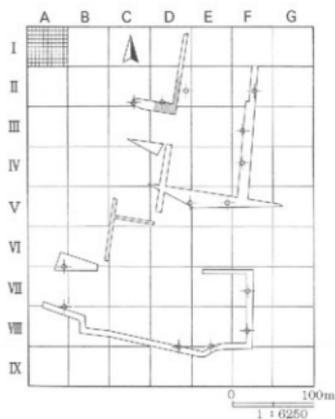
第42図 I区溝跡(3)



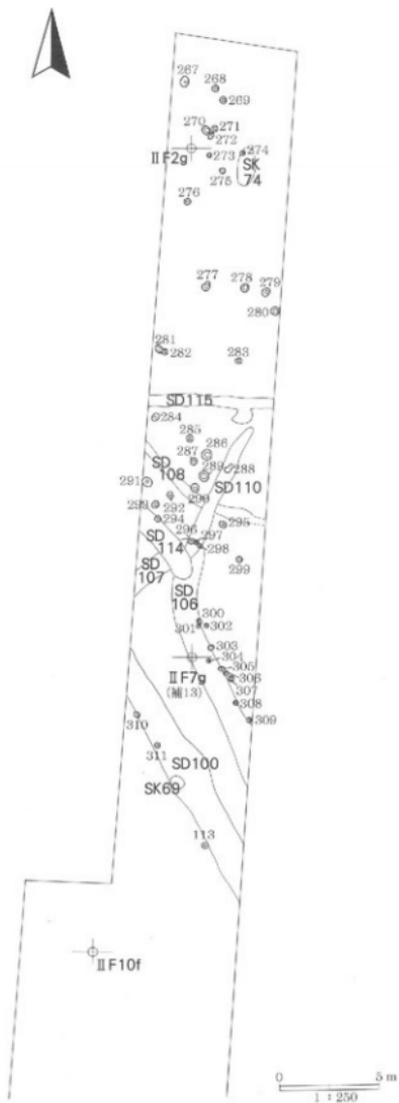
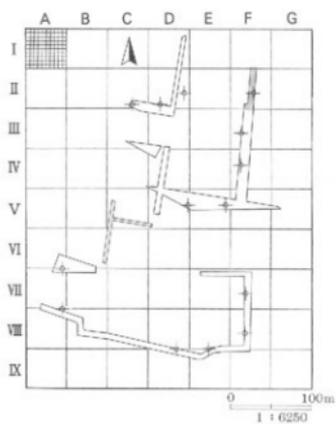
第43図 I区溝跡(4)



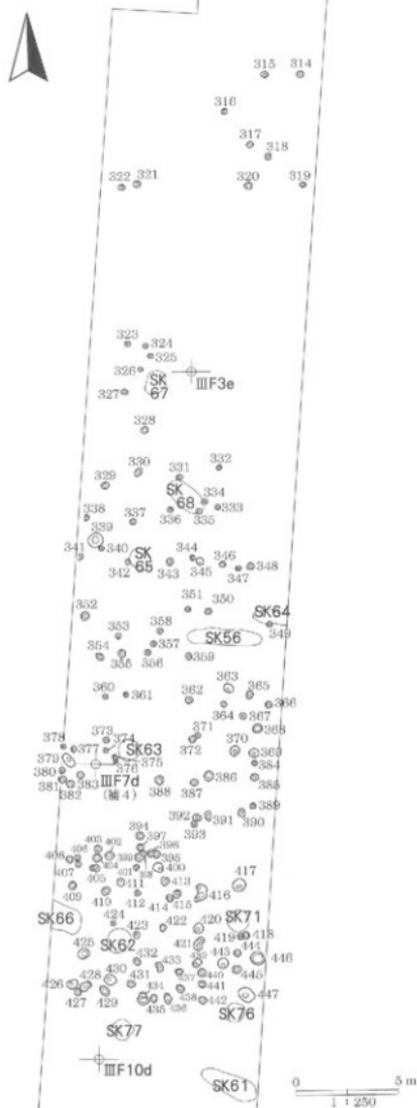
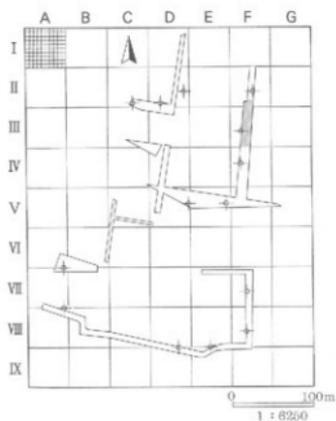
第44图 A区柱穴群(1)



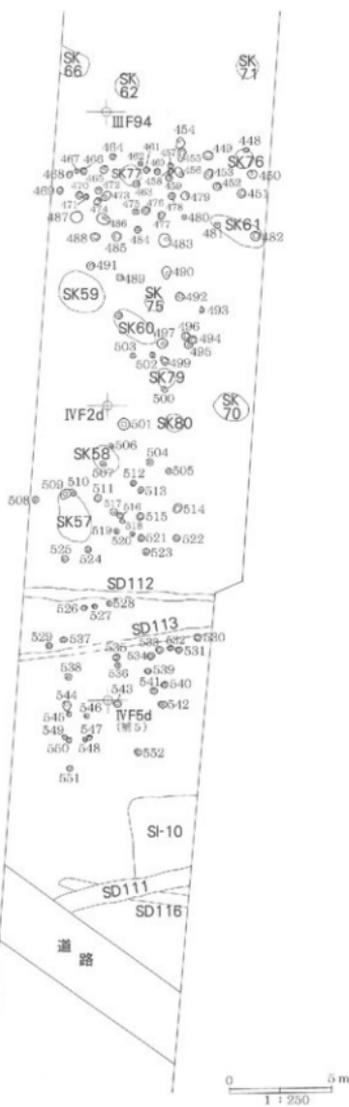
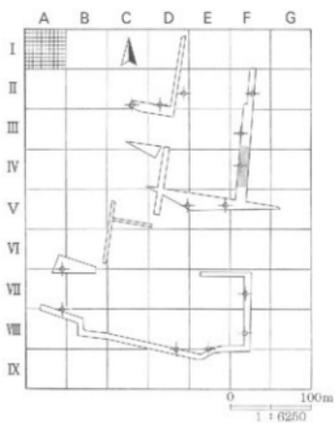
第45图 A区柱穴群(2)



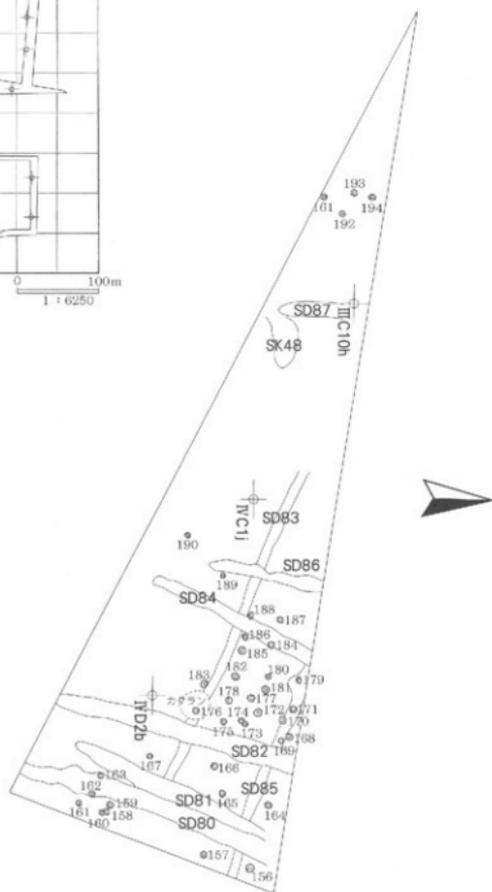
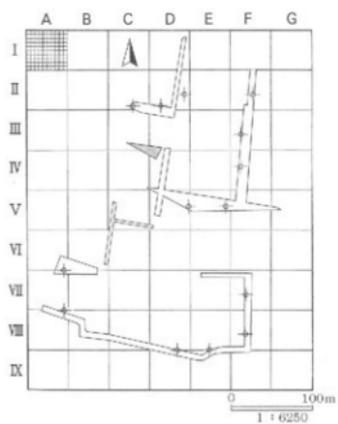
第46图 B区柱穴群(1)



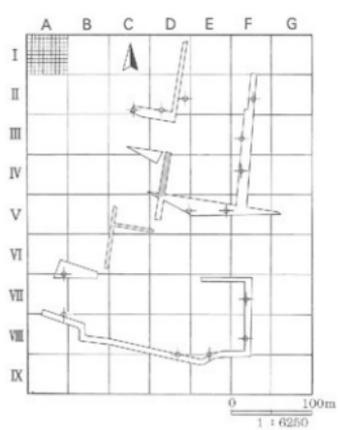
第47图 B区柱穴群(2)



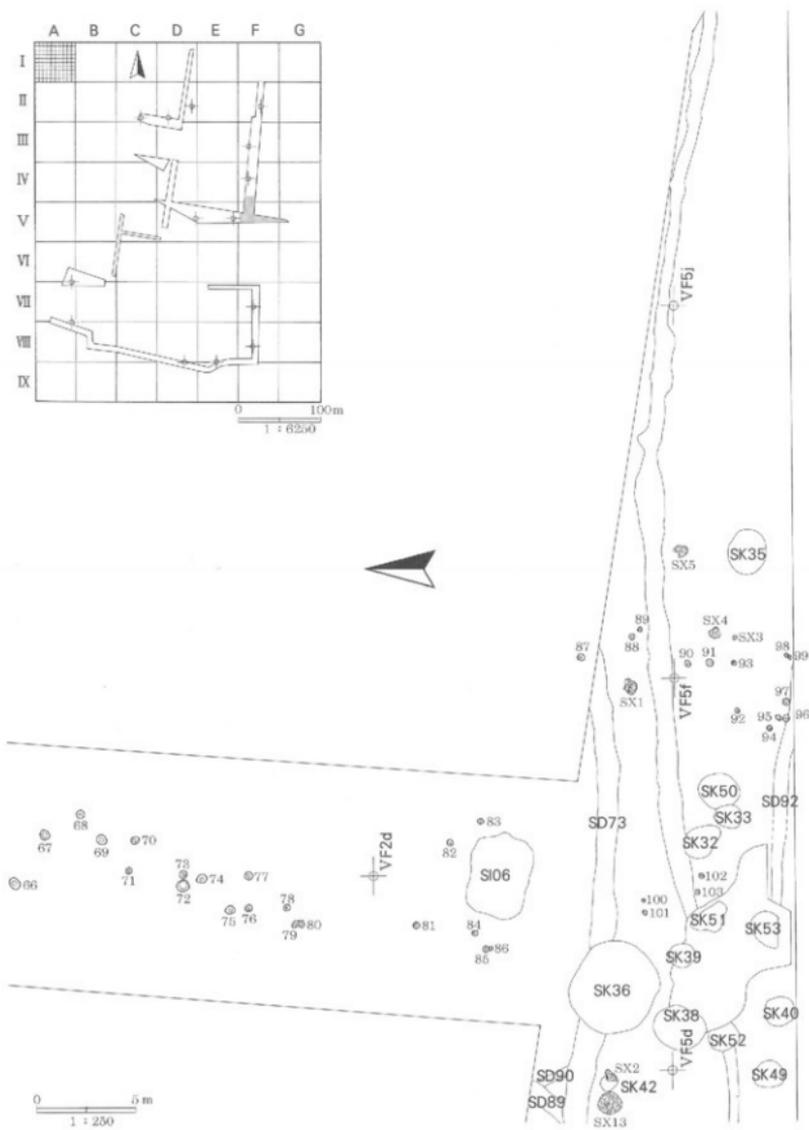
第48图 B区柱穴群(3)



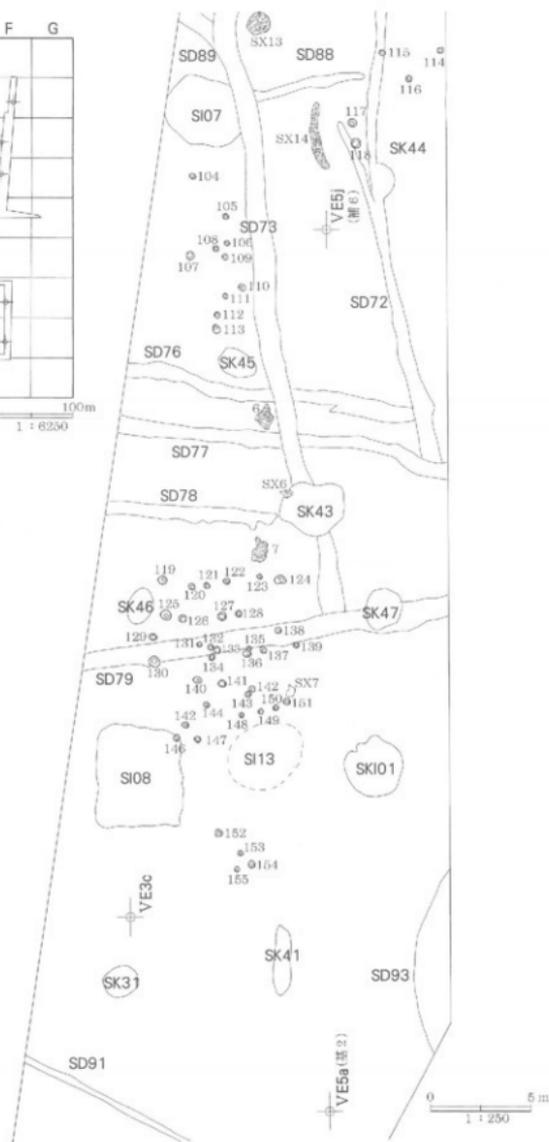
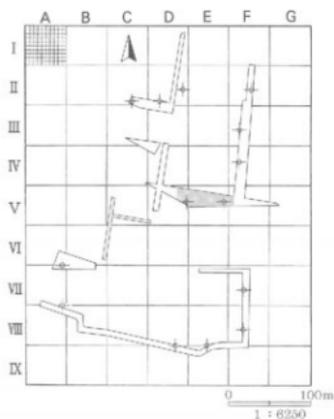
第49图 C区柱穴群



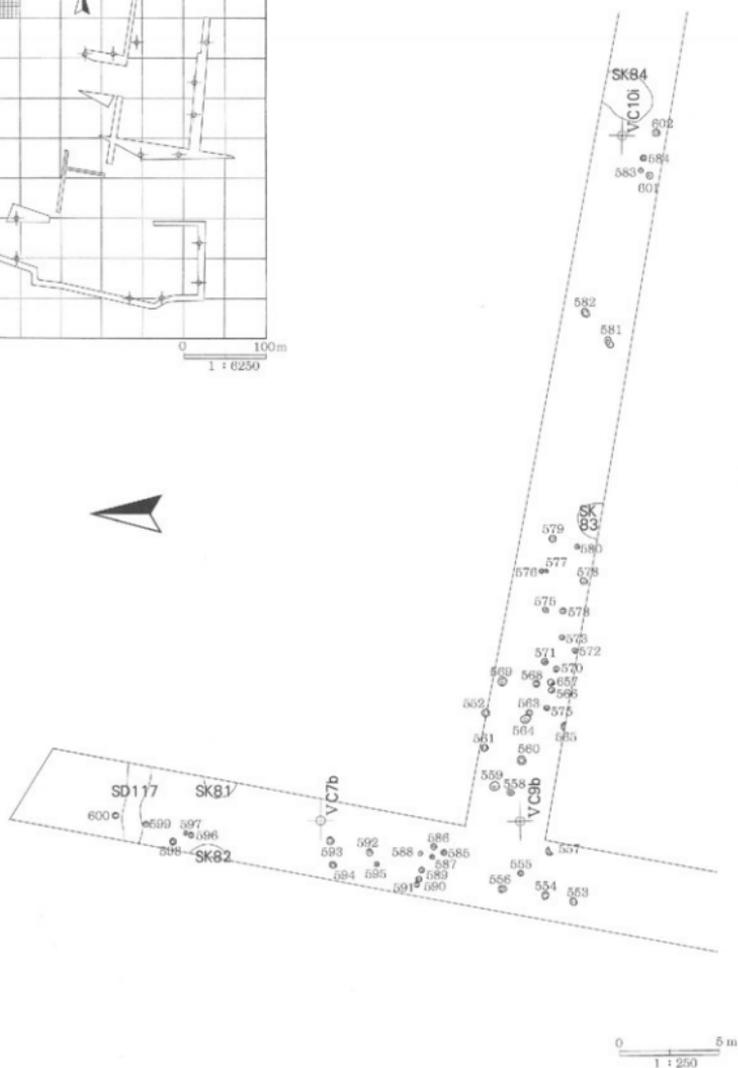
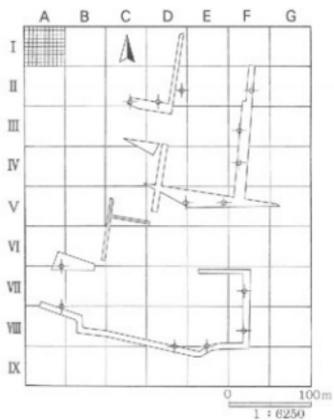
第50图 D区柱穴群



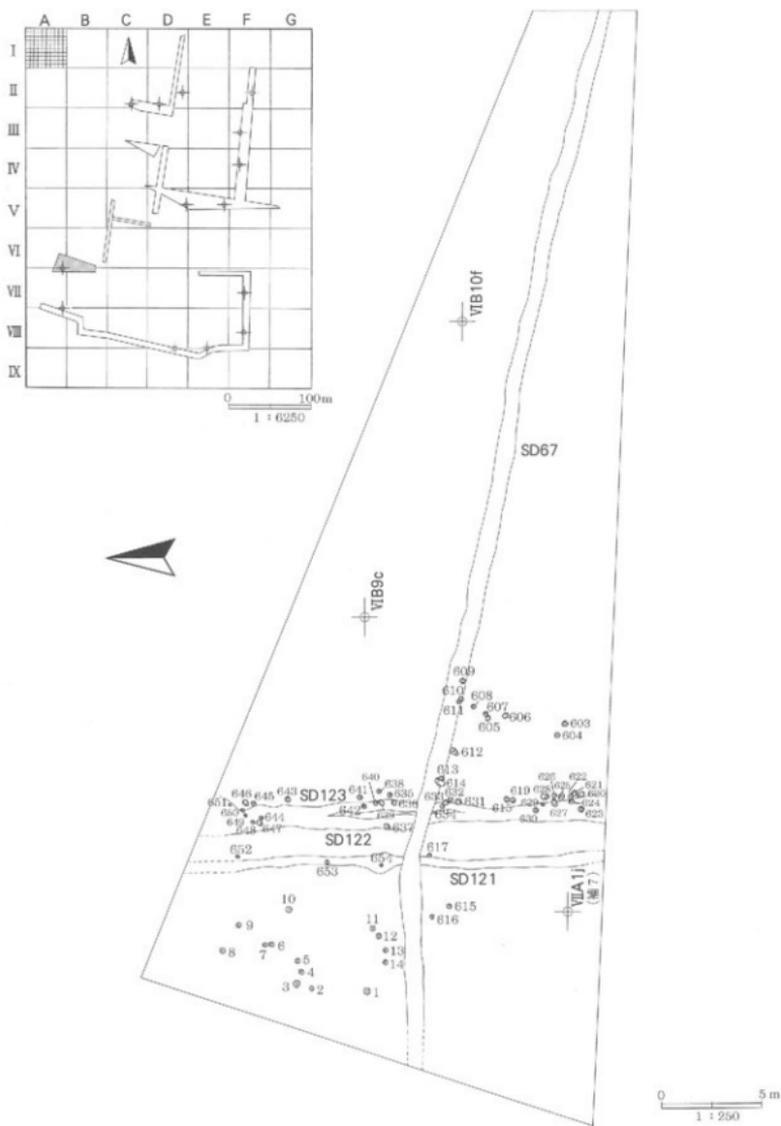
第51图 E区柱穴群(1)



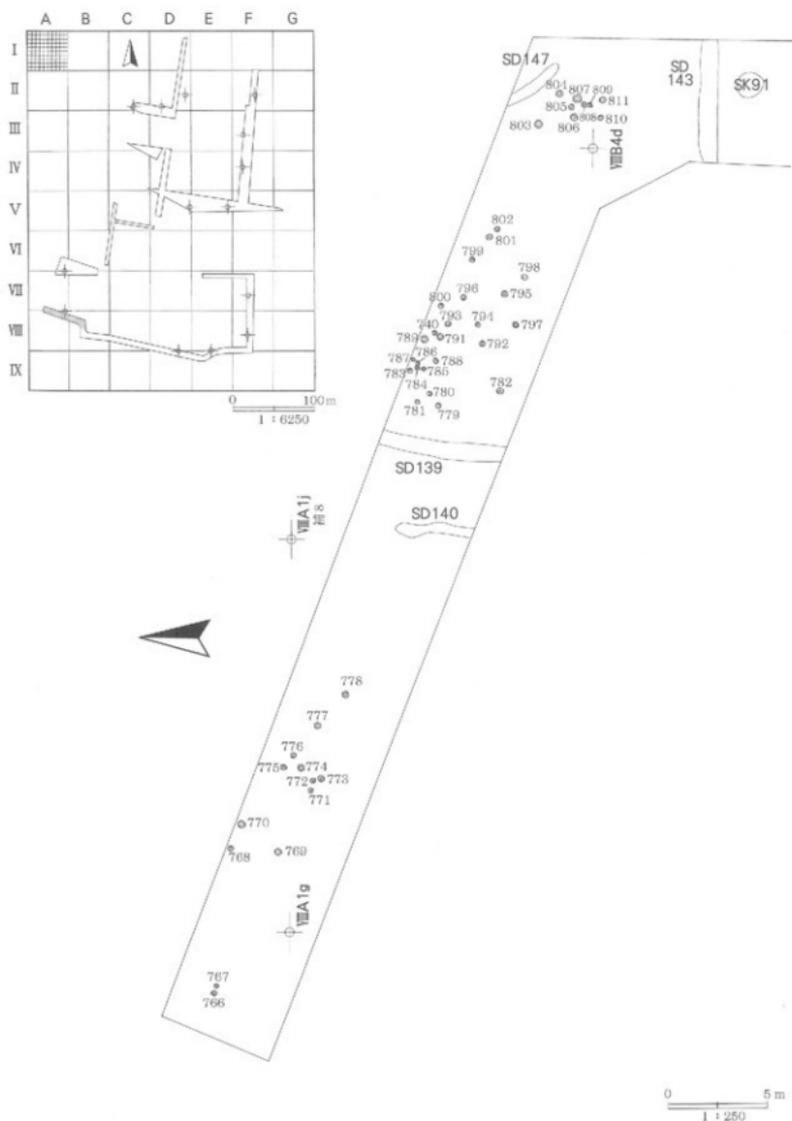
第52図 E区柱穴群(2)



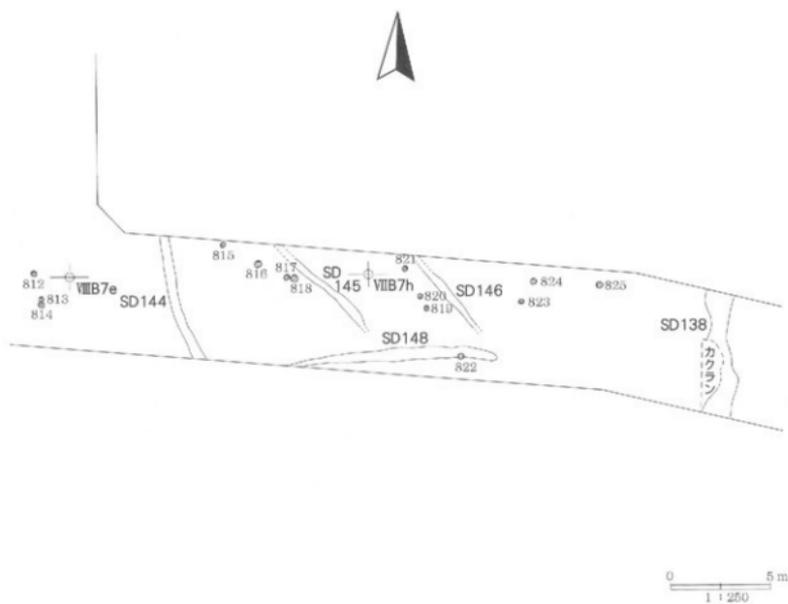
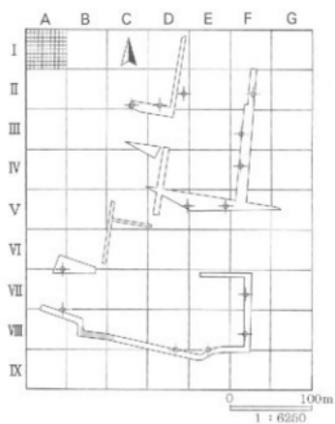
第53图 F区柱穴群



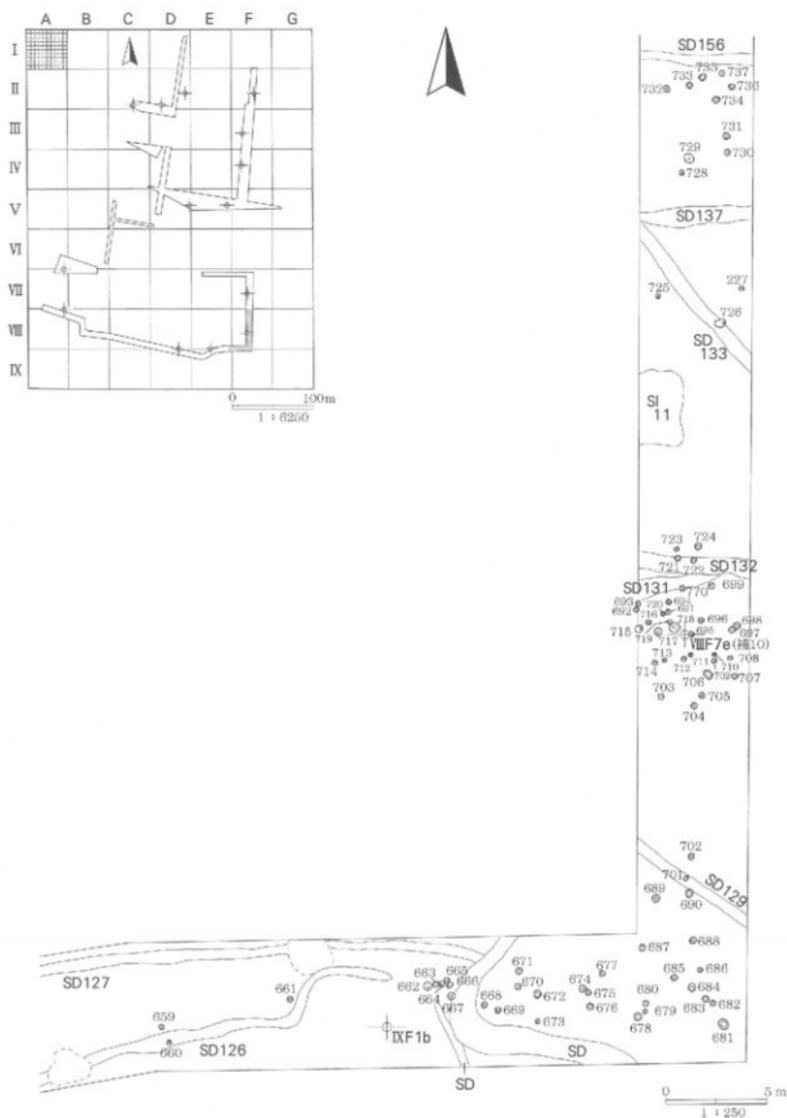
第54图 G区柱穴群



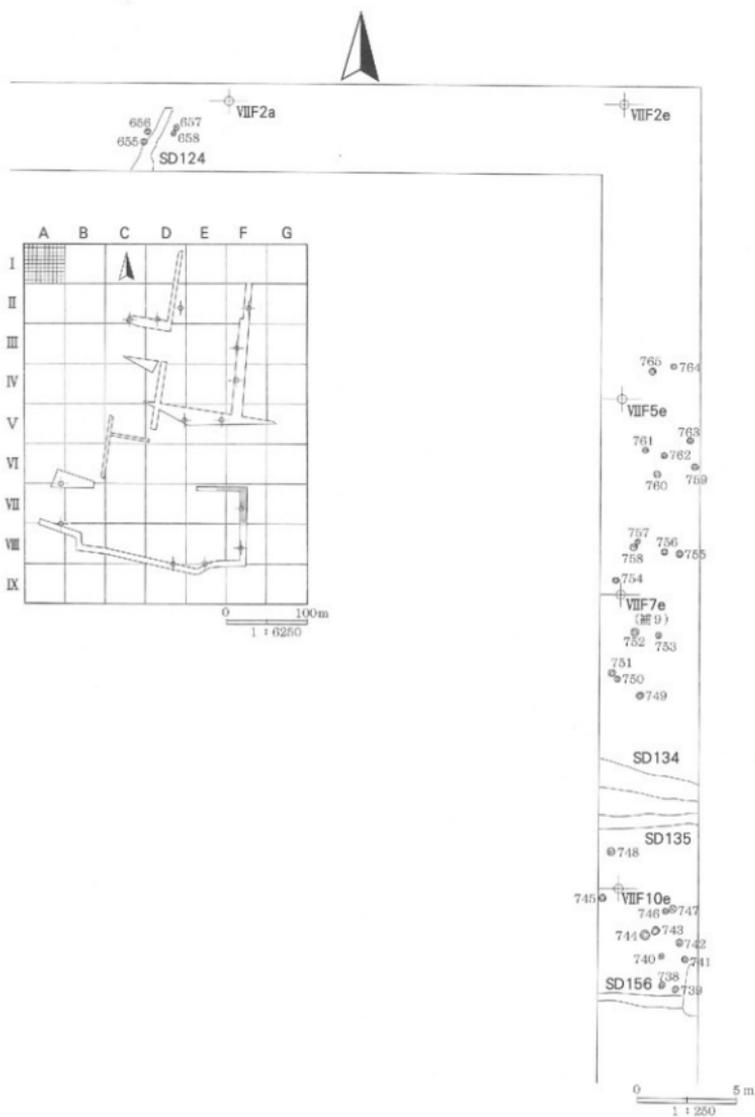
第55图 H区柱穴群(1)



第56図 H区柱穴群(2)



第57图 I区柱穴群(1)



第58图 1区柱穴群(2)

第4表 柱外觀表(1)

No	長軸×短軸 (cm)	底面標高 (cm)	底面標高 (m)	備考	No	長軸×短軸 (cm)	底面標高 (cm)	底面標高 (m)	備考
PP1	30×33	144.0	73.160		PP71	33×38	180.0	71.500	
PP2	25×22	136.0	73.240		PP78	30×21	174.2	71.053	
PP3	34×32	151.5	73.083		PP79	40×25	160.0	71.200	
PP4	21×20	150.5	73.095		PP80	42×30	167.5	71.125	
PP5	24×22	164.5	72.953		PP81	30×28	192.4	70.878	
PP6	35×25	157.6	73.024		PP82	25×25	196.0	70.840	
PP7	18×18	153.4	73.066		PP83	24×20	210.0	70.700	
PP8	27×25	139.5	73.105		PP84	26×23	206.5	70.735	
PP9	24×22	149.5	73.105		PP85	28×28	193.0	70.870	
PP10	28×26	136.3	73.037		PP86	21×20	201.0	70.790	
PP11	26×24	151.6	73.054		PP87	33×28	24.50	72.535	
PP12	28×24	168.0	72.920		PP88	25×20	255.3	70.245	
PP13	18×17	157.8	73.022		PP89	21×20	282.8	69.972	
PP14	20×20	146.2	73.138		PP90	23×23	252.3	70.273	
PP15	24×22	171.9	71.481		PP91	28×24	252.3	70.275	
PP16	20×23	172.5	71.475		PP92	21×20	227.5	70.525	
PP17	30×(16)	158.5	71.815		PP93	18×14	250.6	70.200	
PP18	25×20	156.7	71.633		PP94	30×23	224.0	70.500	
PP19	32×26	138.0	71.670		PP95	31×23	229.2	70.508	
PP20	23×20	158.0	71.620		PP96	35×30	228.2	70.418	
PP21	24×21	156.5	71.695		PP97	34×30	233.2	70.583	
PP22	36×28	157.2	71.628		PP98	15×12	221.0	70.500	
PP23	35×25	134.2	71.888	PP29重複	PP99	18×13	241.5	70.385	
PP24	42×35	158.6	71.614	PP28重複	PP100	15×13	215.5	70.345	
PP25	24×24	144.2	71.738		PP101	20×18	227.5	70.525	
PP26	26×18	141.9	71.781		PP102	25×21	226.0	70.540	
PP27	25×25	150.7	71.693		PP103	22×22	266.5	70.735	
PP28	25×24	154.6	71.683		PP104	30×26	201.0	70.790	
PP29	28×25	153.4	71.616		PP105	28×25	191.2	70.538	
PP30	22×21	166.0	71.540		PP106	26×25	193.1	70.869	
PP31	35×28	147.0	71.730		PP107	30×38	193.4	70.846	
PP32	30×28	135.8	71.842		PP108	30×26	198.5	70.815	
PP33	25×23	136.0	71.840		PP109	24×22	194.0	70.860	
PP34	25×21	143.5	71.765		PP110	38×32	209.2	70.708	
PP35	36×34	140.5	71.795		PP111	24×20	183.8	70.962	
PP36	28×26	132.2	71.878		PP112	25×25	176.0	71.010	
PP37	35×26	130.0	71.891		PP113	40×32	203.2	70.768	
PP38	28×25	145.8	71.742		PP114	25×25	193.6	70.861	
PP39	22×18	111.0	73.085		PP115	26×25	157.2	71.122	
PP40	26×25	129.0	71.910		PP116	22×20	167.8	71.128	
PP41	35×34	135.8	71.942		PP117	40×22	175.2	71.048	
PP42	30×30	110.0	72.160		PP118	50×45	172.8	71.072	
PP43	28×25	119.0	72.010		PP119	40×38	177.5	71.025	
PP44	30×20	103.5	72.145		PP120	32×32	174.0	71.060	
PP45	30×30	101.5	72.185		PP121	50×22	172.8	71.022	
PP46	28×22	112.0	72.080		PP122	35×25	185.0	70.950	
PP47	22×20	102.5	72.175		PP123	58×24	187.2	70.928	
PP48	36×25	119.2	72.008		PP124	55×25	191.2	70.888	
PP49	35×28	123.7	71.983		PP125	50×48	180.5	70.953	
PP50	22×18	109.0	72.110		PP126	32×30	171.0	71.000	
PP51	18×16	119.3	72.007		PP127	40×33	177.5	71.025	
PP52	20×18	101.5	72.185		PP128	28×24	169.0	71.110	
PP53	24×22	105.0	72.150		PP129	35×32	162.4	71.176	
PP54	22×21	111.2	72.088		PP130	60×52	185.8	71.142	
PP55	21×21	111.0	72.090		PP131	25×22	171.2	71.083	
PP56	26×21	163	72.170		PP132	30×26	179.0	71.010	
PP57	18×18	107.5	72.137		PP133	35×32	177.5	71.035	
PP58	30×15	106.6	71.304		PP134	28×25	166.0	71.140	
PP59	20×18	104.1	72.156		PP135	25×20	179.5	71.005	
PP60	28×28	105.8	71.702		PP136	40×30	181.5	70.985	
PP61	60×45	161.0	71.190		PP137	35×28	177.0	71.050	
PP62	45×40	151.5	71.285		PP138	26×24	177.4	71.026	
PP63	35×30	135.5	71.445		PP139	20×20	181.0	70.960	
PP64	45×42	137.0	71.430		PP140	38×32	171.2	71.088	
PP65	40×33	160.0	71.200		PP141	28×32	167.8	71.122	
PP66	26×25	146.0	71.340		PP142	30×30	168.0	71.120	
PP67	60×58	248.0	70.320		PP143	25×25	184.0	70.960	
PP68	32×32	144.4	71.336		PP144	25×25	161.5	71.185	
PP69	50×37	174.5	71.635		PP145	32×50	161.0	71.190	
PP70	42×33	180.3	70.995		PP146	21×28	164.5	71.155	
PP71	28×26	185.0	71.150		PP147	30×30	163.5	71.165	

第4表 柱六觀察表(2)

No	長軸×短軸 (cm)	底面徑高 (cm)	底面徑高 (m)	備考	No	長軸×短軸 (cm)	底面徑高 (cm)	底面徑高 (m)	備考
PP148	20×30	164.2	71.138		PP218	30×35	216.7	72.393	
PP149	22×31	155.0	71.230		PP219	28×34	172.4	72.776	
PP150	38×38	178.2	71.908		PP221	30×16	170.2	72.705	
PP151	34×34	189.5	70.895		PP222	24×22	198.5	72.418	
PP152	35×32	150.5	71.295		PP223	33×30	194.2	72.458	
PP153	24×22	161.0	71.190		PP224	32×28	206.4	72.436	
PP154	30×30	157.3	71.223		PP225	26×24	207.8	72.322	
PP155	22×20	154.8	71.232		PP226	30×28	217.5	72.375	
PP156	35×35	163.0	72.470		PP227	30×25	201.0	72.490	
PP157	25×22	146.0	72.610		PP228	20×18	212.5	72.375	
PP158	24×21	156.4	72.536		PP229	30×30	212.6	72.374	
PP159	25×23	147.0	72.630		PP230	26×22	223.4	72.246	
PP160	20×18	140.3	72.695		PP231	22×21	215.3	72.345	
PP161	22×20	146.0	72.640		PP232	30×28	218.0	72.330	SD97中
PP162	29×25	169.8	72.502	SD89中	PP233	38×34	205.5	72.445	SD97中
PP163	24×21	159.8	72.502	SD89中	PP234	22×30	208.0	72.430	SD97中
PP164	34×32	132.5	72.375		PP235	84×70	213.2	72.368	SD97中
PP165	25×21	176.8	72.332		PP236	22×21	206.5	72.555	SD101中
PP166	25×26	160.0	72.500		PP237	18×16	221.1	72.159	SD101中
PP167	22×20	137.3	72.527		PP238	38×28	216.8	72.232	SD101中
PP168	30×30	178.0	72.320		PP239	32×24	237.6	72.024	
PP169	28×24	146.7	72.633	SD85中	PP240	32×24	236.4	72.036	SD102中
PP170	42×37	168.0	72.420	SD85中	PP241	60×42	232.6	72.574	SD102中
PP171	35×30	162.2	72.478	SD85中	PP242	23×18	204.2	72.358	SD102中
PP172	60×30	151.7	72.583		PP243	20×16	223.5	72.165	SD102中
PP173	26×25	145.0	72.650		PP244	34×30	215.5	72.245	SD102中
PP174	24×22	130.5	72.595		PP245	32×30	229.0	72.110	SD102中
PP175	20×20	145.0	72.650		PP246	42×24	222.4	72.176	SD102中
PP176	26×26	182.2	72.378		PP247	22×21	223.5	72.173	SD102中
PP177	35×32	159.5	72.507		PP248	18×16	202.2	72.338	SD102中
PP178	23×25	164.5	72.455		PP249	24×24	250.6	71.804	
PP179	30×25	161.5	72.485	SD83中	PP250	30×25	258.0	71.820	
PP180	25×22	147.0	72.630		PP251	54×21	252.2	71.878	
PP181	38×38	149.0	72.700		PP252	40×36	229.7	71.602	
PP182	35×33	150.2	72.508		PP253	43×10	275.5	71.645	
PP183	25×22	180.2	72.288		PP254	40×40	285.0	71.550	
PP184	35×32	151.0	72.590		PP255	30×30	282.3	71.777	
PP185	36×34	186.2	72.438		PP256	35×30	257.3	71.825	
PP186	34×30	190.3	72.493		PP257	35×30	282.0	71.780	
PP187	30×30	137.2	72.728		PP258	30×30	275.3	71.645	
PP188	40×25	183.3	72.465	SD84中	PP259	40×38	275.3	71.645	
PP189	22×28	183.2	72.418		PP260	32×35	271.0	71.600	
PP190	25×22	185.5	72.415		PP261	32×25	267.5	71.725	
PP191	30×28	157.5	72.325		PP262	30×30	278.0	71.850	
PP192	30×25	157.5	72.325		PP263	30×28	270.0	71.700	
PP193	34×31	166.0	72.440		PP264	35×35	275.0	71.650	
PP194	26×26	136.0	72.540		PP265	30×26	269.0	71.710	
PP195	32×30	172.5	72.775		PP266	25×23	277.5	71.675	
PP196	40×35	196.4	72.536		PP267	52×38	211.0	71.360	
PP197	42×35	209.8	72.102		PP268	32×28	197.5	71.525	
PP198	30×28	188.5	72.515		PP269	30×28	196.0	71.540	
PP199	25×18	236.4	72.136		PP270	40×35	216.5	71.335	
PP200	38×22	225.2	72.248	SD95中	PP271	30×25	178.5	71.762	
PP201	18×15	214.7	72.353	SD95中	PP272	35×20	184.0	71.860	SK74中
PP202	18×16	210.0	72.400	SD95中	PP273	35×20	190.0	71.510	SK74中
PP203	20×14	216.5	72.335	SD95中	PP274	24×20	176.0	71.740	
PP204	18×22	221.8	72.183	SD95中	PP275	35×28	176.0	71.740	
PP205	24×24	181.5	72.685	SD95中	PP276	35×28	202.0	71.830	
PP206	33×40	196.8	72.532		PP277	50×35	184.0	71.600	
PP207	26×22	182.0	72.580		PP278	45×38	183.0	71.870	
PP208	75×70	188.4	72.616		PP279	40×35	170.5	71.705	
PP209	28×25	197.8	72.522		PP280	45×40	201.0	71.490	
PP210	20×20	181.2	72.688		PP281	40×35	201.6	71.811	
PP211	45×40	181.0	72.690		PP282	30×28	176.0	71.800	
PP212	32×28	194.7	72.553		PP283	30×25	168.0	71.820	
PP213	35×26	196.3	72.537		PP284	35×32	171	71.900	
PP214	42×30	234.0	72.160		PP285	32×32	167.7	71.823	
PP215	35×25	199.3	72.365		PP286	32×46	167.0	71.830	
PP216	45×35	214.7	72.333		PP287	35×32	169.5	71.805	
PP217	35×28	206.3	72.407		PP288	35×12	183.5	71.645	SD110中
PP218	25×23	213.5	72.365		PP289	44×42	171.0	71.790	

第4表 柱穴観察表(3)

No	長軸×短軸 (cm)	底面標高 (m)	底面標高 (m)	備考	No	長軸×短軸 (cm)	底面標高 (m)	底面標高 (m)	備考
PP290	40×33	181.3	71.885		PP361	26×24	205.0	71.550	
PP291	52×40	194.3	71.355		PP362	32×30	203.0	71.570	
PP292	28×25	181.0	71.690		PP363	30×40	213.5	71.465	
PP293	35×35	192.3	71.375		PP364	25×25	170.0	71.900	
PP294	30×28	175.2	71.748	SD108中	PP365	40×38	191.0	71.690	
PP295	26×26	170.0	71.800		PP366	32×28	212.5	71.475	
PP296	30×21	197.2	71.328	SD110中	PP367	25×25	187.5	71.775	
PP297	18×18	188.2	71.618	SD110中	PP368	43×45	182.5	71.725	
PP298	16×16	151.0	71.930		PP369	48×45	210.5	71.405	
PP299	26×26	185.3	71.645		PP370	38×45	189.0	71.710	
PP300	28×20	189.5	71.665	SD108中	PP371	25×25	186.5	71.735	
PP301	20×18	191.0	71.360	SD108中	PP372	33×35	197.5	71.655	
PP302	16×16	191.6	71.384	SD106中	PP373	23×25	194.5	71.655	
PP303	30×23	188.5	71.613	SD106中	PP374	21×31	188.5	71.715	
PP304	16×13	201.0	71.490	SD105中	PP375	23×25	183.0	71.770	
PP305	35×18	188.8	71.632	SD108中	PP376	25×25	152.5	72.075	
PP306	22×18	173.3	71.767	SD106中	PP377	25×23	183.5	71.765	
PP307	30×30	185.5	71.847	SD106中	PP378	24×24	179.0	71.810	
PP308	22×22	177.5	71.725	SD106中	PP379	70×45	207.0	71.530	
PP309	23×24	180.0	71.700	SD106中	PP380	23×22	181.6	71.784	
PP310	30×25	169.6	71.804	SD100中	PP381	35×35	190.0	71.700	
PP311	26×26	201.5	71.485	SD100中	PP382	35×35	185.2	71.748	
PP312	74×70	243.2	71.068	SK69	PP383	32×30	190.0	71.700	
PP313	35×22	197.5	71.525		PP384	28×25	215.5	71.445	
PP314	32×28	179.5	71.705		PP385	36×36	200.0	71.600	
PP315	32×30	166.0	71.840		PP386	48×45	208.0	71.320	
PP316	28×26	179.5	71.705		PP387	40×32	196.0	71.640	
PP317	29×26	180.0	71.700		PP388	38×38	202.0	71.580	
PP318	36×28	204.5	71.455		PP389	40×35	196.0	71.640	
PP319	28×24	176.5	71.735		PP390	40×32	216.0	71.440	
PP320	35×35	187.2	71.628		PP391	45×30	191.6	71.684	
PP321	31×28	178.0	71.720		PP392	40×35	204.0	71.560	
PP322	24×24	172.2	71.778		PP393	35×30	202.0	71.580	
PP323	22×20	164.5	71.855		PP394	35×35	217.5	71.425	
PP324	24×18	172.3	71.777		PP395	40×(35)	214.5	71.435	PP396重複
PP325	22×18	167.0	71.830		PP396	40×(32)	195.0	71.630	PP395重複
PP326	26×20	182.8	71.672		PP397	35×35	199.0	71.610	
PP327	28×25	179.5	71.705		PP398	35×(35)	202.0	71.580	PP399重複
PP328	34×32	171.5	71.785		PP399	35×(25)	214.3	71.425	PP398重複
PP329	33×30	182.0	71.680		PP400	55×45	228.0	71.320	
PP330	42×30	192.0	71.580		PP401	30×25	212.0	71.480	
PP331	26×25	185.0	71.650		PP402	40×33	200.0	71.600	
PP332	26×18	202.0	71.480		PP403	32×30	197.0	71.630	
PP333	21×22	206.0	71.440		PP404	40×35	206.5	71.535	
PP334	25×25	197.0	71.530		PP405	52×25	188.5	71.913	
PP335	28×28	171.0	71.790	SK68中	PP406	28×23	203.6	71.561	
PP336	26×20	182.5	71.575		PP407	25×25	193.0	71.670	
PP337	36×28	204.0	71.460		PP408	35×33	214.0	71.460	
PP338	36×15	189.5	71.605		PP409	35×32	196.0	71.640	
PP339	75×70	214.5	71.355		PP410	40×35	192.5	71.675	
PP340	26×20	167.5	71.825		PP411	35×30	214.5	71.455	
PP341	25×18	186.0	71.640		PP412	30×30	202.0	71.580	
PP342	25×25	190.0	71.660		PP413	40×38	207.5	71.525	
PP343	35×30	190.5	71.595		PP414	35×32	202.8	71.572	
PP344	22×20	183.0	71.585		PP415	48×46	219.5	71.363	
PP345	46×35	192.0	71.570		PP416	102×35	214.0	71.400	
PP346	36×30	201.5	71.485		PP417	82×33	230.8	71.292	
PP347	26×18	178.0	71.720		PP418	33×30	194.5	71.655	
PP348	22×32	213.0	71.350		PP419	28×26	197.0	71.630	
PP349	22×22	203.5	71.565		PP420	48×46	197.5	71.625	
PP350	25×22	213.5	71.445		PP421	70×28	225.5	71.345	
PP351	22×22	200.0	71.600		PP422	35×32	216.5	71.435	
PP352	46×35	201	71.590		PP423	30×30	207.5	71.575	
PP353	25×22	203.5	71.545		PP424	24×22	198.0	71.620	
PP354	35×30	197.5	71.625		PP425	55×50	208.5	71.515	
PP355	33×35	198.5	71.615		PP426	55×43	222.0	71.380	
PP356	36×25	212.8	71.472		PP427	32×20	217.0	71.420	
PP357	28×25	191.5	71.685		PP428	60×23	197.5	71.623	
PP358	23×20	188.0	71.630		PP429	55×32	224.5	71.355	
PP359	36×30	209.5	71.505		PP430	60×33	223.2	71.367	
PP360	22×22	203.0	71.570		PP431	35×32	235.5	71.245	

第4表 柱穴観察表(4)

No	長軸×短軸 (cm)	底面標高 (cm)	底面傾斜 (m)	備考	No	長軸×短軸 (cm)	底面標高 (cm)	底面傾斜 (m)	備考
PP432	33×30	179.3	71.863		PP503	24×24	149.5	72.165	
PP433	30×25	217.0	71.430		PP504	32×28	187.5	71.725	
PP434	60×35	320.0	71.400		PP505	25×25	178.8	71.812	
PP435	40×32	218.5	71.415		PP506	35×18	176.8	71.832	SK35中
PP436	52×35	301.3	71.587		PP507	25×20	183.0	71.670	SK58中
PP437	40×32	194.0	71.660		PP508	28×25	208.0	71.520	
PP438	40×35	206.5	71.535		PP509	62×45	203.0	71.570	SK37中
PP439	40×32	194.7	71.653		PP510	38×26	156.0	72.100	SK37中
PP440	35×35	204.0	71.560		PP511	32×30	191.0	71.690	
PP441	35×35	190.5	71.605		PP512	25×25	174.7	71.833	
PP442	38×32	202.5	71.575		PP513	28×25	183.3	71.747	
PP443	50×50	240.0	71.185		PP514	30×35	179.0	71.810	
PP444	32×30	182.5	71.775		PP515	34×32	171.5	71.885	
PP445	10×38	200.3	71.597		PP516	30×30	176.0	71.840	
PP446	70×68	190.5	71.695		PP517	30×30	171.0	71.880	
PP447	83×65	204.0	71.560		PP518	20×20	167.5	71.925	
PP448	22×20	212.3	71.475	SK70中	PP519	22×20	172.0	71.880	
PP449	42×40	202.0	71.580		PP520	18×18	164.0	71.960	
PP450	45×40	207.5	71.525		PP521	38×32	185.0	71.730	
PP451	35×35	227.8	71.322		PP522	32×28	187.5	71.625	
PP452	40×33	191.0	71.690		PP523	35×30	174.6	71.834	
PP453	48×35	209.5	71.505		PP524	30×28	185.0	71.920	
PP454	45×40	180.0	71.740		PP525	30×28	176.0	71.900	
PP455	72×50	185.0	71.750		PP526	28×22	184.3	71.755	
PP456	35×40	207.0	71.830		PP527	25×22	183.5	71.745	
PP457	28×25	206.3	71.537		PP528	22×22	191.8	71.682	
PP458	30×28	203.8	71.612		PP529	25×23	183.5	71.765	
PP459	30×30	206.5	71.325		PP530	35×32	181.5	71.785	
PP460	35×22	203.8	71.564		PP531	32×30	171.3	71.885	
PP461	34×24	214.2	71.458		PP532	30×28	173.0	71.870	
PP462	21×21	189.0	71.710		PP533	30×25	172.5	71.875	
PP463	31×30	214.0	71.460		PP534	38×32	177.5	71.825	
PP464	30×30	190.0	71.700		PP535	32×28	181.0	71.790	
PP465	40×34	198.3	71.617		PP536	25×22	181.0	71.790	
PP466	30×30	179.7	71.803		PP537	33×22	175.0	71.830	
PP467	24×24	181.7	71.753		PP538	32×32	196.0	71.700	
PP468	30×26	180.5	71.795		PP539	28×26	182.0	71.680	
PP469	32×30	184.0	71.760		PP540	32×22	197.0	71.630	
PP470	32×30	206.4	71.538		PP541	35×30	174.5	71.835	
PP471	28×28	176.4	71.836		PP542	38×30	187.0	71.730	
PP472	30×28	193.0	71.670		PP543	32×32	188.5	71.715	
PP473	55×33	201.7	71.583		PP544	43×35	212.5	71.475	
PP474	30×23	189.0	71.710		PP545	22×20	186.0	71.800	
PP475	35×25	204.0	71.560		PP546	21×20	183.5	71.765	
PP476	35×33	194.6	71.654		PP547	21×22	179.5	71.805	
PP477	30×28	197.4	71.626		PP548	25×22	183.2	71.768	
PP478	30×30	184.5	71.755		PP549	23×22	181.0	71.690	
PP479	40×40	195.0	71.620		PP550	28×25	181.0	71.790	
PP480	20×20	182.0	71.780		PP551	28×28	201.0	71.590	
PP481	30×25	184.0	71.860	SK61中	PP552	25×24	196.0	71.640	
PP482	50×45	245.3	71.143	SK61中	PP553	42×35	218.0	71.820	
PP483	65×55	211.0	71.490		PP554	35×35	206.5	71.955	
PP484	23×30	184.0	71.760		PP555	25×23	207.3	71.930	
PP485	45×45	221.0	71.390		PP556	35×32	203.2	71.948	
PP486	30×45	185.3	71.747		PP557	40×20	223.0	71.750	
PP487	60×55	196.0	71.700		PP558	28×25	215.0	71.850	
PP488	40×35	205.0	71.550		PP559	40×35	216.2	71.838	
PP489	30×25	191.7	71.683		PP560	40×40	215.2	71.848	
PP490	33×40	211.7	71.483		PP561	35×25	220.2	71.798	
PP491	33×35	188.3	71.717		PP562	36×34	229.2	71.708	
PP492	40×35	188.0	71.740		PP563	30×28	220.5	71.795	
PP493	30×(30)	182.0	71.780		PP564	45×42	234.0	71.660	
PP494	40×40	210.0	71.500	PP495重複	PP565	35×10	220.8	71.792	
PP495	40×(35)	194.3	71.655	PP494重複	PP566	30×28	230.2	71.688	
PP496	40×35	202.0	71.580		PP567	32×30	206.5	71.935	
PP497	30×35	206.7	71.533		PP568	35×30	226.8	71.732	
PP498	33×32	209.5	71.565	SK60中	PP569	40×30	219.0	71.810	
PP499	43×32	174.3	71.353		PP570	30×22	260.2	71.968	
PP500	32×22	206.6	71.534		PP571	28×22	203.5	71.965	
PP501	52×48	173.0	71.870		PP572	20×20	199.0	72.010	
PP502	22×22	148.3	72.117		PP573	26×22	200.0	72.000	

第4表 柱穴觀察表(5)

No	長軸×短軸 (cm)	底面積 (cm ²)	底面積高 (m)	備考	No	長軸×短軸 (cm)	底面積 (cm ²)	底面積高 (m)	備考
PP574	30×28	232.5	71.765		PP645	25×22	176.0	73.010	
PP575	20×16	213.0	71.864		PP646	35×22	193.3	72.805	
PP576	22×20	214.0	71.860		PP647	32×18	191.0	72.890	SDI22中
PP577	18×16	210.2	71.898		PP648	16×14	186.3	72.935	SDI22中
PP578	28×26	203.0	71.970		PP649	14×11	196.3	72.805	SDI23中
PP579	33×30	236.5	71.633		PP650	16×16	196.0	72.810	SDI23中
PP580	25×22	219.2	71.808		PP651	12×12	180.0	73.000	SDI23中
PP581	60×26	204.0	71.906		PP652	18×14	139.0	73.210	
PP582	45×35	248.0	71.520		PP653	20×16	174.0	73.090	SDI21中
PP583	20×20	204.0	71.900		PP654	16×16	192.3	72.873	SDI21中
PP584	32×30	227.0	71.639		PP655	25×25	190.7	72.893	SDI24中
PP585	30×30	211.0	71.800		PP656	27×24	208.2	72.913	
PP586	30×30	212.2	71.878		PP657	28×24	207.0	72.880	
PP587	22×22	193.2	72.018		PP658	20×18	200.0	73.000	
PP588	20×18	190.5	72.005		PP659	25×20	133.5	71.963	SDI26中
PP589	25×22	206.5	71.935		PP660	22×21	138.2	71.318	
PP590	24×22	207.5	71.925		PP661	25×25	145.0	71.250	
PP591	25×22	212.5	71.875		PP662	40×35	180.5	70.803	
PP592	35×30	213.0	71.870		PP663	30×28	208.7	70.613	
PP593	32×32	217.0	71.830		PP664	25×25	178.0	70.820	
PP594	40×30	248.2	72.180		PP665	28×(28)	197.5	70.723	PP666並列
PP595	22×21	213.0	71.870		PP666	32×(30)	192.6	70.774	PP665並列
PP596	32×25	239.0	71.610		PP667	32×32	198.0	70.720	
PP597	18×18	231.5	71.655		PP668	25×25	195.5	70.715	
PP598	35×33	243.0	71.530		PP669	24×24	217.8	70.522	
PP599	25×24	233.0	71.670		PP670	30×30	172.0	70.880	
PP600	28×28	242.3	71.373		PP671	28×28	175.5	70.943	
PP601	33×30	220.0	71.800		PP672	40×35	183.0	70.880	
PP602	32×32	235.0	71.650		PP673	20×20	206.0	70.640	
PP603	25×22	157.0	73.230		PP674	28×28	191.0	70.790	
PP604	21×20	156.5	73.233		PP675	30×25	194.8	70.732	
PP605	26×22	165.0	73.150		PP676	32×32	232.0	70.480	
PP606	30×20	176.5	73.033		PP677	24×24	206.5	70.633	
PP607	20×18	174.8	73.052		PP678	36×36	198.5	70.713	
PP608	16×16	170.0	73.100		PP679	18×18	205.0	70.650	
PP609	24×21	183.0	72.970		PP680	22×20	245.0	70.230	
PP610	25×22	160.5	73.195		PP681	50×50	207.0	70.630	
PP611	20×18	172.0	73.080		PP682	28×28	200.5	70.693	
PP612	48×25	181.6	72.954		PP683	32×30	244.0	70.260	
PP613	23×22	170.0	73.100		PP684	33×35	193.3	70.743	
PP614	53×29	202.5	72.775		PP685	30×28	190.5	70.793	
PP615	23×21	173.5	73.045		PP686	20×20	182.5	70.873	
PP616	21×18	168.0	73.120		PP687	32×30	171.1	71.288	
PP617	20×18	165.3	73.145		PP688	30×30	218.2	70.518	
PP618	22×18	169.0	73.110		PP689	36×36	185	71.020	
PP619	21×16	170.0	73.100		PP690	40×38	202	70.880	
PP620	38×25	166.0	73.140		PP691	22×20	151.3	71.487	
PP621	30×28	168.0	73.140		PP692	22×22	151.3	71.487	
PP622	25×16	172.3	73.073		PP693	24×24	169.5	71.303	
PP623	27×24	192.3	72.873	SDI23中	PP694	24×24	179.0	71.210	
PP624	18×18	187.3	72.923	SDI23中	PP695	22×22	193.8	71.062	SDI32中
PP625	30×23	181.3	72.923		PP696	25×25	174.8	71.252	
PP626	14×14	154.0	72.960		PP697	32×(32)	176.3	71.233	PP698並列
PP627	35×27	193.5	72.863		PP698	(35)×32	185.0	71.130	PP697並列
PP628	40×20	188.3	72.915		PP699	25×25	159.0	71.410	SK36中
PP629	18×14	202.0	72.780		PP700	25×25	166.5	71.393	
PP630	30×30	200.0	72.800		PP701	25×22	215	70.830	
PP631	30×30	178.0	73.020		PP702	28×28	180.5	71.193	
PP632	30×18	166.0	73.150		PP703	33×32	12.5	72.873	
PP633	30×22	182.5	72.973		PP704	33×30	162.3	71.377	
PP634	13×15	197.0	72.830		PP705	24×24	170.9	71.291	
PP635	22×20	176.5	73.033		PP706	48×32	162.4	71.376	
PP636	26×22	198.5	72.813	SDI23中	PP707	28×25	174.5	71.233	
PP637	28×28	175.0	73.050	SDI23中	PP708	18×16	162.5	71.373	
PP638	18×18	183.0	72.970		PP709	22×22	171.2	71.288	
PP639	28×24	202.5	72.773	SDI23中	PP710	16×16	178.0	71.210	
PP640	20×20	195.0	72.850	SDI23中	PP711	16×16	167.8	71.222	SDI31中
PP641	30×20	191.0	72.890		PP712	22×22	130.3	71.303	
PP642	18×18	195.0	72.850	SDI23中	PP713	16×16	162.5	71.373	SDI31中
PP643	25×23	193.3	72.863		PP714	20×18	137.3	71.423	
PP644	18×18	200.1	72.790	SDI22中	PP715	38×28	188.8	71.162	SDI32中

第4表 柱穴観察表(6)

No	長軸×短軸 (cm)	底面標高 (m)	底面径高 (m)	備考	No	長軸×短軸 (cm)	底面標高 (m)	底面径高 (m)	備考
PP716	30×18	178.0	71.250		PP771	24×20	191.0	72.600	
PP717	40×30	200.5	70.993	SD132P	PP772	26×22	179.0	72.810	
PP718	48×48	200.8	70.992		PP773	25×25	219.0	72.410	
PP719	24×24	148.3	71.517		PP774	32×32	207.7	72.523	
PP720	18×16	156.2	71.438		PP775	25×22	177.0	72.830	
PP721	28×26	189.2	71.108		PP776	26×20	230.0	72.500	
PP722	26×24	194.2	71.333		PP777	28×28	210.5	72.495	
PP723	30×20	156.5	71.438		PP778	30×26	218.5	72.415	
PP724	34×30	160.0	71.409		PP779	24×24	152.0	73.080	
PP725	15×15	155.0	71.139		PP780	22×22	148.0	73.110	
PP726	30×25	211.3	70.887		PP781	18×18	148.0	73.110	
PP727	30×20	178.2	71.213		PP782	32×30	144.0	73.100	
PP728	18×18	192.0	71.070		PP783	24×22	151.5	73.085	
PP729	32×42	200.5	70.995		PP784	20×18	159.0	73.010	
PP730	30×28	187.3	71.197		PP785	20×18	147.0	73.130	
PP731	30×28	174.5	71.255		PP786	21×20	147.5	73.125	
PP732	28×25	181.5	71.155		PP787	20×20	143.0	73.170	
PP733	20×26	201.3	70.987		PP788	16×16	150.8	73.092	
PP734	35×32	184.3	71.137		PP789	35×32	174.0	72.800	
PP735	35×35	196.0	71.040		PP790	20×20	144.5	73.155	
PP736	30×25	204.0	70.960		PP791	34×32	151.2	73.088	
PP737	28×25	195.0	71.030		PP792	28×28	170.5	72.895	
PP738	25×20	197.8	71.072		PP793	24×23	141.5	73.185	
PP739	28×25	197.3	71.077		PP794	20×18	157.5	73.025	
PP740	30×30	210.3	70.897		PP795	28×28	188.0	72.909	
PP741	35×41	192.0	71.080		PP796	22×22	145.0	73.150	
PP742	28×28	185.5	71.145		PP797	28×25	176.5	72.845	
PP743	38×38	181.0	71.190		PP798	22×22	164.0	72.960	
PP744	44×41	192.0	71.080		PP799	21×20	166.0	72.940	
PP745	30×26	210.0	70.900		PP800	23×22	134.5	73.255	
PP746	22×22	188.0	71.120		PP801	25×25	153.3	73.064	
PP747	34×32	220.3	70.797		PP802	28×24	153.3	73.067	
PP748	35×33	189.5	71.005		PP803	35×33	180.0	73.300	
PP749	28×28	172.2	71.178		PP804	30×28	213.5	73.065	
PP750	22×22	184.3	71.055		PP805	30×25	213.0	73.070	
PP751	30×23	176.5	71.135		PP806	32×32	213.3	73.067	
PP752	35×30	193.0	70.970		PP807	40×40	226.8	72.922	
PP753	22×22	176.7	71.193		PP808	23×23	211.0	73.080	
PP754	30×28	166.0	71.249		PP809	23×22	206.5	73.135	
PP755	28×28	156.0	71.319		PP810	23×23	208.2	73.115	
PP756	28×28	154.7	71.353		PP811	26×24	203.5	73.165	
PP757	21×21	156.9	71.201		PP812	34×22	213.0	73.070	
PP758	35×32	183.6	71.214		PP813	16×16	219.0	73.010	
PP759	30×25	150.7	71.393		PP814	26×22	223.5	72.945	
PP760	26×26	152.9	71.371		PP815	24×22	227.8	72.922	
PP761	25×18	147.0	71.420		PP816	35×30	218.7	73.013	
PP762	30×28	149.9	71.110		PP817	25×20	211.0	73.090	
PP763	25×23	154.9	71.360		PP818	32×30	233.0	72.870	
PP764	28×24	139.2	71.508		PP819	18×18	225.0	72.930	
PP765	28×25	137.7	71.323		PP820	17×17	215.5	73.045	
PP766	25×24	134.5	72.733		PP821	30×20	220.5	72.995	
PP767	21×21	184.5	72.735		PP822	26×24	223.0	72.970	
PP768	28×25	186.5	72.633		PP823	18×18	211.2	73.088	
PP769	26×25	188.0	72.720		PP824	25×21	213.5	73.065	
PP770	35×33	182.0	72.780		PP825	30×28	239.0	72.810	

(11) その他の遺構

調査員の力不足もあり、遺構の性格が掴めなかった遺構を2基検出した。よって図化するに留めて詳細は今後の事例等で検討を加えていきたい。

S X13 (第59図、写真図版20)

〈位置・重複関係〉 調査区中央VE4j～VE5jグリッド、標高71.1mに位置する。本遺構はSK44に切られる。

〈検出状況〉 暗褐色土と焼土粒の混合上の広がりとして検出したものである。当初は焼土が廃棄された土坑と考えて精査を進めたが、壁面が焼成を受けていたため何らかに使用された土坑と考えたものである。出土遺物等がなく、その他に使用目的を示すような遺物の出土がないため不明遺構としたものである。

〈規模・平面形〉 規模は長軸60～100cm前後、短軸1.7～2m前後と推測される。平面形は楕円形を呈する。北側がSD73に切られているため全容については不明である。

〈埋 土〉 3層に細分される。暗褐色土と赤褐色土主体に構成される。

〈遺 物〉 出土していない。

〈時 期〉 出土遺物がないため詳細な時期は不明だが、遺構の重複関係からSD73より古い時期に属すると思われる。

S X14 (第59図、写真図版20)

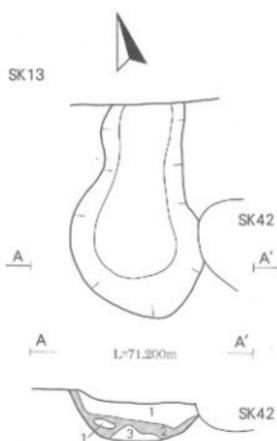
〈位置・重複関係〉 調査区中央VE4j～VE5jグリッド、標高71.2mに位置する。重複関係はない。

〈検出状況〉 赤褐色焼土の広がりとして検出したが、平面形が焼土遺構によく見受けられる楕円形を基調としたものではなく、縦長い長楕円形呈していたことから不明遺構としたものである。焼成もあまり良くなく、一帯が開田時の削平を受けたことを鑑み北側にあった焼土が押されてきたためにこのような形として遺存したものと思われるが詳細は不明である。

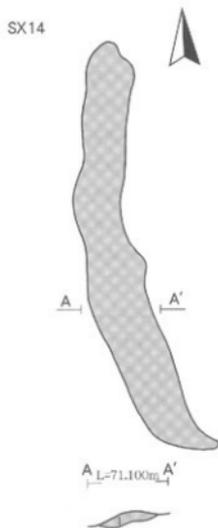
〈規模・平面形〉 規模は長軸3.14m、短軸50cm、層厚10cmを測る。平面形は極長楕円形を呈している。

〈遺 物〉 出土していない。

〈時 期〉 不明である。



1. 10YR2/1 黒色シルト 粘性あり しまりややあり 黄褐色ブロック炭化物粒混入
 2. 5YR4/8 赤褐色炭土 粘性ややあり しまりややあり
 3. 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性ややあり しまりややあり



1. 5YR4/8 赤褐色炭土 粘性ややあり しまりややあり

第59図 S X13・14

3 遺物

遺物は、遺構内外合せて大コンテナで陶磁器、土器、かわらけ、鉄製品、石器、石製品、土製品、布目瓦等が合わせて約7箱出土している。概観して9世紀～10世紀の土師器、須恵器・12世紀～12世紀後半のかわらけ、陶磁器類が大部分を占めている。出土場所は主に土師器等は竪穴住居内から陶磁器類は溝跡、土坑等から、その他は遺構外からの出土が多い。なお、細片のため図化しなかったもの一部は写真掲載のみに止めた。また、文章中では必ずしも個々の遺物について説明していない。

(1) 土師器・須恵器

1～4は土師器環は内黒処理を施しており、1・2は碗に近い器形をしている。5～9の土師器環はロクロ痕以外の処理が施されていない。その内8・9は口縁部が外反している。3・5・9は回転糸切りで底部は平底となっている。10・11は土師器小型甕で両者とも口縁部はヨコナデによる調整を行い体部には全体にわたりヘラケズリ調整を施している。12～14は土師器甕で小型甕と同様に口縁部にはヨコナデを施し、体部にはヘラケズリやヘラナデによる調整を行っている。甕類は口縁部がやや外反するが、小型甕には見られない。15～16は底部や体部下半のみであるが同様に体部はヘラケズリが施されている。17の底部はケズリによる調整の痕が見られる。22は高台付皿で回転糸切りで切り離した後高台部分を接合している。内面はミガキ調整されているが内黒処理は施されていない。23は長胴甕で、壺に近い器形をしている。土師器甕でこのような器形のものはこの1点だけである。体部上半にタタキ目が残る、その上からロクロによる調整を施している。体部下半もおそらくタタキを行っていたと思われるがその後のケズリ調整により確認できない。

24～27は土師器環で全て回転糸切りで切り離されている。内面はロクロ調整以外の処理は施されていない。28～34も土師器環である。32・33碗に近い器形をしている。28・29・34は内黒処理されている。35は土師器環で底部は回転糸切りで切り離している。36は高台付皿で回転糸切り後に高台部分を接合している。37は須恵器環で底部が回転ヘラ切りとなっている。38は土師器小型甕である。口縁部はヨコナデ、体部全体にわたってヘラナデで調整をしている。39は土師器甕である。口縁部は外反しヨコナデ調整がされている。外面は全体にわたってヘラケズリ調整が行われている。底部には木葉痕が見られる。40・42は土師器長胴甕である。40は体部上半にタタキ目が残るその上からロクロによる調整が見られる。体部中～下半にタタキの上からケズリによる調整を施している。41は体部上半はロクロ調整が施されてタタキ目が見られないが体部中ほどに僅かに見られる。これもタタキの後にナデやケズリの調整を行っている。調整の中にタタキ目が残るのはその後の調整がしっかりとされなかったため残ったものと思われる。41・43・44は体部下半から底部の出土のみで全体が不明だが土師器甕と思われる。43の底部には木葉痕が見られるが葉の芯にあたる部分を棒状工具などにより更に調整した後が確認できる。

48～50は土師器環である。48のみ内黒処理されている。また、48の外面は細い棒状の工具のようなものでロクロの後に調整をしている。また底部は高台を付けようとしたものなのにか縁部分にケズリ調整を施している。全て回転糸切りである。51は柱状高台である。底部は回転糸切りで切り離されている。52～54・56は土師器小型甕である。何れも口縁部はヨコナデ、外面は全体にわたってケズリ調整がされている。口縁部はやや外反する。55・57は土師器甕で口縁部がやや外反する。58・60は外反が強い。口縁部はヨコナデ、体部外反はケズリ調整が施されている。59・61・62は土師器長胴甕である。体部上半はロクロ調整を施し、体部中～下半はナデやケズリによる調整がなされている。他と異なる点は胴部から口縁部が外傾しながら上部で大きく外反しているところである。63も土師器長胴甕であるが、口縁部はヨコナデ、体部外面はケズリによる調整が施され、口縁部は緩く外傾している点が異なる。64は器形などから鍋？としたものである。棒状の工

具のようなものでロクロ調整のあとに更に沈線のような調整を加えている。体部外面はケズリ調整が施され、内面には擦痕のような線が確認できる。本遺跡から1点のみの出土である。68は高台付環で内面は内黒処理されている。75・79・80・88は須恵器甕である。外面はタタキ、内面はナデ等による調整のためアテグ痕等は見られない。83は長頸瓶の頸部と思われる。ロクロにより内外面ともに調整が施されている。86・87は土師器環で、両者とも底部に回転糸切り痕が見られる。内面はロクロ以外の調整はない。93は土師器甕で口縁部はヨコナデ、外面はナデによる調整が見られる。95・96も土師器甕である。外面にナデによる調整が確認できる。102・103は土師器環で回転糸切り痕が底部に見られる。105は土師器甕で口縁部が外反している。

104・107は須恵器甕で104は外面にタタキを確認できるが107はナデ等の調整が施されタタキは見えない。更に107については内面に上具のようなもので調整をしたあとがはっきりと確認できる。108は須恵器長頸瓶で外面肩部と内面にナデ調整が施され、外面は細かい線などが見えなかったことから内面調整に使用した工具とは異なるもので調整をしていると考えられる。109は108と同一個体と思われる。110～112、114・115は須恵器甕である。外面にタタキを施している。111の口縁部外面には波状の沈線が施文されている。115には内面にアテグ痕が確認できるがそれ以外には調整が施されているため確認できない。116は土師器環でロクロ以外の調整は見られない。117～119は土師器甕である。体部上半～口縁部にロクロによる調整が見られる。117の口縁部は緩く外傾しているが118・119は大きく外傾している。118の口唇部はロクロ調整がきれいに施されている。120は須恵器甕で外面タタキ、内面にアテグ痕が見られる。126は土師器環である。底部がないため全体像は不明だが、破片の傾きなどから碗に近い器形をしていると思われる。

127は土師器甕である。底部は平らで調整等は不明瞭である。128は須恵器長頸瓶、130は須恵器環、129・131・139は須恵器甕である。128は口唇部がやや窪んでいる。140は土師器甕である。外面はケズリ、内面はミガキ調整が施され内黒処理されている。本遺跡から内黒処理の環は出土しているが甕の出土はこの1点だけである。141はロクロ使用の環でロクロ以外の調整は見られない。143は須恵器甕、145は須恵器長頸瓶、146は須恵器環である。146の底部には回転糸切り後に再調整がなされている。149～151はロクロ使用の土師器環である。152・157は高台付環？の高台部分である。154・157は土師器甕の口縁部で154は緩く外傾し、156は強く外傾している。何れも口縁部上部まで外面にナデの調整が見られる。158・165は須恵器甕である。158は外面タタキ、内面はナデ等の調整がされ、165は内外面ともにナデ等による調整がされ、タタキの痕跡は見られない。170～172はロクロ使用の環で内面にミガキ調整、内黒処理されている。173もロクロ使用の環であるが、内黒処理が施されていない。

174・175は土師器甕である。口縁部はナデ、体部外面はケズリ調整されている。口縁部はどちらもやや強く外傾する。176は土師器小皿である。ロクロかわらけとも考えたが、出土しているかわらけ等の土の雰囲気等が違ふことから小皿とした。177高台部分であるが、高台部分の高さが本遺跡から出土している高台付の器種の中で一番高い。178は土師器甕で、口縁部が外傾している。179・180はロクロ使用の環で内面は内黒処理されている。181は土師器高台付環、182は須恵器長頸瓶である。183はロクロ使用の土師器環、184はロクロ使用の土師器小型甕である。本遺跡から出土している小型甕の底部はきれいに調整されているが、これは回転糸切り痕が残っており再調整がされていないものである。188～190、210は土師器環である。188は底部にケズリによる再調整がされている。210も何らかの再調整がされているが不明瞭ではっきりとは確認できない。

191～193は土師器甕で体部外面はケズリ調整等を施し、192の口縁部はヨコナデによる調整がされている。211は須恵器甕で外面タタキ、内面にはアテグ痕が確認できる。212は土師器甕で外面はロクロ、内面はロク

口調整後にナデによる再調整がされている。217はロクロ使用の上師器坏で底部が回転離し糸切りとなっている。218・219は土師器甕である。どちらも外面体部上半～口縁部にかけてロクロ調整がされているが、219は内面がミガキによる再調整を施している。ミガキによる再調整されている甕はこの1点のみである。220～222は須恵器甕で、223は須恵器長頸瓶である。本遺跡から出土している須恵器甕は内面が再調整されているものが多く、アテグ痕が見られないものが多い。

(2) 国産陶器

本遺跡からの国産陶器片の出土は合わせて80点である。瀬美産43点、常滑産25点、猿投産1点、灰軸1点、須恵器系陶器2点、不明8点が出土している。大部分が12世紀に属すると思われるものである。開口時の削平や耕作等による攪乱のため遺構外からの出土もある。

瀬美産陶器は遺構内37点、遺構外6点出土で全て破片のみの出土である。瀬美産陶器の年代は特定の編年表に準拠していない。231は瀬美産甕で瀬美窯特有の灰白色を呈する。233～251はSK37から一括して出土した瀬美産甕破片である。口縁部や底部は出土していない。破片の中には修復痕が確認できるものもある。

(248)色調はにぶい黄色～灰黄色を呈し恐らく同一個体と思われる。格子状の押印文が胴部にランダム見られる。これらの作風等の特徴から12世紀の瀬美産甕と考えたものである。しかし、断面の胎土において褐色に暗灰色が挟まれたサンドイッチ状の様相がみられ、これは瀬美産の特徴を示していないことから、瀬美産を模倣した陶器の可能性も考えられる。近県において瀬美産陶器を模倣した宮城県の水沼産陶器などがあるが色調の主体が赤褐色であることから本資料とは異なると考えた。また常滑産甕の初期に格子状の押印がランダムに施された陶器も存在するが、口縁部が出土していないため常滑産と特定できず、瀬美産としたものである。88は瀬美産甕の口頸部であり、内面に白軸飛沫が確認できる。254～259は瀬美産甕としたもので、甕と比べ厚さが薄いことから壺？と考えたものである。色調は灰白色を呈し押印が見られる。292は瀬美産のロクロ使用の小椀である。その他は肩部～胴部片と思われ、溝状の押印文がみられるものもある。時期については12世紀に属するものと考えられる。

常滑産陶器は中野・赤羽生産地編年(永原慶二編 1995「常滑焼と中世社会」)の2～3型式に相当するものが出土しているが、破片資料のため2型式か3型式に分類するのは難しく、どちらに属するのか不明なものが殆どである。

出土した常滑産陶器片は遺構内36点、遺構外7点である。267は常滑三筋壺である。器型から2～3型式に属すると思われる。緑釉を主体に一部青釉がみられる。2本で一単位の沈線が2条、肩部と胴部に確認できるが明瞭ではない。285と287も常滑三筋壺片で遺構外の出土である。285は胴部に2本で一単位の沈線、287は3本で一単位の沈線が施される。このことから最低でも3個体は存在していたと推測される。両者とも2～3型式に属すると思われる。261～268はSK84出土の壺片で肩部～胴部片がほとんどである。ただ埋土上位からの出土のため流れ込みの可能性がある。直線状の押印文がみられ、軸は緑釉が主体となっている。

須恵器系陶器は全部で2点出土している。片口鉢の口縁部片296と底部片272である。296の口縁部は断面が角型をしている。272はロクロ成形で底面の切り離しは途中までは静止糸切りであるが、途中から回転糸切りとなっている。これは静止糸切りで切り離そうとしたが切り離せず、途中から回転糸切りに変えて切り離したと思われる。須恵器系陶器の片口鉢は平泉町志羅山遺跡C地区、平泉町泉屋遺跡16-10-21次からも出土している。須恵器系陶器は珠洲産が有名だが、胎土の色調が珠洲産に比べ白い。ただ、色調が違っただけで窯元が違うとは断定できるものではなく、珠洲産とは判断できかねるため須恵器系陶器とした。

猿投産陶器は1点出土している。短頸壺の底部片269である。12世紀ではなく古い時期の属すると思われるが底部のみの出土のため詳細については不明である。

灰釉陶器は1点出土している(289)。長頸瓶と考えられ10世紀頃のものと思われる。ロクロ使用でオリープ色を基調とし緑釉飛沫が内面にみられる。破片での出土のため詳細は不明である。

その他に産地等が変わらなかつたものを8点掲載しているが、胎土の特徴などから在地産の可能性が高いと思われる。

(3) 中国産磁器

本遺跡からの中国産磁器片の出土は6点で、白磁3点、青磁2点で全て破片資料である。305は同安窯の青磁碗である。同安窯の開窯、焼窯については不明な点が多いが、釉色はやや黄味の強いいわゆる餡色でガラス質の釉が特色である。308は白磁碗である。内面に梅目が見られ、体部内面上位に一条の沈線が確認できる。志保山遺跡56次調査でも同様の白磁片が出土している。307・309は白磁四耳壺の頸部と体部片と思われるものである。柳の御所遺跡等いわゆる平泉遺跡群から出土する白磁に類似している。化粧土等は見られない。310は竜泉窯の園花文青磁碗である。内面に園花文を呈し、釉は青みを帯びた緑色が主体である。

(4) かかわらけ

本調査区中央部～北にかけて45点出土している。手づくねかわらけ、ロクロかわらけ共に出土しており手づくねかわらけ38点、ロクロかわらけ、ロクロかわらけと思われるもの7点である。細片での出土が大部分を占めているため詳しい点についてはわからないことが多い。平泉遺跡群から出土するかわらけと似ていることから大部分が12世紀後半に属すると推測される。ただ、312の12世紀前半と思われるロクロかわらけが1点出土している。分類については別項まとめて行っているのでそちらを参照していただきたい。

(5) 瓦

明後沢遺跡群は古くから古瓦が出土する遺跡として有名である。今回の調査でも軒丸瓦、丸瓦、平瓦が全部で16点出土している。軒丸瓦1点、丸瓦と思われるものが3点、平瓦が12点である。殆どが破片であるために分類は行わず、それぞれの瓦について種類ごとに特徴を述べていくことにする。

軒丸瓦(銀瓦) 354は八葉の蓮弁を配しその基部に小弁が重なっている重弁八葉蓮華文軒丸瓦である。蓮弁は先端が丸みをもって隆起し、その基部には1～2cmの小弁(子葉)が重なる。また、小弁(子葉)から1.5～2cmの降線が伸びる。中房は直径3.3cmで二段に作り出される。中房には蓮子の痕跡が認められるが、明跡ではない。ケズリ等の調整が施されたようにも見えるが、他に出土するものには蓮子があることから、筒型の摩耗等により蓮子部分が明跡にでなかったと思われる。明後沢遺跡第1・2次調査でも同様の軒丸瓦が出土しているが、蓮子のあるものとなないもの両方出土し、蓮子が明跡でないものの方が多い。外区にまわる園線は欠損している。瓦当部と丸瓦部の接合部分については、丸瓦部が欠損し瓦当部に接合痕が僅かに確認できる程度であり、接合方法は確認できない。残存値は直径15cm、厚さ1.3cmで形状等から明後沢遺跡第1次調査(前沢町史上巻)で出土したものと同種類のものとして推定される。文様の彫りは深く、蓮弁と同弁の一部分にケズリの様調整がみられ、瓦当裏面にはナデ調整を施している。これは水沢市胆沢城跡で出土している8001系軒丸瓦(1904鎌田)と同系の瓦と考えられる。焼成は堅緻で灰色を呈する。

丸瓦は破片のみの出土である。焼成が堅緻で1は灰黒色、359は黄褐色を呈する。当センターによる平成13年度の明後沢遺跡群第14次調査でも丸瓦が出土しており、玉縁部で厚さが1.5cm、中央部で2.2～3cmを測る。本遺跡から出土した丸瓦は厚さ1.1～1.3cmを測ることから玉縁付丸瓦の玉縁部分と思われる。353は凹面に細かな布目が見られ、割線部に緑線が確認できる。釉の付き方から施釉ではなく自然釉と思われる。尚、

胆沢城跡から出土する下緑付丸瓦にも自然軸が認められる例が比較的多いようである。(胆沢城発掘調査外報) 凸面はかすかな調整痕が確認できる。355・359・369はどちらも割縁が確認できるため玉縁側面部と思われる。両方とも凹面には布目が確認できる。355の方が布目が細かいが、布の張り具合による違いと思われる。359は凸面に縄タキが施される。割縁は359は調整されているが摩滅がひどくはつきりしない。明後沢遺跡群第11次調査で出土した丸瓦は下緑部分に縄タキ目が残し、中央部凸面はクワ形に調整されている。本遺跡出土の丸瓦はある程度の調整は施されているが、縄タキ目が確認できることから下緑部分である可能性が高い。また、輪痕が確認できることから粘土紐巻き作りで制作されたものと推測される。

平瓦も破片のみで完形品は出土していない。丸瓦と同様に焼成が堅緻で353、357、358、360、361、364は灰色を呈するものと細片のため不掲載としたが褐色系を呈するものがある。363は割縁部が残存し、面取り(ヘラケズリ)が施されている。ヘラケズリの順番は側面の調整後に凹面側のみ取りである。凸面は細縄タキが施され、凹面は布目が確認できる。それ以外のものは割縁が欠損しわからない。353、361、362は凸面に縄タキが施され、凹面に布目を残す。353、357、358、360、364は縄タキ後にヘラケズリ調整が施されている。356、360一部縄タキ目が残っているがタキ目が深かったため調整が及ばなかったであろう。凹面にはすべて布目が残る。これらの平瓦は、布目の痕跡等から一枚作りで制作されたものと考えられる。

(6) 金属製品

本遺跡からの金属製品の出土は30点で、鉄製品27点、銅製品1点、古銭2点である。365は板状鉄製品で破片の出土で全体は不明だが鐙の一部と考えられる。366は紡錘車で共犯する遺物等から9世紀中～10世紀頃のものと思われる。368～370は棒状鉄製品で、一部分の出土のためはつきりしないが368は鉄鏃のなかご?と思われる。374と375は形状等から棒状鉄製品としたが用途時期は不明である。371は鉄鏃?で西美産鏃片が共犯する1号墓からの出土であり副葬品と思われ、時期は遺物などから12世紀後半と思われる。373の鉄鏃は371より先端が細く形状が異なる。372は刀子である。376鉄鏃、377鉄鏃、378刀子は粘土採掘土坑群からの出土である。埋土上位からの出土であるため具体的な時期については不明だが共犯する遺物等から9世紀以降のものと思われる。379は永楽通宝の模倣銭で1408年以降のものと考えられる。383は銅碗である。破片での出土で全体像ははつきりしない。時期についても共犯する遺物等がないため不明である。385は釘?と思われるが先端部の出土ではつきりとした点は不明である。391の紡錘車は遺構外の出土であるが形状等から366のものと同時期の可能性が高い。393は寛永通宝で四文銭と謂われるものである。

(7) 石器・石製品

本遺跡の石器、石製品の出土は合わせて8点である。砥石3点、石筥3点、石鏃1点、ペンダント石製品1点が出土している。点数が少ないため分類等は行わず、それぞれの特徴について述べていくことにする。

砥石397、398はS110竪坑六住居跡を切るSD106溝跡からの出土である。397は使用面が4面で鋭利な刀物によるものと思われる深い削痕が見られる。石材はホルンフィルスで北上産地のものである。398は使用面が2面あり、石材は凝灰岩で奥羽山脈のものである。398については使用部分が狭い面だけで広い面は使用痕が見られない。時期については、遺構の切り合い関係からこの住居跡よりも新しい時期に当たると考えられる。しかし、開門の際に大きく削平を受けている地区のためS110竪穴住居跡からの流れ込みの可能性も高い。これらのことを鑑みてS110出土の土器が9世紀頃と比定されることから、9世紀頃かそれ以降の時期と推測される。398はSK36号土坑の埋土上位からの出土である。SK36土坑は中国産青磁と常滑産陶器片が底面から出土しており12世紀後半と比定されていることから、12世紀後半以降のものとして推測される。

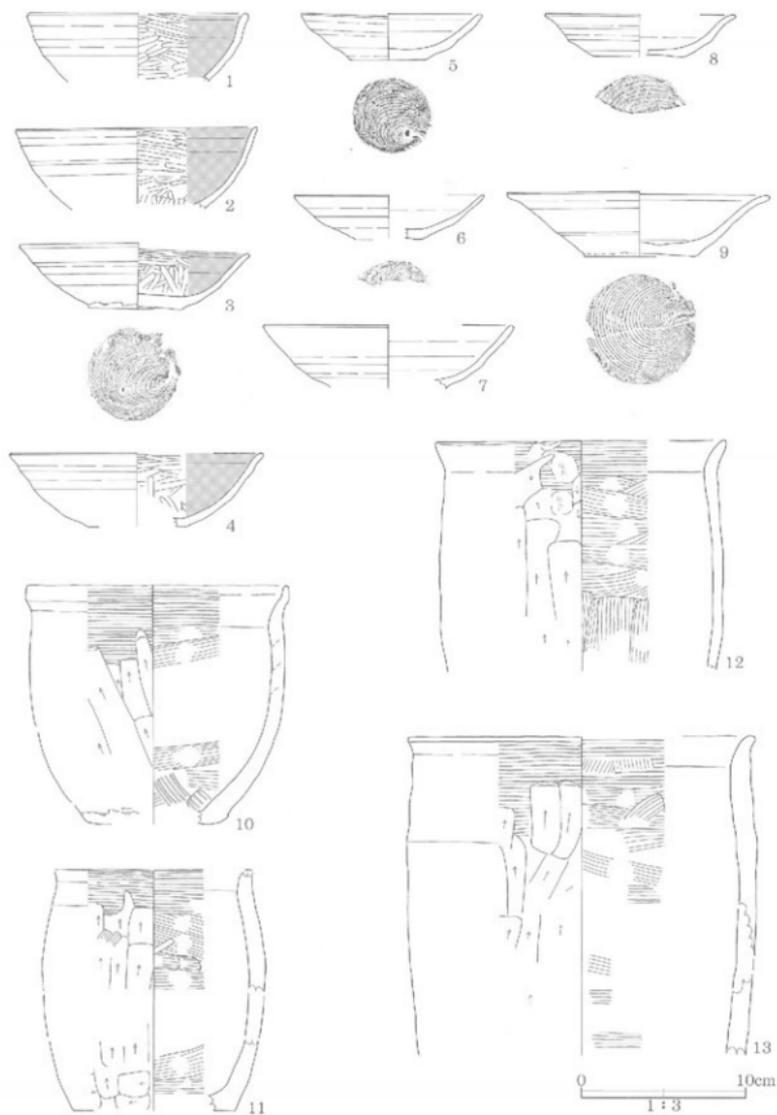
石筥は何れも遺構外からの出土である。396と400は両面に刃部が加工されているが、399については片面の加工があまりされていない。396については欠損しているが、399と400は完形品である。調査区内から出土している縄文土器片等（摩滅がひどく具体的な時期を特定できる部位は出土していない）は肥厚などから縄文後晩期頃のものと思われるが、開田の跡に攪乱を受けているためこれらの遺物が必ずしも出土した縄文土器片の時期に属するとは限らないと思われる。401の有孔石製品は遺構外からの出土である。片面からの有孔痕のみで両面からの加工の痕跡は見られない。孔には削痕などの道具による製作痕が見られず、かなりきれいに孔が開けられている。また、先端の欠損部と思われる部分もきれいに調整されている。石材はヒスイ？とされ産地は新潟県（？）と判定されている。縄文時代のもは制作痕が確認できるものが多く、本遺物にはその痕が確認できない。このことから縄文時代のものではない可能性もあるが、時期については共存する遺物等がないため不明である。402は黒曜石の石鏃、403は同じく黒曜石の石鏃未製品（？）と思われる。

（8）その他の土製品

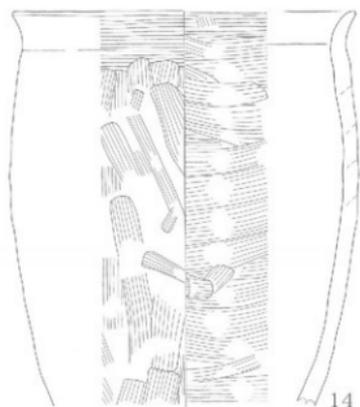
404と405は土鈴である。焼成は共に土師質である。成形技法は二分割成形と一体型成形があるが、接合面が見られないことから、両者は共に一体型成形によるものと思われる。404は穿孔と1孔の鈴口を持つ。405は穿孔は持たず、鈴口は欠損しているため不明である。406は有孔土製品で質感が土師質であり本遺跡から出土している縄文土器片とは土質が異なることから比較的新しい時期のものと思われる。

（9）縄文土器

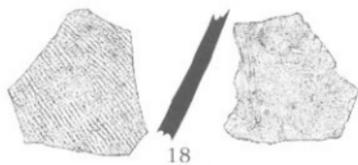
本遺跡からの縄文土器片の出土は合わせて10点である。407～416のほとんどが摩滅し口縁部でも時期が特定できるような部位も出土していないため、詳しい時期については不明である。よって分類はせず拓本での掲載のみに留めたが、土器の肥厚などの特徴から後晩期に属するものと思われる。



第60図 出土遺物(1)



14



18



15



16



17



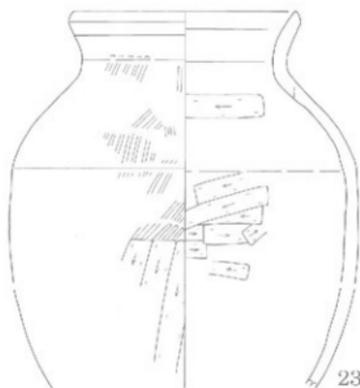
SI07住



22



24



23

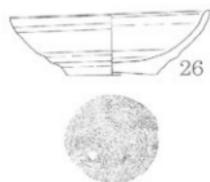


25

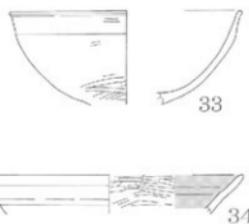
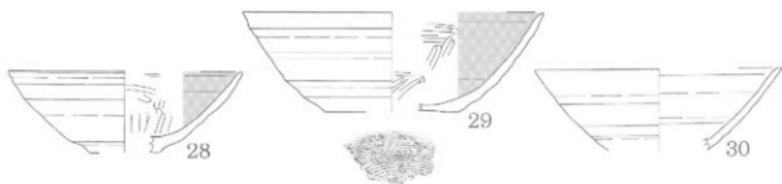


0 1:3 10cm

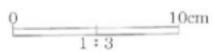
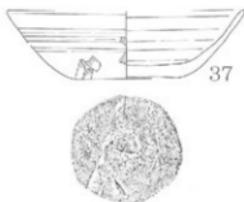
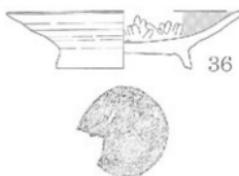
第61圖 出土遺物(2)



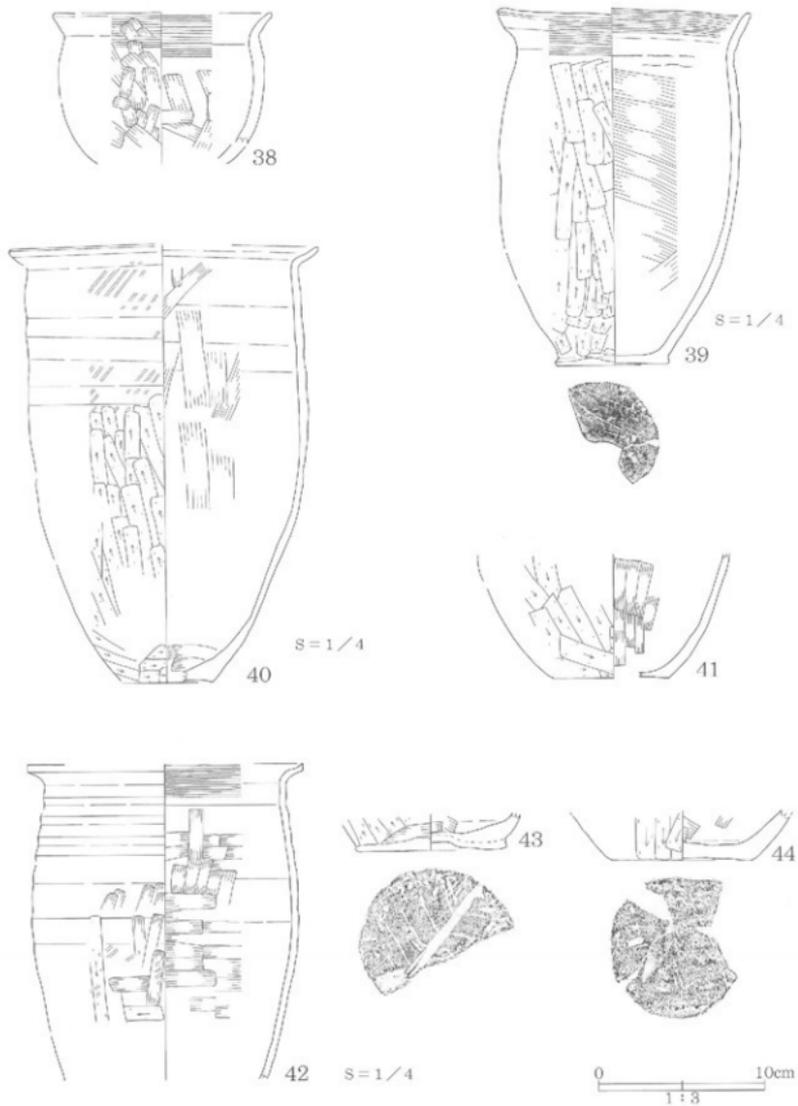
SK101 竪穴状



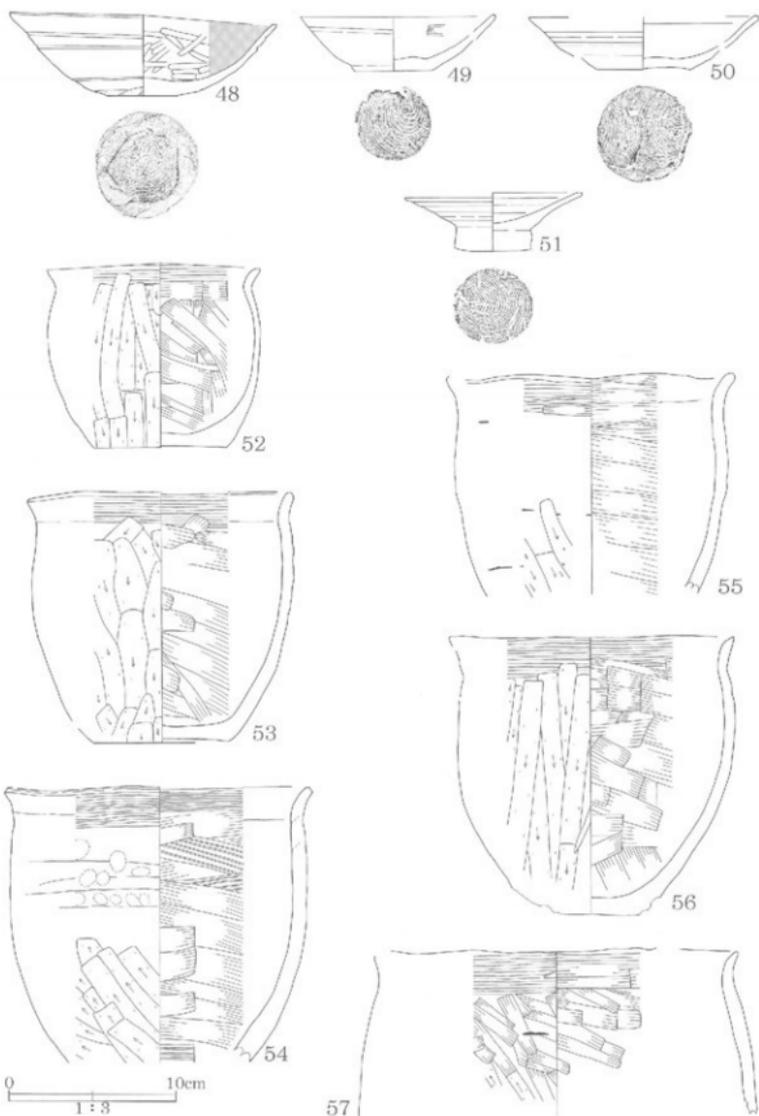
SI10住



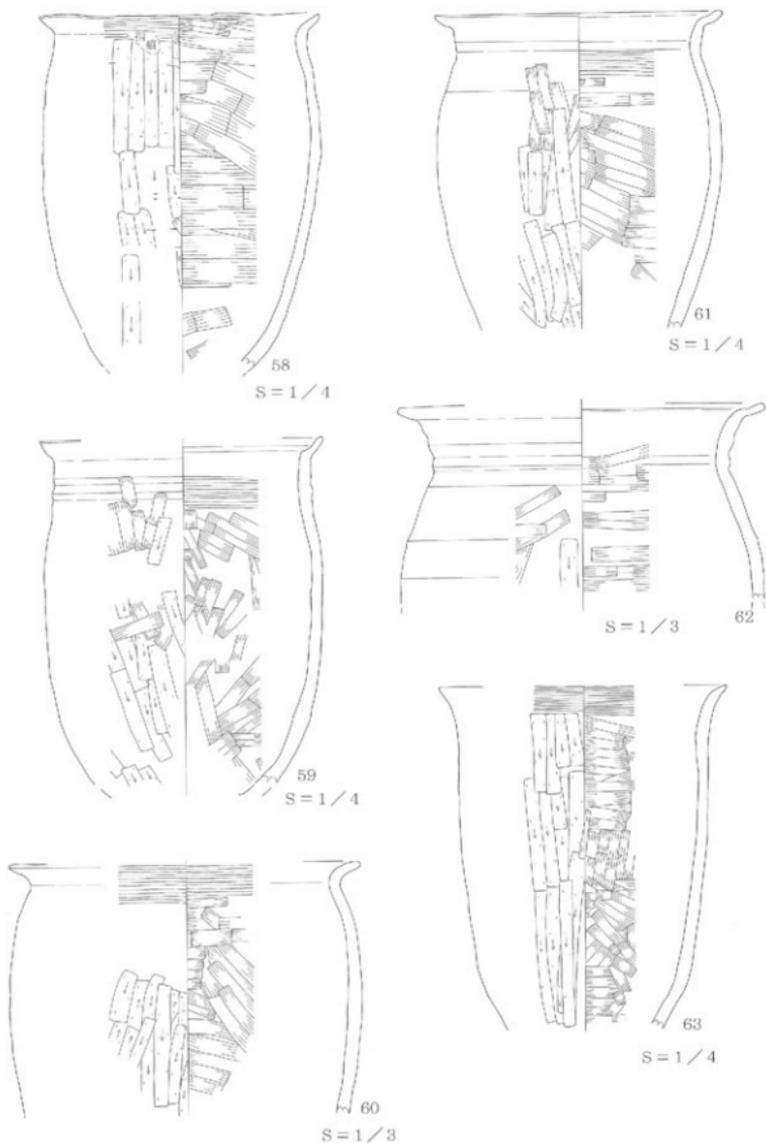
第62図 出土遺物(3)



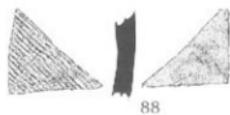
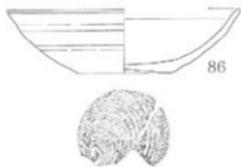
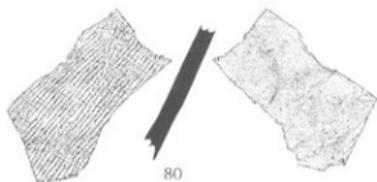
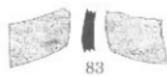
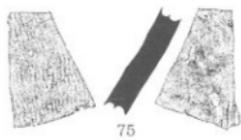
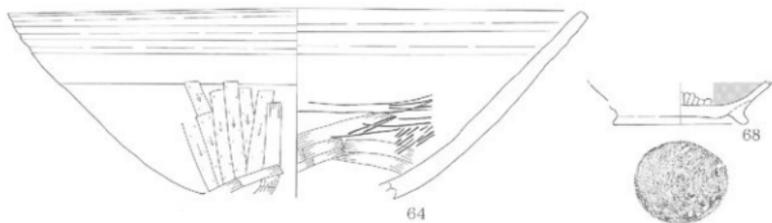
第63圖 出土遺物(4)



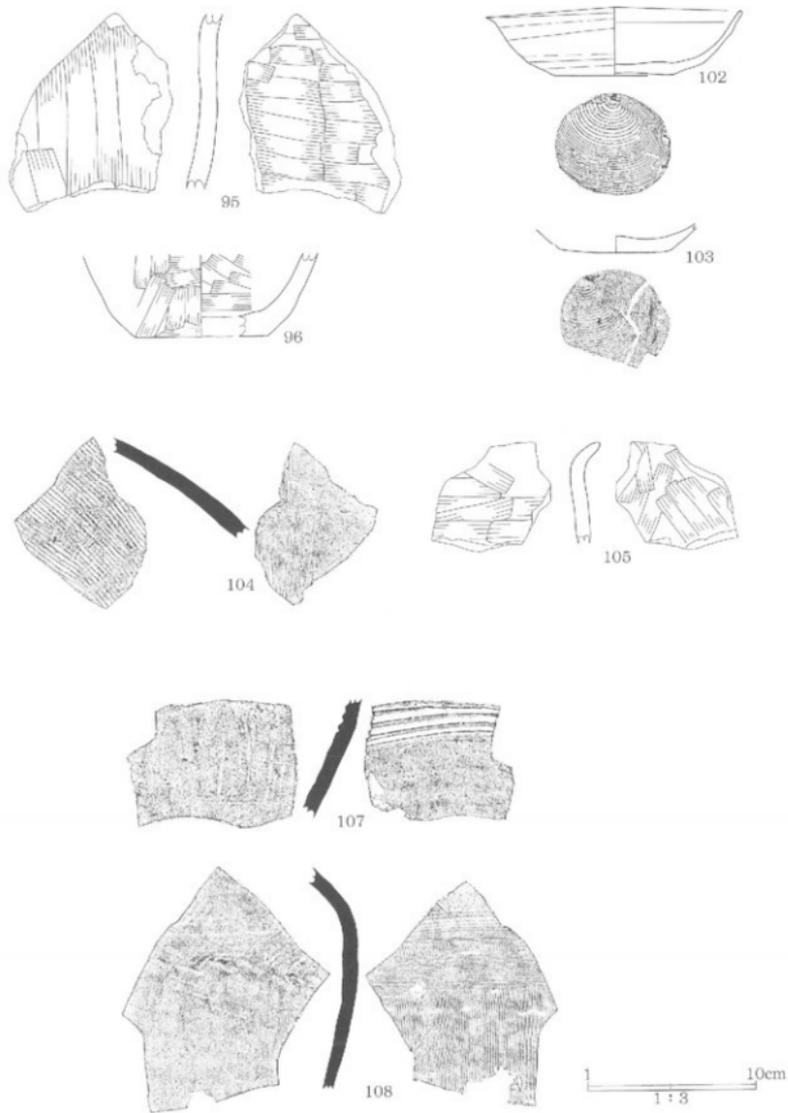
第64図 出土遺物 (5)



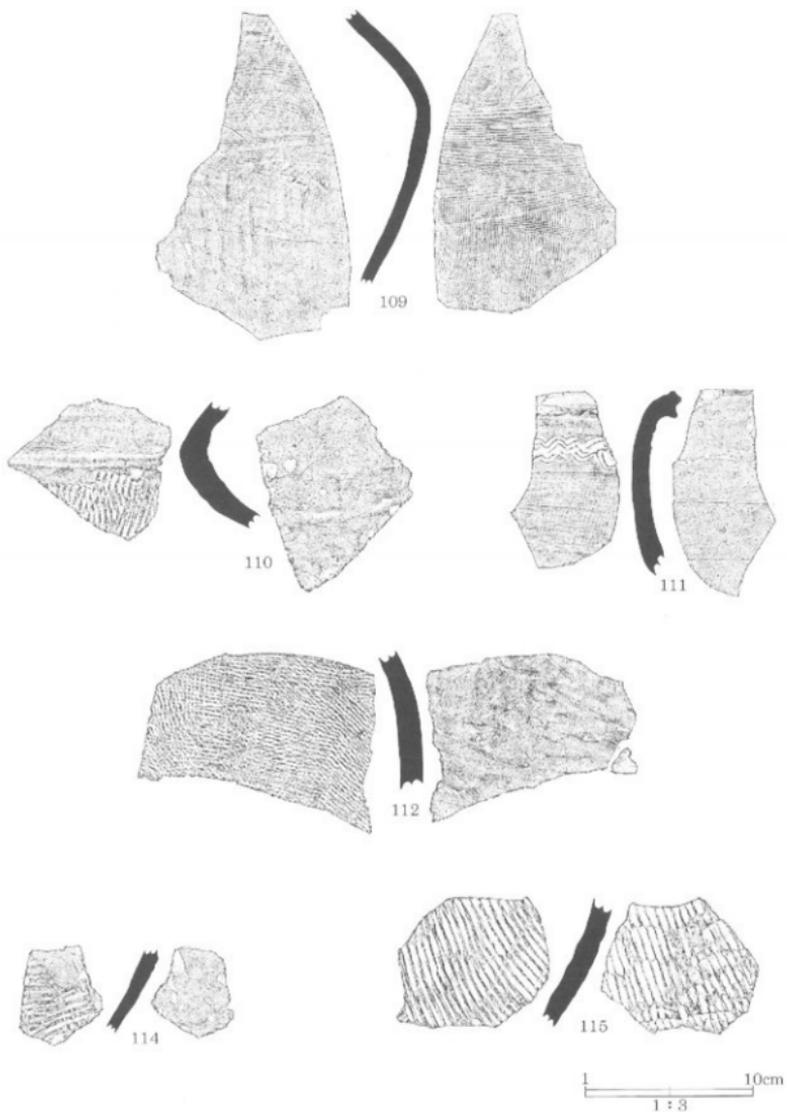
第65図 出土遺物(6)



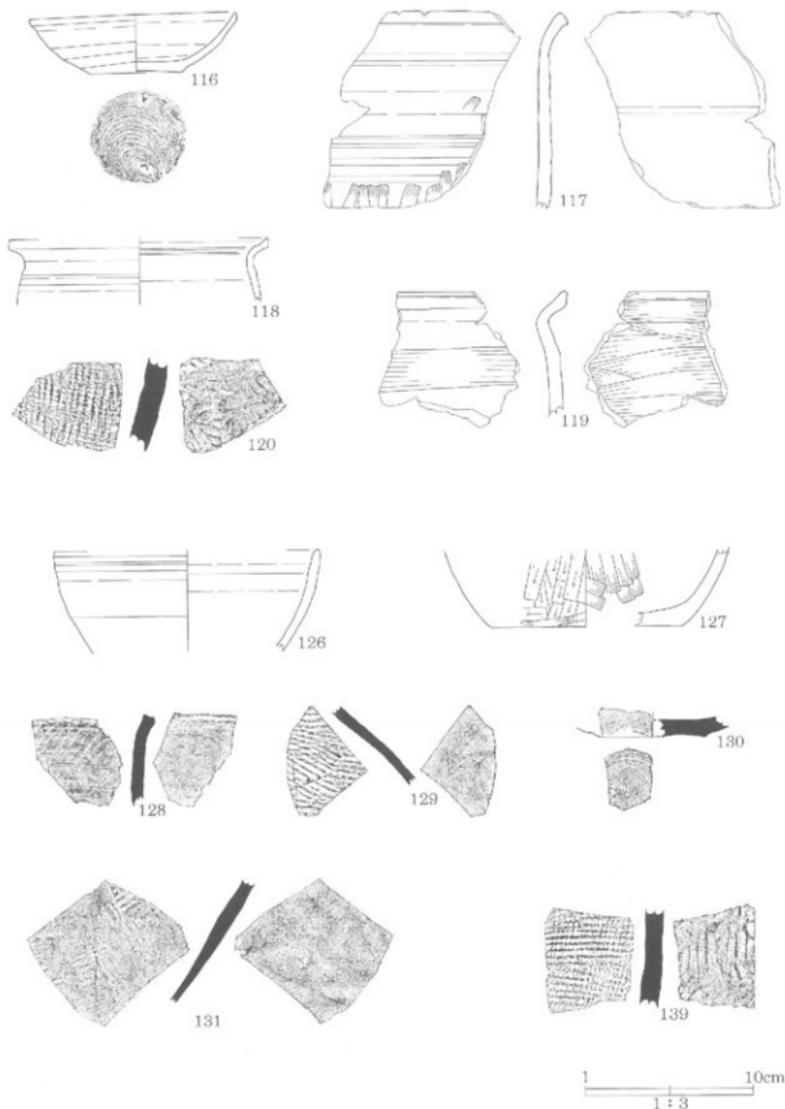
第66図 出土遺物 (7)



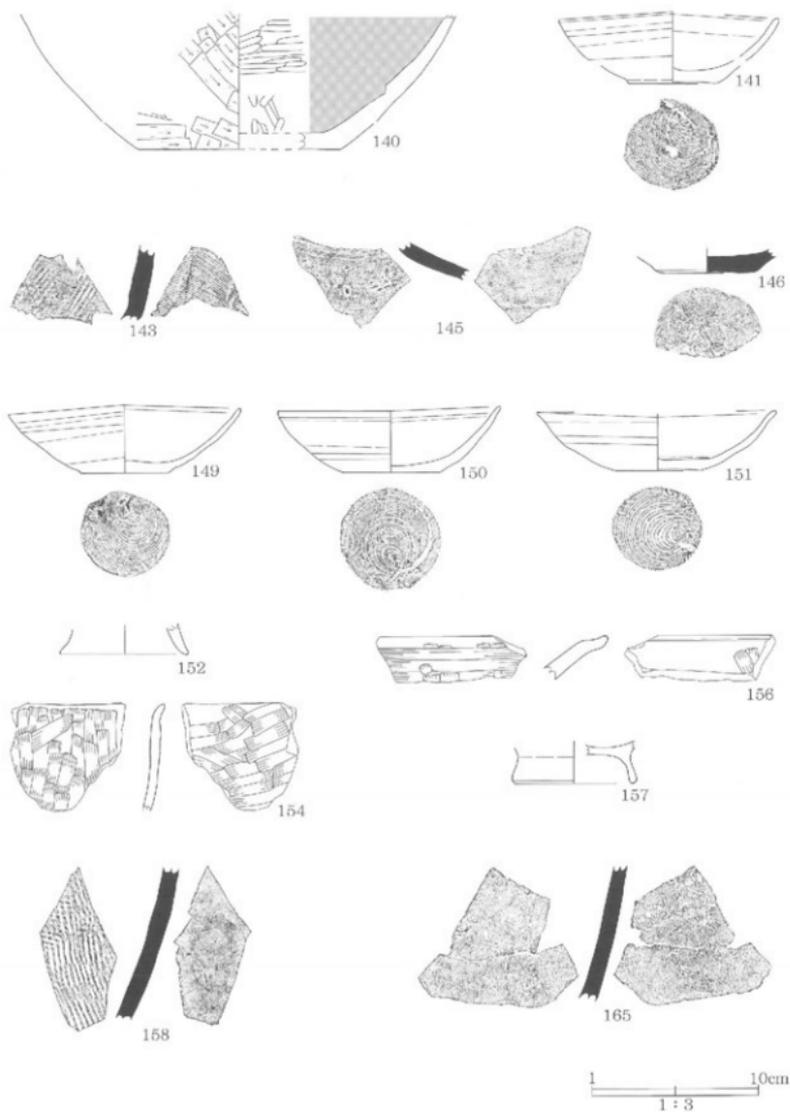
第67図 出土遺物(8)



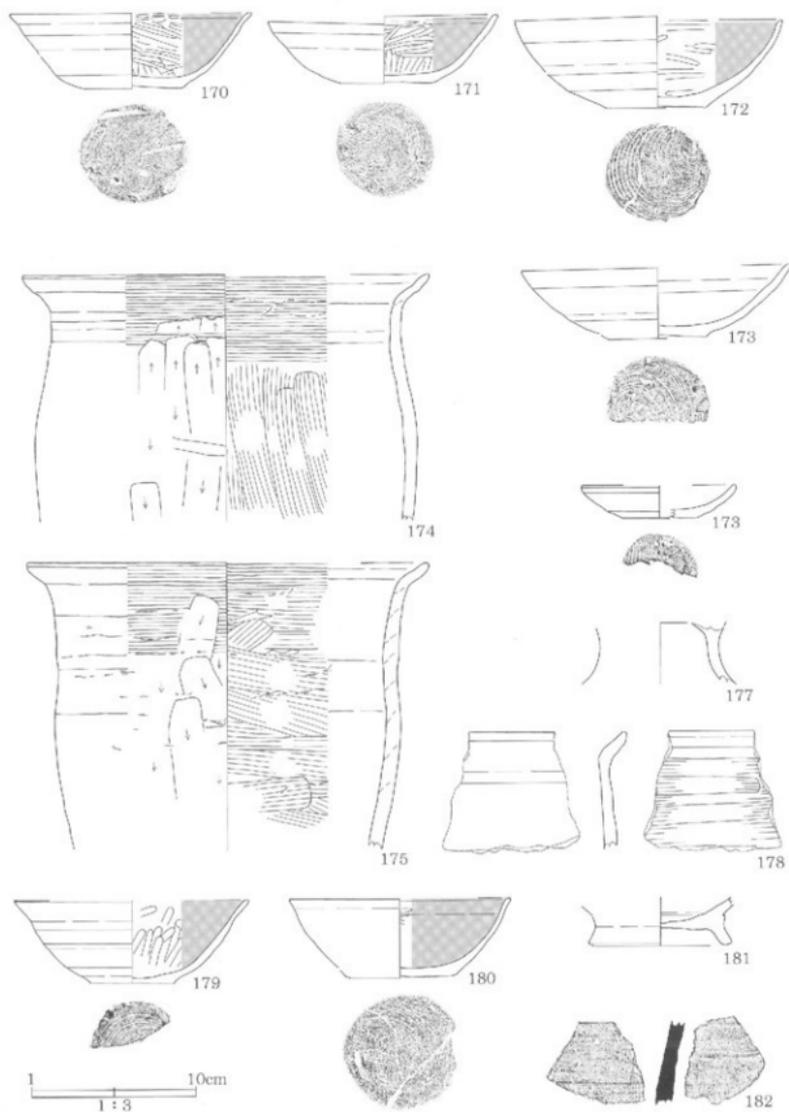
第68図 出土遺物(9)



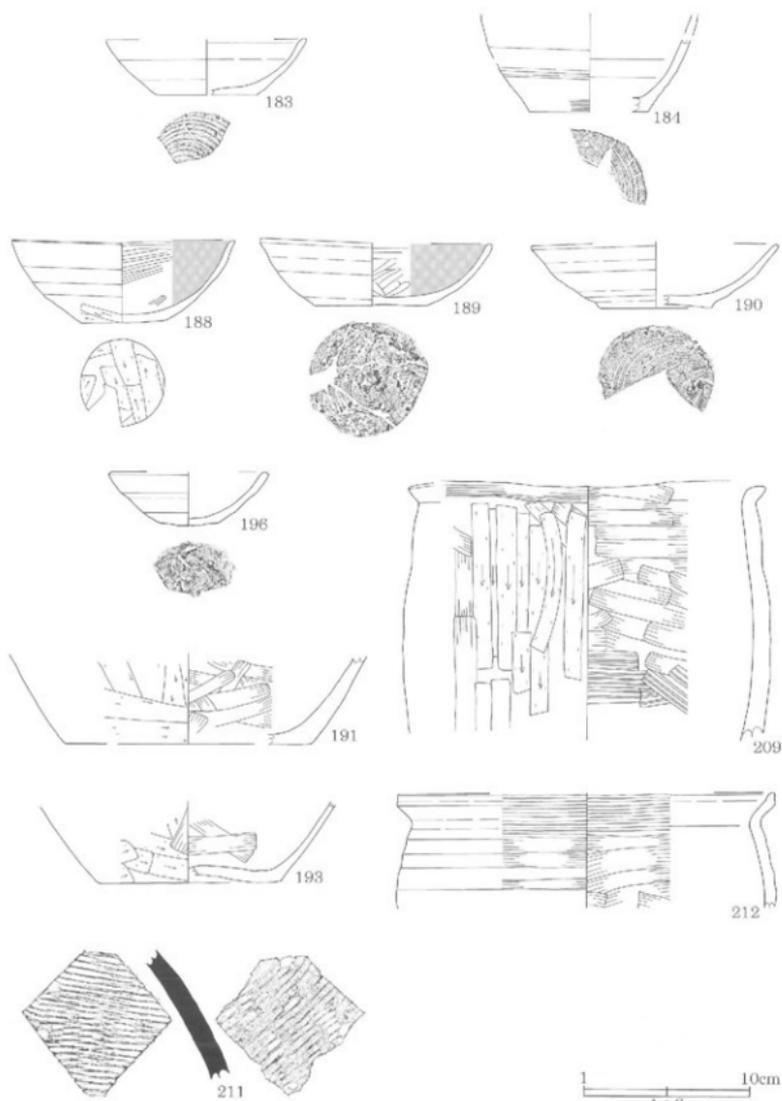
第69図 出土遺物 (10)



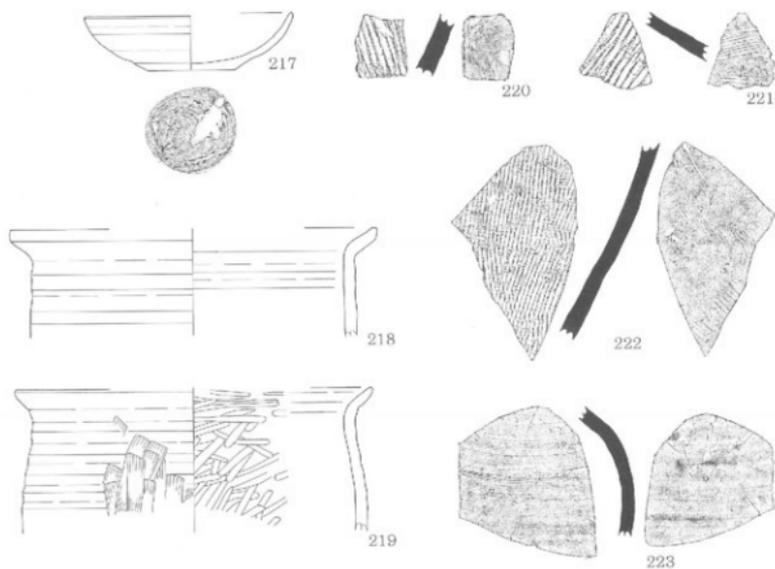
第70図 出土遺物 (11)



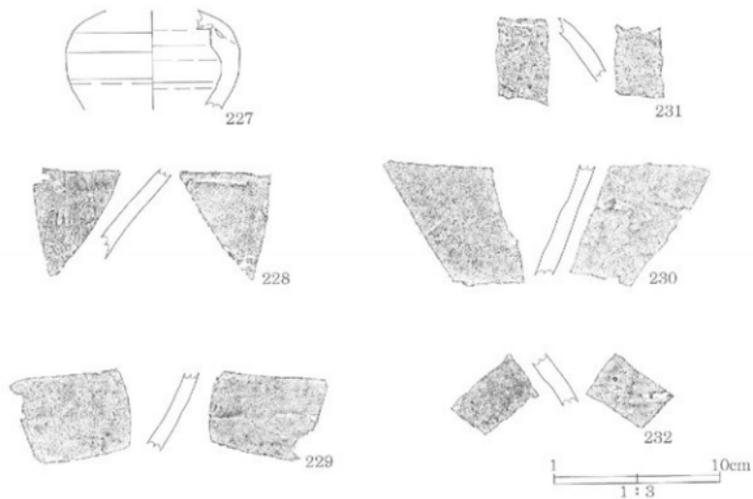
第71圖 出土遺物 (12)



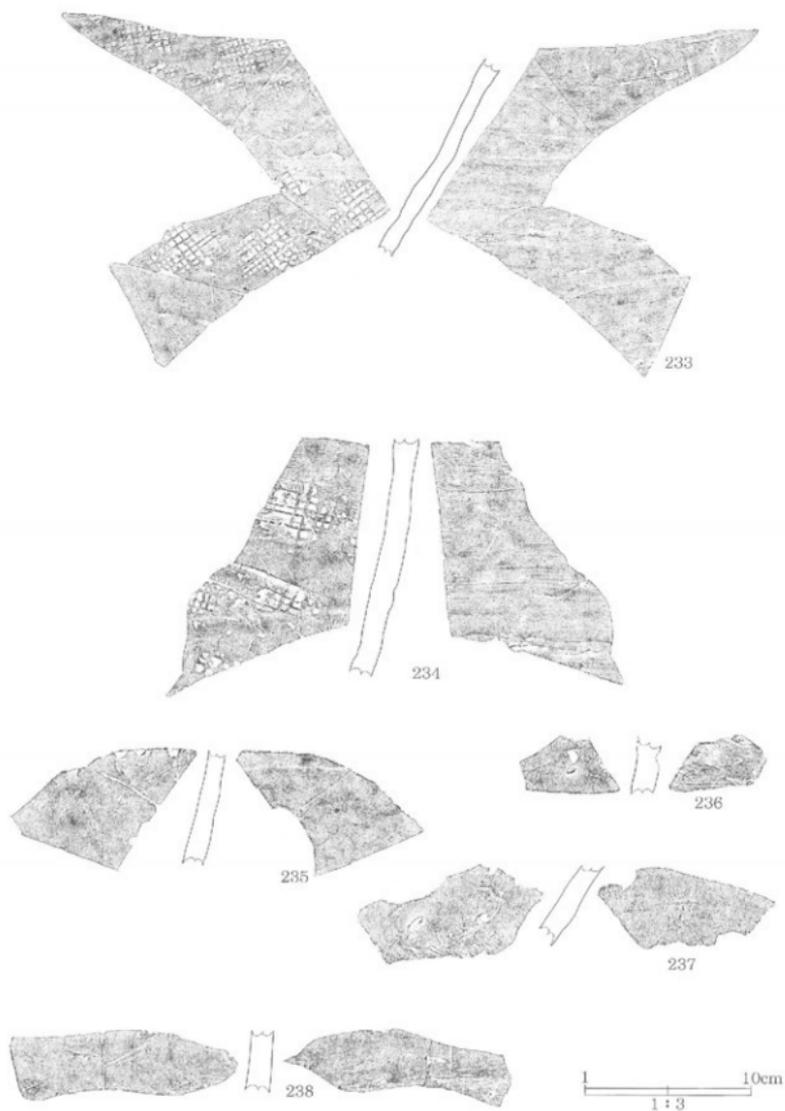
第72図 出土遺物 (13)



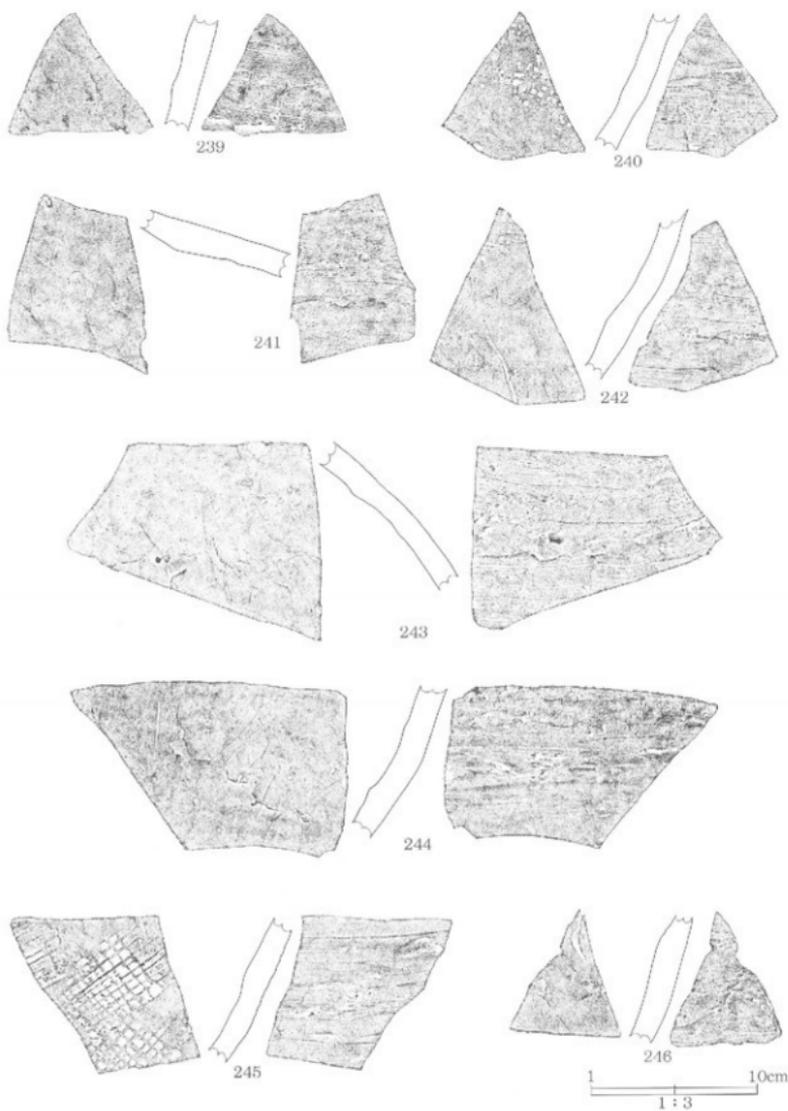
国産陶器



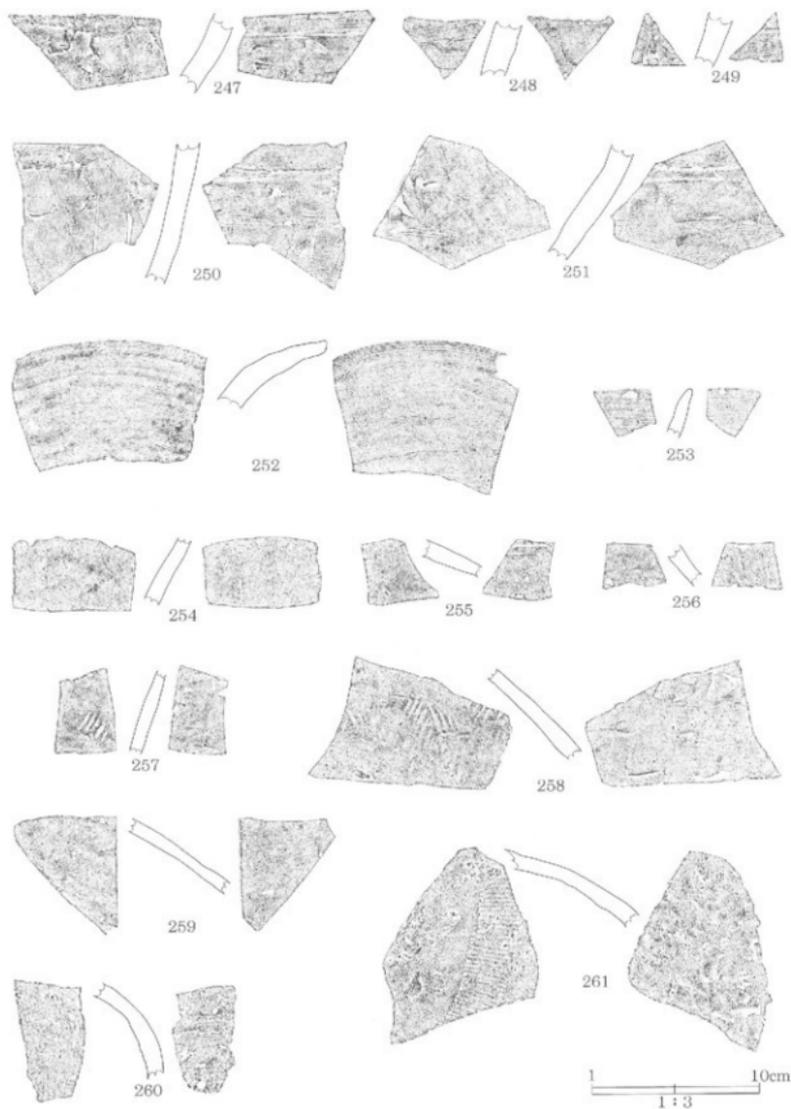
第73図 出土遺物 (14)



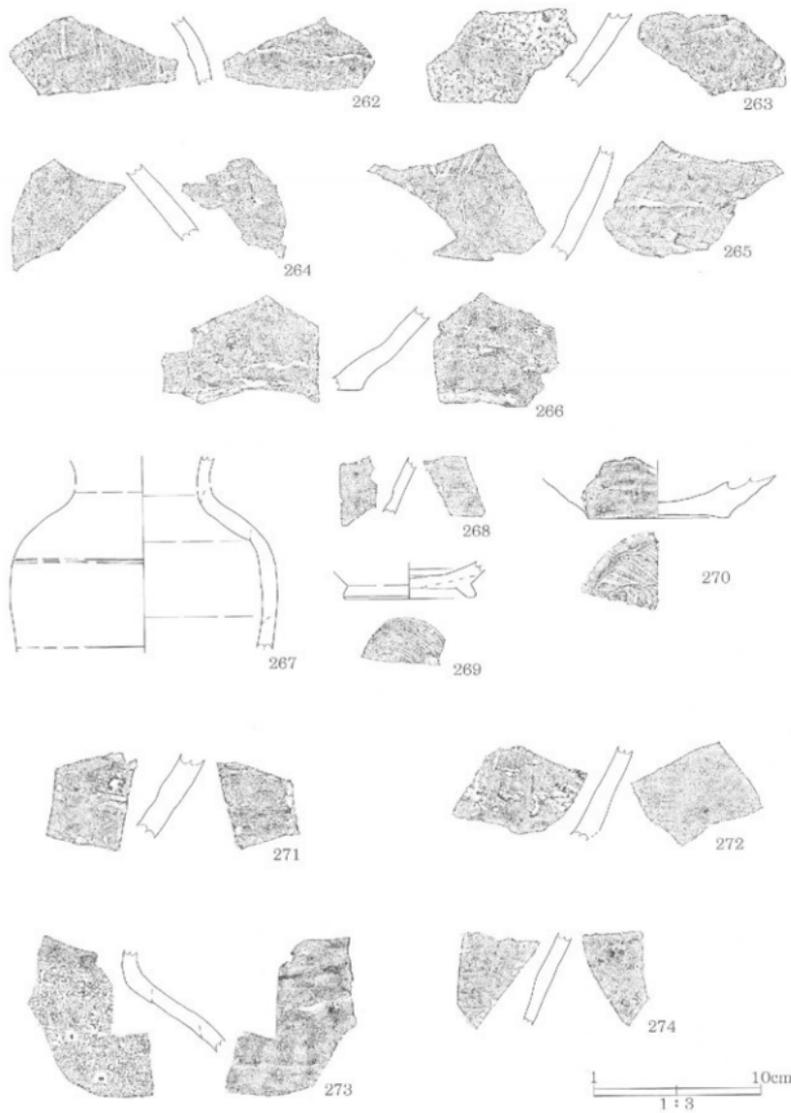
第74図 出土遺物 (15)



第75図 出土遺物 (16)



第76図 出土遺物 (17)



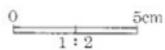
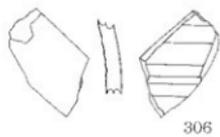
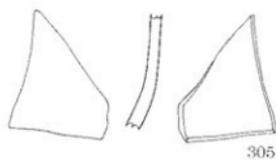
第77図 出土遺物 (18)



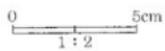
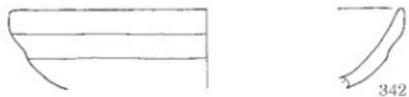
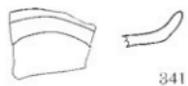
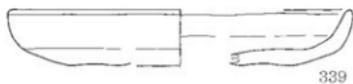
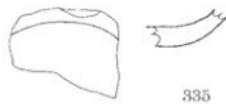
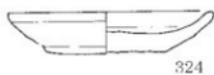
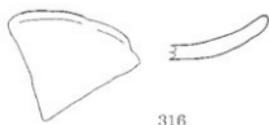
第78図 出土遺物 (19)



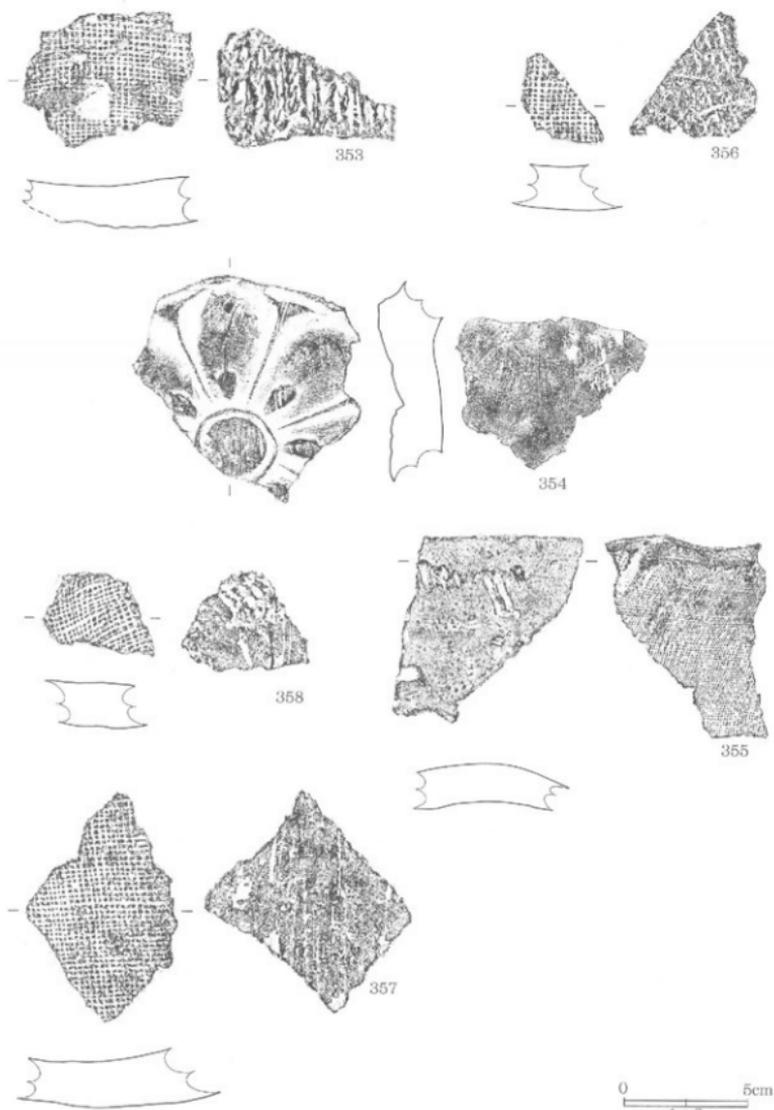
第79図 出土遺物 (20)



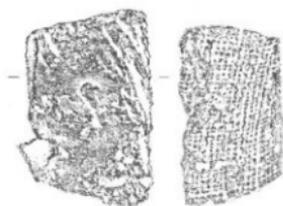
第80图 出土遗物 (21)



第81図 出土遺物 (22)



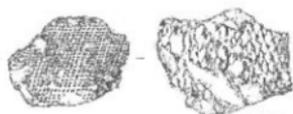
第82回 出土遺物 (23)



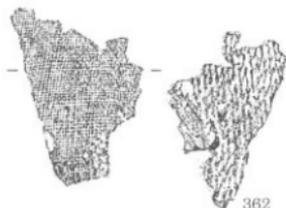
359



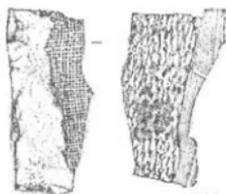
360



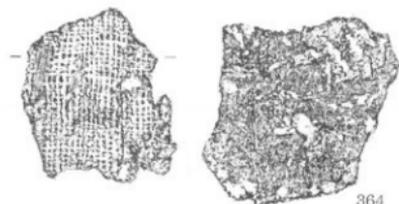
361



362



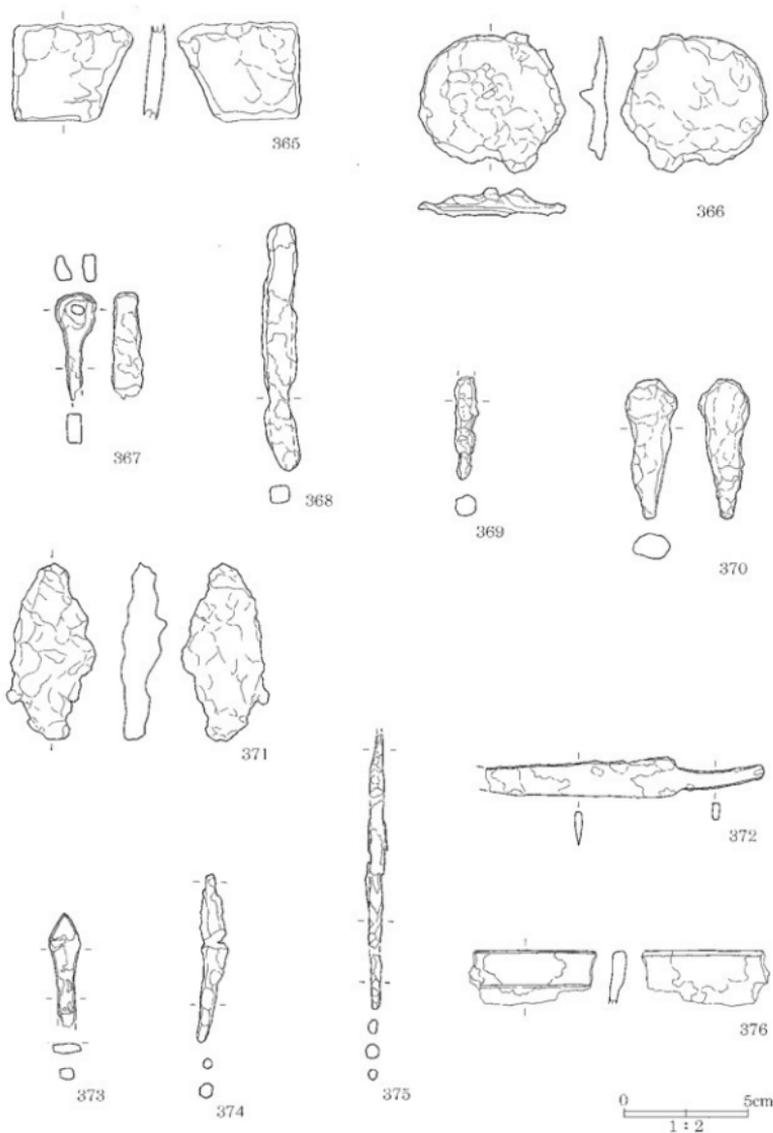
363



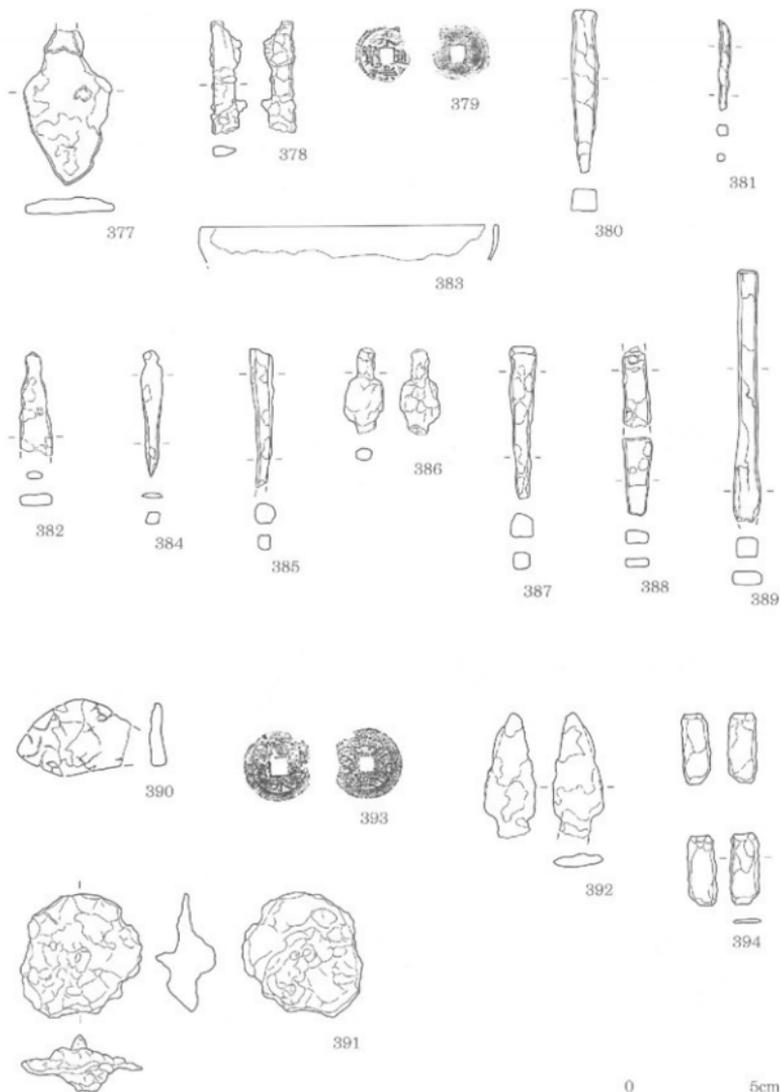
364



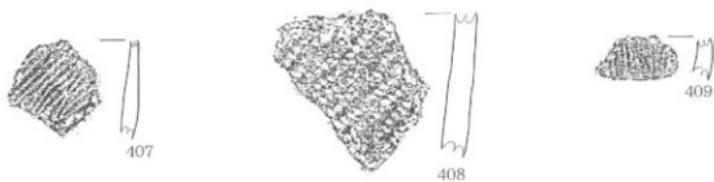
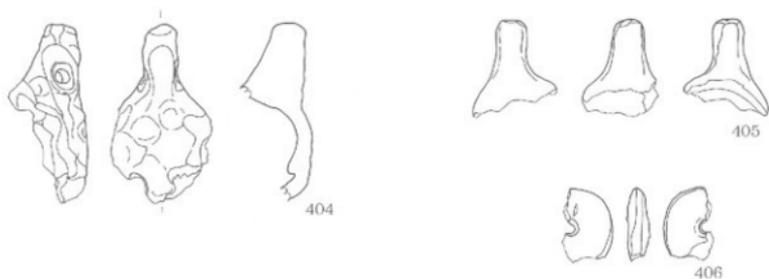
0 5cm
1:2



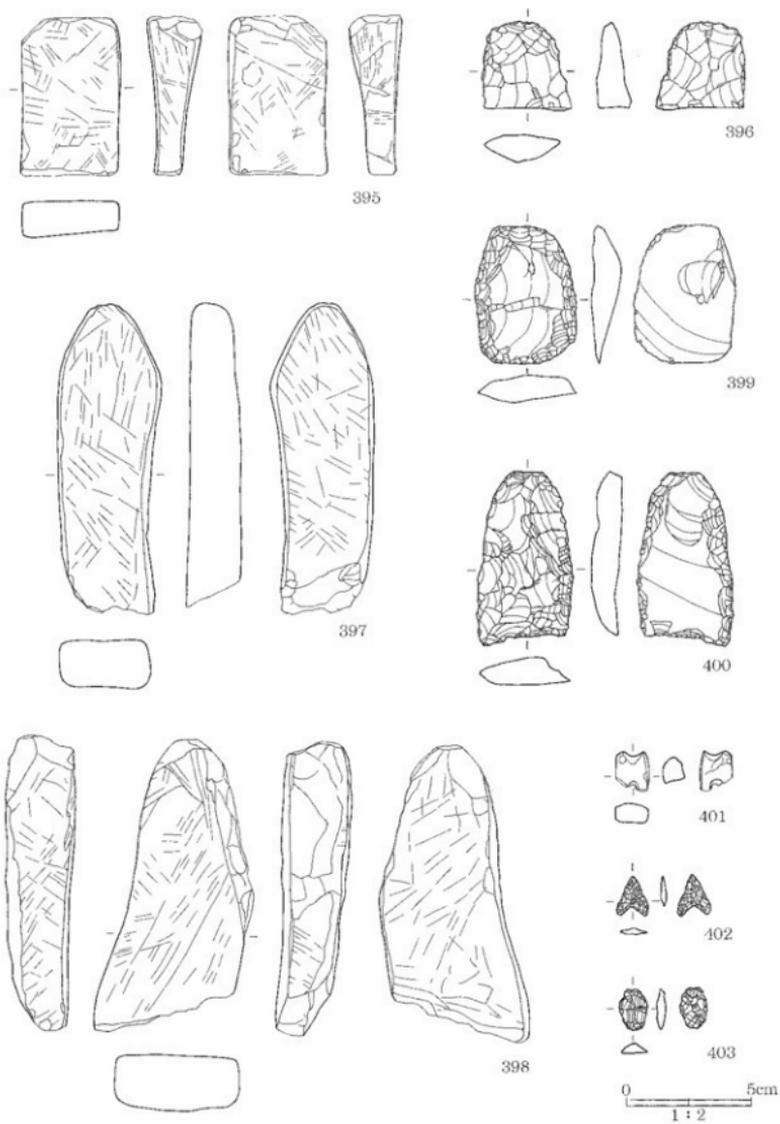
第84図 出土遺物 (25)



第85図 出土遺物 (26)



第86図 出土遺物 (27)



第87图 出土遗物 (28)

士師器製表 (2)

製器番号	品上製造・単位	製材	形状	1階層 (体ノ内)	体蓋 (体ノ外)	基部	口徑	口徑	口徑	分層	備考	原産地
85	SH150中	所	口口口	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	16.0	1.1	4.9	A1.8	基部に階状半月による溝あり。内底面は、階上に等・右側入。多3	70
49	SH150中	所	口口口	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	14.8	4.6	3.2	A1.8	階上に等・右側入。多3	84
50	SH150中	所	口口口	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	12.8	5.8	3.2	A1.8	階上に等・右側入。多3	81
51	SH150中	所	口口口	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	16.0	4.6	3.6	A1.8	階上に等・右側入。多3	81
52	SH150中	所	口口口	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	(12.7)	8.0	11.2	A1.8	基部の左右に階状とされている	91
53	SH150中	所	口口口	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	(17.0)	(5.0)	18.3	A1.8	階上に等・右側入。多3	81
54	SH150中	所	口口口	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	(17.1)	—	15.8	A1.8	—	81
55	SH150中	所	口口口	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	(17.1)	(3.3)	18.7	A1.8	口蓋変形	94
56	SH150中	所	口口口	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	(14.5)	—	16.9	A1.8	口蓋・側面上半	84
57	SH150中	所	口口口	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	22.3	—	(28.9)	A1.8	—	85
58	SH150中	所	口口口	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	(23.0)	—	(29.0)	A1.8	口蓋・側面上半	85
59	SH150中	所	口口口	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	(23.0)	—	11.5	A1.8	口蓋・側面上半	83
60	SH150中	所	口口口	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	(23.0)	—	(25.7)	A1.8	口口口ノ側面に今入り組む部分	85
61	SH150中	所	口口口	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	(22.0)	—	(13)	A1.8	口蓋・側面上半	85
62	SH150中	所	口口口	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	(22.0)	—	(29.0)	A1.8	—	85
63	SH150中	所	口口口	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	(22.0)	—	11.6	A1.8	口蓋部に特殊な目による溝あり	86
64	SH150中	所	口口口	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	24.8	—	—	A1.8	—	89
65	SH150中	所	口口口	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	—	—	—	A1.8	基部下半	—
66	SH150中	所	口口口	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	—	—	—	A1.8	—	89
67	SH150中	所	口口口	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	8.0	12.6	—	A1.8	内底面、口蓋変形あり	86
68	SH150中	所	口口口	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	—	—	—	A1.8	内底面、口蓋変形あり	—
69	SH150中	所	口口口	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	—	—	—	A1.8	口蓋変形あり	89
70	SH150中	所	口口口	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	—	—	—	A1.8	口蓋変形あり	89
71	SH150中	所	口口口	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	—	—	—	A1.8	口蓋変形あり	89
72	SH150中	所	口口口	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	—	—	—	A1.8	口蓋変形あり	89
73	SH150中	所	口口口	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	—	—	—	A1.8	口蓋変形あり	89
74	SH150中	所	口口口	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	—	—	—	A1.8	口蓋変形あり	89
75	SK33中	所	口口口	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	—	—	—	A1.8	口蓋変形あり	86
76	SK33中	所	口口口	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	—	—	—	A1.8	口蓋変形あり	86
77	SK33中	所	口口口	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	—	—	—	A1.8	口蓋変形あり	86
78	SK33中	所	口口口	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	—	—	—	A1.8	口蓋変形あり	86
79	SK33中	所	口口口	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	—	—	—	A1.8	口蓋変形あり	86
80	SK33中	所	口口口	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	—	—	—	A1.8	口蓋変形あり	86
81	SK33中	所	口口口	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	—	—	—	A1.8	口蓋変形あり	86
82	SK33中	所	口口口	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	—	—	—	A1.8	口蓋変形あり	86
83	SK33中	所	口口口	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	—	—	—	A1.8	口蓋変形あり	86
84	SK33中	所	口口口	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	—	—	—	A1.8	口蓋変形あり	86
85	SK33中	所	口口口	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	—	—	—	A1.8	口蓋変形あり	86
86	SK33中	所	口口口	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	—	—	—	A1.8	口蓋変形あり	86
87	SK33中	所	口口口	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	—	—	—	A1.8	口蓋変形あり	86
88	SK33中	所	口口口	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	—	—	—	A1.8	口蓋変形あり	86
89	SK33中	所	口口口	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	—	—	—	A1.8	口蓋変形あり	86
90	SK33中	所	口口口	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	—	—	—	A1.8	口蓋変形あり	86
91	SK33中	所	口口口	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	—	—	—	A1.8	口蓋変形あり	86
92	SK33中	所	口口口	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	—	—	—	A1.8	口蓋変形あり	86
93	SK33中	所	口口口	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	—	—	—	A1.8	口蓋変形あり	86
94	SK33中	所	口口口	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	口口口ノ、口口口ノ	—	—	—	A1.8	口蓋変形あり	86

土師器製表 (3)

器種番号	出土位置・塚名	経緯	形状	口縁部(高/内)	体部(高/内)	底径	口径	底径	器高	分級	備考	図番	頁
95	山土師墓	北	丸	—	ハタケリ・ハタケリ	—	—	—	(8.0) (14.0)	—	口縁部のみ	97	70
96	SK178中4	南	丸	—	ハタケリ・ハタケリ	—	—	—	—	—	口縁部のみ	97	70
97	SK178中4	南	丸	—	ハタケリ・ハタケリ	—	—	—	—	—	口縁部のみ	97	70
98	SK178中4	南	丸	—	ハタケリ・ハタケリ	—	—	—	—	—	口縁部のみ	97	70
99	SK178中4	南	丸	—	ハタケリ・ハタケリ	—	—	—	—	—	口縁部のみ	97	70
100	SK178中4	南	丸	—	ハタケリ・ハタケリ	—	—	—	—	—	口縁部のみ	97	70
101	SK178中4	南	丸	—	ハタケリ・ハタケリ	—	—	—	—	—	口縁部のみ	97	70
102	SK183中1	北	丸	口ノナリ	口ノナリ	口縁部のみ	—	—	—	A1B	口縁部のみ	67	70
103	SK183中1	北	丸	口ノナリ	口ノナリ	口縁部のみ	11.3	7.2	4.2	A1B	口縁部のみ	67	70
104	SK183中1	北	丸	口ノナリ	口ノナリ	口縁部のみ	—	8.4	11.0	A1B	口縁部のみ	67	70
105	SK598中1	南	丸	口ノナリ	口ノナリ	口縁部のみ	—	—	—	B	口縁部のみ	67	70
106	SK598中1	南	丸	口ノナリ	口ノナリ	口縁部のみ	—	—	—	A1B	口縁部のみ	67	70
107	SK598中1	南	丸	口ノナリ	口ノナリ	口縁部のみ	—	—	—	A1B	口縁部のみ	67	70
108	SK598中1	南	丸	口ノナリ	口ノナリ	口縁部のみ	—	—	—	A1B	口縁部のみ	67	70
109	SK668中1	南	丸	—	—	—	—	—	—	—	口縁部による器型?	67	70
110	SK668中1	南	丸	—	—	—	—	—	—	—	口縁部による器型?	67	70
111	SK683中4	南	丸	口ノナリ	口ノナリ	口縁部のみ	—	—	—	B	2.1と同 器体	68	71
112	SK683中4	南	丸	口ノナリ	口ノナリ	口縁部のみ	—	—	—	B	口縁部に表相付録文	68	71
113	SK708中4	南	丸	口ノナリ	口ノナリ	口縁部のみ	—	—	—	B	口縁部	68	71
114	SK708中4	南	丸	口ノナリ	口ノナリ	口縁部のみ	—	—	—	A1B	口縁部	68	71
115	SK708中4	南	丸	口ノナリ	口ノナリ	口縁部のみ	—	—	—	B	口縁部	68	71
116	SK728中1	南	丸	口ノナリ	口ノナリ	口縁部のみ	—	—	—	B	口縁部	68	71
117	SK728中1	南	丸	口ノナリ	口ノナリ	口縁部のみ	13.4	5.7	3.7	A1B	口縁部	69	71
118	SK728中1	南	丸	口ノナリ	口ノナリ	口縁部のみ	(14.0)	—	—	A1B	口縁部	69	71
119	SK728中1	南	丸	口ノナリ	口ノナリ	口縁部のみ	—	—	—	(14.0)	口縁部	69	71
120	SK728中1	南	丸	口ノナリ	口ノナリ	口縁部のみ	—	—	—	B	口縁部	69	71
121	SK728中1	南	丸	口ノナリ	口ノナリ	口縁部のみ	—	—	—	B	口縁部	69	71
122	SK728中1	南	丸	口ノナリ	口ノナリ	口縁部のみ	—	—	—	A1B	口縁部	69	71
123	SK728中1	南	丸	口ノナリ	口ノナリ	口縁部のみ	—	—	—	A1B	口縁部	69	71
124	SK728中1	南	丸	口ノナリ	口ノナリ	口縁部のみ	—	—	—	A1B	口縁部	69	71
125	SK728中1	南	丸	口ノナリ	口ノナリ	口縁部のみ	—	—	—	A1B	口縁部	69	71
126	SK728中1	南	丸	口ノナリ	口ノナリ	口縁部のみ	—	—	—	A1B	口縁部	69	71
127	SK728中1	南	丸	口ノナリ	口ノナリ	口縁部のみ	—	—	—	A1B	口縁部	69	71
128	SK728中1	南	丸	口ノナリ	口ノナリ	口縁部のみ	—	—	—	A1B	口縁部	69	71
129	SK728中1	南	丸	口ノナリ	口ノナリ	口縁部のみ	—	—	—	A1B	口縁部	69	71
130	SK728中1	南	丸	口ノナリ	口ノナリ	口縁部のみ	—	—	—	A1B	口縁部	69	71
131	SK728中1	南	丸	口ノナリ	口ノナリ	口縁部のみ	—	—	—	A1B	口縁部	69	71
132	SK728中1	南	丸	口ノナリ	口ノナリ	口縁部のみ	—	—	—	A1B	口縁部	69	71
133	SK728中1	南	丸	口ノナリ	口ノナリ	口縁部のみ	—	—	—	A1B	口縁部	69	71
134	SK728中1	南	丸	口ノナリ	口ノナリ	口縁部のみ	—	—	—	A1B	口縁部	69	71
135	SK728中1	南	丸	口ノナリ	口ノナリ	口縁部のみ	—	—	—	A1B	口縁部	69	71
136	SK728中1	南	丸	口ノナリ	口ノナリ	口縁部のみ	—	—	—	A1B	口縁部	69	71
137	SK728中1	南	丸	口ノナリ	口ノナリ	口縁部のみ	—	—	—	A1B	口縁部	69	71
138	SK728中1	南	丸	口ノナリ	口ノナリ	口縁部のみ	—	—	—	A1B	口縁部	69	71
139	SK728中1	南	丸	口ノナリ	口ノナリ	口縁部のみ	—	—	—	A1B	口縁部	69	71
140	SK885中1	南	丸	口ノナリ	口ノナリ	口縁部のみ	—	—	—	A1C	口縁部	69	71
141	SK885中1	南	丸	口ノナリ	口ノナリ	口縁部のみ	13.2	3.2	4.4	A1B	口縁部	70	72

土師器観覧表 (5)

観覧番号	山手地区・単位	器種	成用	口縁出(外/内)	体部(外/内)	底面	口縁出 (14.9)	底径出 (13.0)	高さ (14.1)	分類	備考	図録 72	写真 73
189	V F 上 J	杯	コソロ	コソロ子・ミナキ	コソロ子・ミナキ	凹底底切	14.1	2.0	4.1	A1 a	内底凹底		
190	V F 上 J	杯	コソロ	コソロ子・コソロ子	コソロ子・コソロ子	凹底底切	14.1	0.9	4.0	A1 a			
191	V F 上 J	?					(13.0)	(5.4)			底面 底面		
193	V F 上 J	罎	非コソロ子	コソロ子・コソロ子	コソロ子・コソロ子	凹底底切				A1 b	底面 底面		
194	V F 上 J	罎	非コソロ子	コソロ子・コソロ子	コソロ子・コソロ子	凹底底切				A1 a	底面 底面		
195	V F 上 J	罎	非コソロ子	コソロ子・コソロ子	コソロ子・コソロ子	凹底底切				A1 b	底面 底面		
196	V F 上 J	罎	コソロ	コソロ子・コソロ子	コソロ子・コソロ子	凹底底切				A1 a	底面 底面		
197	V F 上 J	罎	コソロ	コソロ子・コソロ子	コソロ子・コソロ子	凹底底切				A1 b	底面 底面		
198	V F 上 J	罎	コソロ	コソロ子・コソロ子	コソロ子・コソロ子	凹底底切				A1 b	底面 底面		
199	V F 上 J	罎	コソロ	コソロ子・コソロ子	コソロ子・コソロ子	凹底底切				A1 b	底面 底面		
200	V F 上 J	罎	コソロ	コソロ子・コソロ子	コソロ子・コソロ子	凹底底切				A1 a	底面 底面		
202	V F 上 J	罎	コソロ	コソロ子・コソロ子	コソロ子・コソロ子	凹底底切				A1 b	底面 底面		
203	V F 上 J	罎	コソロ	コソロ子・コソロ子	コソロ子・コソロ子	凹底底切				A1 b	底面 底面		
204	V F 上 J	罎	コソロ	コソロ子・コソロ子	コソロ子・コソロ子	凹底底切				A1 b	底面 底面		
205	V F 上 J	罎	コソロ	コソロ子・コソロ子	コソロ子・コソロ子	凹底底切				A1 b	底面 底面		
206	V F 上 J	罎	コソロ	コソロ子・コソロ子	コソロ子・コソロ子	凹底底切				A1 d	底面 底面		
207	V F 上 J	罎	コソロ	コソロ子・コソロ子	コソロ子・コソロ子	凹底底切				B	底面 底面		
208	V F 上 J	罎	コソロ	コソロ子・コソロ子	コソロ子・コソロ子	凹底底切				A1 a	底面 底面		
209	V F 上 J	罎	コソロ	コソロ子・コソロ子	コソロ子・コソロ子	凹底底切				A1 a	底面 底面		
210	V F 上 J	罎	コソロ	コソロ子・コソロ子	コソロ子・コソロ子	凹底底切	(6.6)	3.0	3.4	B			
211	V F 上 J	罎	コソロ	コソロ子・コソロ子	コソロ子・コソロ子	凹底底切	(2.7)			A1 b			
212	V F 上 J	罎	コソロ	コソロ子・コソロ子	コソロ子・コソロ子	凹底底切				A1 b			
213	V F 上 J	罎	コソロ	コソロ子・コソロ子	コソロ子・コソロ子	凹底底切				A1 b			
214	V F 上 J	罎	コソロ	コソロ子・コソロ子	コソロ子・コソロ子	凹底底切				A1 b			
215	V F 上 J	罎	コソロ	コソロ子・コソロ子	コソロ子・コソロ子	凹底底切				A1 b			
216	V F 上 J	罎	コソロ	コソロ子・コソロ子	コソロ子・コソロ子	凹底底切				A1 b			
217	V F 上 J	罎	コソロ	コソロ子・コソロ子	コソロ子・コソロ子	凹底底切				A1 a			
218	V F 上 J	罎	コソロ	コソロ子・コソロ子	コソロ子・コソロ子	凹底底切	15.5	5.1	3.5	A1 a			
219	V F 上 J	罎	コソロ	コソロ子・コソロ子	コソロ子・コソロ子	凹底底切	(22.0)	-	6.7	A1 b			
220	V F 上 J	罎	コソロ	コソロ子・コソロ子	コソロ子・コソロ子	凹底底切	(11.5)	-	5.8	A1 d			
221	V F 上 J	罎	コソロ	コソロ子・コソロ子	コソロ子・コソロ子	凹底底切				B			
222	V F 上 J	罎	コソロ	コソロ子・コソロ子	コソロ子・コソロ子	凹底底切				B			
223	V F 上 J	罎	コソロ	コソロ子・コソロ子	コソロ子・コソロ子	凹底底切				B			
224	V F 上 J	罎	コソロ	コソロ子・コソロ子	コソロ子・コソロ子	凹底底切				B			
225	V F 上 J	罎	コソロ	コソロ子・コソロ子	コソロ子・コソロ子	凹底底切				A1 d			
226	V F 上 J	罎	コソロ	コソロ子・コソロ子	コソロ子・コソロ子	凹底底切				A1 d			

第5表 国産陶磁器観察表(1)

国産番号	種類	銘柄	出土地点	層位	部位	色調	時期	備考	回数	写真
227	不明	長頸瓶	SI10	壇上中	肩部~胴部	にぶい黄緑			73	74
228	常滑	壺?	SI10	壇上上位	肩部	赤褐色	12c	緑釉飛沫	73	74
229	常滑	壺	SI11	壇上上位	肩部	灰	12c	緑釉飛沫	73	74
230	常滑	壺	SK96	底面	胴部	オリーブ灰	12c	緑釉	75	71
231	常滑	壺	SK37	壇上中~上位	胴部	灰白	12c		73	74
232	常滑	壺	SK47	壇上中	胴部	暗オリーブ	12c		73	71
233	常滑	壺	SK57	壇上中~上位	胴部	にぶい黄褐色	12c	押印文有	74	74
233	常滑	壺	SK57	壇上中~下位	胴部	にぶい黄褐色	12c	11と同一器体	74	74
233	常滑	壺	SK57	壇上中~上位	胴部	灰黄褐色	12c	押印有、11と同、胴体	71	74
233	常滑	壺	SK57	壇上中~下位	胴部	にぶい黄褐色	12c	11と同一器体	74	74
233	常滑	壺	SK57	壇上中~上位	胴部	にぶい黄褐色	12c	押印文有	71	74
234	常滑	壺	SK57	壇上中~上位	胴部	にぶい黄褐色	12c	押印文有	74	74
235	常滑	壺	SK57	壇上中~下位	胴部	灰黄褐色	12c		71	74
236	常滑	壺	SK57	壇上中~下位	胴部	にぶい黄	12c		74	74
237	常滑	壺	SK57	壇上中~下位	肩部	灰白	12c	白釉飛沫	71	74
238	常滑	壺	SK57	壇上中~上位	胴部	にぶい黄褐色	12c		74	74
239	常滑	壺	SK57	壇上中~下位	胴部	灰黄褐色	12c		73	71
240	常滑	壺	SK57	壇上中~上位	胴部	にぶい黄褐色	12c	押印有	75	74
241	常滑	壺	SK57	壇上中~上位	胴部	灰黄褐色	12c		73	75
242	常滑	壺	SK57	壇上中位~上位	胴部	にぶい黄褐色	12c		73	75
243	常滑	壺	SK57	壇上中~上位	胴部	にぶい黄褐色	12c	押印有	73	75
244	常滑	壺	SK57	壇上中~下位	胴部	灰~灰オリーブ	12c		73	75
245	常滑	壺	SK57	壇上中位~上位	胴部	にぶい黄褐色	12c		73	75
246	常滑	壺	SK57	壇上中~下位	胴部	にぶい黄褐色	12c		73	75
247	常滑	壺	SK57	壇上中~上位	胴部	にぶい黄褐色	12c	緑釉飛沫	76	75
248	常滑	壺	SK57	壇上中~下位	胴部?	暗灰黄	12c		76	75
249	常滑	壺	SK57	壇上中~上位	胴部?	にぶい黄褐色	12c		76	75
250	常滑	壺	SK58	壇上下位~底面	胴部	灰黄褐色	12c		76	75
251	不明	壺	SK70	壇上上位	胴部	にぶい黄褐色	12c	東北産の可能性有	76	75
252	常滑	壺	SK80	壇上上位	口頸部	灰黄	12c(後半)	白釉飛沫	76	75
253	常滑	壺	SK80	壇上上位	口頸部	黄褐色	12c		76	75
254	常滑	壺?	SK84	壇上中~上位	肩部	灰オリーブ	12c	押印文有	76	75
255	常滑	壺?	SK84	壇上中~上位	胴部	灰白	12c		76	75
256	常滑	壺?	SK84	壇上中~上位	胴部	灰白	12c		76	75
257	常滑	壺?	SK84	壇上中~上位	胴部	灰白~灰黄褐色	12c	押印文有	76	75
258	常滑	壺?	SK84	壇上中~上位	胴部	灰オリーブ	12c		76	75
259	常滑	壺?	SK84	壇上中~上位	胴部	灰白	12c		76	75
260	常滑	壺	SK84	壇上中~上位	肩部~胴部	灰白	12c		76	76
261	常滑	壺	SK84	壇上中~上位	肩部	灰白	12c	押印文、緑釉	76	76
262	常滑	壺	SK84	壇上中~上位	胴部	灰白	12c	押印文有	77	76
263	常滑	壺	SK84	壇上中~上位	胴部	灰黄白	12c	自然産	77	76
264	常滑	壺	SK84	壇上中~上位	胴部	灰白	12c	緑釉飛沫	77	76
265	常滑?	壺	SK84	壇上中~上位	胴部	灰白	12c	押印文有	77	76
266	常滑?	壺	SK84	壇上中~上位	胴部	灰白	12c	緑釉飛沫	77	76
267	常滑	二部壺	SD73	壇上中~上位	肩部~胴部		12c(後半)		77	76
267	常滑	三輪壺	SD73	壇上中~上位	胴部		12c(後半)	27と同、胴体	77	76
268	常滑	壺?	SD73	壇上中	肩部	灰オリーブ	12c		77	76
269	横持器	短頸瓶	SD73	壇上中位	底部	オリーブ灰	10c		77	76
270	須恵系	片口鉢	SD73	壇上中	底部	灰白	12c(後半)		77	76
271	須恵	壺	SD85	底面	胴部	灰黄褐色	12c	押印文有	77	76
272	常滑	壺	SD100	壇上中	肩部	灰白	12c	白釉飛沫	77	76
273	常滑	壺	SD106	壇上上位	肩部~胴部	灰オリーブ		二輪壺か?	77	76
274	不明	壺	SD106	壇上上位	胴部	にぶい赤褐色		東北産か?	77	76
275	常滑	壺	SD111	壇上中	胴部	黄褐色	12c	押印文有	78	76
276	常滑	壺	SD111	壇上中	胴部	にぶい黄褐色	12c		73	76
277	常滑	壺	SD111	壇上中	口頸部	灰	2~2期(12)	灰釉	78	76
278	常滑	壺	SD116	壇上中	胴部	にぶい黄	12c		78	76
279	常滑	壺	6号焼上	検出面	胴部	灰黄	12c		73	76
280	不明	壺?	7号焼上	検出面	胴部	にぶい黄	12c		78	76
281	常滑	壺	P553	壇上中	胴部	オリーブ褐色	12c		73	76
282	常滑	壺	HF1 f	検出面	肩部~胴部	灰白	12c	押印文有	78	77
283	不明	壺?	V E 2 i	表層	胴部	灰~黄灰		押印文?、緑釉	78	77
284	常滑	壺	V E 2 i	暗褐色土下位	胴部		12c		75	77
285	常滑	二部壺	V E 3 c		胴部	オリーブ黒	12c	単純	78	77
286	不明	壺?	V E 3 c	黒色土上面	胴部	灰オリーブ			78	77

国産陶磁器観察表（2）

検器番号	種類	器種	出土地点	層位	部位	色調	時期	備考	図版	写真
287	常滑	三筋帯	V E 4 d	黒色面	胴部	濃暗赤褐	12c	復原	79	77
288	常滑	帯	V E 4 d	検出面	胴部	暗赤褐	12c		79	77
289	灰釉	長頸瓶	V E 4 f	表採	肩部～胴部	灰	10c ?	緑釉、ロクロ	79	77
290	淨土	壺?	V E 5 c	検出面	胴部	灰	12c		79	77
291	浄土	壺?	V E 5 c	検出面	胴部	薄灰	12c		79	77
292	浄土	小筒	V E 5 e	検出面	胴部～底部	灰白	12c 後半		79	77
293	須恵器系	片貝鉢	V E 5 f	検出面	口縁部	灰白	12c 後半		79	77
294	浄土	壺	V F 4 d	表採	口縁部	灰	12c	白釉飛沫	79	77
295	常滑	壺?	V F 4 h	黒色土上面	胴部?	灰	12c		79	77
296	常滑?	壺?	V F 4 h	黒色土上面	胴部?	灰オリーブ	12c		79	77
297	不明	壺?	V F 5 c	検出面	頸部	暗赤灰			79	77
298	常滑	壺	V F 5 i	暗褐色土下位	肩部	灰オリーブ	12c	緑釉	79	77
299	不明	壺?	V F 5 i	黒色土上面	胴部	薄灰		白色飛沫	79	77
300	常滑?	壺?	V F 6 d	表採	肩部	灰白			79	77
301	浄土	壺	V F 6 j	検出面	胴部	黄灰	12c	溝状の押印有り	79	77

第6表 中国産陶磁器観察表

本番	产地	器種	出土地点	層位	部位	色調	時期	備考	図版	写真
302	同定窯	碗	SK36	層土中	胴部下体		12c～13c	青磁	80	78
303	青磁	壺	SK36	底面	胴部		12c		80	78
304	白磁	壺	SI282露瀆	層土中～下位	胴部	白	白磁	中国産	80	78
305	白磁	壺	F40	層土中	胴部		12c		80	78
306	白磁	壺	V F3f	表採	胴部		12c 後半	白磁	80	78
307	龍泉窯	碗	V F5h	検出面	口縁部		12c	蓮花文	80	78

第7表 かわらけ観察表

本番	種類	出土位置	部位	口径	底径	器高	色調	時期	分類	備考	図版	写真
308	平づくね	SK36	口縁～底部	(7.5)	(3.0)	(1.2)	橙	12c後半	D 3	1/4残存	80	78
309	ロクロ?	SK36	11縁～底部	--	--	--	橙	12c後半	--	--	--	78
310	平づくね	SK37	胴部～底部	--	--	--	にぶい黄褐色	12c後半	--	--	--	78
311	ロクロ?	SK37	底部	--	--	--	にぶい黄褐色	12c後半	--	--	--	78
312	ロクロ	SK38南	口縁～底部	(8.2)	4.0	1.0	にぶい黄褐色	12c前半?	--	1/2残存	80	78
313	平づくね	SK39	底部	--	--	--	にぶい黄褐色	12c後半	--	--	--	78
314	ロクロ?	SK45	口縁～胴下部	--	--	--	灰黄褐色	12c後半	--	--	--	78
315	平づくね	SK47	11縁～底部	(16.0)	(9.0)	(3.1)	橙	12c後半	C 3	1/4残存	80	78
316	平づくね	SK47	口縁～胴部	--	--	--	浅黄褐色	12c後半	D 3	--	80	78
317	平づくね	SK47	11縁～胴部	--	--	--	にぶい黄褐色	12c後半	D 3	--	--	78
318	平づくね	SK47	胴部～底部	--	--	--	橙	12c後半	--	--	--	78
319	平づくね	SK47	胴部～底部	--	--	--	浅黄褐色	12c後半	--	--	--	78
320	平づくね	SK47	底部	--	--	--	浅黄褐色	12c後半	--	1/2と同	--	78
321	平づくね	SK47	胴部～底部	--	--	--	浅黄褐色	12c後半	--	--	--	78
322	平づくね	SK47	胴部～底部	--	--	--	浅黄褐色	12c後半	--	--	--	78
323	平づくね	SK47	11縁～胴部	--	--	--	浅黄褐色	12c後半	D 4	--	--	78
324	ロクロ	SD57埋土上	口縁～底部	(8.2)	5.0	1.7	橙	12c後半	--	2/3残存	80	78
325	ロクロ?	SK71	口縁～胴下部	--	--	--	にぶい黄褐色	12c後半	--	破片	80	78
326	ロクロ?	SK71	口縁～胴部	--	--	--	灰黄褐色	12c後半	--	写真掲載のみ	--	78
327	平づくね	SK71	11縁～胴部	--	--	--	にぶい黄褐色	12c後半	D 2	--	--	78
328	平づくね	SK71	口縁～胴部	--	--	--	にぶい黄褐色	12c後半	D 2	--	--	78
329	平づくね	SD72	胴部～底部	--	--	--	にぶい黄褐色	12c後半	--	破片	80	78
330	平づくね	SD72	胴部～底部	--	--	--	にぶい黄褐色	12c後半	--	破片	--	78
331	平づくね	SD72	底部	--	--	--	灰黄褐色	12c後半	D 3	写真掲載のみ	--	78
332	平づくね	SD72	胴部～底部	--	--	--	にぶい黄褐色	12c後半	--	--	--	78
333	平づくね	SD73	胴部～底部	--	--	--	にぶい黄褐色	12c後半	--	--	--	78
334	平づくね	SD73	11縁～胴部	--	--	--	浅黄褐色	12c後半	D 4	破片共面	80	78
335	平づくね	SD73	胴部～底部	--	--	--	橙	12c後半	不明	破片	80	78
336	平づくね	SD73	11縁部	--	--	--	にぶい黄褐色	12c後半	D 3	写真掲載のみ	--	78
337	平づくね	SD73	口縁部	--	--	--	灰黄褐色	12c後半	D 3	--	--	78
338	平づくね	SD73	胴部～底部	--	--	--	にぶい黄褐色	12c後半	--	破片	--	78
339	平づくね	SD77埋土下	口縁～底部	(11.0)	(13.0)	2.3	にぶい黄褐色	12c後半	D 2	1/2残存	80	78
340	平づくね	SD77	底部	--	--	--	にぶい黄褐色	12c後半	D 3	--	--	78
341	平づくね	SD78	口縁～底部	--	--	--	橙	12c後半	D 3	破片	80	78
342	平づくね	SD78埋土中	口縁～底部	--	--	--	にぶい黄褐色	12c後半	D 4	--	--	78
343	平づくね	SD78埋土下	11縁～底部	(4.4)	--	1.2	にぶい黄褐色	12c後半	D 3	1/2残存	80	78
344	平づくね	SD78	胴部～底部	--	--	--	にぶい黄褐色	12c後半	D 2	--	--	78
345	平づくね	SD78	11縁～底部	--	--	--	黄褐色	12c後半	D 3	--	--	78
346	平づくね	SD92	底部	--	--	--	橙	12c後半	D 3	--	--	78
347	平づくね	SD92	底部	--	--	--	にぶい黄褐色	12c後半	--	--	--	78
348	平づくね	SD100	口縁～胴部	--	--	--	灰黄褐色	12c後半	--	--	--	78
349	平づくね	SD108	11縁～底部	--	--	--	灰黄褐色	12c後半	D 4	破片	80	78
350	平づくね	SD108埋土中	口縁部	--	--	--	にぶい黄褐色	12c後半	D 3	--	--	78
351	平づくね	P497	底部	--	--	--	にぶい黄褐色	12c後半	D 4	破片	80	78
352	平づくね	P497	口縁部	--	--	--	にぶい黄褐色	12c後半	D 3	破片	--	78

第8表 瓦観察表

掲載番号	出土地点	層位	種類	凸面	凹面	色澤	備考	図面	写真
353	SD73	埋土中	平瓦	縄タタキ目+ケズリ	布目	にぶい黄緑		82	79
354	SD73	埋土中	重分八重蓮花文軒瓦	一部ナデ	ナデ	灰白	須惠質	82	79
355	SD73	埋土中～上位	丸瓦	ケズリ?	布目	緑黒	須惠質、自然釉	82	79
356	SD92	埋土中	平瓦	ケズリ	布目	灰白～緑		82	79
357	調査区南	表土中	平瓦	縄タタキ目	布目	黄灰	須惠質	82	79
358	調査区南	表土中	平瓦	縄タタキ目+ケズリ	布目	黄灰	須惠質、釘跡部か?	82	79
359	調査区南	表土中	丸瓦?	縄タタキ目	布目	にぶい黄緑	縦方向か?	83	79
360	調査区南	表土中	平瓦	ナデ(縦方向)	布目	灰	須惠質	83	79
361	調査区北東側区	地山直上	平瓦	縄タタキ目	布目	黄灰	須惠質	83	79
362	調査区中央東	検出前	平瓦	縄タタキ目	布目	灰～黄灰	須惠質	83	79
363	V D S J	検出前	平瓦	縄タタキ目	布目	黄灰	釘跡部、須惠質	83	79
364	調査区中央西	検出前	平瓦	一部縄タタキ目+ナデ	布目	灰	須惠質	83	79

第9表 鉄製品観察表

掲載番号	種類	出土地点	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	高さ(mm)	備考	図面	写真
365	板状鉄製品	SI10	埋土中	<4.0>	<4.9>	0.6	29.4	銅の底?	84	80
366	釘跡部	SI11	埋土中	5.6	5.9	1	23.2		84	80
367	留め具	SK39	埋土中	<4.4>	1.6	1.2	11.7	近世・近代まで使用	84	80
368	棒状鉄製品	SK39	埋土中	10.1	2.4	0.7	20.3	鉄線のなかご?	84	80
369	棒状鉄製品	SK39	埋土中	<4.2>	0.9	0.8	4.5		84	80
370	棒状鉄製品	SK39	埋土中	<5.7>	2.1	1	11.9	太い方	84	80
371	鉄線?	SK57	埋土下位	<7.2>	<3.5>	1.5	40.5		84	80
372	刀子	SK61	埋土中	<11.2>	1.6	0.3	11.9		84	80
373	鉄線	SK70	埋土中	<4.6>	1.3	0.5	4.8		84	80
374	棒状鉄製品	SX13	埋土中	6.9	1.1	0.6	5.5		84	80
375	棒状鉄製品	SX13	埋土中	<10.8>	0.8	0.6	5.6		84	80
376	鉄溝	土取場	埋土上位	<2.3>	5.1	0.6	14.5		84	80
377	鉄溝	土取場	埋土上位	<6.2>	3.6	0.6	18		85	80
378	刀子	土取場	埋土上位	<4.6>	1.3	0.4	3.5		85	80
379	釘	SD67	埋土中	2.2	<1.8>	1	1.4	水染通貫	85	80
380	釘	SD196	埋土中～上位	<6.7>	1.1	0.9	10.2		85	80
381	棒状鉄製品	SD196	埋土中～上位	<3.7>	0.5	0.4	1.3	鉄線?	85	80
382	板状鉄製品	SD198	埋土中	<4.3>	1.3	0.5	4.4	鉄線?	85	80
383	銅筒	P383		口径(12.0)		器高1.4	5.2		85	80
384	棒状鉄製品	VF3h	検出面	5.2	8.5	0.5	3.8	鉄線のなかご?	85	80
385	釘?	VF3h	検出面	<5.6>	0.9	0.8	7		85	80
386	棒状鉄製品	VF3h	表層	<3.5>	1.6	0.5	7.2	鉄線のなかご?	85	80
387	棒状鉄製品	VF4d	検出面	<6.2>	1	1	8.4	鉄線?	85	80
388	板状鉄製品	VF4e	検出面	<6.4>	3.2	0.8	5.9	鉄線?	85	80
389	棒状鉄製品	VF3h	検出面	<10.3>	1.1	0.8	22.5	鉄線のなかご?	85	80
390	鉄線	VF4e	検出面	<4.0>	3.1	0.6	12.5		85	80
391	釘跡部	VG4f	埋土上面	4.8	4.8	2.3	28.4		85	80
392	鉄線	VG4f	検出面	<5.1>	3.1	0.5	6.5		85	80
393	古銭	VF3d	表土中	2.8	<2.5>	1	3.2	東水通貫(新)田文銭	85	80
394	刀子	VG4d	表土中	<2.9>	<1.1>	0.1	2.4		85	80

第10表 石器・石製品観察表

本番	出土地点	層位	部種	計測値 (cm)			重量 (g)	備考	石材	産地	図版	写真
				長さ	幅	厚さ						
295	SK36	埋土中	砥石	[6.5]	3.0	2.2	66.4	使用面4面	凝灰岩	奥羽山脈	87	81
296	SD100	埋土中	石筵	[3.8]	3.5	1.4	17.4		頁岩	奥羽山脈	87	81
397	SD106	埋土中	砥石	[12.7]	2.1	2.2	189.3	使用面4面、磨面4面あり	ホルンフェルス	北上山地	87	81
398	SD106	埋土中	砥石	[11.9]	6.1	2.8	228.5	使用面1面	凝灰岩	奥羽山脈	87	81
399	7号坑十	検出面	石筵	3.6	4.0	1.0	31.3		頁岩	奥羽山脈	87	81
400	VD1J	検出面	石筵?	7.1	3.8	1.1	37.3	削接面の可能性あり	頁岩	奥羽山脈	87	81
401	S109東	検出面	石製品	[1.6]	1.3	0.8	4.3		ヒスイ?	新潟県?	87	81
402	S D73	埋土上位	石筵	1.6	1.3	0.2	4.0		黒曜石	折原	87	81
403	S D73	埋土上位	石筵半製品	1.4	1.0	0.1	3.8		黒曜石	折原	87	81

第11表 土製品・縄文土器観察表

図版番号	出土地点	層位	部種	部位	文様・特徴	検出原体	備考	時期	図版	写真
404	S K 1 01	埋土下位	土鈴		撫部に孔有り	—		平安	86	81
405	S K 1 01	埋土下位	土鈴?		握み部に孔なし	—		平安	86	81
406	S 1 11	埋土上位	存孔土製品		土質が緻密	—		平安?	86	81
407	S X 1 号坑上	検出面	深鉢	胴部	地文のみ、砂粒多く含む	L R		縄文後晩期	86	81
408	S 1 13	検出面	深鉢	胴部	地文のみ、砂粒多く含む	L R		縄文後晩期	86	81
409	S D72	埋土上位	深鉢	胴部	地文のみ、砂粒多く含む	R L ?		縄文後晩期	86	81
410	S D78	埋土上位	深鉢	胴部	地文のみ、砂粒多く含む	不明		縄文後晩期	86	81
411	S D73	埋土上位	深鉢	口縁部	地文のみ、砂粒多く含む	R L Y		縄文後晩期	86	81
412	S K35	埋土中	深鉢	胴部	地文のみ、砂粒多く含む	L R		縄文後晩期	86	81
413	S K50	埋土上位	深鉢	胴部	地文のみ、砂粒多く含む	L R		縄文後晩期	86	81
414	S D78	埋土中	深鉢	口縁部	沈線	不明		縄文後晩期	86	81
415	S D92	埋土中	深鉢	口縁部	2象の平行沈線	L R		縄文後晩期	86	81
416	V F 5 J	9号坑	深鉢	胴部	地文のみ、砂粒多く含む	R L		縄文後晩期	86	81

V まとめ

1 遺構

(1) 竪穴住居跡

竪穴住居跡は調査区中央部4棟、北側1棟、南側2棟の計7棟が検出されている。調査範囲が狭く全体を検出した住居跡が少ないこと、後世の開田によりかなり削平されているため、はっきりとした点は事実記載の項目についてまとめる。

<占地> 調査区中央部と南側では、2～3棟のある程度のまとまりで分布している。相互の重複はなく住居間の距離は最小3mで、同時存在の可能性はある。

<平面形> S106・07・08竪穴住居跡3棟がほぼ長方形を基調としているものの、他は全体を検出していないため不明である。

<規模> 推定のものを含め一辺が3～4m前後3棟、4～5m前後のものが3棟である。

<埋土> 自然堆積をしているものがほとんどであると思われる。

<主軸方向> カマドを持つ壁に直行する線とカマドが設置されている方角との角度を主軸方向とした。これらから主軸方向が北側にあるのが1棟、東側2棟、南側1棟となっている。

<壁・床> 壁は外傾ぎみに立ち上がりかと推測される。S110竪穴住居跡は喉溝を伴っている。

床面の胎床は確認できなかったものが多いが、S110竪穴住居跡については暗褐色土を主体とした土で部分的に胎床をしていた。

<カマド> S106・07・10・11竪穴住居跡の4棟でカマドを検出した。設置場所はS106・11竪穴住居跡が東側、S107竪穴住居跡が南側、S110竪穴住居跡が北側とばらつきが見られる。S106・11竪穴住居跡は袖部分が残存しているにもかかわらず煙道が検出されなかった。このことからカマド本体より上につく煙道を持っていたと思われ、開田時の削平により残存しなかったと考えられる。S110竪穴住居跡はカマドのほぼ中央を現代の農業排水溝により攪乱をうけていたが、排水溝の壁面などがかすかに赤色変化している部分が確認されたことから煙道を持っていたと考えられる。S107竪穴住居跡はS D73竪穴住居跡に切られているため煙道などは不明である。袖部は、S106・10竪穴住居跡が芯材として土師器を使用して粘土質シルトで被覆し、S107・11竪穴住居跡は礎を用いて構築されている。

カマドの作りかえはS106竪穴住居跡のみ行われていた。当初は北側にあったものが、東壁に移設され、貯蔵穴として使用していたと思われるピットを埋めてその上にカマドを設置していた。

<柱穴> 柱穴が確認された住居跡はS108・10竪穴住居跡の2棟であるが、規則性が見られず詳細は不明である。

<付属施設> カマド以外の付属施設をもつ住居跡はS106・07・11・13竪穴住居跡である。それぞれ貯蔵穴と思われるピットをもつ。貯蔵穴の位置はカマドの脇に位置するが、S106竪穴住居跡は左側、S107・11・13竪穴住居跡は右側に設置されている。それぞれのピットからは土師器片が出土している。S111竪穴住居跡は地床炉を2基もつが用途は不明である。

(2) 竪穴状遺構

調査区中央部でSK101竪穴状1棟を検出した。規模は径2.4m程で、平面形はほぼ円形を呈する。埴土は明黄褐色土と廃棄されたと思われる焼土の混合土・暗褐色土で構成されている。遺物については、ピットと思われるところから土師器片が出土している。その他は埋土下位から土鈴が2点、焼成粘土塊（土具等で触れた痕など人為的な作業の痕跡が見られる。）が出土している。土鈴は全国においては窯業や鉄生産を営

む集落から出土する傾向が多く、岩手は福島に次いで2番目に土師の出土量が多い(国高1992)。本遺構についてもこれらの遺物等の出土から土器等を制作した工房跡の可能性も考えた。しかし、ロクロビットなどこれを裏付ける遺構が検出されなかったため堅穴状遺構としたもので詳細は不明である。ただ、粘土採掘土坑群から採取した粘土と本遺構から出土した焼成粘土塊を胎土分析にかけた結果、組成において共通の成分が検出されている。また、S11Ⅱ堅穴住居跡や粘土採掘土坑群から出土した須恵器片以外の土師器片も同様の結果が得られている。このことから本遺構が土器制作工房跡という断定はできないにしても付近において土器等を制作していたことは確実と思われる。

(3) 焼土遺構

調査区中央部で7基を検出した。このうちSX1・4・5・7焼土遺構からは、焼土中や上面上から土師器片が引土している。時期については、出土遺物から9世紀後半～10世紀初頭と推測される。また、周辺一帯が開田時の削平を受けていることから、堅穴住居跡のカマドの燃焼部だけが残存した可能性も考えられる。他の3基は用途時期ともに不明である。

(4) 墓塚

調査区北側で2基を検出した。互いの墓塚は約2mほど離れている。規模は長軸1～3m、短軸1m前後で、面積は1～3㎡程となっている。平面形はSK01墓塚が楕円形、SK02墓塚が円形を基調としている。埋土は暗褐色土と明黄褐色土の混合土で人為堆積の様相を呈している。SK01墓塚の埋土には多量の炭化物が含まれ、それらは火葬に関連することも考えられる。長軸方向はいずれも南北になる。遺物は、SK01墓塚から瀬美産甕片27点と鉄鍼1点、SK01墓塚からは深美産甕片1点が引土している。

両墓塚は火葬骨と思われる人骨片を伴う。規模に違いはあるものの、埋土や火葬骨を出土している点からは埋葬形態に違いはないものとする。時期は、瀬美産甕片の年代観から12世紀後半代と推測できる。

12世紀と推測される墓塚の近隣の調査例としては平泉町本町Ⅱ遺跡があげられる。報告書では、12世紀後半以降とされる墓塚をB類とC1類に分類しているが、本遺跡の2基はそれに類似する。遺物については、意図的に破片にされ埋納された副葬品の可能性を指摘しており、本遺跡の両墓塚から出土した遺物もその可能性が考えられる。また、本町Ⅱ遺跡の場合、墓塚が溝によって区画されているが、本遺跡例は区画溝を伴っていない。墓塚が2基以外に存在するかどうかについては、調査区域が限られるため不明と言わざるを得ない。

墓塚が存在する理由及び被葬者については、先述のように瀬美産甕片が出土している点や本遺構とは直接関係しないが、調査区中央部から同時期の常滑二筋文壺や中国産青白磁がある程度まとまりをもって出土している点から、平泉藤原氏と強い結びつきをもつ者が居住していた可能性を示唆している。

(5) 土坑

土坑は52基検出しているが埋土の状態や出土遺物などから、平安時代の土坑の可能性のあるものは11基である。大部分は粘土採掘土坑群周辺に位置している。白色粘土層が底面となっており粘土を採掘した土坑の可能性が高い。

SK38は開口部径が4.05×4.75mもある巨大な土坑である。埋土はレンズ状の自然堆積を呈し、底部から瀬美産甕と中国産青磁が1点出土している。これらの遺物から、時期は12世紀後半と思われるが、用途など詳細については不明である。他の土坑は遺物が出土していないため詳細については不明である。北側調査区で検出した土坑の一部は、りんごの植栽痕の可能性もある。

(6) 粘土探掘土坑群

調査区中央部から約50mにわたり検出した。平面形は、幾つもの土坑が切り合った不整形を呈する。埋土は暗褐色土と黄褐色土の混合土で人為堆積の層相を呈している。1つの土坑を掘り終えた後に新たに掘り始めた土を捨てることの繰り返しを行ったため断面には土坑の切り合いが明瞭に現れた。掘り上がりの様子から白色粘土層またはその下の礫層まで達すると新たな土坑を掘削したようである。範囲が調査区外に広がっているため規模は更に大きいと推測される。時期については埋土中や下位から土師器片が出土していることから平安時代に属すると思われる。

これらの採取した大量の粘土を何に使用したのかについては、明後沢遺跡群から多く出土する瓦との関連が予想された。同年本調査区の北側で調査を行っていた前沢町教育委員会でも粘土探掘土坑を検出しており採取した粘土と瓦・須恵器片との胎土分析を行ったが、関連を裏付ける結果は得られなかった。本遺跡では土師器、手づくねかわらけ、粘土焼成塊等で胎土分析を行った結果、採取した粘土と組成において同じ成分が抽出されている。このことから瓦・須恵器の制作については裏付けができなかったが、その他の土器については地元で作製されていたことは確実である。

(7) 陥し穴状遺構

調査区全体で6基を検出した。方形に近い楕円形ものが2基、縦長のものが4基である。規模・形状と類例などから縄文時代のものである。SK64陥し穴状遺構の底面には逆茂木痕が確認できた。出土遺物はなく、具体的な時期は不明である。

(8) 溝跡

調査区全体で82条を検出した。調査範囲が狭く全体を検出できた溝跡が少ないうえ、遺物がまったく出土しない溝跡も多く、全容が不明なものが大部分を占めている。

遺物は埋土中位から下位にかけて出土している。平安時代の土師器や須恵器が出土したのはSD68・72・73・88・92・100・106・108・111溝跡の9条である。12世紀後半代の手づくねかわらけが出土したのはSD72・73・77・78・92・100・108溝跡の7条で、そのうち、同時期の白磁片がSD82溝跡から、滷美産裏片がSD95溝跡から出土している。SD72・73・92・100・108溝跡の5条からは土師器・須恵器と伴って手づくねかわらけが出土している。また、手づくねかわらけが出土しているSK47はSD79に切られているが、出土状況からは本来はSD79に伴う遺物だった可能性が高い。

以上の出土遺物から所属時期を推測すると、溝跡底面から土師器や須恵器を出土したSD68・95溝跡が平安時代、手づくねかわらけを出土したSD77・78溝跡、白磁片を出土したSD82溝跡、滷美産裏片を出土したSD95溝跡が12世紀後半代のものであると考えられる。溝跡の方向をみると、平安時代のものは東西方向、12世紀後半代のもは南北方向に走り、時期による方向の違いがあるものと思われる。

溝跡の性格は明らかではないが、12世紀後半代のSD77・78溝跡は幅2～3mの間において平行していることと少量ではあるが手づくねかわらけが出土していることから、柳之御所遺跡で手づくねかわらけが道路側溝に廃棄された例にみられるように、道路側溝類似施設の可能性も指摘できるのではないかと考える。

(9) 柱穴状土坑群

調査区全体で825基を検出した。調査区中央部と北調査区東側に集中している。調査範囲が狭く掘立柱建物跡を復元するまでには至らなかった。柱穴には柱痕や掘り方が認められるものは検出されていない。出土遺物はP440柱穴からは12世紀後半の白磁片が、P386柱穴からは銅碗²が出土している。このことから何らかの建物が存在していることは確実と思われる。調査範囲が広がることで今回検出した柱穴状土坑の中にも建

物を構成するものも含まれていると思われるが、今回は柱穴観察表と図化のみに留めた。

2 遺物

(1) 土器

分類にあたっては、器種とそれぞれの焼成方法（酸化炎焼成と還元炎焼成）を主な識別形質とし、これに調整技法を加える形で行い、これらをふまえて土器分類を以下の通りとした。

坏類（坏、高台付坏、大型坏、台付皿、柱状高台）

A群：製作行程においてロクロを使用した酸化炎焼成の土器群

I群 内面にミガキ調整と黒色処理が施されたもの

II群 ロクロ痕以外の調整をもたないもの

III群 ミガキ調整が施されるが、内黒未処理又は褐色したと思われるもの

B群：製作工程においてロクロを使用した還元炎焼成の土器群

底部切り離し技法

a類 回転糸切りで、再調整されないもの

b類 回転糸切りで、再調整が施されるもの

c類 回転ヘラ切りで、再調整されないもの

d類 高台をもつもの

e類 摩滅のため不明なもの

甕類（甕、鉢、壺）

A群：酸化炎焼成の土器群

I類 製作工程においてロクロを使用している土器群

a類 器面の調整は口縁部はヨコナデ、胴部外面はヘラケズリ・ヘラナデ、胴部内面はヘラナデ・ハケメによる調整が主に施される土器群

b類 器面の調整は口縁部、外面胴部上半はロクロナデ、外面胴部下半はヘラケズリ、内面はヘラナデによる調整が主に施される土器群

c類 内面に黒色処理が施される土器群

d類 ミガキ調整が施されるが、内黒未処理の土器群

II類 製作工程においてロクロを使用していない土器群

a類 器面の調整は口縁部はヨコナデ、胴部外面はヘラケズリ・ヘラナデ、胴部内面はヘラナデ・ハケメによる調整が主に施される土器群

B群：還元炎焼成による土器群

破片出土が大部分を占めるため、細分は行わない。

土器のほとんどは竪穴住居跡・竪穴状遺構、土坑等から出土している。上記のような大まかな分類はしたが完形品での出土が少なく、個体数としてのデータが少ないため各分類群ごとについての特徴を述べていく。写真掲載のみの遺物は極細片のものも含まれている。

坏類は写真掲載のみを含めて87点掲載した。この内、個体数として数えられるものは34点出土している。

B群では完形の坏は出土していない。A群ではA I a類が11点、A II a類が22点、A II c類が1点出土しA II類が多い。底部切り離しは全て回転糸切りとなっている。底部の再調整はされていない。A群で破片では

あるが回転へら切りが1点出土し、B群でも破片で回転へら切りのものが1点出土している。住居跡ごとに見るとS I 00はA I a類3点、A II a類2点、S I 07 A II a類1点(高台付皿)、S I 08はA II a類4点、SK 101はA I a類1点、A II a類1点、S I 10はA I a類1点、A II a類1点、回転へら切り須恵器杯1点、S I 11竪穴住居跡はA II a類が3点、A I a類1点となっている。A I類、A II類とも各住居跡ではほぼ同じ割合で出土しており、S I 08竪穴住居跡のみA II類の出土のみとなっている。

甕類は写真掲載のみを含めて119点掲載した。この内、完形品は反転実測可能なものを含め7点の出土である。ほとんどは底部が欠損していたり口縁部が欠損しているなど少ない出土となっている。個体数として数えられるのは合わせて34点である。全てA群の甕でB群の甕は破片のみの出土である。

各群ではA I a類が15点、A I b類25点、破片だがA II d類1点、A I c類1点でA I b類の割合が多い。住居跡ごとで分類できたものでみるとS I 00竪穴住居跡はA I a類のみ6点、S I 07竪穴住居跡はA I b類1点、S I 10竪穴住居跡はA I a類4点、A I b類3点、S I 11がA I a類10点、A I b類4点となっている。甕についてもばらつきがみられ規則的なまとまりは見られない。時期については概ね9世紀後半から10世紀初頭に属すると思われる。

(2) かわらけ

分類は、松本達彦氏が平安京の形体分類を基本に柳之御所の資料を加えて行った方法(「柳之御所」1995分冊3 Xかわらけの形体分類と編年)を基本に行ったが、判断がつけられないものが多く、大まかな分類となってしまった。本遺跡で出土したかわらけは松本(1995)分類を基本としながら遺跡の実態に合わせ「手づくね」についての分類は以下の通りとした。また、「ロクロ」については細片が多いため分類は行わなかった。分類に際しては、口縁部或いは口縁部～底部部分が残っているものについて極力分類をし、細片のため図化しなかったものは写真掲載とし全点掲載した。なお、細片が多く法量を計測できたのは5点のみである。完形品の出土がないため反転実測可能なものを図示し、反転実測不可能なものでも大きめのものは破片実測をして図化した。

手づくねかわらけ

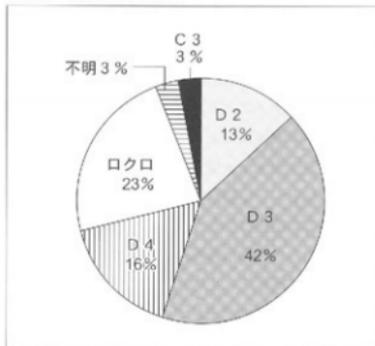
- D 2類 一段面取りなし 口縁部が直線的に立ち上がる
- D 3類 一段面取りなし
- D 4類 一段面取りあり
- C 3類 二段面取りなし

破片を含む分類の結果は88図に示した。D 3類が44%で圧倒的に多く、次にロクロかわらけが23%、D 2類13%、D 4類17%、C 3類3%であった。全部破片での出土で、完形での出土はない。この中で特徴的なものは312の12世紀前半に属すると思われるロクロかわらけである。12世紀後半のものが大部分を占める中1点のみの出土となっている。

(3) 国産陶磁器

本遺跡からの国産陶磁器片の出土は合わせて83点である。瀬美産47点、常滑産23点、猿投産1点、灰輪1点、須恵器系陶器2点、不明8点が出土している。

第88図 かわらけ分類図



大部分が12世紀に属すると思われるものである。いずれも破片が多いため個体数は把握できなかった。

瀬美産陶器は出土した点数で全体の62%を占めるが、器形を確認できるものはない。器種は裏が圧倒的に多く壺と思われるものが1点出土している。SK37から一括して出土している瀬美産裏については作風は12世紀の瀬美の特徴をよく現しているものの胎土の様子が異なるなど疑問が残る。今後の出土例などで検討を加える余地があると考え、295の瀬美産小皿は平泉遺跡群のこれまでの調査からも殆ど出土していない希少な遺物である。個体数の少なさからも、小皿そのものの制作意図が日常生活に根ざしているとは考えにくく、合わせて検討すべき課題と考える。

常滑産陶器は全体の33%を占める。全体の器形を確認できるのは270の三筋壺のみである。器種は裏が多く次いで壺となっている。三筋壺はこの他に2片の三筋壺破片が出土しており、少なくとも3個体存在していると思われる。三筋壺は出土例などから全国的に経筒として使用されている例が多い。しかし、本遺跡や平泉遺跡群から出土している三筋壺は数も多く、日常生活に深く関わりその希少性からその使用はごく一部の者に限られていたと思われる。この他には直線状の押印が見られる裏も出土している。

この他須恵器系陶器は全体の3%と少ない。瀬美産、常滑産ほどではないにしろ平泉遺跡群からは多く出土している遺物である。猿投産陶器や灰釉陶器はそれぞれ破片1点のみの出土で時期等についても具体的なものは示せない。今まで述べてきた陶器同様に希少性の高いものである。

(4) 中国産磁器

中国産磁器は6点が出土した。内訳は、白磁4点、青磁2点で全て破片資料である。1は同安窯の青磁碗である。釉色はやや黄色味の強いいわゆる餡色でガラス質の釉が特色である。Ⅱ類に属し12世紀後半頃のものと考えられる。2の白磁碗である。内面に髹目が見られ、体部内面上位に一条の沈線が確認できることから、Ⅶ-1・bに属し、12世紀後半頃と推測される。志羅山遺跡56次調査でも同様の白磁片が出土している。その他は白磁四耳壺の頸部と体部片と思われるもので化粧土が見られないことからⅢ系に属し12世紀後半のものと同推測される。4の竜泉窯の画花文青磁碗である。内面に画花文を呈し、釉は青みを帯びた緑色が主体であることからⅠ-2類に属すると思われる。12世紀後半と比定されている。

今回出土の磁器片は全て12世紀後半のものである。これらの遺物は点数こそ少ないが何れも希少性の高いものである。

(5) 瓦

瓦は3点が出土しており、形状が確認できるのは358の重弁八葉蓮華文軒丸瓦のみである。その他は破片である。軒丸瓦は文様、形状、大きさ等が胆沢城出土の丸瓦に酷似している。その他の瓦についても布目等の形状が同じく胆沢城出土のものと同く類似している。また、平瓦において縄タタキ目とそのまま残しているものやヘラケズリ等の調整が施されているものもあり、その違いについては用途によるものなのかが作り手による違いなのかについては不明である。焼成が異なる理由なども今後の課題と思われる。

時期については、調査区の大部分が開田の際に削平を受け攪乱を受けていることと、遺構内から出土した瓦についても出土状況等から殆どが流れ込み等による可能性が高い。時期については不明であるが、前述した胆沢城のものと同く酷似していることや、本遺跡から8世紀の遺物等が出土していないことから9世紀後半のものと想定される。胆沢城の瓦については、岩手県江刺市の瀬谷子窯跡で焼かれたものである。本遺跡でも古くから古瓦が出土し、窯跡の存在が指摘されているが今回の調査でも窯跡は検出されなかった。

(6) 土鈴

土鈴は2点が出土している。404は紐等を通したと思われる穿孔と1孔の鈴口を持つ。東北地方で出土す

る土鈴のほとんどは穿孔を持つものである。405は穿孔は持たないものであるが、江刺市瀬谷子遺跡（瀬谷子遺跡第3次緊急調査報告 1971）でも穿孔を持たない土鈴が出土している。形状など瀬谷子遺跡出土の土鈴とよく似ている。出土点数が少ないためこれ以上のことはわからないが、全国的に窯業や鉄生産など何らかの製作を行った集落跡から出土する例が多い。このことから本遺跡も何らかの製作を行った集落の可能性があると思われる。

（7）その他の遺物

以上の遺物の他に縄文時代の土器片と石器等が出土している。土器は摩滅が著しく破片のため具体的な時期は不明であるが、縄文後・晩期に属すると思われる。また、金属製品も出土しているが観察表を参照していただきたい。

3 成果と課題

今回の調査で得られた成果と課題をあげまとめたい。

（成果）

- ①縄文時代には陥し穴状遺構等からみて狩猟場として利用されていた。
- ②平安時代（9世紀後半～10世紀初頭）には集落が営まれていた。これらの集落は調査区外に更に広がる可能性が考えられる。
- ③平安時代後半（12世紀後半）において奥州藤原氏と何らかの関係を持つ者が存在する可能性がある。掘立柱建物跡は調査範囲が狭いため復元に至らなかったが、調査区外にも多数の柱穴状土坑が存在すると推測され、数棟の掘立柱建物跡を復元できる可能性もある。

（課題）

- ①窯業と土鈴との関係についての解明。
- ②奥州藤原氏との関係について解明。
- ③古瓦が多く出土することについての解明。

肘沢城跡以外から古瓦が出土している明後沢遺跡群であるが、なぜこれほど古瓦が出土するのかそれを実証できるような遺構等は、検出することはできなかった。瓦の出土は大部分が遺構外からの出土で、建物跡等も復元には至らなかった。今回の調査においては、平泉遺跡群以外から出土することが少ない12世紀後半に属すると思われる国産陶器、中国産磁器がまとまって出土していることに注目したい。奥州藤原氏との関係についても古瓦と同様に今後の課題と思われる。

引用・参考文献

- 岩手県文化振興事業団 埋蔵文化センター (2003) 「明後沢遺跡発掘調査報告書」岩手県埋蔵文化財調査報告書第411集
- 岩手県文化振興事業団 埋蔵文化センター (2003) 「泉屋遺跡第16・19・21次発掘調査報告書」岩手県埋蔵文化財調査報告書第399集
- 岩手県文化振興事業団 埋蔵文化センター (2002) 「星遺跡発掘調査報告書」岩手県埋蔵文化財調査報告書第383集
- 岩手県文化振興事業団 埋蔵文化センター (2003) 「本町耳遺跡第二次発掘調査報告書」岩手県埋蔵文化財調査報告書第410集
- 「柳之朗所遺跡発掘調査報告書」岩手県埋蔵文化財報告書第228集
- 国生 尚 (1992) 岩手考古学第4号 土輪集成
- 前沢町教育委員会 (1968) 「町内遺跡発掘調査報告書」岩手県前沢町文化財調査報告書第5集
- 前沢町教育委員会 (1968) 「町内遺跡詳細分布調査報告書1 古城・白山地区」岩手県前沢町文化財調査報告書第6集
- 鎌田 勉 (1995) 「陸奥国北部の瓦一胎沢城系瓦の様相と系譜」『紀要XV』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 鈴木 透稿 (1974) 「前沢町史 上巻」前沢町
- 鈴木 透稿 (1976) 「前沢町史 中巻」前沢町
- 中野靖久 (1995) 「常滑焼編年作業と今後の問題」考古学ジャーナルNo.396
- 八木光則 (1993) 「陸奥中部における古代末期の土器群」歴史時代土器研究第8号
- 松本建速 (1995) 「かわらけの形態分類と編年」岩手県埋蔵文化財報告書第228集
- 福島県立博物館「陸奥の古瓦」
- 重沢城跡調査発掘外報 (1976) 水沢市埋蔵文化財センター
(1993)
- 中間磁器の分類は大宰府陶器研究会田勉氏臨稿集によった

明後沢遺跡出土黒曜石製石器の原産地分析

薬科 哲男

(京都大学原子伊実験所)

はじめに

石器石材の産地を自然科学的な手法を用いて、客観的に、かつ定量的に推定し、古代の交流、交易および文化圏、交易圏を探ると言う目的で、蛍光X線分析法により黒曜石およびサヌカイト製造物の石材産地推定を行なっている^{1, 2, 3)}。石材移動を証明するには必要条件と十分条件を満たす必要がある。地質時代に自然の力で移動した岩石の出発露頭を元素分析で求めるとき、移動原石と露頭原石の組成が一致すれば必要条件を満たし、その露頭からの流れたルートを地形学などで証明できれば、十分条件を満たし、ただ「力所の一致する露頭産地の調査のみで移動原石の産地が特定できる。遺物の産地分析では『石器とある産地の原石が一致したからと言っても、他の産地にも一致する可能性があるために、一致した産地のものと言い切れないが、しかし一致しなかった場合その産地のものでないと言い切れる』が大原則である。考古学では、人工品の様式が一致すると言う結果が非常に重要な意味があり、見える様式としての形態、文様、見えない様式として土器、青銅器、ガラスなどの人手が加わった調査素材があり一致すると言うことは古代人が意識して一致させた可能性があり、一致すると言うことは、古代人の思考が一致すると考えてもよく、相互関係を調査する重要な結果である。石器の様式による分類ではなく、自然の法則で決定した石材の元素組成を指標にした分類では、例えば石材産地が遺跡から近い、移動キャンプ地のルート上に位置する、産地地方との交流を示す土器が出土しているなどを十分条件の代用にすると産地分析は中途半端な結果となり、遠距離伝播した石器原材であっても、遺跡近くの似た組成の原石産地の石材と見こみ誤判定する可能性がある。人が移動させた石器の元素組成とA産地原石の組成が一致し、必要条件を満足しても、原産地と出土遺跡の間に地質的関連性がないため、十分条件の移動ルートを生自然の法則に従って地形学で証明できず、その石器原材がA産地の原石と決定することができない。従って、石器原材と産地原石が一致したことが、直ちに考古学の資料とならない。確かにA産地との交流で伝播した可能性は否定できなくなったが、B、C、Dの産地でないとの証拠がないために、A産地だと言い切れない。B産地と一致しなかった場合、結果は考古学の資料として非常に有用である。それは石器に関してはB産地と交流がなかったと言い切れる。ここで、十分条件として、可能な限り地球上の全ての原産地(A、B、C、D・・・)の原石群と比較して、A産地以外の産地とは一致しないことを十分条件として証明すれば、石器がA産地の原石と決定することができる。この十分条件を肉眼観察で求めることは分類基準が混乱し不可能であると思われる。また、自然科学的分析を用いても、全ての産地が区別できるかは、それぞれが使用している産地分析法によって、それぞれ異なり実際に行ってみなければ分からない。産地分析の結果の信頼性は何ヶ所の原産地の原石と客観的に比較して得られたかにより、比較した産地が少なければ、信頼性の低い結果と言える。黒曜石、サヌカイトなどの主成分組成は、原産地ごとに大きな差はみられないが、不純物として含有される微量元素組成には異同があると考えられるため、微量元素を中心に元素分析を行ない、これを産地を特定する指標とした。分類の指標とする元素組成を遺物について求め、あらかじめ、各原産地ごとに数十個の原石を分析して求めておいた各原石群の元素組成の平均値、分散などと遺物のそれを対比して、各平均値からの離れ具合(マハラノビスの距離)を求める。次に、古代人が採取した原石産出地点と現代人が分析のために採取した原石産出地点と異なる地点の可能性は十分に考えられる。従って、分析した有限個の原石から産地全体の無限に近い個数の平均値と分散を推測して判定を行うホテリングのT₂乗検定を行う。この検定を全ての産地について行い、ある石

器器材と同じ成分組成の原石はA産地では10個中に一個みられ、B産地では一方個中一個、C産地では百万個中一個、D産地では・・・一個と各産地毎にもとめられるような、客観的な検定結果からA産地の原石を使用した可能性が高いと判定する。即ち多変量解析の手法を用いて、各産地に帰属される確率を求めて産地を判定する。今回分析した遺物は若手黒胆沢群前沢町古城跡沢地内に位置する明後沢遺跡出土の黒曜石製石剣、石鏃木製品の合計2個について、産地分析の結果が得られたので報告する。

黒曜石原石の分析

黒曜石原石の風化面を打ち欠き、新鮮面を出し、塊状の試料を作り、エネルギー分散型蛍光X分析装置によって元素分析を行なう。主に分析した元素はK、Ca、Ti、Mn、Fe、Rb、Sr、Y、Zr、Nbの各元素である。塊状試料の形状差による分析値への影響を打ち消すために元素量の比を取り、それでもって産地を特定する指標とした。黒曜石は、Ca/K、Ti/K、Mn/Zr、Fe/Zr、Rb/Zr、Sr/Zr、Y/Zr、Nb/Zrの比量をそれぞれ用いる。黒曜石の原産地は北海道、東北、北陸、東関東、中信高原、伊豆箱根、伊豆七島の神津島、山陰、九州の各地に黒曜石の原産地は分布する。調査を終えた原産地を図1に示す。黒曜石原産地のほとんどすべてがつくされている。元素組成によってこれら原石を分類し表1に示す。この原石群に原産地は不明の遺物で作った遺物群を加えると225個の原石群になる。ここでは北海道地域および一部の東北地域の産地について記述すると、白滝地域の原産地は、北海道紋別郡白滝村に位置し、鹿野北方2kmの採石場の赤石山の露頭、鹿野東方約2kmの梶加沢地点、また白土沢、八号沢などより転搬として黒曜石が採取できる。赤石山の大量産地の黒曜石は色に関係無く赤石山群（旧白滝第1群）にまとまる。また、あじさいの滝の露頭からは赤石山と肉眼観察では区別できない原石が採取でき、あじさい群を作った（旧白滝第2群）、また、八号沢の黒曜石原石と白土沢の転搬は梨肌の黒曜石で組成はあじさい滝群に似るが石肌で区別できる。梶加沢よりの転搬の中で70%は梶加沢群になりあじさい滝群と元素組成から両群を区別できず、残りの30%は赤石山群に一致する。置戸産原石は、北海道常呂郡置戸町の清水の沢林道より採取された原石の元素組成は所山置戸群にまとまる。り、また同町の秋田林道で採取される原石は置戸山群にまとまる。留辺岬町のケショマップ川一帯で採取される原石はケショマップ第1および第2群に分類される。この原産地は、常呂川に通じる流域にあり、この常呂川流域で黒曜石の円礫が採取されるが現在まだ調査していない。また置戸町では秋田林道でも原石が採取でき、この原石は置戸山群にまとまる。留辺岬町のケショマップ川一帯で採取される原石はケショマップ第1および第2群に分類された。十勝三股産原石は、北海道河東郡上士幌町の十勝三股の十三ノ沢の谷筋および沢の中より原石が採取され、この原石の元素組成は十勝三股群にまとまる。この十勝三股産原石は十三の沢から音更川さらに十勝川に流れた可能性があり、十勝川から採取される黒曜石円礫の組成は、十勝三股産の原石の組成と相互に近似している。また、上士幌町のサンケルベ川より採取される黒曜石円礫の組成も十勝三股産原石の組成と相互に近似している。これら組成の近似した原石の原産地は区別できず、遺物石材の産地分析でたとえ、この遺物の原石産地が十勝三股群に同定されたとしても、これら十勝三股、音更川、十勝川、サンケルベ川の複数の地点を考えなければならぬ。しかし、この複数の産地をまとめて、十勝地域としても、古代の地域間の交流を考察する場合、問題はないと考えられる。また、清水町、新得町、鹿追町にかけて広がる美瑛台地から産出する黒曜石から2個の美瑛原石群が作られた。この原石は産地近傍の遺跡で使用されている。名寄市の智南地域、智恵文川および忠烈布貯水池から上名寄にかけて黒曜石の円礫が採集される。これらを組成で分類すると88%は名寄第一群に、また12%は名寄第二群にそれぞれなる。旭川市の近文台、嵐山遺跡付近および両文台北部などから採集される黒曜石の円礫は、20%が

近文台第一群、69%が近文台第二群、11%が近文台第三群それぞれ分類された。また、滝川市江別乙で採集される親指大の黒曜石の礫は、組成で分類すると約79%が滝川群にまともり、21%が近文台第一、三群に組成が一致する。滝川群に一致する組成の原石は、北竜市志袋別川増本社からも採取される。秩父別町の雨竜川に開析された平野を見下す丘陵中腹の緩斜面から小円礫の黒曜石原石が採取される。産出状況と礫状は滝川産黒曜石と同じで、秩父別第一群は滝川第一群に組成が一致し、第二群も滝川第二群に一致さらに近文台第二群にも一致する。赤井川産原石は、北海道余市郡赤井川村の土木沢上流域およびこの付近の山腹より採取できる。ここの原石には、少球果の列が何層にも重なり石器の原材料として良質とはいえない原石で赤井川第一群を、また、球果の非常に少ない握り拳半分大の良質な原石などで赤井川第二群を作った。これら第一、二群の元素組成は非常に似ていて、遺物を分析したときしばしば、赤井川両群に同定される。豊泉産原石は豊浦町から産出し、組成によって豊泉第一、二群の二群に区別され、豊泉第二群の原石は良品が少なく良質な黒曜石である。豊泉産原石の使用圏は道南地方に広がり、一部は青森県に伝播している。出来島群は青森県西津軽郡木造町七里長浜の海岸部より採取された円礫の原石で作られた群で、この出来島群と相互に似た組成の原石は、岩木山の西側を流れ鮎ヶ沢地区に流入する中村川の上流で1点採取され、また、青森市の鶴ヶ坂および西津軽郡森田村鮎ヶ沢地区より採取されている。青森県西津軽郡深浦町の海岸と同町の六角沢およびこの沢筋に位置する露頭より採取された原石で六角沢群をまた、八森山産出の原石で八森山群をそれぞれ作った。深浦の両群と相互に似た群は青森市戸門地区より産出する黒曜石で作られた戸門第二群である。戸門第一群、成田群、浪岡町栗山の森地区より産出の大沢廻群（山浪廻群）は赤井川産原石の第一、二群と弁別は可能であるが原石の組成は比較的似ている。戸門、大沢廻産黒曜石の産出量は非常に少なく、希に石礫が作れる大きさがみられる程度であるが、鷹森群は鷹森山麓の成田地区産出の黒曜石中では5cm大のものもみられる。また、考古学者の話題になる下湯川産黒曜石についても原石群を作った。男鹿群は秋田県男鹿市の男鹿半島の金ヶ崎温泉のあった海岸より採取された原石で作られ、男鹿半島の脇本地区で採取された原石の組成は男鹿群と相互に近似していることから、この両産地の原石の起源は同じと考えられる。岩手県の黒曜石原産地は北上川に沿った範囲に点々と見られ、零石群は岩手郡零石町の小赤沢地区の礫層から採取された原石で作られ、折居群は水沢市真城の折居地区の礫層より採取された円礫で作られ、花泉群は西磐井郡花泉町の弘田および金沢の両地区の礫層より採取された小円礫の原石で作られた原石群である。これら岩手県の原石群の組成は相互に似ていて、これら原産地を元素組成で明確に区別できなく、遺物を分析してたとえこれら岩手県下の原石群の中の一地点に同定されても、この遺物の原産地はこれら岩手県内の複数の原産地を考えなければならぬ。月山群は羽山山から月山にかけての西麓付近に点々と分布する黒曜石産出地点より採取した原石で作った群である。最近、鈴木氏より提供された黒曜石原石は、寒河江市から転輸として産出した黒曜石原石で、西北九州の中町産地の原石と組成が似るが、一致せず全く新しい組成の黒曜石と判別し、寒河江群として原石群に加えた。湯合群は宮城県加美郡宮崎町柳瀬の湯合真珠岩層の露頭付近で採取された原石で作られた群である。新潟県内の原産地では、佐渡島は大佐渡山地の南部に位置し、所在地は佐渡郡金井町堂林、二ツ坂地域から佐和田町との境にかかる地帯である。今回分析した黒曜石は林道工事のときに産出した円礫状の原石で、1cmから3cmの大きさのものが大部分で、大きな原石は長径が約10cmのものが確認できた。現在、林道での採取は困難で、僅かに同地域の沢で少量採取できるようにすぎない。この沢で採取した最大の原石は長径が約5cmの円礫で、小型の石礫を作るには十分の大きさである。元素比の組成の似たもので群を作ると、佐渡第一群と佐渡第二群の二つの群にまとまる。これら佐渡第一、二群は佐渡固有の群で他の産地の原石群と区別することができる。新発田市の板山原石は牧場内に露頭があり、小

粒の黒曜石は無数に採取され、牧場整備で十木工事で露出した露頭からは振り拳大の原石を採取することができた。板山産地から北方約5 Kmに上石川黒曜石産地があり良質の黒曜石を産出している。また、新津市の秋葉山地区から小粒の黒曜石が産出することが知られていた。また、秋葉山南方約3kmの金津地区から新たに黒曜石が産出している地点が明らかになり金津産原石で金津群を作った。この他新潟県では人広瀬村の大白川地区から採取される黒曜石は大半が観指人で肉眼的には良質であるが石器原料として使用された例はない。中信高原地域の黒曜石産地の中で、霧ヶ峰群は、長野県下諏訪町金明水、星ヶ塔、星ヶ台の地点より採取した原石でもって作られた群で、同町観音沢の露頭の原石も、霧ヶ峰群に一致する元素組成を示した。和田峠地域原産の原石は、星ヶ塔の西方の山に位置する旧和田峠トンネルを中心にした数百メートルの範囲より採取され、これらを元素組成で分類すると、和田峠第一、第二、第三、第四、第五、第六の各群に分かたれる。和田峠第一、第二群に分類された原石は旧トンネル付近より北側の地点より採取され、和田峠第二群のものは、トンネルの南側の原石に多くみられる。和田峠第四群は男女倉側の新トンネルの入り口、また、和田峠第五、第六群は男女倉側新トンネル入り口左側で、和田峠第一、第三の両群の産地とは逆の方向である。男女倉原産地の原石は男女倉群にまともなり組成は和田峠第五群に似る。鷹山、星ヶ峰の黒曜石の中に和田峠第一群に属する物が多数みられる。麦草峠群は大石川の上流および麦草峠より採取された原石で作られた。これら中信高原の原産地は、元素組成で和田峠、霧ヶ峰、男女倉、麦草峠の各地域に区別される。伊豆箱根地方の原産地は笛塚、畑宿、鍛冶屋、上多賀、柿峠西の各地にあり、良質の石材は、畑宿、和峠西で斑晶の多いやや石質の悪いものは鍛冶屋、上多賀の両原産地でみられる。笛塚産のものはピッチストーン様で、石器原料としては良くないであろう。伊豆諸島の神津島原産地は砂峠峰、長浜、沢尻湾、恩馳島の各地点から黒曜石が採取され、これら原石から神津島第一群および第二群の原石群にまとめられる。浅間山の大崖沢の黒曜石は貝殻状剥離せず石器の原材料としては不適當ではあるが、考古学者の間でしばしば話題に上るため大崖沢群として遺物と比較した。

結果と考察

遺跡から出土した石器、石片は風化しているが、黒曜石製のものは風化に対して安定で、表面に薄い水層が形成されているにすぎないため、表面の泥を水洗するだけで完全な非破壊分析が可能であると考えられる。産地分析で水層の影響は、軽い元素の分析ほど大きいと考えられるが、影響はほとんど見られない。Ca/K、Ti/Kの両軽元素比量を除いて産地分析を行なった場合、また除かずに産地分析を行った場合同定される原産地に差はない。他の元素比量についても風化の影響を完全に否定することができないので、得られた確率の数値には、不確かさを伴うが、遺物の石材産地の判定を誤るようなことはない。

今回分析した明後沢遺跡出土の黒曜石製造物の分析結果を表2に示した。石器の分析結果から石材産地を同定するためには数理統計的手法を用いて原石群との比較をする。説明を簡単にするためRb/Zrの一変量だけを考えると、表2の試料番号89567番の遺物ではRb/Zrの値は0.310で、折居群の[平均値] ± [標準偏差] は、0.306 ± 0.033である。遺物と原石群の差を標準偏差値 (σ) を基準にして考えると遺物は原石群から0.12 σ 離れている。ところで折居群の原産地から100ヶの原石を採ってきて分析すると、平均値から±0.12 σ のずれより大きいものが90個ある。すなわち、この遺物が、折居群の原石から作られていたと仮定しても、0.12 σ 以上離れる確率は90%であると言える。だから、折居群の平均値から0.12 σ しか離れていないときには、この遺物が折居群の原石から作られたものでないとは、到底言い切れない。ところがこの遺物を月山群に比較すると、月山群の平均値からの隔たりは、約9 σ である。これを確率の言葉で表現すると、月山群の

原石を採ってきて分析したとき、平均値から9σ以上離れている確率は、十億分の一であると言える。このように、十億個に一個しかないような原石をたまたま採取して、この遺物が作られたとは考えられないから、この遺物は、月山群の原石から作られたものではないと断定できる。これらのことを簡単にまとめて言うと、「この遺物は折居群に90%の確率で帰属され、信頼限界の0.1%を満たしていることから折居産原石が使用されいると断定され、さらに月山群に一千万分の一%の低い確率で帰属され、信頼限界の0.1%を満たさないことから月山産原石でないと同定される」。遺物が一ヶ所の産地（折居産地）と一致したからと言って、例え折居群と月山群の原石は成分が異なっている、分析している試料は原石でなく遺物で、さらに分析誤差が大きくなる不定形（非破壊分析）であることから、他の産地に一致しないとは言えない、同種岩石の中で分類である以上、他の産地にも一致する可能性は推測される。即ちある産地（折居産地）に一致し必要条件を満足したと言っても、一致した産地の原石とは限らないために、帰属確率による判断を表1の225個すべての原石群について行ない十分条件を求め、低い確率で帰属された原石群の原石は使用していないとして消していくことにより、はじめて折居産地の石材のみが使用されていると判定される。実際はRb/Zrといった唯一の変量だけでなく、前述した8ヶの変量で取り扱うので変量間の相関を考慮しなければならぬ。例えばA原産地のA群で、Ca元素とRb元素との間に相関があり、Caの量を計ればRbの量は分析しなくても分かるようなときは、A群の石材で作られた遺物であれば、A群と比較したとき、Ca量が一致すれば当然Rb量も一致するはずである。したがって、もしRb量だけが少しずれている場合には、この試料はA群に属していないと言わなければならない。このことを数量的に導き出せるようにしたのが相関を考慮した多変量統計の手法であるマハラノビスの距離を求めて行なうホテリングのT²乗検定である。これによって、それぞれの群に帰属する確率を求めて産地を同定する^{4, 5)}。産地の同定結果は1個の遺物に対して、黒曜石製では225個の推定確率結果が得られている。今回産地分析を行った遺物の産地推定結果については低い確率で帰属された原産地の推定確率は紙面の都合上記入を省略しているが、本研究ではこれら産地の可能性が非常に低いことを確認したという非常に重要な意味を含んでいる、すなわち、折居産原石と判定された遺物について、カムチャッカ産原石とかロシア、北朝鮮の遺跡で使用されている原石および北海道白滝地域産の原石の可能性を考える必要がない結果で、高い確率で同定された産地のみの結果を表3に記入した。原石群を作った原石試料は直径3cm以上であるが、多数の試料を処理するために、小さな遺物試料の分析に多くの時間をかけられない事情があり、短時間で測定を打ち切る。このため、得られた遺物の測定値には、大きな誤差範囲が含まれ、ときには原石群の元素組成のパラツキの範囲を越え大きくなる。したがって、小さな遺物の産地推定を行なったときに、判定の信頼限界としている0.1%に達しない確率を示す場合が比較的多くみられる。この場合には、原石産地（確率）の欄の確率値に替えて、マハラノビスの距離D²乗の値を記した。この遺物については、記入されたD²乗の値が原石群の中で最も小さなD²乗値で、この値が小さい程、遺物の元素組成はその原石群の組成と似ていると言えるため、推定確率は低いが、その原石産地と考えると間違いはないと判断されたものである。今回分析した明後沢遺跡出土の黒曜石製石鏃、未製品の2個は、花巻・折居・零石群など、北上川に沿った河岸段丘の礫層から採取された原石で作られていると推測され、さらに遺跡に近い段丘層から黒曜石鏃が採取される可能性も否定もできないが、現在は折居産地が近く、折居産原石が使用された可能性が非常に高いと判定した。判定の背景には、必要条件（折居群）を満たした原石群を差し引いた、黒曜石原石・遺物群の221個の原石でないという十分条件は各原石・遺物群の221個に対して確率を計算して、証明しているためである。

参考文献

- 1) 高村哲男・東村武信(1975), 蛍光X線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定(II)。考古学と自然科学, 8:61-69
- 2) 高村哲男・東村武信・鎌木義昌(1977), (1978), 蛍光X線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定(III), (IV)。考古学と自然科学, 10, 11:53-81:33-47
- 3) 高村哲男・東村武信(1983), 石器原材の産地分析。考古学と自然科学, 16:59-89
- 4) 東村武信(1976), 産地推定における統計的手法。考古学と自然科学, 9:77-90
- 5) 東村武信(1990), 考古学と物理化学。学生社

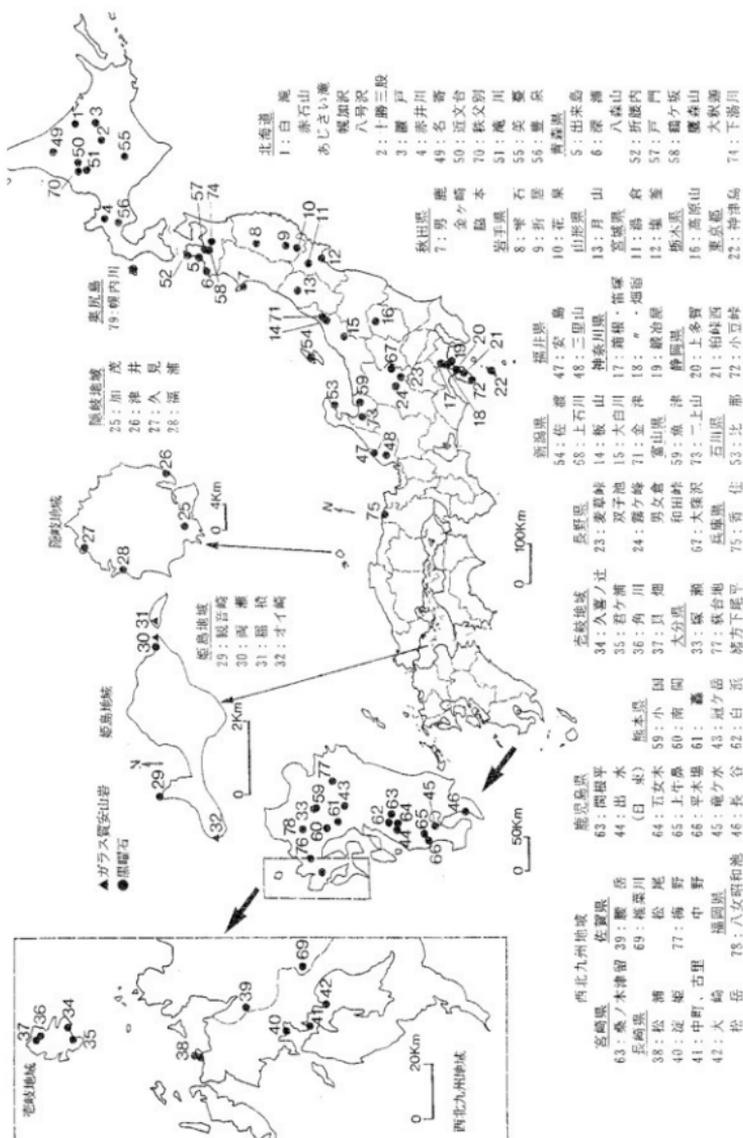


図1 黒曜石産地

表 1-1 各県産石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差

産地	原産地	Ca/K	Cr/K	Th/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Nb/Zr	Fe/Zr	Nb/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K
北越前	香取第一群	0.173±0.011	0.121±0.005	0.625±0.007	2.011±0.003	0.696±0.012	0.374±0.022	0.198±0.017	0.675±0.016	0.035±0.002	0.123±0.010	0.035±0.002	0.40±0.10
	香取第二群	0.209±0.016	0.163±0.010	0.621±0.009	1.774±0.035	0.696±0.044	0.265±0.041	0.201±0.051	0.702±0.052	0.052±0.020	0.075±0.030	0.025±0.007	0.39±0.10
	岩手山	0.139±0.014	0.091±0.003	0.679±0.013	2.711±0.172	1.300±0.059	0.385±0.019	0.141±0.019	0.723±0.025	0.073±0.020	0.097±0.040	0.073±0.020	0.50±0.10
	戸手山	0.139±0.010	0.021±0.002	0.102±0.013	3.049±0.181	1.855±0.058	0.468±0.018	0.152±0.019	0.694±0.018	0.064±0.018	0.052±0.018	0.067±0.005	0.359±0.142
	八戸山	0.162±0.010	0.022±0.002	0.092±0.015	2.453±0.167	1.594±0.077	0.104±0.010	0.107±0.017	0.104±0.010	0.103±0.012	0.027±0.002	0.027±0.002	0.309±0.107
	大畑	0.148±0.010	0.022±0.001	0.101±0.014	3.453±0.175	1.734±0.076	0.113±0.013	0.137±0.035	0.078±0.044	0.057±0.005	0.205±0.011	0.057±0.005	0.205±0.111
	宮城第一群	0.818±0.013	0.168±0.005	0.081±0.010	2.948±0.117	0.604±0.041	0.699±0.041	0.036±0.006	0.039±0.016	0.039±0.016	0.039±0.016	0.039±0.016	0.47±0.098
	宮城第二群	0.517±0.011	0.069±0.002	0.067±0.000	2.773±0.097	0.712±0.057	0.811±0.034	0.197±0.024	0.611±0.019	0.031±0.002	0.442±0.098	0.031±0.002	0.442±0.098
	宮城第三群	0.529±0.012	0.142±0.009	0.068±0.018	2.110±0.107	0.338±0.100	0.798±0.081	0.230±0.043	0.053±0.021	0.236±0.001	0.173±0.044	0.236±0.001	0.173±0.044
	岩手第一群	0.670±0.020	0.127±0.005	0.072±0.011	3.046±0.163	0.759±0.047	0.430±0.025	0.129±0.042	0.672±0.012	0.649±0.005	0.317±0.014	0.649±0.005	0.317±0.014
	岩手第二群	0.519±0.017	0.122±0.006	0.078±0.011	1.614±0.068	0.878±0.031	0.878±0.031	0.275±0.021	0.072±0.024	0.822±0.004	0.334±0.013	0.822±0.004	0.334±0.013
	秋田第一群	0.519±0.018	0.107±0.005	0.068±0.018	2.705±0.125	0.714±0.034	0.759±0.045	0.234±0.029	0.058±0.016	0.807±0.003	0.417±0.016	0.807±0.003	0.417±0.016
	秋田第二群	0.499±0.017	0.127±0.006	0.077±0.010	1.615±0.060	0.817±0.035	0.539±0.025	0.283±0.029	0.058±0.016	0.805±0.011	0.414±0.022	0.805±0.011	0.414±0.022
	山形第一群	0.529±0.009	0.129±0.005	0.035±0.004	1.815±0.062	0.325±0.081	0.752±0.060	0.190±0.030	0.041±0.010	0.049±0.004	0.414±0.022	0.049±0.004	0.414±0.022
	山形第二群	0.611±0.018	0.183±0.005	0.039±0.008	1.748±0.072	0.419±0.024	0.454±0.023	0.178±0.023	0.048±0.008	0.048±0.008	0.414±0.022	0.048±0.008	0.414±0.022
	山形第三群	0.348±0.013	0.137±0.007	0.039±0.005	1.916±0.050	0.374±0.019	0.589±0.019	0.189±0.019	0.039±0.019	0.039±0.019	0.414±0.022	0.039±0.019	0.414±0.022
	山形第四群	0.281±0.017	0.168±0.008	0.040±0.013	1.817±0.098	0.957±0.041	0.275±0.014	0.275±0.014	0.029±0.015	0.029±0.015	0.029±0.015	0.029±0.015	0.414±0.022
	山形第五群	0.513±0.046	0.110±0.011	0.021±0.011	2.555±0.086	0.995±0.088	0.659±0.027	0.167±0.027	0.037±0.020	0.037±0.020	0.037±0.020	0.037±0.020	0.302±0.023
	山形第六群	0.678±0.011	0.167±0.005	0.025±0.014	2.631±0.126	0.966±0.030	0.712±0.022	0.170±0.022	0.030±0.010	0.030±0.010	0.030±0.010	0.030±0.010	0.302±0.023
	山形第七群	0.599±0.018	0.142±0.007	0.065±0.010	2.351±0.057	1.097±0.027	0.431±0.023	0.334±0.017	0.661±0.025	0.629±0.002	0.306±0.110	0.629±0.002	0.306±0.110
	山形第八群	0.519±0.016	0.144±0.012	0.036±0.013	3.025±0.141	0.902±0.061	0.707±0.041	0.199±0.079	0.039±0.023	0.039±0.023	0.039±0.023	0.039±0.023	0.412±0.015
	山形第九群	0.294±0.029	0.079±0.004	0.066±0.010	1.912±0.104	0.809±0.040	0.429±0.024	0.458±0.024	0.058±0.022	0.058±0.022	0.058±0.022	0.058±0.022	0.412±0.015
	山形第十群	0.258±0.005	0.072±0.002	0.089±0.010	2.707±0.083	0.370±0.043	0.438±0.029	0.219±0.024	0.638±0.025	0.625±0.002	0.371±0.007	0.625±0.002	0.371±0.007
	山形第十一群	0.379±0.019	0.135±0.007	0.069±0.015	1.784±0.072	0.338±0.027	0.697±0.029	0.151±0.020	0.02±0.017	0.02±0.017	0.02±0.017	0.02±0.017	0.089±0.015
	山形第十二群	0.377±0.009	0.132±0.006	0.035±0.008	1.725±0.095	0.419±0.019	0.513±0.018	0.171±0.018	0.067±0.015	0.067±0.015	0.067±0.015	0.067±0.015	0.089±0.015
	山形第十三群	0.484±0.012	0.085±0.003	0.049±0.012	2.032±0.221	0.732±0.221	0.212±0.014	0.141±0.028	0.079±0.021	0.079±0.021	0.079±0.021	0.079±0.021	0.131±0.011
	山形第十四群	0.379±0.013	0.125±0.005	0.021±0.018	1.926±0.085	0.414±0.028	0.319±0.024	0.141±0.028	0.079±0.021	0.079±0.021	0.079±0.021	0.079±0.021	0.131±0.011
	山形第十五群	0.089±0.008	0.097±0.001	0.012±0.012	0.925±0.021	0.153±0.008	0.062±0.020	0.062±0.020	0.035±0.001	0.035±0.001	0.035±0.001	0.035±0.001	0.304±0.110
	山形第十六群	0.529±0.024	0.068±0.003	0.068±0.018	2.558±0.092	0.371±0.018	0.444±0.005	0.062±0.020	0.035±0.001	0.035±0.001	0.035±0.001	0.035±0.001	0.304±0.110
	山形第十七群	0.611±0.004	0.161±0.004	0.012±0.002	0.601±0.021	1.233±0.006	0.062±0.002	0.069±0.010	0.038±0.005	0.038±0.005	0.038±0.005	0.038±0.005	0.260±0.145
	山形第十八群	0.341±0.017	0.132±0.007	0.232±0.022	2.764±0.145	0.311±0.072	0.368±0.019	0.248±0.019	0.186±0.037	0.037±0.002	0.295±0.145	0.037±0.002	0.295±0.145
	山形第十九群	0.679±0.017	0.088±0.009	0.079±0.013	2.148±0.101	1.849±0.069	0.368±0.018	0.288±0.018	0.049±0.026	0.049±0.026	0.049±0.026	0.049±0.026	0.333±0.018
	山形第二十群	0.679±0.019	0.103±0.009	0.207±0.021	21.648±1.300	1.949±0.021	1.706±0.021	0.538±0.021	0.109±0.013	0.075±0.042	0.538±0.018	0.075±0.042	0.538±0.018
	山形第二十一群	0.258±0.016	0.062±0.008	0.077±0.029	2.310±0.082	1.117±0.082	0.368±0.014	0.831±0.022	0.245±0.022	0.245±0.022	0.245±0.022	0.245±0.022	0.173±0.014
	山形第二十二群	0.509±0.024	0.181±0.018	0.340±0.038	1.770±0.350	0.808±0.014	0.808±0.014	0.245±0.022	0.072±0.014	0.072±0.014	0.072±0.014	0.072±0.014	0.309±0.044
	山形第二十三群	0.284±0.009	0.097±0.004	0.290±0.013	1.871±0.077	1.444±0.031	1.871±0.077	0.309±0.031	0.088±0.040	0.088±0.040	0.088±0.040	0.088±0.040	0.295±0.069
	山形第二十四群	0.325±0.018	0.095±0.008	0.132±0.016	1.871±0.077	1.444±0.031	1.871±0.077	0.309±0.031	0.088±0.040	0.088±0.040	0.088±0.040	0.088±0.040	0.295±0.069
	山形第二十五群	0.639±0.013	0.157±0.012	0.022±0.017	1.906±0.074	0.309±0.031	0.441±0.025	0.121±0.025	0.082±0.011	0.082±0.011	0.082±0.011	0.082±0.011	0.469±0.110
	山形第二十六群	0.839±0.033	0.157±0.012	0.022±0.017	1.764±0.061	0.309±0.031	0.441±0.025	0.121±0.025	0.082±0.011	0.082±0.011	0.082±0.011	0.082±0.011	0.469±0.110
	山形第二十七群	0.639±0.013	0.157±0.012	0.022±0.017	1.764±0.061	0.309±0.031	0.441±0.025	0.121±0.025	0.082±0.011	0.082±0.011	0.082±0.011	0.082±0.011	0.469±0.110
	山形第二十八群	0.595±0.046	0.177±0.018	0.038±0.008	2.750±0.072	0.314±0.019	0.430±0.025	0.280±0.016	0.044±0.015	0.044±0.015	0.044±0.015	0.044±0.015	0.594±0.043
	山形第二十九群	1.121±0.015	0.249±0.017	0.037±0.005	2.341±0.149	0.118±0.006	0.638±0.024	0.128±0.015	0.029±0.013	0.029±0.013	0.029±0.013	0.029±0.013	0.526±0.040

表 1-2 各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差

原産地	原石群名	種数	Ca/K	Th/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Kb/Zr	La/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Sr/K	Si/K
宮城県	高砂	37	4.825±0.295	1.536±0.104	0.178±0.017	1.965±0.110	0.155±0.016	0.037±0.018	0.778±0.092	0.534±0.062	0.728±0.032		
	栗山	40	2.719±0.087	0.290±0.017	0.044±0.007	1.362±0.073	0.262±0.017	0.252±0.014	0.622±0.014	0.039±0.002	0.519±0.002	0.738±0.012	
	神谷	36	0.381±0.019	0.139±0.005	0.107±0.011	1.789±0.079	0.717±0.021	0.839±0.057	0.203±0.021	0.960±0.029	0.038±0.003	0.568±0.017	
	神谷	25	0.312±0.018	0.129±0.005	0.114±0.014	1.534±0.069	0.615±0.028	0.636±0.059	0.267±0.025	0.107±0.029	0.033±0.002	0.471±0.009	
	神谷	40	0.319±0.020	0.129±0.005	0.118±0.011	1.895±0.098	0.611±0.030	0.644±0.065	0.292±0.029	0.985±0.039	0.031±0.006	0.475±0.012	
	神谷	31	0.655±0.054	0.209±0.014	0.078±0.005	2.925±0.072	0.959±0.017	1.775±0.064	0.356±0.017	0.725±0.019	0.110±0.005	1.452±0.040	
	神谷	31	0.655±0.054	0.209±0.014	0.078±0.005	2.925±0.072	0.959±0.017	1.775±0.064	0.356±0.017	0.725±0.019	0.110±0.005	1.452±0.040	
	神谷	21	0.752±0.029	0.256±0.013	0.085±0.008	2.139±0.047	0.682±0.029	0.732±0.011	0.111±0.010	0.690±0.003	0.184±0.003	1.184±0.031	
	神谷	21	0.752±0.029	0.256±0.013	0.085±0.008	2.139±0.047	0.682±0.029	0.732±0.011	0.111±0.010	0.690±0.003	0.184±0.003	1.184±0.031	
	神谷	35	1.259±0.078	0.364±0.014	0.041±0.006	1.667±0.058	0.927±0.049	0.591±0.022	0.128±0.011	0.102±0.006	0.669±0.004	0.880±0.035	
石川県	小杉	40	1.119±0.028	0.405±0.004	0.397±0.008	2.211±0.319	1.929±0.059	0.143±0.030	0.317±0.051	0.057±0.037	0.925±0.124	0.429±0.016	
	小杉	42	0.275±0.012	0.055±0.003	0.964±0.013	2.013±0.119	0.593±0.052	0.566±0.039	0.150±0.029	0.077±0.035	0.631±0.004	0.355±0.012	
	小杉	36	0.319±0.017	0.113±0.006	0.040±0.008	1.730±0.080	0.730±0.032	0.643±0.029	0.724±0.029	0.647±0.031	0.516±0.014	0.399±0.013	
	小杉	45	0.411±0.052	0.105±0.014	0.078±0.021	1.984±0.152	0.413±0.028	1.864±0.050	0.138±0.025	0.951±0.051	0.600±0.020	0.596±0.014	
	小杉	165	0.258±0.010	0.088±0.005	0.101±0.018	1.331±0.132	0.739±0.035	1.222±0.085	0.127±0.015	0.057±0.035	0.195±0.014	0.117±0.025	
	小杉	72	0.159±0.010	0.039±0.002	0.109±0.019	1.324±0.084	0.685±0.057	0.380±0.023	0.279±0.029	0.080±0.032	0.609±0.003	0.349±0.010	
	小杉	143	0.167±0.025	0.019±0.005	0.117±0.011	1.248±0.085	1.353±0.121	0.117±0.038	0.409±0.045	0.139±0.026	0.925±0.002	0.353±0.016	
	小杉	11	0.48±0.033	0.021±0.003	0.131±0.019	1.481±0.039	1.192±0.135	0.058±0.012	0.317±0.041	0.158±0.025	0.927±0.002	0.383±0.007	
	小杉	32	0.141±0.017	0.054±0.004	0.098±0.008	1.272±0.082	0.731±0.047	0.568±0.039	0.325±0.015	0.190±0.022	0.075±0.002	0.351±0.016	
	小杉	32	0.141±0.017	0.054±0.004	0.098±0.008	1.272±0.082	0.731±0.047	0.568±0.039	0.325±0.015	0.190±0.022	0.075±0.002	0.351±0.016	
長野県	北村	17	0.178±0.019	0.035±0.010	0.073±0.013	1.282±0.083	1.053±0.106	0.215±0.038	0.184±0.013	0.066±0.023	0.611±0.002	0.313±0.013	
	北村	53	0.168±0.011	0.054±0.003	0.093±0.012	1.233±0.064	1.773±0.064	0.143±0.031	0.279±0.039	0.103±0.017	0.931±0.002	0.360±0.010	
	北村	52	0.159±0.011	0.042±0.002	0.129±0.010	1.258±0.041	1.558±0.107	0.043±0.010	0.142±0.022	0.029±0.002	0.029±0.002	0.360±0.010	
	北村	119	0.223±0.026	0.102±0.019	0.059±0.008	1.169±0.081	0.701±0.060	0.469±0.052	0.129±0.024	0.053±0.017	0.029±0.002	0.351±0.008	
	北村	81	0.223±0.026	0.102±0.019	0.059±0.008	1.169±0.081	0.701±0.060	0.469±0.052	0.129±0.024	0.053±0.017	0.029±0.002	0.351±0.008	
	北村	49	0.159±0.007	0.068±0.006	0.102±0.018	1.320±0.077	1.028±0.093	0.267±0.031	0.110±0.022	0.046±0.021	0.025±0.003	0.349±0.011	
	北村	97	0.215±0.017	0.136±0.019	0.031±0.012	1.397±0.099	0.542±0.038	0.748±0.041	0.140±0.024	0.943±0.017	0.031±0.003	0.359±0.012	
	北村	83	0.258±0.027	0.139±0.007	0.039±0.019	1.630±0.179	0.699±0.052	0.802±0.068	0.111±0.024	0.057±0.032	0.027±0.007	0.401±0.011	
	北村	47	0.267±0.011	0.124±0.006	0.046±0.013	1.385±0.036	0.994±0.051	0.227±0.009	0.109±0.051	0.843±0.022	0.031±0.004	0.381±0.011	
	北村	42	0.181±0.006	0.078±0.002	0.042±0.005	2.005±0.135	0.152±0.014	0.267±0.015	0.105±0.019	0.099±0.008	0.033±0.003	0.439±0.012	
新潟県	長岡	41	3.041±0.096	1.071±0.028	0.112±0.015	1.620±0.306	1.183±0.016	0.523±0.016	0.189±0.013	0.023±0.012	0.915±0.015	0.519±0.011	
	長岡	12	0.258±0.013	0.078±0.006	0.059±0.005	1.852±0.079	0.151±0.014	0.283±0.018	0.148±0.013	0.049±0.017	0.021±0.004	0.338±0.013	
	長岡	12	0.258±0.013	0.078±0.006	0.059±0.005	1.852±0.079	0.151±0.014	0.283±0.018	0.148±0.013	0.049±0.017	0.021±0.004	0.338±0.013	
	長岡	45	0.231±0.007	0.079±0.003	0.060±0.014	1.621±0.070	0.981±0.047	0.775±0.039	0.192±0.022	0.329±0.022	0.025±0.002	0.329±0.022	
	長岡	11	0.233±0.011	0.083±0.003	0.103±0.017	1.725±0.110	1.173±0.066	0.273±0.016	0.374±0.016	0.134±0.014	0.027±0.007	0.336±0.009	
	長岡	22	0.548±0.012	0.162±0.002	0.033±0.005	1.688±0.019	0.201±0.012	0.345±0.013	0.150±0.013	0.633±0.011	0.026±0.003	0.491±0.014	
	長岡	40	0.331±0.011	0.097±0.012	0.030±0.007	1.311±0.039	0.613±0.017	0.283±0.012	0.031±0.018	0.033±0.018	0.037±0.009	0.469±0.012	
	長岡	55	0.483±0.019	0.055±0.005	0.069±0.010	1.651±0.055	0.684±0.012	0.309±0.038	0.083±0.012	0.160±0.028	0.022±0.002	0.546±0.030	
	長岡	17	0.379±0.014	0.087±0.004	0.060±0.009	1.639±0.019	0.739±0.078	0.33±0.023	0.172±0.020	0.052±0.018	0.032±0.007	0.396±0.017	
	長岡	21	0.398±0.018	0.123±0.008	0.038±0.005	1.672±0.051	0.685±0.041	0.672±0.040	0.143±0.020	0.961±0.016	0.028±0.002	0.438±0.010	
兵庫県	多田	20	0.219±0.003	0.067±0.002	0.043±0.007	1.825±0.056	0.833±0.034	0.789±0.009	0.019±0.020	0.063±0.015	0.825±0.005	0.301±0.008	
	多田	40	0.219±0.003	0.067±0.002	0.043±0.007	1.825±0.056	0.833±0.034	0.789±0.009	0.019±0.020	0.063±0.015	0.825±0.005	0.301±0.008	
	多田	16	0.125±0.002	0.058±0.002	0.082±0.012	1.884±0.016	0.117±0.010	0.397±0.020	0.112±0.029	0.158±0.024	0.024±0.012	0.408±0.012	
	多田	16	0.125±0.002	0.058±0.002	0.082±0.012	1.884±0.016	0.117±0.010	0.397±0.020	0.112±0.029	0.158±0.024	0.024±0.012	0.408±0.012	
	多田	16	0.125±0.002	0.058±0.002	0.082±0.012	1.884±0.016	0.117±0.010	0.397±0.020	0.112±0.029	0.158±0.024	0.024±0.012	0.408±0.012	
	多田	16	0.125±0.002	0.058±0.002	0.082±0.012	1.884±0.016	0.117±0.010	0.397±0.020	0.112±0.029	0.158±0.024	0.024±0.012	0.408±0.012	
	多田	16	0.125±0.002	0.058±0.002	0.082±0.012	1.884±0.016	0.117±0.010	0.397±0.020	0.112±0.029	0.158±0.024	0.024±0.012	0.408±0.012	
	多田	16	0.125±0.002	0.058±0.002	0.082±0.012	1.884±0.016	0.117±0.010	0.397±0.020	0.112±0.029	0.158±0.024	0.024±0.012	0.408±0.012	
	多田	16	0.125±0.002	0.058±0.002	0.082±0.012	1.884±0.016	0.117±0.010	0.397±0.020	0.112±0.029	0.158±0.024	0.024±0.012	0.408±0.012	
	多田	16	0.125±0.002	0.058±0.002	0.082±0.012	1.884±0.016	0.117±0.010	0.397±0.020	0.112±0.029	0.158±0.024	0.024±0.012	0.408±0.012	
静岡県	長岡	41	3.041±0.096	1.071±0.028	0.112±0.015	1.620±0.306	1.183±0.016	0.523±0.016	0.189±0.013	0.023±0.012	0.915±0.015	0.519±0.011	
	長岡	12	0.258±0.013	0.078±0.006	0.059±0.005	1.852±0.079	0.151±0.014	0.283±0.018	0.148±0.013	0.049±0.017	0.021±0.004	0.338±0.013	
	長岡	12	0.258±0.013	0.078±0.006	0.059±0.005	1.852±0.079	0.151±0.014	0.283±0.018	0.148±0.013	0.049±0.017	0.021±0.004	0.338±0.013	
	長岡	45	0.231±0.007	0.079±0.003	0.060±0.014	1.621±0.070	0.981±0.047	0.775±0.039	0.192±0.022	0.329±0.022	0.025±0.002	0.329±0.022	
	長岡	11	0.233±0.011	0.083±0.003	0.103±0.017	1.725±0.110	1.173±0.066	0.273±0.016	0.374±0.016	0.134±0.014	0.027±0.007	0.336±0.009	
	長岡	22	0.548±0.012	0.162±0.002	0.033±0.005	1.688±0.019	0.201±0.012	0.345±0.013	0.150±0.013	0.633±0.011	0.026±0.003	0.491±0.014	
	長岡	40	0.331±0.011	0.097±0.012	0.030±0.007	1.311±0.039	0.613±0.017	0.283±0.012	0.031±0.018	0.033±0.018	0.037±0.009	0.469±0.012	
	長岡	55	0.483±0.019	0.055±0.005	0.069±0.010	1.651±0.055	0.684±0.012	0.309±0.038	0.083±0.012	0.160±0.028	0.022±0.002	0.546±0.030	
	長岡	17	0.379±0.014	0.087±0.004	0.060±0.009	1.639±0.019	0.739±0.078	0.33±0.023	0.172±0.020	0.052±0.018	0.032±0.007	0.396±0.017	
	長岡	21	0.398±0.018	0.123±0.008	0.038±0.005	1.672±0.051	0.685±0.041	0.672±0.040	0.143±0.020	0.961±0.016	0.028±0.002	0.438±0.010	

表 1-3 各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差

分類	原産地	原石群	元											S / K			
			Ca / K	Fe / K	Mg / Zr	Be / Zr	KD / Zr	Si / Zr	Y / Zr	Nb / Zr	A' / K	K / K					
赤色	黒曜石	黒曜石群一	51	1.503±0.027	0.141±0.010	0.629±0.007	3.726±0.170	0.696±0.063	1.339±0.082	0.028±0.006	0.693±0.019	0.911±0.004	0.397±0.013	0.815±0.004	0.815±0.004	0.397±0.013	
		黒曜石群二	50	1.282±0.126	0.194±0.013	0.626±0.003	3.160±0.160	0.626±0.060	1.014±0.072	0.021±0.003	0.612±0.013	0.911±0.004	0.397±0.013	0.815±0.004	0.815±0.004	0.397±0.013	
		黒曜石群三	50	1.138±0.081	0.112±0.011	0.633±0.012	3.138±0.163	0.609±0.078	1.333±0.091	0.022±0.002	0.601±0.020	0.911±0.004	0.397±0.013	0.815±0.004	0.815±0.004	0.397±0.013	
		黒曜石群四	31	1.194±0.067	0.112±0.011	0.628±0.012	3.202±0.163	0.609±0.078	1.354±0.088	0.022±0.002	0.612±0.020	0.911±0.004	0.397±0.013	0.815±0.004	0.815±0.004	0.397±0.013	
		大和山原産群	39	1.407±0.120	0.163±0.023	0.612±0.009	3.123±0.179	0.484±0.080	1.019±0.075	0.023±0.003	0.612±0.020	0.911±0.004	0.397±0.013	0.815±0.004	0.815±0.004	0.397±0.013	
		大和山原産群	34	1.013±0.042	0.103±0.012	0.648±0.011	3.205±0.199	0.570±0.040	1.239±0.070	0.029±0.003	0.612±0.020	0.911±0.004	0.397±0.013	0.815±0.004	0.815±0.004	0.397±0.013	
		大和山原産群	68	0.297±0.010	0.211±0.007	0.602±0.003	3.149±0.027	0.329±0.011	1.253±0.035	0.353±0.015	0.171±0.005	0.612±0.020	0.911±0.004	0.397±0.013	0.815±0.004	0.815±0.004	0.397±0.013
		大和山原産群	30	0.426±0.007	0.104±0.002	0.627±0.005	3.143±0.083	0.529±0.033	1.253±0.035	0.353±0.015	0.171±0.005	0.612±0.020	0.911±0.004	0.397±0.013	0.815±0.004	0.815±0.004	0.397±0.013
		大和山原産群	30	0.673±0.013	0.232±0.005	0.627±0.005	3.152±0.036	0.627±0.005	1.253±0.035	0.353±0.015	0.171±0.005	0.612±0.020	0.911±0.004	0.397±0.013	0.815±0.004	0.815±0.004	0.397±0.013
		大和山原産群	30	0.673±0.013	0.232±0.005	0.627±0.005	3.152±0.036	0.627±0.005	1.253±0.035	0.353±0.015	0.171±0.005	0.612±0.020	0.911±0.004	0.397±0.013	0.815±0.004	0.815±0.004	0.397±0.013
大和	黒曜石	黒曜石群一	30	0.140±0.007	0.071±0.003	0.125±0.018	2.775±0.212	1.620±0.082	1.296±0.143	0.141±0.004	0.269±0.047	0.628±0.002	0.343±0.009	0.628±0.002	0.343±0.009	0.628±0.002	
		黒曜石群二	30	0.140±0.007	0.071±0.003	0.125±0.018	2.775±0.212	1.620±0.082	1.296±0.143	0.141±0.004	0.269±0.047	0.628±0.002	0.343±0.009	0.628±0.002	0.343±0.009	0.628±0.002	
		黒曜石群三	30	0.140±0.007	0.071±0.003	0.125±0.018	2.775±0.212	1.620±0.082	1.296±0.143	0.141±0.004	0.269±0.047	0.628±0.002	0.343±0.009	0.628±0.002	0.343±0.009	0.628±0.002	
		黒曜石群四	30	0.140±0.007	0.071±0.003	0.125±0.018	2.775±0.212	1.620±0.082	1.296±0.143	0.141±0.004	0.269±0.047	0.628±0.002	0.343±0.009	0.628±0.002	0.343±0.009	0.628±0.002	
		黒曜石群五	30	0.140±0.007	0.071±0.003	0.125±0.018	2.775±0.212	1.620±0.082	1.296±0.143	0.141±0.004	0.269±0.047	0.628±0.002	0.343±0.009	0.628±0.002	0.343±0.009	0.628±0.002	
		黒曜石群六	30	0.140±0.007	0.071±0.003	0.125±0.018	2.775±0.212	1.620±0.082	1.296±0.143	0.141±0.004	0.269±0.047	0.628±0.002	0.343±0.009	0.628±0.002	0.343±0.009	0.628±0.002	
		黒曜石群七	30	0.140±0.007	0.071±0.003	0.125±0.018	2.775±0.212	1.620±0.082	1.296±0.143	0.141±0.004	0.269±0.047	0.628±0.002	0.343±0.009	0.628±0.002	0.343±0.009	0.628±0.002	
		黒曜石群八	30	0.140±0.007	0.071±0.003	0.125±0.018	2.775±0.212	1.620±0.082	1.296±0.143	0.141±0.004	0.269±0.047	0.628±0.002	0.343±0.009	0.628±0.002	0.343±0.009	0.628±0.002	
		黒曜石群九	30	0.140±0.007	0.071±0.003	0.125±0.018	2.775±0.212	1.620±0.082	1.296±0.143	0.141±0.004	0.269±0.047	0.628±0.002	0.343±0.009	0.628±0.002	0.343±0.009	0.628±0.002	
		黒曜石群十	30	0.140±0.007	0.071±0.003	0.125±0.018	2.775±0.212	1.620±0.082	1.296±0.143	0.141±0.004	0.269±0.047	0.628±0.002	0.343±0.009	0.628±0.002	0.343±0.009	0.628±0.002	
大和	黒曜石	黒曜石群一	47	2.22±0.019	0.367±0.010	0.129±0.013	4.802±0.369	1.170±0.114	1.728±0.083	0.032±0.005	0.149±0.016	0.717±0.017	0.025±0.002	0.328±0.016	0.717±0.017	0.025±0.002	
		黒曜石群二	51	0.239±0.011	0.043±0.003	0.141±0.006	6.743±0.406	1.411±0.068	6.743±0.406	1.411±0.068	0.043±0.003	0.141±0.006	0.043±0.003	0.141±0.006	0.043±0.003	0.141±0.006	
		黒曜石群三	50	0.239±0.011	0.043±0.003	0.141±0.006	6.743±0.406	1.411±0.068	6.743±0.406	1.411±0.068	0.043±0.003	0.141±0.006	0.043±0.003	0.141±0.006	0.043±0.003	0.141±0.006	
		黒曜石群四	46	1.039±0.131	0.211±0.024	0.110±0.037	3.267±0.617	0.311±0.054	2.738±0.468	0.107±0.030	0.084±0.027	0.612±0.020	0.911±0.004	0.397±0.013	0.815±0.004	0.397±0.013	
		黒曜石群五	43	0.629±0.041	0.127±0.013	0.120±0.013	3.297±0.776	0.472±0.093	3.089±0.176	0.147±0.039	0.092±0.036	0.612±0.020	0.911±0.004	0.397±0.013	0.815±0.004	0.397±0.013	
		黒曜石群六	30	1.313±0.023	0.142±0.009	0.095±0.010	1.539±0.124	0.603±0.051	1.539±0.124	0.603±0.051	0.142±0.009	0.095±0.010	0.612±0.020	0.911±0.004	0.397±0.013	0.815±0.004	
		黒曜石群七	47	0.913±0.045	0.093±0.015	0.099±0.008	1.561±0.095	0.933±0.010	0.717±0.013	0.058±0.010	0.085±0.023	0.612±0.020	0.911±0.004	0.397±0.013	0.815±0.004	0.397±0.013	
		黒曜石群八	21	0.174±0.009	0.068±0.002	0.030±0.005	1.179±0.035	0.533±0.013	0.717±0.013	0.058±0.010	0.085±0.023	0.612±0.020	0.911±0.004	0.397±0.013	0.815±0.004	0.397±0.013	
		黒曜石群九	58	0.138±0.009	0.033±0.002	0.025±0.006	1.171±0.035	0.533±0.013	0.533±0.013	0.058±0.010	0.085±0.023	0.612±0.020	0.911±0.004	0.397±0.013	0.815±0.004	0.397±0.013	
		黒曜石群十	30	0.138±0.009	0.033±0.002	0.025±0.006	1.171±0.035	0.533±0.013	0.533±0.013	0.058±0.010	0.085±0.023	0.612±0.020	0.911±0.004	0.397±0.013	0.815±0.004	0.397±0.013	
大和	黒曜石	黒曜石群一	23	2.15±0.018	0.037±0.008	0.072±0.016	1.746±0.073	1.524±0.064	0.479±0.036	0.271±0.013	0.314±0.010	0.821±0.009	0.230±0.010	0.821±0.009	0.230±0.010	0.821±0.009	
		黒曜石群二	17	1.182±0.011	0.031±0.005	0.071±0.024	2.258±0.193	1.325±0.193	0.309±0.053	0.244±0.071	0.309±0.053	0.821±0.009	0.230±0.010	0.821±0.009	0.230±0.010	0.821±0.009	
		黒曜石群三	16	2.70±0.023	0.062±0.006	0.051±0.018	1.939±0.211	1.524±0.193	0.409±0.119	0.454±0.039	0.120±0.014	0.821±0.009	0.230±0.010	0.821±0.009	0.230±0.010	0.821±0.009	
		黒曜石群四	22	2.29±0.022	0.066±0.006	0.045±0.012	1.830±0.157	1.774±0.179	0.454±0.039	0.120±0.014	0.120±0.014	0.821±0.009	0.230±0.010	0.821±0.009	0.230±0.010	0.821±0.009	
		黒曜石群五	44	2.29±0.022	0.066±0.006	0.045±0.012	1.830±0.157	1.774±0.179	0.454±0.039	0.120±0.014	0.120±0.014	0.821±0.009	0.230±0.010	0.821±0.009	0.230±0.010	0.821±0.009	
		黒曜石群六	25	2.29±0.022	0.066±0.006	0.045±0.012	1.830±0.157	1.774±0.179	0.454±0.039	0.120±0.014	0.120±0.014	0.821±0.009	0.230±0.010	0.821±0.009	0.230±0.010	0.821±0.009	
		黒曜石群七	17	2.29±0.022	0.066±0.006	0.045±0.012	1.830±0.157	1.774±0.179	0.454±0.039	0.120±0.014	0.120±0.014	0.821±0.009	0.230±0.010	0.821±0.009	0.230±0.010	0.821±0.009	
		黒曜石群八	20	2.29±0.022	0.066±0.006	0.045±0.012	1.830±0.157	1.774±0.179	0.454±0.039	0.120±0.014	0.120±0.014	0.821±0.009	0.230±0.010	0.821±0.009	0.230±0.010	0.821±0.009	
		黒曜石群九	40	4.25±0.019	0.070±0.007	0.026±0.011	1.939±0.211	1.524±0.193	0.409±0.119	0.454±0.039	0.120±0.014	0.821±0.009	0.230±0.010	0.821±0.009	0.230±0.010	0.821±0.009	
		黒曜石群十	43	0.174±0.009	0.068±0.002	0.030±0.005	1.171±0.035	0.533±0.013	0.717±0.013	0.058±0.010	0.085±0.023	0.612±0.020	0.911±0.004	0.397±0.013	0.815±0.004	0.397±0.013	
大和	黒曜石	黒曜石群一	74	1.184±0.012	0.033±0.002	0.040±0.012	1.160±0.081	0.912±0.068	0.181±0.022	0.262±0.029	0.132±0.024	0.628±0.002	0.343±0.009	0.628±0.002	0.343±0.009	0.628±0.002	
		黒曜石群二	30	0.201±0.013	0.127±0.005	0.063±0.007	4.441±0.070	0.811±0.002	0.750±0.015	0.175±0.023	0.697±0.017	0.628±0.002	0.343±0.009	0.628±0.002	0.343±0.009	0.628±0.002	
		黒曜石群三	30	0.201±0.013	0.127±0.005	0.063±0.007	4.441±0.070	0.811±0.002	0.750±0.015	0.175±0.023	0.697±0.017	0.628±0.002	0.343±0.009	0.628±0.002	0.343±0.009	0.628±0.002	
		黒曜石群四	33	1.624±0.139	0.032±0.003	0.033±0.005	6.754±0.078	0.279±0.017	0.279±0.017	0.088±0.010	0.088±0.010	0.628±0.002	0.343±0.009	0.628±0.002	0.343±0.009	0.628±0.002	
		黒曜石群五	21	2.29±0.022	0.066±0.006	0.045±0.012	1.830±0.157	1.774±0.179	0.454±0.039	0.120±0.014	0.120±0.014	0.821±0.009	0.230±0.010	0.821±0.009	0.230±0.010	0.821±0.009	
		黒曜石群六	37	1.909±0.107	0.275±0.018	0.083±0.011	6.750±0.305	0.252±0.018	1.194±0.047	0.103±0.011	0.073±0.013	0.628±0.002	0.343±0.009	0.628±0.002	0.343±0.009	0.628±0.002	
		黒曜石群七	54	0.794±0.063	0.491±0.009	0.045±0.003	2.279±0.025	0.279±0.018	0.811±0.046	0.046±0.012	0.029±0.011	0.628±0.002	0.343±0.009	0.628±0.002	0.343±0.009	0.628±0.002	
		黒曜石群八	53	1.084±0.082	0.491±0.009	0.030±0.006	1.871±0.387	0.252±0.018	1.258±0.015	0.088±0.010	0.029±0.011	0.628±0.002	0.343±0.009	0.628±0.002	0.343±0.009	0.628±0.002	
		黒曜石群九	18	1.071±0.156	0.062±0.010	0.074±0.011</											

表1-4 各黒曜石の原産地における黒曜石の元素比の平均値と標準偏差値

分析 編號	元 素 比										
	Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Str	V/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K	Si/K
31	0.207±0.013	0.091±0.006	0.070±0.009	1.421±0.073	1.690±0.018	0.112±0.020	0.296±0.031	0.003±0.024	0.029±0.003	0.284±0.011	
32	0.201±0.015	0.091±0.006	0.069±0.010	1.743±0.083	1.342±0.060	0.125±0.039	0.203±0.029	0.017±0.036	0.022±0.002	0.223±0.019	
36	0.195±0.015	0.091±0.006	0.041±0.003	0.053±0.002	0.699±0.001	0.133±0.003	0.034±0.019	0.000±0.000	0.033±0.019	0.448±0.022	
37	0.274±0.019	0.093±0.009	0.017±0.008	1.811±0.078	0.918±0.055	0.040±0.032	0.281±0.061	0.010±0.035	0.021±0.008	0.338±0.011	
43	0.344±0.012	0.124±0.005	0.017±0.002	1.654±0.074	0.829±0.031	0.073±0.018	0.143±0.029	0.029±0.012	0.021±0.008	0.375±0.014	
49	0.340±0.012	0.124±0.005	0.022±0.004	1.170±0.040	0.712±0.028	0.053±0.023	0.106±0.014	0.029±0.013	0.019±0.001	0.375±0.008	
50	0.340±0.012	0.110±0.008	0.019±0.003	1.170±0.041	0.705±0.027	0.043±0.021	0.108±0.015	0.028±0.013	0.019±0.001	0.375±0.008	
51	0.629±0.028	0.801±0.037	0.033±0.006	3.342±0.315	0.388±0.013	1.163±0.036	0.087±0.029	0.022±0.008	0.009±0.002	0.209±0.011	
52	0.629±0.028	0.801±0.037	0.033±0.006	3.342±0.315	0.388±0.013	1.163±0.036	0.087±0.029	0.022±0.008	0.009±0.002	0.209±0.011	
53	0.629±0.028	0.801±0.037	0.033±0.006	3.342±0.315	0.388±0.013	1.163±0.036	0.087±0.029	0.022±0.008	0.009±0.002	0.209±0.011	
54	0.629±0.028	0.801±0.037	0.033±0.006	3.342±0.315	0.388±0.013	1.163±0.036	0.087±0.029	0.022±0.008	0.009±0.002	0.209±0.011	
55	0.629±0.028	0.801±0.037	0.033±0.006	3.342±0.315	0.388±0.013	1.163±0.036	0.087±0.029	0.022±0.008	0.009±0.002	0.209±0.011	
56	0.629±0.028	0.801±0.037	0.033±0.006	3.342±0.315	0.388±0.013	1.163±0.036	0.087±0.029	0.022±0.008	0.009±0.002	0.209±0.011	
57	0.510±0.010	0.183±0.007	0.048±0.007	1.862±0.079	0.253±0.019	0.125±0.012	0.148±0.021	0.019±0.011	0.009±0.010	0.407±0.030	
72	0.473±0.012	0.166±0.007	0.040±0.007	1.372±0.059	0.199±0.011	0.087±0.018	0.129±0.011	0.009±0.010	0.009±0.010	0.407±0.030	
73	0.473±0.012	0.166±0.007	0.040±0.007	1.372±0.059	0.199±0.011	0.087±0.018	0.129±0.011	0.009±0.010	0.009±0.010	0.407±0.030	
74	0.473±0.012	0.166±0.007	0.040±0.007	1.372±0.059	0.199±0.011	0.087±0.018	0.129±0.011	0.009±0.010	0.009±0.010	0.407±0.030	
75	0.473±0.012	0.166±0.007	0.040±0.007	1.372±0.059	0.199±0.011	0.087±0.018	0.129±0.011	0.009±0.010	0.009±0.010	0.407±0.030	
76	0.473±0.012	0.166±0.007	0.040±0.007	1.372±0.059	0.199±0.011	0.087±0.018	0.129±0.011	0.009±0.010	0.009±0.010	0.407±0.030	
77	0.473±0.012	0.166±0.007	0.040±0.007	1.372±0.059	0.199±0.011	0.087±0.018	0.129±0.011	0.009±0.010	0.009±0.010	0.407±0.030	
78	0.473±0.012	0.166±0.007	0.040±0.007	1.372±0.059	0.199±0.011	0.087±0.018	0.129±0.011	0.009±0.010	0.009±0.010	0.407±0.030	
79	0.473±0.012	0.166±0.007	0.040±0.007	1.372±0.059	0.199±0.011	0.087±0.018	0.129±0.011	0.009±0.010	0.009±0.010	0.407±0.030	
80	0.473±0.012	0.166±0.007	0.040±0.007	1.372±0.059	0.199±0.011	0.087±0.018	0.129±0.011	0.009±0.010	0.009±0.010	0.407±0.030	
81	0.473±0.012	0.166±0.007	0.040±0.007	1.372±0.059	0.199±0.011	0.087±0.018	0.129±0.011	0.009±0.010	0.009±0.010	0.407±0.030	
82	0.473±0.012	0.166±0.007	0.040±0.007	1.372±0.059	0.199±0.011	0.087±0.018	0.129±0.011	0.009±0.010	0.009±0.010	0.407±0.030	
83	0.473±0.012	0.166±0.007	0.040±0.007	1.372±0.059	0.199±0.011	0.087±0.018	0.129±0.011	0.009±0.010	0.009±0.010	0.407±0.030	
84	0.473±0.012	0.166±0.007	0.040±0.007	1.372±0.059	0.199±0.011	0.087±0.018	0.129±0.011	0.009±0.010	0.009±0.010	0.407±0.030	
85	0.473±0.012	0.166±0.007	0.040±0.007	1.372±0.059	0.199±0.011	0.087±0.018	0.129±0.011	0.009±0.010	0.009±0.010	0.407±0.030	
86	0.473±0.012	0.166±0.007	0.040±0.007	1.372±0.059	0.199±0.011	0.087±0.018	0.129±0.011	0.009±0.010	0.009±0.010	0.407±0.030	
87	0.473±0.012	0.166±0.007	0.040±0.007	1.372±0.059	0.199±0.011	0.087±0.018	0.129±0.011	0.009±0.010	0.009±0.010	0.407±0.030	
88	0.473±0.012	0.166±0.007	0.040±0.007	1.372±0.059	0.199±0.011	0.087±0.018	0.129±0.011	0.009±0.010	0.009±0.010	0.407±0.030	
89	0.473±0.012	0.166±0.007	0.040±0.007	1.372±0.059	0.199±0.011	0.087±0.018	0.129±0.011	0.009±0.010	0.009±0.010	0.407±0.030	
90	0.473±0.012	0.166±0.007	0.040±0.007	1.372±0.059	0.199±0.011	0.087±0.018	0.129±0.011	0.009±0.010	0.009±0.010	0.407±0.030	
91	0.473±0.012	0.166±0.007	0.040±0.007	1.372±0.059	0.199±0.011	0.087±0.018	0.129±0.011	0.009±0.010	0.009±0.010	0.407±0.030	
92	0.473±0.012	0.166±0.007	0.040±0.007	1.372±0.059	0.199±0.011	0.087±0.018	0.129±0.011	0.009±0.010	0.009±0.010	0.407±0.030	
93	0.473±0.012	0.166±0.007	0.040±0.007	1.372±0.059	0.199±0.011	0.087±0.018	0.129±0.011	0.009±0.010	0.009±0.010	0.407±0.030	
94	0.473±0.012	0.166±0.007	0.040±0.007	1.372±0.059	0.199±0.011	0.087±0.018	0.129±0.011	0.009±0.010	0.009±0.010	0.407±0.030	
95	0.473±0.012	0.166±0.007	0.040±0.007	1.372±0.059	0.199±0.011	0.087±0.018	0.129±0.011	0.009±0.010	0.009±0.010	0.407±0.030	
96	0.473±0.012	0.166±0.007	0.040±0.007	1.372±0.059	0.199±0.011	0.087±0.018	0.129±0.011	0.009±0.010	0.009±0.010	0.407±0.030	
97	0.473±0.012	0.166±0.007	0.040±0.007	1.372±0.059	0.199±0.011	0.087±0.018	0.129±0.011	0.009±0.010	0.009±0.010	0.407±0.030	
98	0.473±0.012	0.166±0.007	0.040±0.007	1.372±0.059	0.199±0.011	0.087±0.018	0.129±0.011	0.009±0.010	0.009±0.010	0.407±0.030	
99	0.473±0.012	0.166±0.007	0.040±0.007	1.372±0.059	0.199±0.011	0.087±0.018	0.129±0.011	0.009±0.010	0.009±0.010	0.407±0.030	
100	0.473±0.012	0.166±0.007	0.040±0.007	1.372±0.059	0.199±0.011	0.087±0.018	0.129±0.011	0.009±0.010	0.009±0.010	0.407±0.030	

表 1-5 各黒曜石の原産地における黒曜石製造物の元素比の平均値と標準偏差値

原産地	黒曜石番号	Ca/K	Ti/K	Mg/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Str	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K
北海道	H1.1.1黒曜石	0.7	0.211±0.031	0.107±0.006	1.295±0.072	0.102±0.016	0.153±0.009	0.140±0.013	0.005±0.013	0.018±0.012	0.320±0.042
	H1.2.1黒曜石	65	0.153±0.006	0.041±0.008	0.614±0.056	0.183±0.021	0.190±0.019	0.136±0.015	0.015±0.019	0.014±0.010	0.260±0.035
	H1.2.2黒曜石	31	0.44±0.012	0.134±0.008	0.639±0.037	2.547±0.135	0.530±0.032	0.603±0.022	0.150±0.021	0.001±0.003	0.029±0.011
	F.1.1黒曜石	39	0.255±0.041	0.166±0.012	0.658±0.069	2.45±0.125	0.658±0.069	0.851±0.029	0.105±0.021	0.014±0.022	0.021±0.009
	F.1.2黒曜石	37	0.300±0.037	0.081±0.007	0.672±0.060	2.49±0.115	0.672±0.060	0.851±0.025	0.105±0.021	0.009±0.017	0.029±0.016
	F.1.3黒曜石	44	0.301±0.043	0.071±0.010	0.691±0.068	2.50±0.117	0.691±0.068	0.851±0.025	0.105±0.021	0.017±0.021	0.037±0.002
	F.1.4黒曜石	32	0.389±0.022	0.221±0.007	0.691±0.068	2.49±0.115	0.691±0.068	0.851±0.025	0.105±0.021	0.017±0.021	0.037±0.002
	F.1.5黒曜石	38	0.401±0.029	0.154±0.009	0.691±0.068	2.49±0.115	0.691±0.068	0.851±0.025	0.105±0.021	0.017±0.021	0.037±0.002
	F.1.6黒曜石	30	0.275±0.027	0.107±0.005	0.692±0.068	2.35±0.092	0.692±0.068	0.851±0.025	0.107±0.019	0.019±0.021	0.034±0.007
	F.1.7黒曜石	62	0.341±0.011	0.070±0.004	0.694±0.068	1.70±0.081	0.694±0.068	0.851±0.025	0.107±0.019	0.019±0.021	0.034±0.007
神威岳	K.1.1黒曜石	58	0.183±0.008	0.014±0.002	0.692±0.068	1.70±0.081	0.692±0.068	0.851±0.025	0.107±0.019	0.019±0.021	0.034±0.007
	K.1.2黒曜石	68	0.183±0.008	0.014±0.002	0.692±0.068	1.70±0.081	0.692±0.068	0.851±0.025	0.107±0.019	0.019±0.021	0.034±0.007
	K.1.3黒曜石	51	3.14±0.122	1.261±0.021	0.707±0.021	15.427±1.115	1.31±0.018	1.439±0.125	0.383±0.025	0.650±0.019	0.034±0.002
	K.1.4黒曜石	33	0.235±0.011	0.131±0.006	0.698±0.068	1.820±0.089	0.698±0.068	0.851±0.025	0.107±0.019	0.019±0.021	0.034±0.007
	S.1.1黒曜石	85	0.297±0.009	0.087±0.004	0.693±0.066	1.371±0.082	0.693±0.066	0.851±0.025	0.107±0.019	0.019±0.021	0.034±0.007
	S.1.2黒曜石	29	0.307±0.009	0.116±0.008	0.676±0.065	1.307±0.082	0.676±0.065	0.851±0.025	0.107±0.019	0.019±0.021	0.034±0.007
	K.1.5黒曜石	06	0.317±0.011	0.121±0.009	0.693±0.066	1.381±0.071	0.693±0.066	0.851±0.025	0.107±0.019	0.019±0.021	0.034±0.007
	K.1.6黒曜石	05	0.258±0.008	0.062±0.003	0.697±0.068	1.955±0.098	0.697±0.068	0.851±0.025	0.107±0.019	0.019±0.021	0.034±0.007
	K.1.7黒曜石	41	0.319±0.014	0.155±0.009	0.697±0.068	1.820±0.089	0.697±0.068	0.851±0.025	0.107±0.019	0.019±0.021	0.034±0.007
	K.1.8黒曜石	61	0.569±0.013	0.215±0.004	0.693±0.066	2.752±0.102	0.693±0.066	0.851±0.025	0.107±0.019	0.019±0.021	0.034±0.007
新子岳	N.1.1黒曜石	127	1.839±0.059	0.474±0.023	0.697±0.067	6.053±0.206	0.697±0.067	0.851±0.025	0.107±0.019	0.019±0.021	0.034±0.007
	N.1.2黒曜石	122	3.107±0.082	0.698±0.027	0.101±0.009	3.782±0.108	0.101±0.009	0.851±0.025	0.107±0.019	0.019±0.021	0.034±0.007
	N.1.3黒曜石	45	0.269±0.010	0.097±0.009	0.675±0.067	1.791±0.085	0.675±0.067	0.851±0.025	0.107±0.019	0.019±0.021	0.034±0.007
	S.D.黒曜石	65	0.269±0.010	0.141±0.016	0.693±0.066	1.820±0.089	0.693±0.066	0.851±0.025	0.107±0.019	0.019±0.021	0.034±0.007
	A.C.1黒曜石	03	0.251±0.007	0.051±0.002	0.681±0.065	1.561±0.073	0.681±0.065	0.851±0.025	0.107±0.019	0.019±0.021	0.034±0.007
	A.C.2黒曜石	35	0.657±0.017	0.051±0.002	0.681±0.065	1.561±0.073	0.681±0.065	0.851±0.025	0.107±0.019	0.019±0.021	0.034±0.007
	N.1.4黒曜石	48	0.328±0.012	0.078±0.004	0.696±0.065	2.092±0.077	0.696±0.065	0.851±0.025	0.107±0.019	0.019±0.021	0.034±0.007
	N.1.5黒曜石	78	0.742±0.013	0.101±0.004	0.696±0.065	2.092±0.077	0.696±0.065	0.851±0.025	0.107±0.019	0.019±0.021	0.034±0.007
	N.1.6黒曜石	57	0.368±0.010	0.145±0.007	0.698±0.065	1.719±0.072	0.698±0.065	0.851±0.025	0.107±0.019	0.019±0.021	0.034±0.007
	N.1.7黒曜石	59	0.313±0.014	0.121±0.005	0.698±0.065	1.751±0.074	0.698±0.065	0.851±0.025	0.107±0.019	0.019±0.021	0.034±0.007
奥出雲 山口県	O.1.1黒曜石	40	0.293±0.014	0.059±0.002	0.691±0.065	1.544±0.053	0.691±0.065	0.851±0.025	0.107±0.019	0.019±0.021	0.034±0.007
	M.K.1黒曜石	46	0.328±0.018	0.059±0.002	0.691±0.065	1.544±0.053	0.691±0.065	0.851±0.025	0.107±0.019	0.019±0.021	0.034±0.007
	M.K.2黒曜石	46	0.328±0.018	0.059±0.002	0.691±0.065	1.544±0.053	0.691±0.065	0.851±0.025	0.107±0.019	0.019±0.021	0.034±0.007
	J.1.1黒曜石	54	0.707±0.020	0.205±0.009	0.691±0.065	1.616±0.053	0.691±0.065	0.851±0.025	0.107±0.019	0.019±0.021	0.034±0.007
	J.1.2黒曜石	48	0.197±0.005	0.754±0.013	0.698±0.065	7.699±0.844	0.698±0.065	0.851±0.025	0.107±0.019	0.019±0.021	0.034±0.007
	J.1.3黒曜石	46	0.414±0.100	1.551±0.674	0.695±0.065	8.900±1.265	0.695±0.065	0.851±0.025	0.107±0.019	0.019±0.021	0.034±0.007
	U.T.1黒曜石	46	0.297±0.015	0.107±0.005	0.695±0.065	1.630±0.064	0.695±0.065	0.851±0.025	0.107±0.019	0.019±0.021	0.034±0.007
	K.U.1黒曜石	45	1.871±0.061	1.013±0.069	0.780±0.055	14.500±1.021	0.623±0.031	2.09±0.238	0.782±0.059	0.606±0.045	0.060±0.017
	K.U.2黒曜石	45	0.293±0.014	0.101±0.005	0.691±0.065	1.910±0.058	0.691±0.065	0.851±0.025	0.107±0.019	0.019±0.021	0.034±0.007
	K.U.3黒曜石	45	0.402±0.013	0.146±0.008	0.692±0.065	1.529±0.051	0.692±0.065	0.851±0.025	0.107±0.019	0.019±0.021	0.034±0.007
鹿野川 山口県	S.G.黒曜石	46	0.685±0.021	0.775±0.038	0.682±0.061	4.100±0.222	0.682±0.061	0.851±0.025	0.107±0.019	0.019±0.021	0.034±0.007
	S.G.黒曜石	46	0.685±0.021	0.775±0.038	0.682±0.061	4.100±0.222	0.682±0.061	0.851±0.025	0.107±0.019	0.019±0.021	0.034±0.007
	O.K.黒曜石	22	1.371±0.074	0.605±0.025	0.691±0.066	2.069±0.114	0.691±0.066	0.851±0.025	0.107±0.019	0.019±0.021	0.034±0.007
	K.K.1黒曜石	48	0.347±0.010	0.069±0.003	0.691±0.065	1.853±0.058	0.691±0.065	0.851±0.025	0.107±0.019	0.019±0.021	0.034±0.007
	K.K.2黒曜石	48	0.321±0.011	0.112±0.004	0.692±0.065	1.676±0.061	0.692±0.065	0.851±0.025	0.107±0.019	0.019±0.021	0.034±0.007
	K.K.3黒曜石	48	0.321±0.011	0.112±0.004	0.692±0.065	1.676±0.061	0.692±0.065	0.851±0.025	0.107±0.019	0.019±0.021	0.034±0.007
	K.K.4黒曜石	48	0.321±0.011	0.112±0.004	0.692±0.065	1.676±0.061	0.692±0.065	0.851±0.025	0.107±0.019	0.019±0.021	0.034±0.007
	K.K.5黒曜石	48	0.321±0.011	0.112±0.004	0.692±0.065	1.676±0.061	0.692±0.065	0.851±0.025	0.107±0.019	0.019±0.021	0.034±0.007
	K.K.6黒曜石	48	0.321±0.011	0.112±0.004	0.692±0.065	1.676±0.061	0.692±0.065	0.851±0.025	0.107±0.019	0.019±0.021	0.034±0.007
	K.K.7黒曜石	48	0.321±0.011	0.112±0.004	0.692±0.065	1.676±0.061	0.692±0.065	0.851±0.025	0.107±0.019	0.019±0.021	0.034±0.007

明後沢遺跡群第16次調査の自然科学分析

バリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

明後沢遺跡群は、明後沢、八角館、宗角館、熊野、幅、鳥子沢、前堀の七つの遺跡で構成されている。本遺跡は、胆沢扇状地の東端部に位置し、松ノ木沢川と明後沢川に開析された、標高70~72mの舌状台地に立地する。本遺跡は古瓦が出土する遺跡として知られており、平成14年度の発掘調査では平安時代の竪穴住居跡、溝跡、平安時代以降の溝跡、縄文時代の陥し穴、その他に上坑・柱状土坑・墓穴、築土遺構、粘土採掘穴等が検出されている。出土遺物は、土師器、須恵器、陶器片、磁器片、手づくねかわらけ、土鈴、縄文土器片、瓦片、石器、鉄製品等が確認されている。

今回の分析調査では、出土した種実遺体の同定を行い、植物利用に関する資料を得る。

1. 試料

試料は、長軸2.5m、短軸1.7mの墓穴埋土の上位から炭化物に混じって出土した種実遺体1点である。墓穴の下位からは靉美産?と思われる陶器片が数十点出土している。

2. 方法

試料を双眼実体顕微鏡下で観察し、種実遺体の形態的特徴と当社所有の現生標本との比較から種類を同定し、写真撮影を行う。同定の種実遺体は、種類別に乾燥剤とともにビンに入れて保存する。

3. 結果

種実遺体は、ブナ科コナラ属 (*Quercus*) の子葉に同定された。2枚からなる子葉の合わせ目に沿って割れた半分の状態、完全に炭化している。炭化子葉は黒色を呈す。完形ならば狭卵形体か。長さ19mm、径8mm程度。子葉頂部を欠損する。表面には縦方向に走る維管束の圧痕が明瞭にみられる。子葉の合わせ目の面は平滑で、正中線上はやや凹む。岡本 (1979) は、日本産ブナ科植物の子葉には2枚が離れやすいものと非常に離れにくいものがあることを指摘し、コナラ属ではアカガシ亜属イチイガシ、コナラ亜属クヌギ節アベマキ・クヌギを後者と報告している。これに従えば、今回出土した子葉は合わせ目に沿って2つに割れているため、前者の離れやすいタイプとみられ、上述以外のコナラ属の可能性が考えられる。

4. 考察

コナラ属には、常緑性のアカガシ亜属と落葉性のコナラ亜属がある。岡本 (1979) の指摘に従えば、今回の試料ではコナラ亜属のクヌギ節は除外される。また、アカガシ亜属のうち、イチイガシも除外され、イチイガシ以外のアカガシ亜属またはコナラ亜属コナラ節に由来することが推定される。アカガシ亜属については、現在の分布状況などから考えにくく、出土した種実遺体はコナラ節に由来する可能性が高い。

コナラ節は、暖温帯の落葉広葉樹林に極めて普通にみられる種類であり、現在の本地域周辺の山林にもみられるコナラやミズナラが見られる。コナラ節の果実は、アク抜きを必要とするが、食用可能であり、長期保存にも適する。このことから、遺跡内でもコナラ節が食用などに利用されていた可能性がある。今回の種実遺体については、食用とする部位が炭化しているため、利用前に何らかの理由で焼かれ、炭化したことが推定される。

明後沢遺跡の胎土分析

バリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

明後沢遺跡群は、岩手県胆沢郡前沢町に所在し、北上川中流右岸に広がる胆沢扇状地の東部を構成する舌状台地上に位置している。この舌状台地は、大土・吉田（1984）によれば、胆沢段丘高位面である桐原面に区分されており、その形成年代は南関東における武蔵野面ないし小原台面に対比されている（大上ほか、1986）。

本遺跡では、発掘調査で認められた遺物等の様相から、古代の域柵、寺院、窯跡といった性格を持つ遺跡とされているが、判然としていない。今回、当遺跡で実施された発掘調査（第16次調査）では、平安時代の所産と考えられる竪穴住居跡や中世の土坑、墓坑、溝跡、焼土遺構といった多様な遺構が検出されている。なお、発掘調査成果から、粘土を採掘したと考えられる土坑などが検出されていることや、窯業を営む集落から出土すると言われている「土鈴」が出土していることから、窯跡の存在や窯業を営む集落の可能性が示唆されている。

そこで、本報告では、本遺跡の発掘調査で出土した土師器、須恵器および手づくねかわらけなどの胎土の特徴を明らかにし、さらに、粘土採掘坑と考えられる土坑から採取された粘土や焼成粘土塊といった、これら素地となり得る試料も対象に分析を行い、これら各試料の結果の比較から、粘土-焼成粘土塊-土器の関係について検討を行う。

1. 試料

試料は、粘土を採掘したと考えられる土坑群の底面から採取された粘土（試料番号1）、SI10（住居跡）から出土した土師器片（試料番号2）および須恵器片（試料番号3）、SI11（住居跡）から出土した土師器片（試料番号4）、SD78から出土した手づくねかわらけ（試料番号5）、焼成遺構の可能性があると考えられているSI09（住居跡）から出土した焼成粘土塊（試料番号6）の計6点である。

なお、SI10（住居跡）とSI11（住居跡）では、住居跡内のカマドの位置が異なっていることから、時期差があると考えられている。また、SD78から出土した手づくねかわらけは、同様のものが平泉遺跡群でも認められており、両遺跡の関連性を示す資料として注目されている。

2. 分析方法

胎土分析には、現在様々な分析方法が用いられているが、大きく分類すると鉱物組成や岩片組成を求める手法や化学組成を求める手法がある。前者は、試料を粉砕し行う重鉱物分析や薄片作製などが主として用いられており、後者では蛍光X線分析が最もよく用いられている。また、前者の方法は、縄文土器や弥生土器、土師器のような比較的粗粒の砂粒を含み、比較的低温焼成のため鉱物の変質が少ない胎土をもつ試料に有効である。当手法の利点としては、胎土の特徴が捉えやすいことや地質との関連性を考えやすいことなどが挙げられる。一方、後者の手法は、土器の材質（種類）に拘わらず再現性の高い数値によるデータが得られることが利点として挙げられる。本報告では、対象とする試料が土師器や須恵器、かわらけ、粘土と多様であることから、薄片作製観察と蛍光X線分析の2種類の手法を用いて試料間のデータを比較検討する。以下に、各分析方法の処理過程を述べる。

(1) 薄片作製観察

薄片は、試料の一部（粘土試料は樹脂による固化の後）をダイヤモンドカッターで切断、正確に0.03mmの

厚さに研磨して作製した。薄片は岩石学的手法を用いて観察し、胎土に含まれる砂粒を構成する鉱物片および岩石片の種類構成を明らかにし、また胎土の基質については、孔隙の分布する程度と砂の配列や孔隙などに方向性が認められるかどうか、および基質を構成する粘土が焼成によりどの程度ガラス化してどの程度粘土鉱物として残存しているかということと酸化鉄などの鉄分の含まれる程度について定性的に記載した。

(2) 蛍光X線分析

主要10元素のSiO₂、Al₂O₃、Fe₂O₃、TiO₂、MnO、MgO、CaO、Na₂O、K₂O、P₂O₅およびLOIについて測定した。以下に各分析条件を記す。

1) 装置

理学電機工業社製RIX1000 (FP法のグループ定量プログラム)

2) 試料調製

試料を振動ミル(平T製作所製TI100; 10ml容タングステンカーバイト容器)で微粉砕し、105℃で4時間乾燥させた。この微粉砕試料についてガラスビートを以下の条件で作成した。

溶融装置: 自動剥離機構付理学電機工業社製高周波ビートサンプラー (3491A1)

溶剤及び希釈率: 融剤(ホウ酸リチウム) 3.000g; 試料0.500g

剥離剤: LII (溶融中1回投入)

溶融温度: 1200℃ 約7分

3) 測定条件

X線管: Cr (50Kv-30mA)

スペクトル: 全元素K α

分光結晶: LiF, PET, TAP, Ge

検出器: F-PC, SC

計数時間: PcaK40sec, Back20scc

3. 結果

(1) 薄片作製観察

結果を表1に示す。各試料の観察の結果得られた特徴は、鉱物片および岩石片の種類構成において比較的明瞭である。以下に、各試料の特徴を述べる。

・試料番号1 (粘土採掘坑群: 粘土)

最大径約5mmにもなる淘汰不良の砂を多量に含む。鉱物片では石英が多く、他に少量の斜長石と微量のカリ長石、黒雲母、角閃石、緑閃石などを含む。また、岩石片では、少量の凝灰岩と微量のチャート、安山岩、花崗岩、火山ガラス、結晶片岩など多種の岩石が認められる。さらに珪酸化石や植物珪酸体などの微化石類も認められる。

・試料番号2 (SI10: 土師器片)

最大径約0.9mmの高汰不良の砂を中量程度含む。鉱物片では石英と斜長石が少量含まれ、他に微量のカリ長石、斜方輝石、単斜輝石、黒雲母、角閃石などを含む。岩石片では、頁岩、砂岩の堆積岩類と凝灰岩、花崗岩、火山ガラスが微量含まれる。また、植物珪酸体も認められる。

・試料番号3 (SI10: 須恵器片)

最大径約1.0mmの淘汰不良の砂を中量程度含む。鉱物片では石英と斜長石が少量含まれ、カリ長石、斜方輝

石、甲斜輝石およびジルコンなどが微量認められる。岩石片では微量の火山ガラスが認められる。

・試料番号4 (S111:土師器片)

最大径約1.1mmの淘汰不良の砂を中量程度含む。鉱物片では石英と斜長石が少量含まれ、他に微量のカリ長石、斜方輝石、甲斜輝石、白雲母、角閃石、緑閃石などを含む。岩石片では、チャート、砂岩の堆積岩類と凝灰岩、安山岩、花崗岩、火山ガラスなど多種類の岩石片が微量含まれる。また、植物珪酸体も認められる。

・試料番号5 (SD78:手づくねかわらけ)

上記試料番号4とほぼ同様の特徴を有する。試料番号4との違いは、鉱物片において白雲母ではなく、黒雲母が認められる。

・試料番号6 (焼成粘土塊)

最大径約0.9mmの淘汰が中程度の砂が少量含まれる。鉱物片では、少量の斜長石と微量の石英、カリ長石、斜方輝石、甲斜輝石、白雲母、角閃石などが認められる。岩石片では、微量のチャート、凝灰岩、火山ガラスが認められる。

(2) 蛍光X線分析

SiO₂、Al₂O₃については、いずれの試料もそれぞれ60～70%、20%前後の範囲にほぼ取り、試料間での系統的な差異は認められない。一方、Fe₂O₃、TiO₂、MgO、CaO、Na₂Oの5元素においては、試料番号1の粘土試料と他の試料と差異が認められる。また、Fe₂O₃、TiO₂、K₂Oの3元素では、試料番号6の焼成粘土塊と他の試料と差異が認められる。

4. 考察

今回の分析結果、胎土の特徴が、6試料のすべてに共通する結果は得られなかった。特に、各試料に含まれる砂粒の量と粒径の特徴を比較すると、粘土試料(試料番号1)と土器類試料(試料番号2～5)の間で差異が顕著である。ただし、薄片観察における鉱物片や岩石片の種類構成では、須恵器試料(試料番号3)以外の試料において、石英・不透明鉱物を除いても、カリ長石、斜長石、角閃石の鉱物片とチャート、凝灰岩、火山ガラスの岩石片が各試料に共通して含まれ、さらに黒雲母や安山岩、花崗岩は粘土試料と土器類試料に共通して含まれるなど、差異よりも共通点の方が多い傾向がある。須恵器試料(試料番号3)は、土器類の中でも異なる胎土を有している。一方、元素組成においては、主要な元素であるSiO₂、Al₂O₃では、粘土試料と須恵器試料も含めた土器類および焼成粘土塊(試料番号6)との間に特に大きな差異は認められない。前述の粘土試料(試料番号1)と他の試料との間に差異が認められるとしたFe₂O₃、TiO₂、MgO、CaO、Na₂Oの組成は、おそらく含有される砂の量に起因すると考えられる。以上の状況から、粘土を採掘したと考えられる土坑から採取した粘土が、何も手を加えられずそのまま土器類の素地となった可能性は低いものの、水簸などにより砂の量を調整して土器の素地としたり、他の土と混ぜ土器の素地を調整した可能性がある。これは、焼成粘土塊との関係においても同様な事が言える。

ここで、明後沢遺跡の位置する肥後川沿い周辺の地質から、今回の試料に認められた砂粒の由来を検討してみる。なお、地質に関する資料としては、広川・吉田(1954)、北村(1965)、経済企画庁総合開発局(1974)、日本の地質「東北地方」編集委員会(1989)などを参照した。

まず、明後沢遺跡から採取された自然堆積物である粘土試料(試料番号1)は、多種類の岩石片を含むことが特徴である。これは、試料を採取した粘土層が、様々な地質を起源とする碎屑物が集まる北上川の河川

表2 蛍光X線分析結果 (化学組成)

試料番号	種類	出土遺構	層位	SiO ₂	TiO ₂	Al ₂ O ₃	Fe ₂ O ₃	MnO	MgO	CaO	Na ₂ O	K ₂ O	P ₂ O ₅	loss	合計
1	粘土	胎土採取土塊群	胎土採取	65.06	0.77	19.67	1.87	0.03	0.30	1.06	1.35	1.01	0.00	8.66	100.00
2	土師器片	SI10 (住居跡)	埋土中	60.22	1.10	20.40	5.73	0.06	1.30	0.66	0.81	1.14	0.25	8.33	100.00
3	須恵器片	SI10 (住居跡)	埋土中	68.22	1.08	22.38	4.85	0.02	0.96	0.42	0.80	1.16	0.03	0.08	100.00
4	土師器片	SI11 (住居跡)	埋土中	61.27	0.87	21.63	2.37	0.01	0.46	0.60	1.03	0.98	0.10	10.70	100.00
5	手づくねかわらけ	SI078	埋土中	67.16	0.84	22.89	4.02	0.03	1.30	0.53	1.34	1.38	0.22	0.09	100.00
6	焼成地土塊	SI09	埋土中	61.44	1.12	19.39	6.38	0.05	1.31	0.43	0.83	1.73	0.21	7.10	100.00

*単位は重量%

堆積物に由来することを示唆している。粘土試料(試料番号1)に認められた各種岩石片の起源としては、チャート(今回の場合珪質頁岩に近い)は南部北上帯と呼ばれる中・古生層、凝灰岩は北上山地西縁部に分布する新第三紀中新世の安山岩および凝灰岩からなる稲瀬層、安山岩は胆沢扇状地の背後の山地に広く分布する新第三紀鮮新統とされる国見山安山岩や胆沢川上流域に分布する焼石岳安山岩など、花崗岩は北上山地南部を構成する白亜紀花崗岩類、火山ガラスは胆沢扇状地に降下堆積した第四紀のテフラ、そして結晶片岩は胆沢扇状地と北上川を挟んで広がる北上山地西縁部に分布する母体変成岩の各地質に相当すると考えられる。

土師器試料2点(試料番号2・4)および手づくねかわらけ試料(試料番号5)は、いずれも前述の粘土試料(試料番号1)とほぼ同様な岩石片の種類構成を示す。このことから、これら胎土の特徴が明後沢遺跡の位置する地域の地質学的背景をよく反映していると言える。すなわち、今回の土器類試料(試料番号2~5)が、明後沢遺跡を含む胆沢扇状地付近の北上川流域という範囲内で製作された土器類であることは確実である。したがって、今後、同様な地質学的背景を有する地域内における土器類の製作地の検証については、さらに、分析調査例を蓄積するとともに、考古学的な土器分類に基づく遺跡間の様相の把握や、窯跡や粘土採掘坑といった遺構の検出などが重要となる。

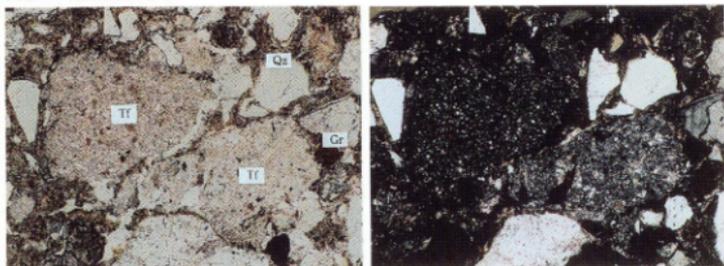
なお、須恵器試料(試料番号3)は、鉱物片、岩石片ともに他の土器類試料(試料番号2・4・5)と比較すると産状が異なっている。すなわち、黒雲母や角閃石などの鉱物片が認められず、また、岩石片では火山ガラス片のみが含まれる。含まれる鉱物片や岩石片の種類は、本遺跡の地質学的背景と整合するが、これらの種類構成は特徴的と言える。また、須恵器試料(試料番号3)胎土全体の質として、他の土器類(試料番号2・4・5)と元素組成で共通点も多い。現時点では、このことが製作地や素地土の調整などの何を反映するか明らかではないが、さらに、試料を蓄積し検討する必要がある。

今後は、本遺跡における土器類製作の可能性を検証するため、粘土採掘坑から採取された粘土や出土した土器の胎土の特徴やそのばらつきを把握することが必要である。さらに、これら胎土の特徴を近隣の遺跡における分析調査例と比較することで、本遺跡を指標とした北上川流域における土器類の様相を明らかにできると期待される。

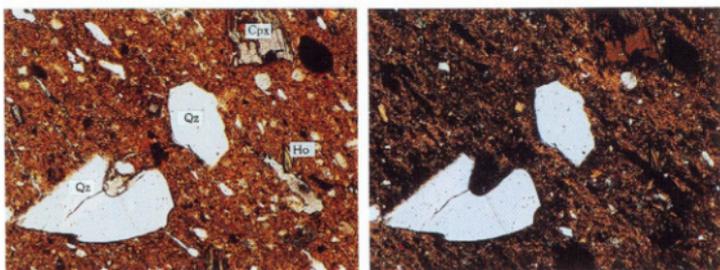
引用文献

- 広川 治・古田 尚 (1954) 5万分の1地質図幅説明書 人首, 33p., 地質調査所.
- 経済企画庁総合開発局 (1974) 土地分類図03 岩手県.
- 北村 信 (1963) 5万分の1地質図幅説明書 焼石岳, 40p., 地質調査所.
- 日本の地質「東北地方」編集委員会 (1989) 日本の地質2 東北地方, 338p., 共立出版.
- 大上和良・古田 充 (1984) 北上川中流域、扇状地における火山灰層序, 岩手大学工学部研究報告, 37, p. 69-81.
- 大上和良・町山隆男・古田 充 (1986) 岩手県、胆沢扇状地地域に分布する火山灰のフィッショントラック年代, 第四紀研究, 24, p. 309-313.
- 岡本素治 (1979) 遺跡から出土するイチイガシ 大阪市立自然史博物館業績, 第230号, p. 31-39

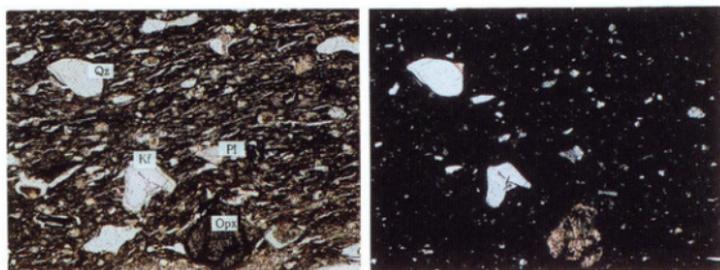
図版1 胎土薄片 (1)



1. 試料番号1 粘土探掘土坑群 底面採取 粘土



2. 試料番号2 SI10 (住居跡) 埋土中 土師器片

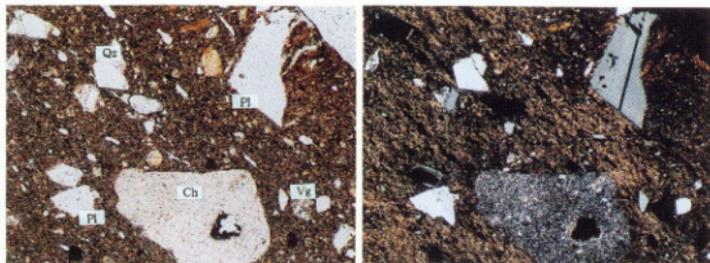


3. 試料番号3 SI10 (住居跡) 埋土中 須惠器片

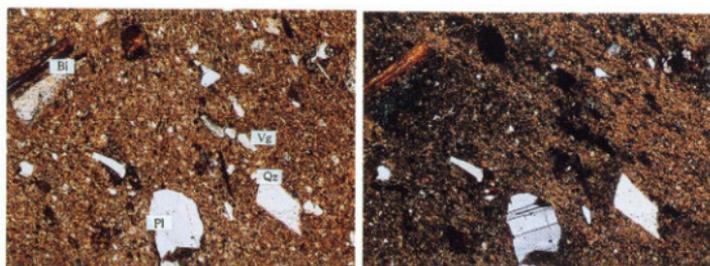
0.5mm

Qz: 石英, Kf: カリ長石, Opx: 斜方輝石, Cpx: 単斜輝石, Ho: 角閃石,
Tr: 凝灰岩, Gr: 花崗岩, P: 孔隙。 写真左列は下方ポラー、写真右列は直交ポラー下。

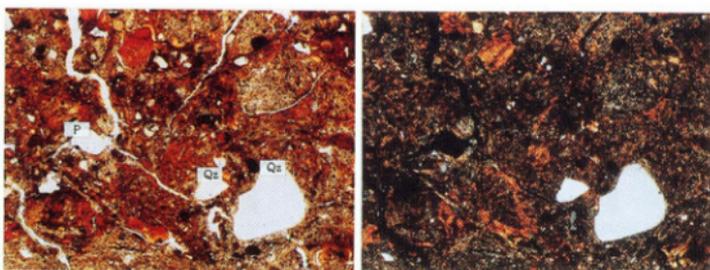
図版2 胎土薄片(2)



4. 試料番号4 SI11 (住居跡) pp2 埋土中 土師器片



5. 試料番号5 SD78 埋土中 手づくねかわらけ



6. 試料番号6 SI09 埋土中 焼成粘土塊

0.5mm

Qz:石英, Pl:斜長石, Bi:黒雲母, Ch:チャート, Vg:火山ガラス, P:孔隙。
写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

写 真 图 版



明後沢遺跡群調査区遠景（西→）

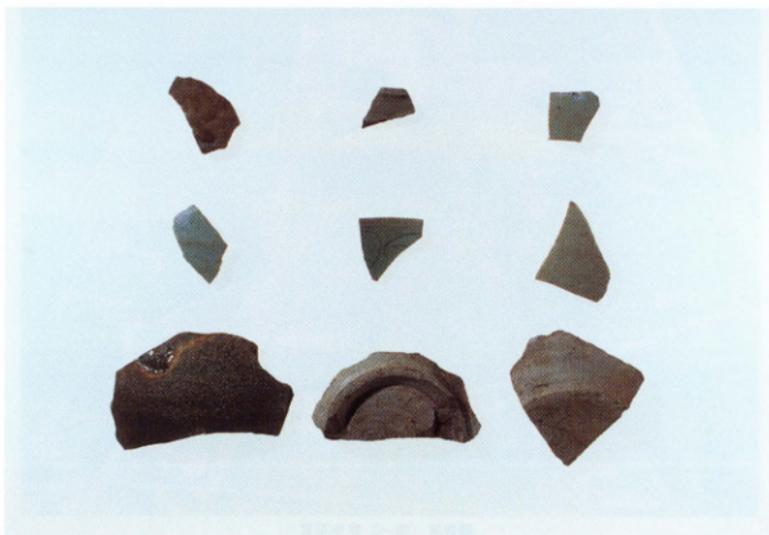


調査区（南→）空中写真

写真図版1 調査区全景（空中写真）



遺跡遠景写真



中国産磁器（上2段）・国産陶器

写真図版2 出土遺物（中国産磁器）・遺跡遠景写真



常滑産陶器



渥美産陶器

写真図版 3 出土遺物（渥美産・常滑産）

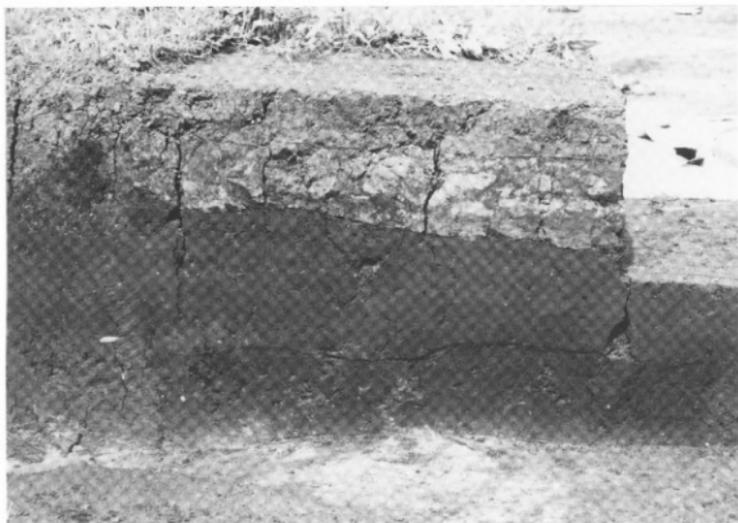


調査前北側遠景

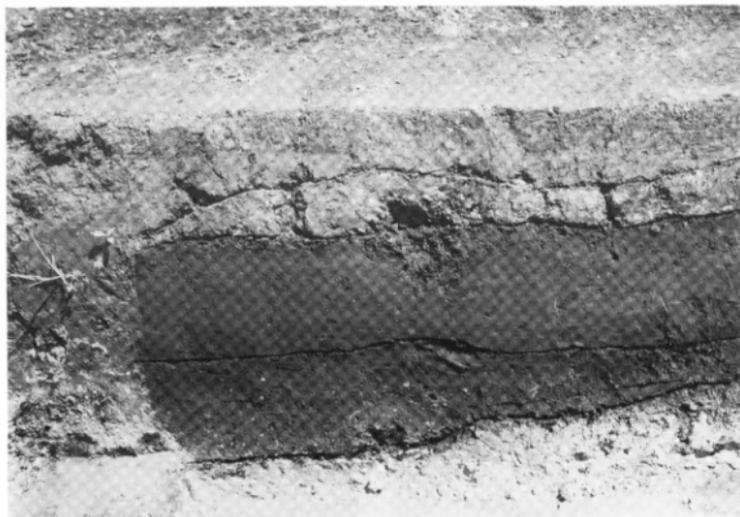


調査前南側遠景

写真図版 4 調査前遠景

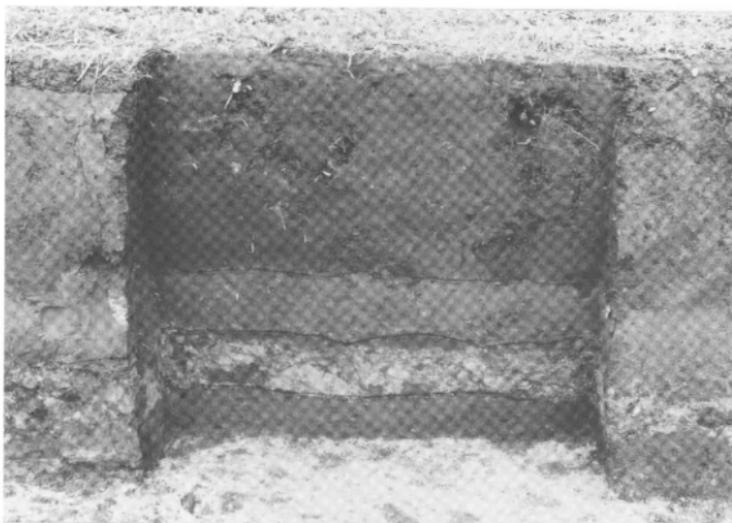


中央区（南北）断面



中央区（東西）断面

写真図版5 基本土層序



南区（東西）断面



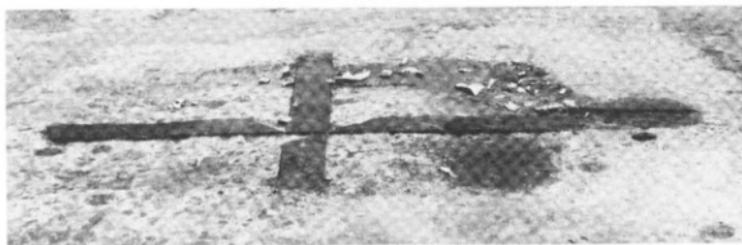
南区東側終了



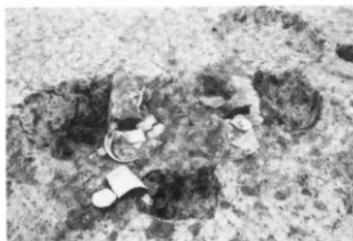
南区南側終了



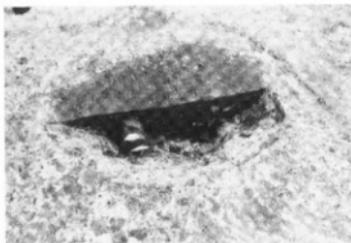
平 面



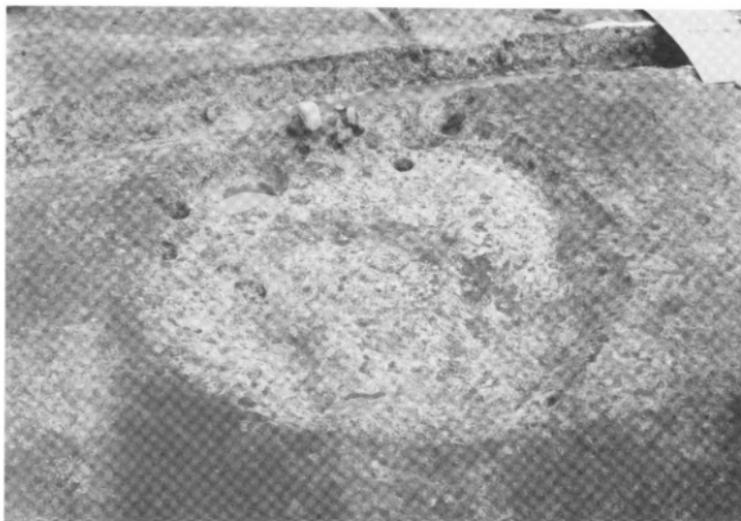
断 面 (E-W)



カマド検出状況



ビット (PP 1) 断面



平 面



断 面 (E-W)



カマド検出状況



カマド覆土断面



炭化材検出状況



カマド平面



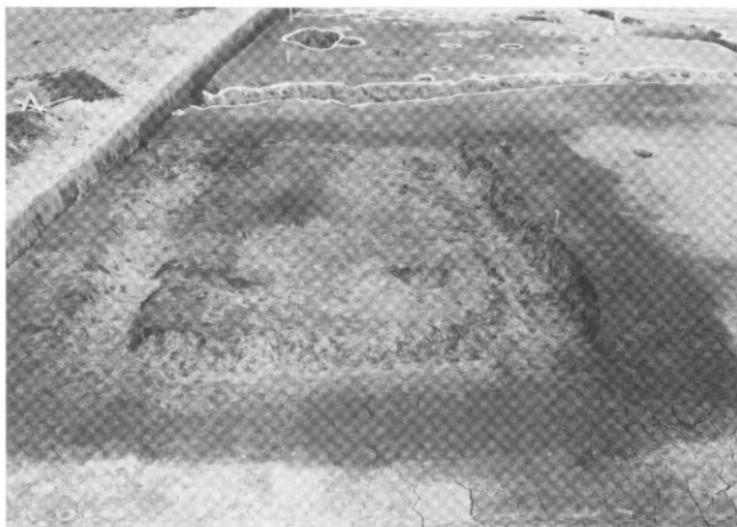
カマド袖部・燃烧部断面 (E-W)



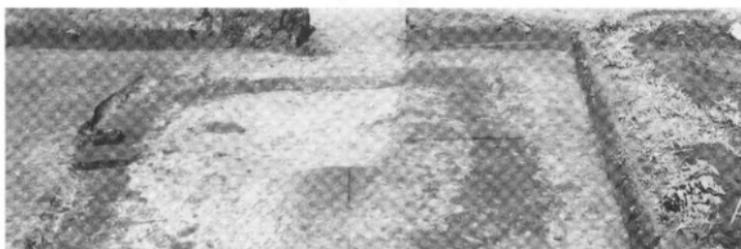
ビット (P 1) 断面



ビット (P 2) 断面



平 面



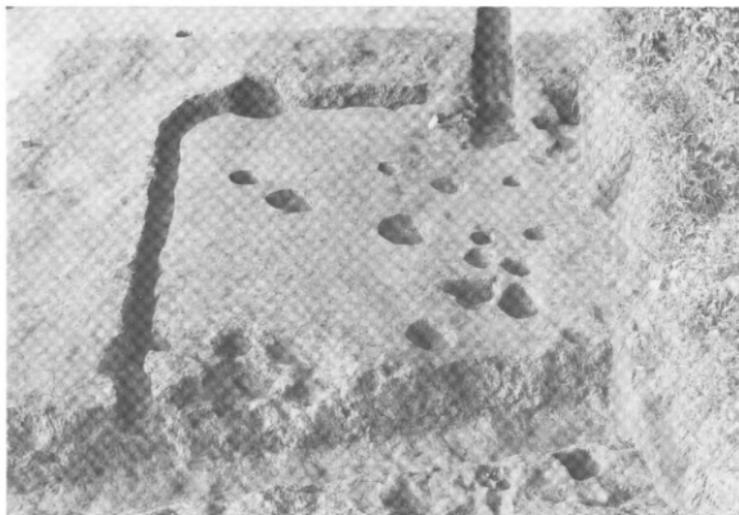
断 面 (N-S)



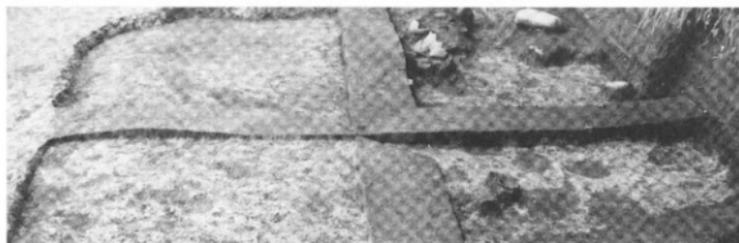
カマド断面 (N-S)



遺物出土状況



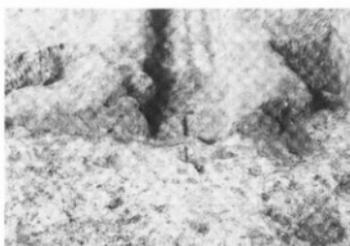
平 面



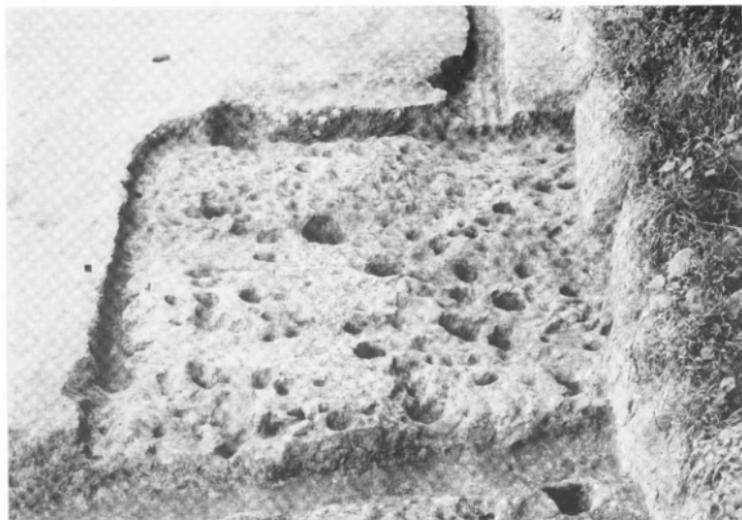
断 面 (E-W)



カマド平面



カマド・袖部・燃焼部断面



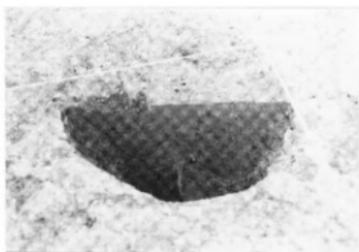
貼床平面



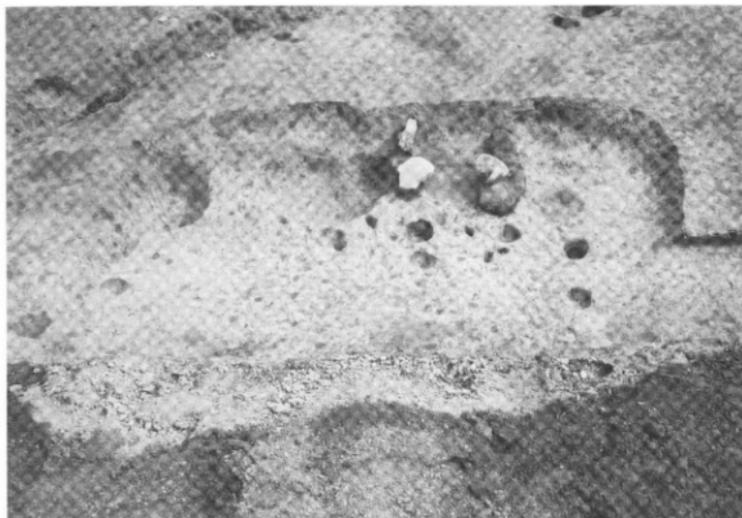
貼床断面 (E-W)



壁溝断面 (E-W)



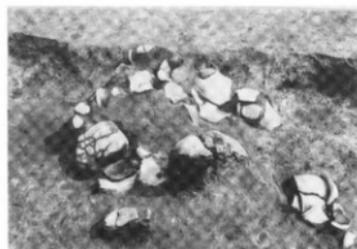
土坑断面



平 面



断 面 (N-S)



遺物出土状況



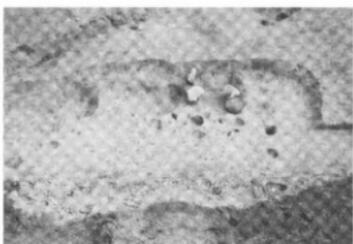
遺物出土状況



カマド覆土 (南北) 断面



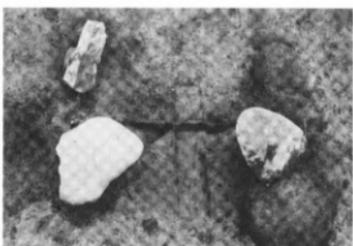
カマド覆土 (東西) 断面



カマド平面



カマド平面



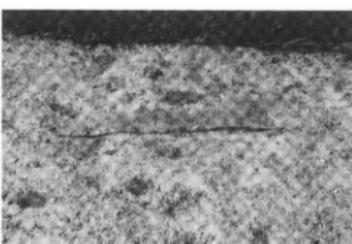
カマド燃焼部 (南北) 断面



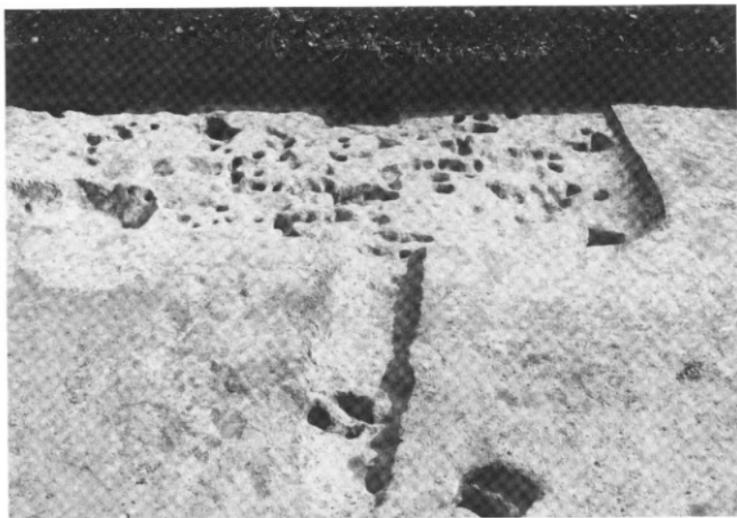
カマド燃焼部 (東西) 断面



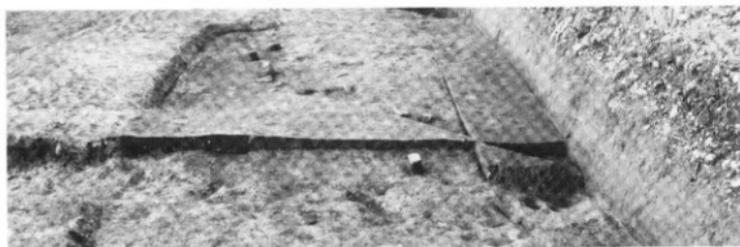
カマド袖部断面 (N-S)



焼土断面



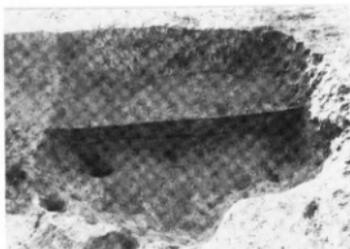
貼り床平面



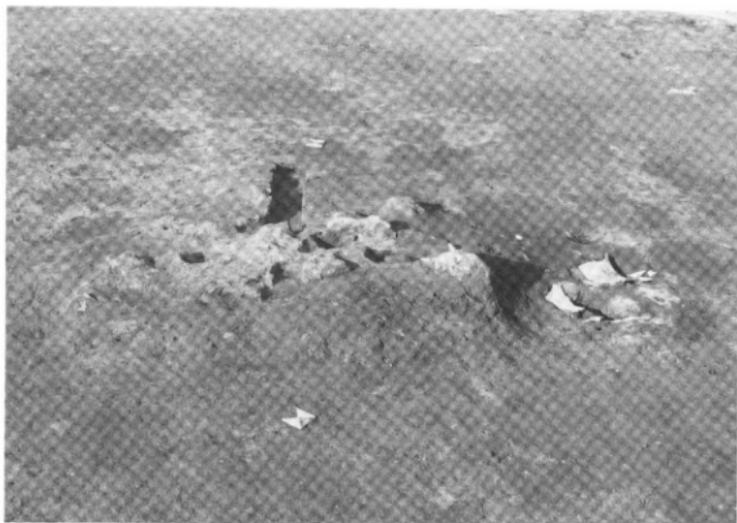
断面 (E-W)



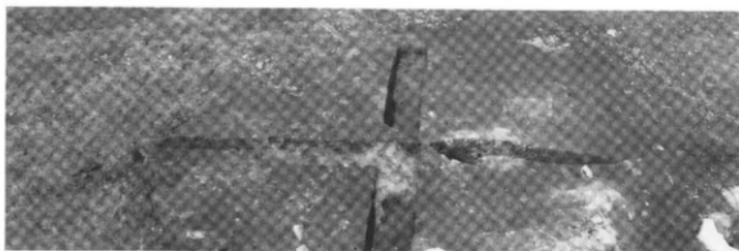
遺物出土状況



土坑断面



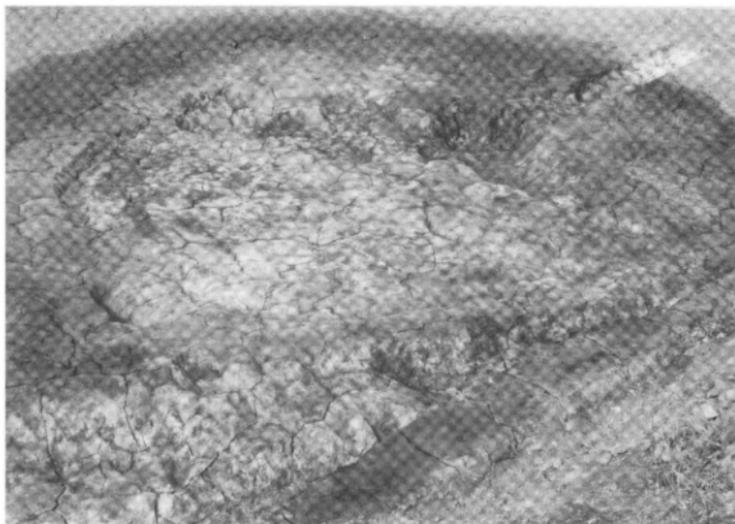
検出



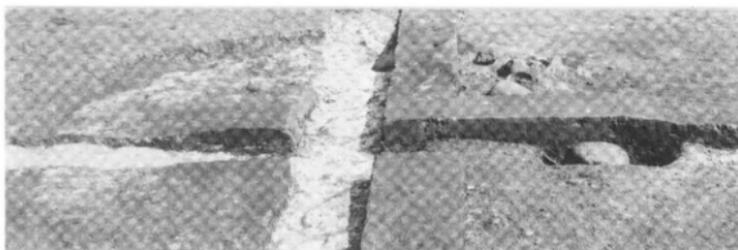
断面(東西)



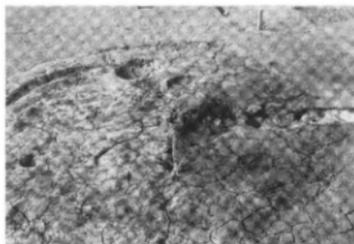
断面(南北)



平 面



断 面 (E-W)



遺構検出状況



遺物出土状況



SD147 平面



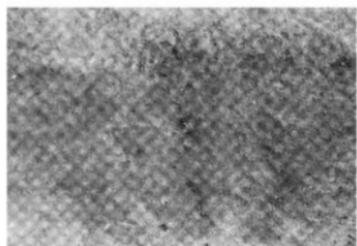
SD147 断面



SD148 平面



SD148 断面



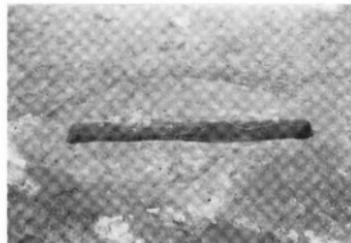
SX 1 烧土平面



SX 1 烧土断面



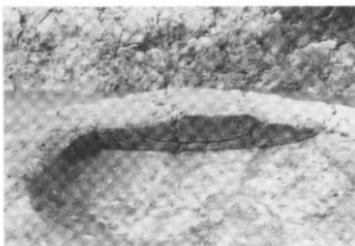
SX 2 烧土平面



SX 2 烧土断面



S X 3 烧土平面



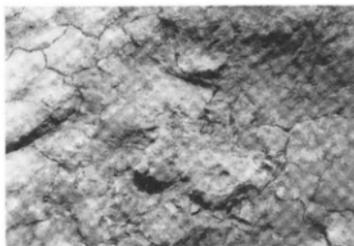
S X 3 烧土断面



S X 4 烧土平面



S X 4 烧土断面



S X 5 烧土平面



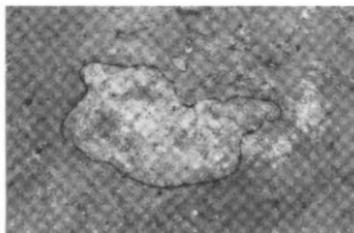
S X 5 烧土断面



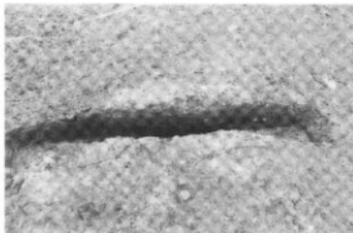
S X 6 烧土平面



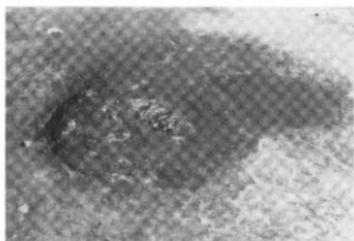
S X 6 烧土断面



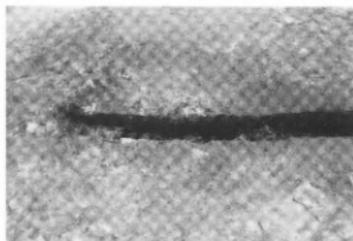
S X 7 燒土平面



S X 7 燒土断面



S X 13 不明遺構平面



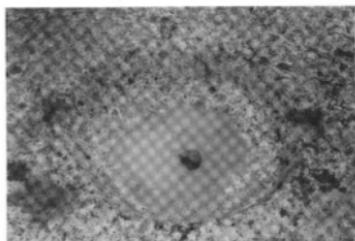
S X 13 不明遺構断面



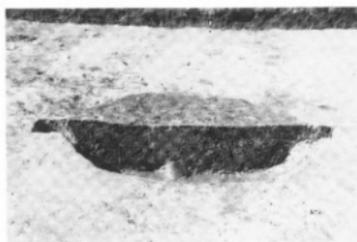
S X 14 不明遺構平面



S X 14 不明遺構断面



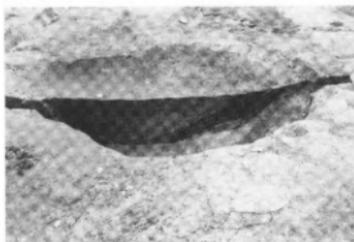
S K31 平面



S K31 断面



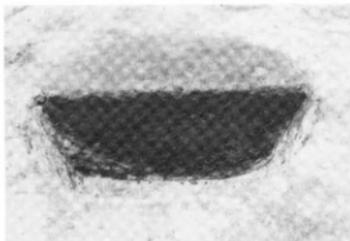
S K32 平面



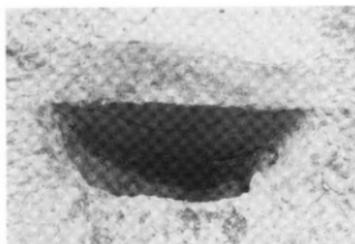
S K32 断面



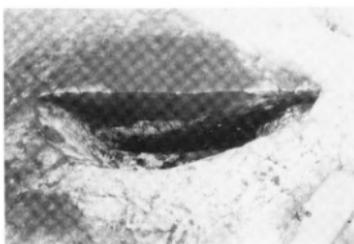
S K33 平面



S K33 断面



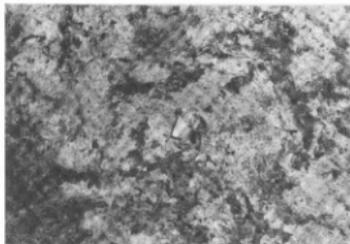
S K34 平面



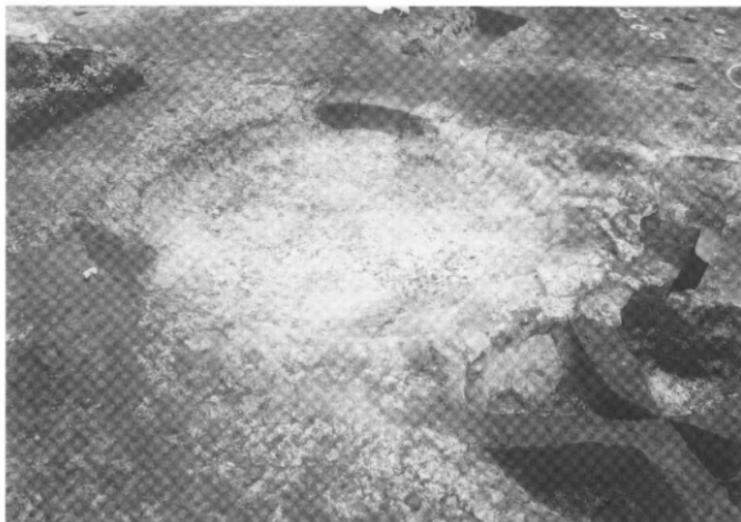
S K34 断面



S K 35 平面



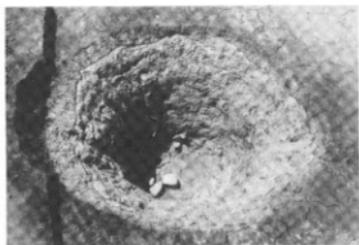
S K 36 遺物出土



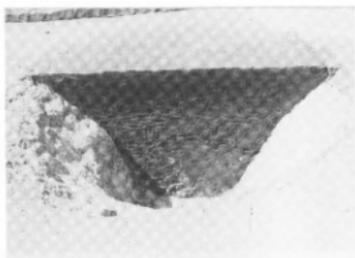
S K 36 平面



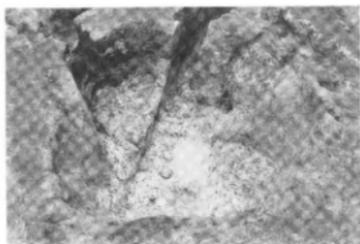
S K 36 断面



S K 37 平面



S K 37 断面



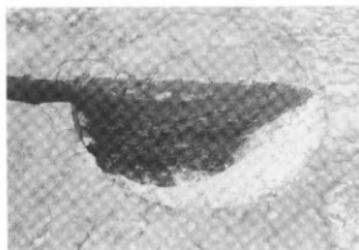
S K 38 平面



S K 38 断面



S K 39 平面



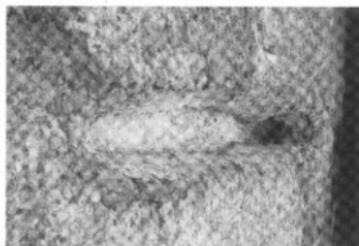
S K 39 断面



S K 40 平面



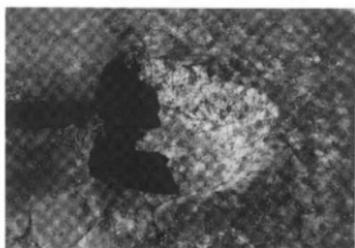
S K 40 断面



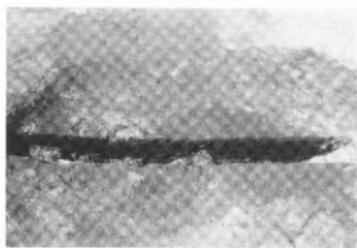
S X02陥し穴 (旧SK41) 平面



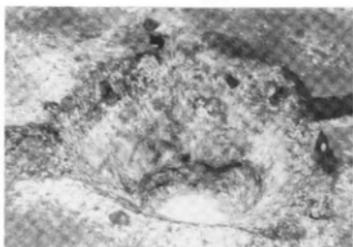
S X02陥し穴 (旧SK41) 断面



SK42 平面



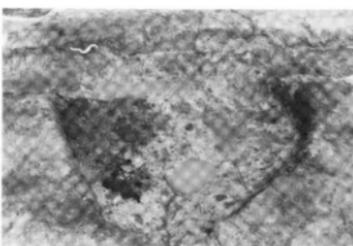
SK42 断面



SK43 平面



SK43 断面



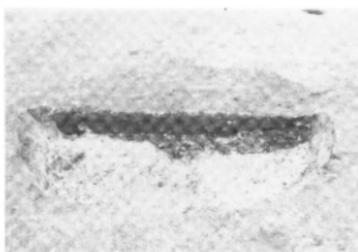
SK44 平面



SK44 平面



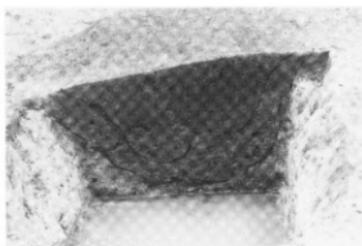
S K 45 平面



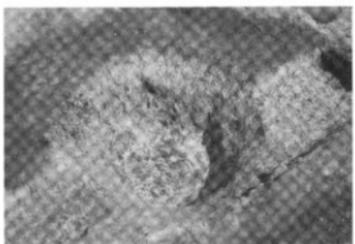
S K 45 断面



S K 46 平面



S K 46 断面



S K 47 平面



S K 47 断面



S K 47 遺物出土



S K 47 遺物出土



S K 48 平面



S K 48 断面



S K 49 平面



S K 49 断面



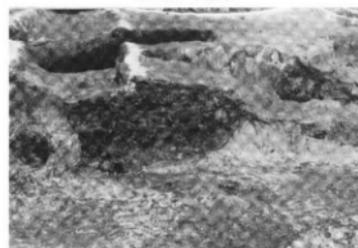
S K 50 平面



S K 50 断面



S K 51 平面



S K 51 断面



S K 52 平面



S K 52 断面



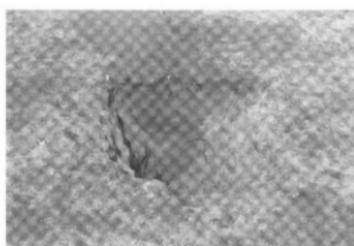
S K 53 平面



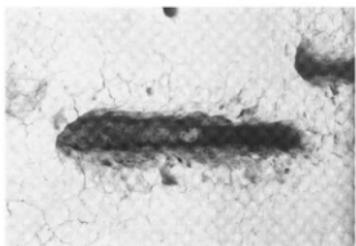
S K 53 断面



S K 54 平面



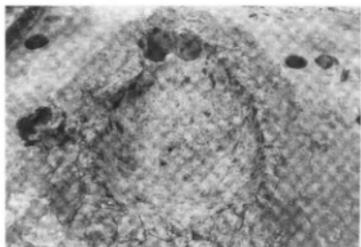
S K 54 断面



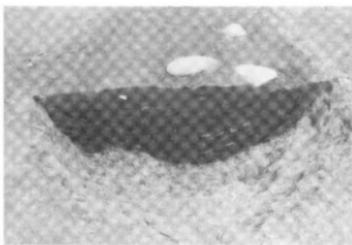
1号陥し穴 (旧 S K 56) 平面



1号陥し穴 (旧 S K 56) 断面



1号墓坑 (旧SK57) 平面



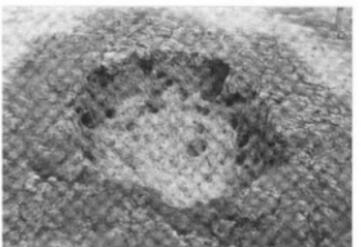
1号墓坑 断面



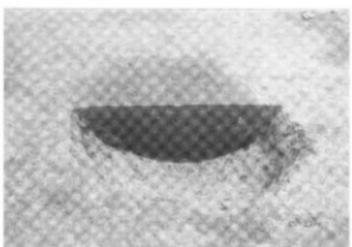
1号墓坑 遗物出土



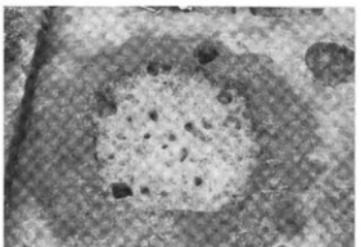
1号墓坑 遗物出土



2号墓坑 (旧SK58) 平面



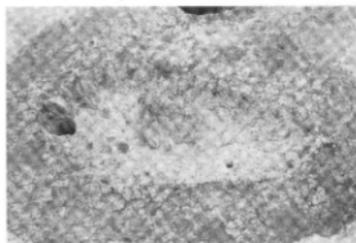
2号墓坑 断面



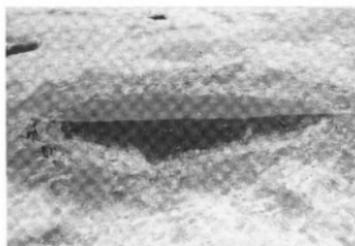
SK59 平面



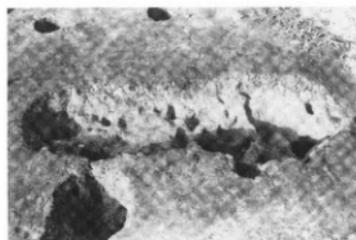
SK59 断面



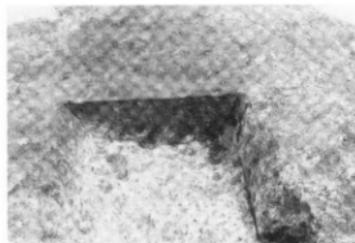
S K 60 平面



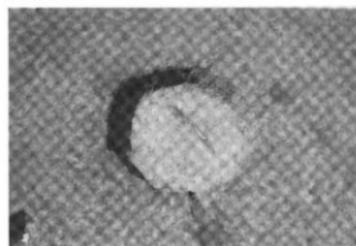
S K 60 断面



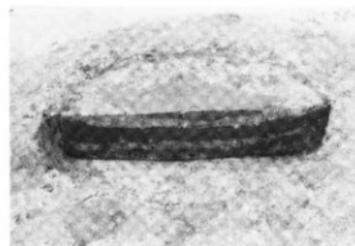
S K 61 平面



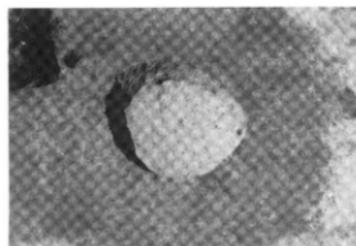
S K 61 断面



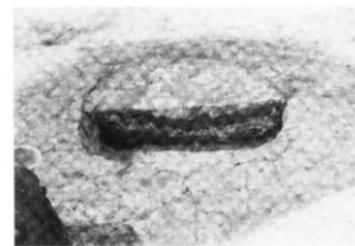
S K 62 平面



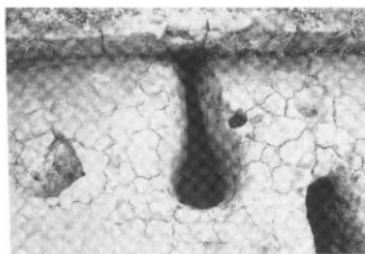
S K 62 断面



S K 63 平面



S K 63 断面



3号陥し穴 (旧SK64) 平面



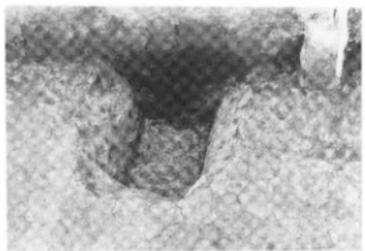
3号陥し穴 (旧SK64) 断面



SK65 平面



SK65 断面



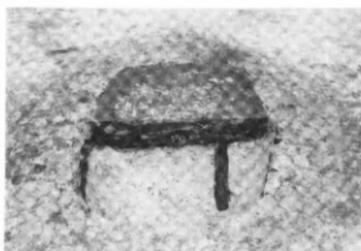
5号陥し穴 (旧SK66) 平面



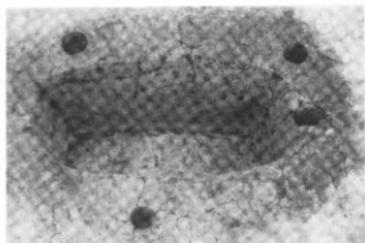
5号陥し穴 (旧SK66) 断面



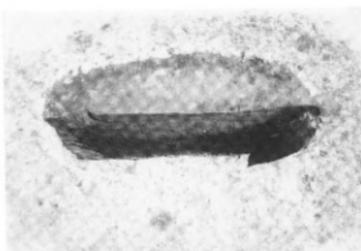
SK67 平面



SK67 断面



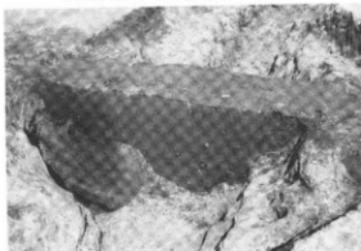
6号陥し穴 (旧SK68) 平面



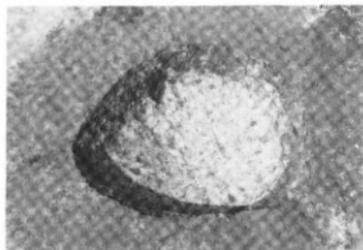
6号陥し穴 (旧SK68) 断面



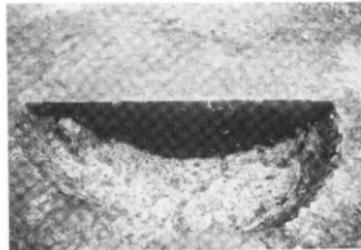
SK69 平面



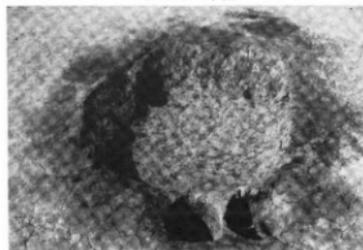
SK69 断面



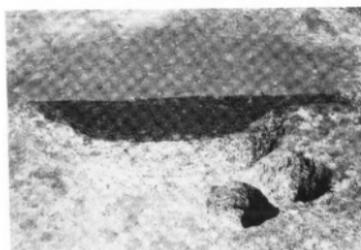
SK70 平面



SK70 断面



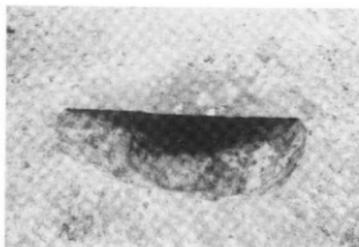
SK71 平面



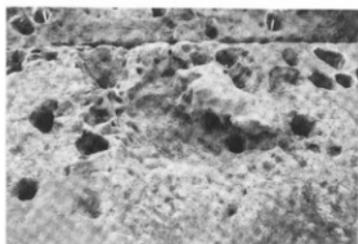
SK71 断面



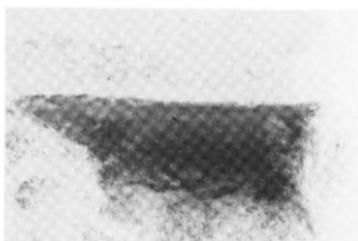
S K 72 平面



S K 72 断面



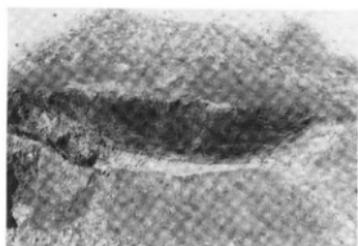
S K 73 平面



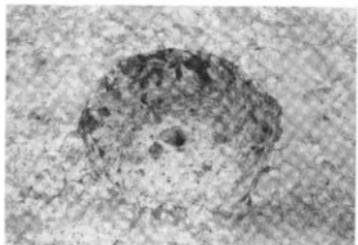
S K 73 断面



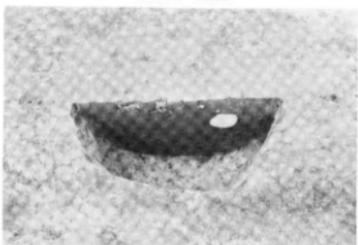
S K 74 平面



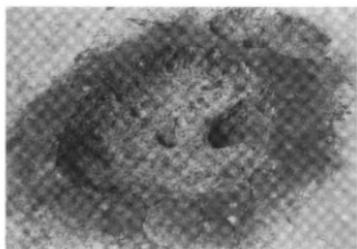
S K 74 断面



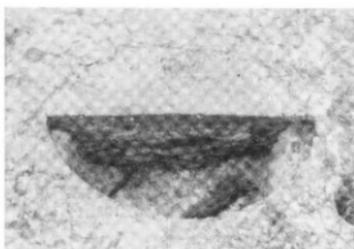
S K 75 平面



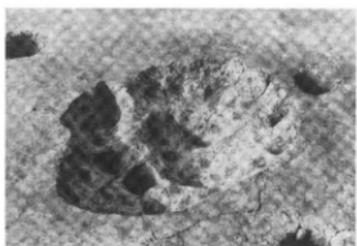
S K 75 断面



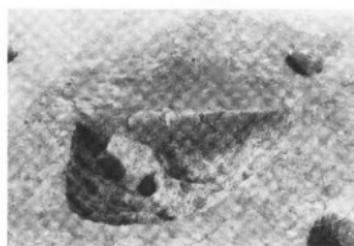
S K76 平面



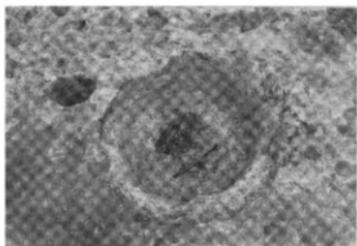
S K76 断面



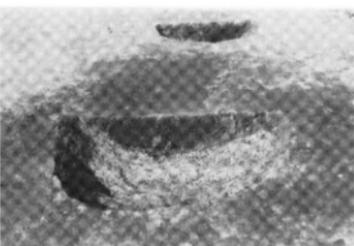
S K77 平面



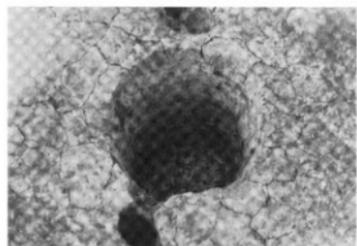
S K77 断面



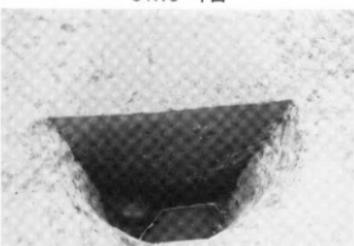
S K78 平面



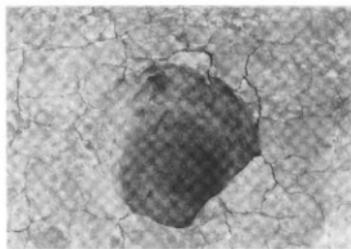
S K78 断面



S K79 平面



S K79 断面



SK80 平面



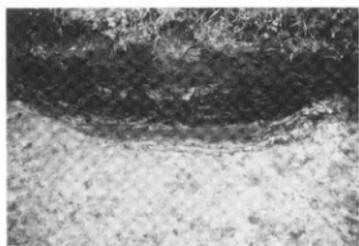
SK80 断面



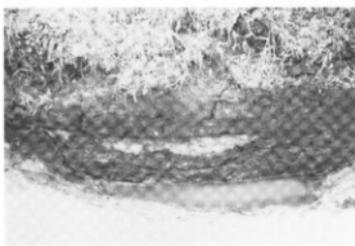
SK81 平面



SK81 断面



SK82 平面



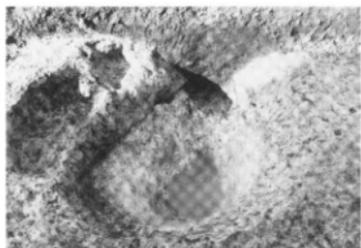
SK82 断面



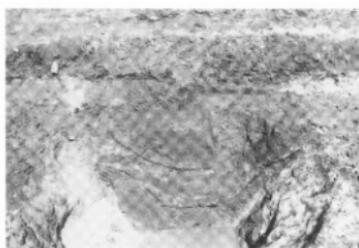
SK83 平面



SK83 断面



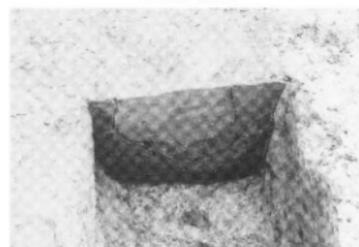
S K 84 平面



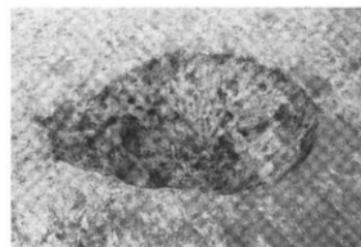
S K 84 断面



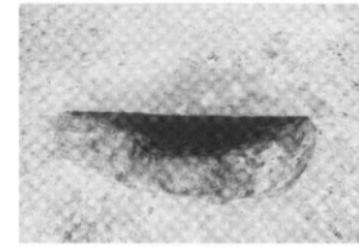
S K 85 平面



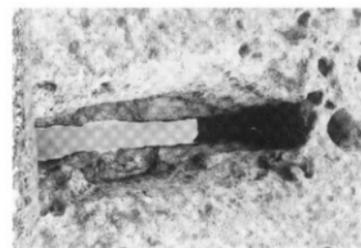
S K 85 断面



S K 86 平面



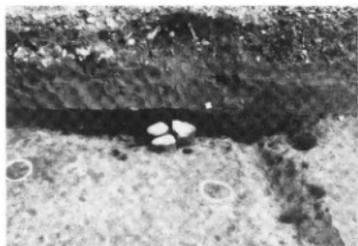
S K 86 断面



4号陥し穴 (旧 S K 87) 平面



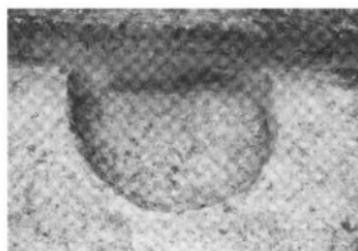
4号陥し穴 (旧 S K 87) 断面



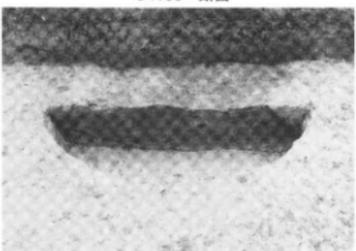
S K 88 平面



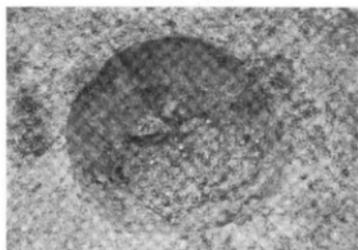
S K 88 断面



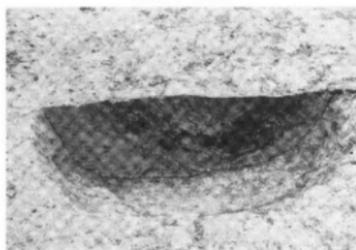
S K 89 平面



S K 89 断面



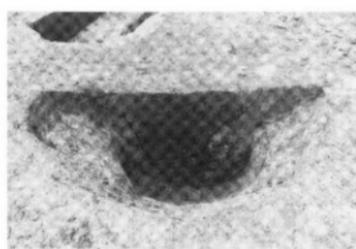
S K 90 平面



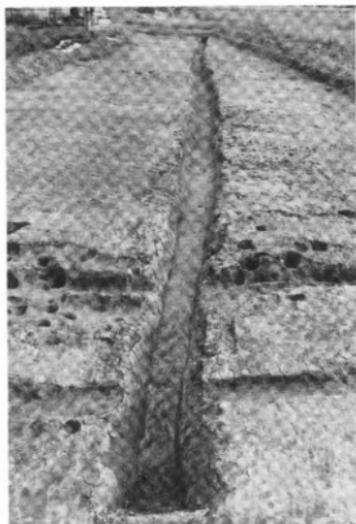
S K 90 断面



S K 91 平面



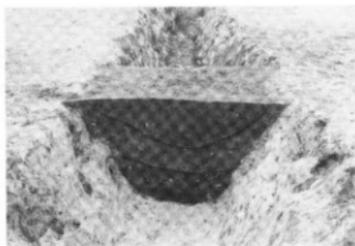
S K 91 断面



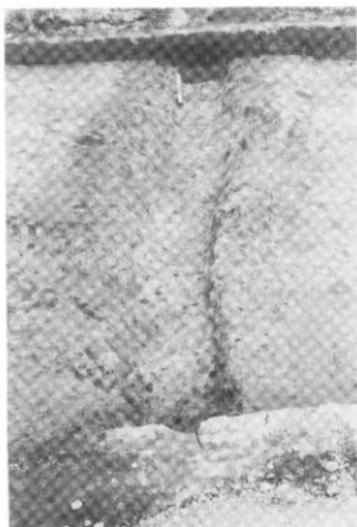
SD67 平面



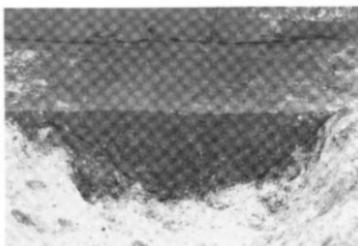
SD67 断面



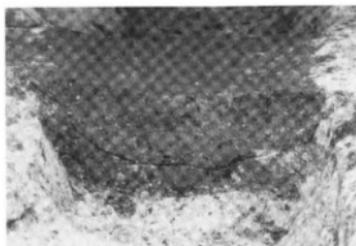
SD67 断面



SD68 平面



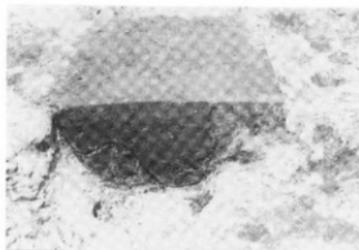
SD68 断面



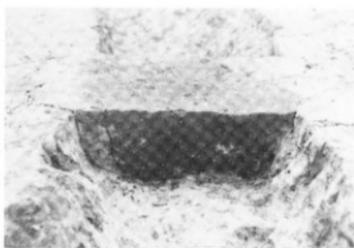
SD68 断面



S D69・70・71 平面



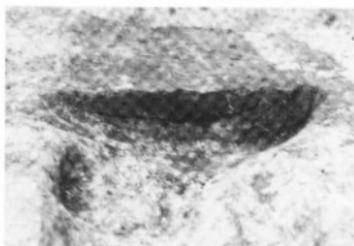
S D69 断面



S D70 断面



S D71 断面



S D71 断面

写真図版38 S D69~71溝跡



S D72 平面



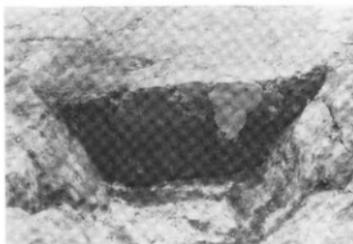
S D72 断面



S D72 断面



S D72 平面



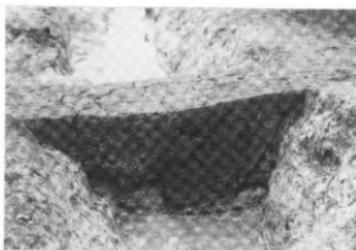
S D72 断面



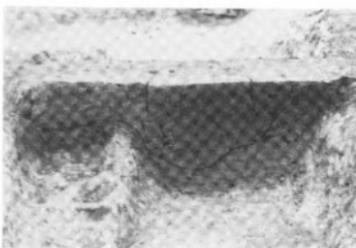
S D72 出土遺物



SD73 平面



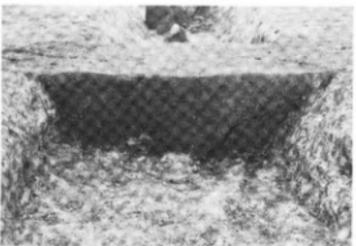
SD73 断面



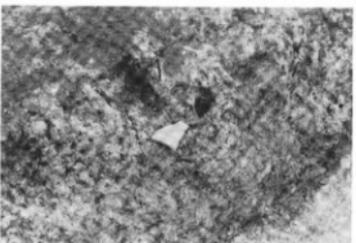
SD73 断面



SD73 平面



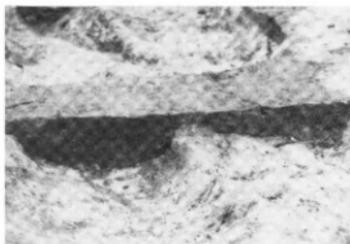
SD73 断面



SD73 出土遺物



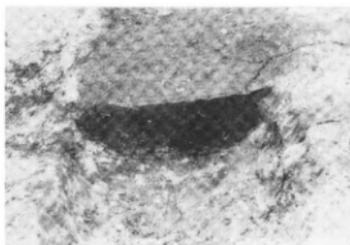
SD74 平面



SD74 断面



SD75 平面



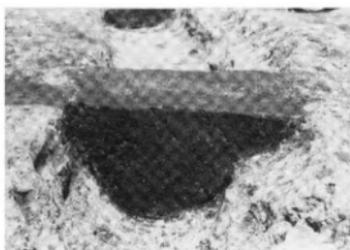
SD75 断面



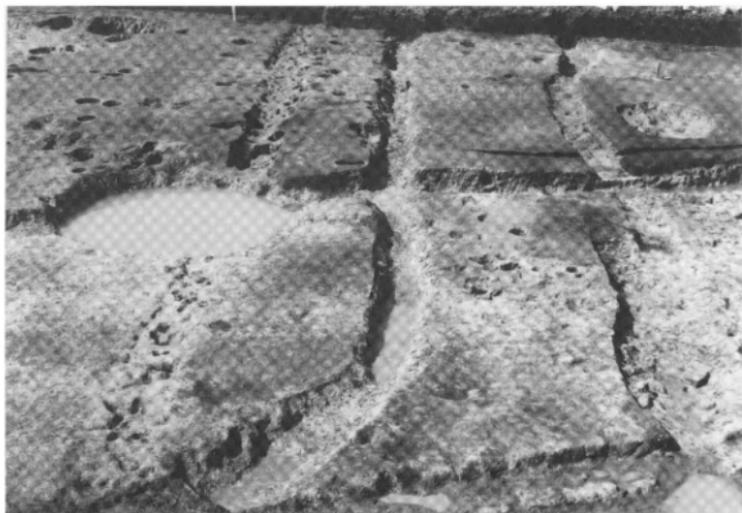
SD76 平面



SD76 断面



SD76 断面



S D77、78 平面



S D77 断面



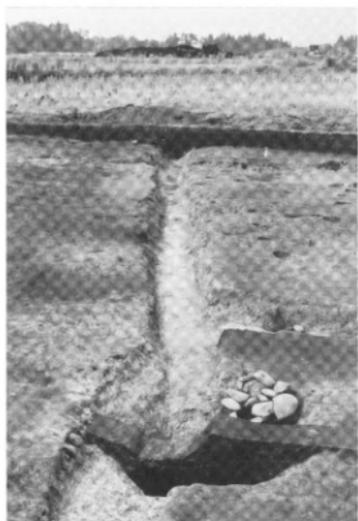
S D78 断面



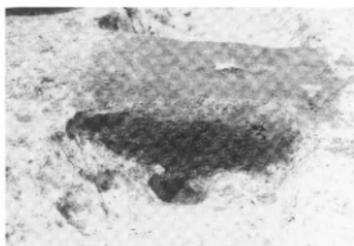
作業風景



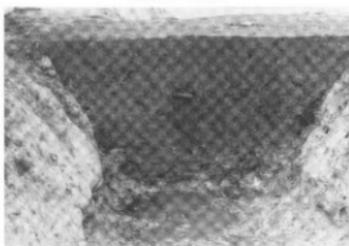
作業風景



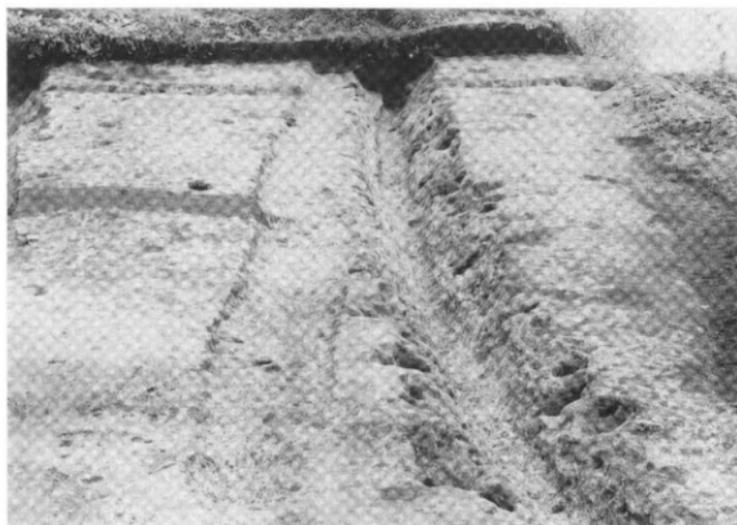
S D79 平面



S D79 断面



S D79 断面



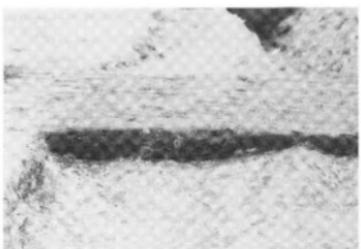
S D80・81・85 平面



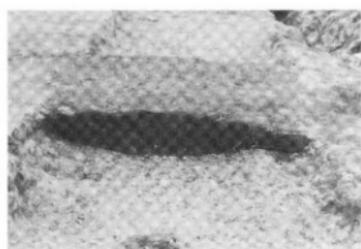
S D 80 断面



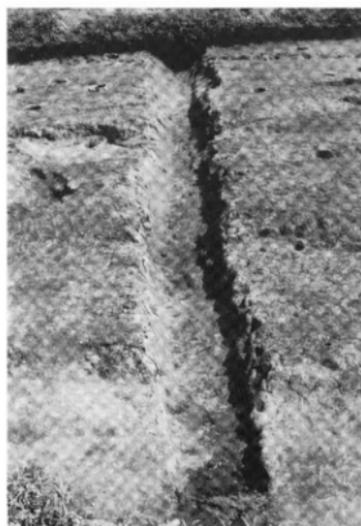
S D 80 断面



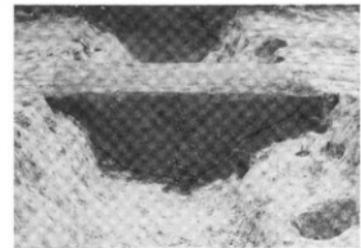
S D 81 断面



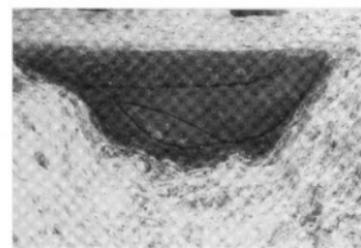
S D 81 断面



S D 82 平面



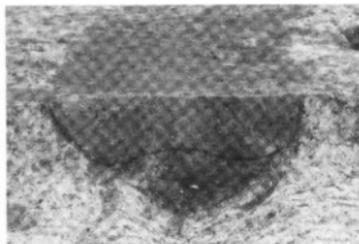
S D 82 断面



S D 82 断面



SD83 平面



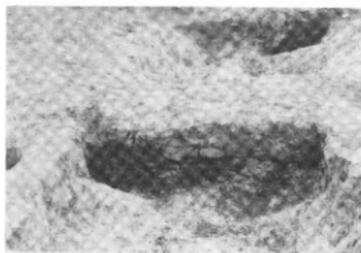
SD83 断面



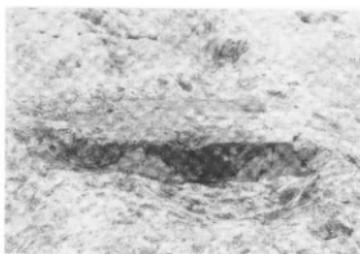
SD83 断面



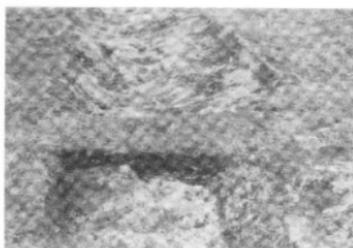
SD84~86 平面



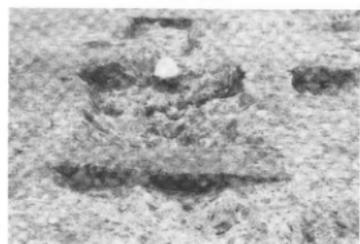
SD84 断面



SD84 断面



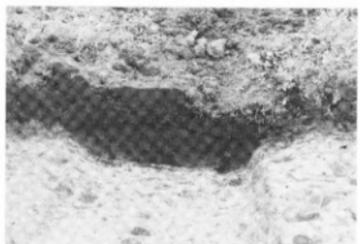
SD86 断面



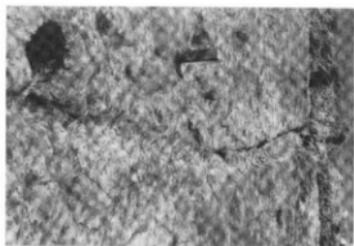
SD86 断面



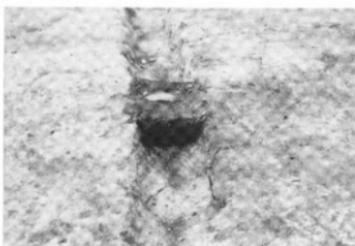
SD87 平面



SD87 断面



SD88 平面



SD88 断面



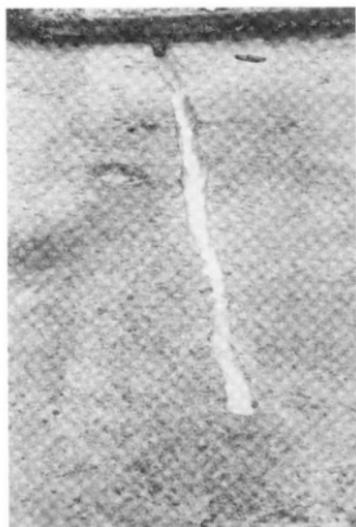
S D89、90 平面



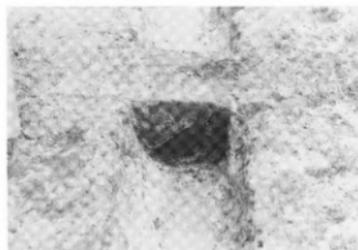
S D89 断面



S D90 断面



S D91 平面



S D91 断面



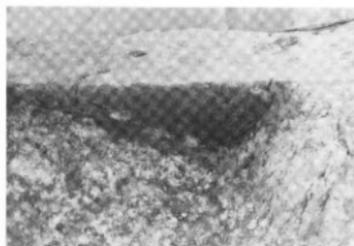
作業風景



S D92 平面



S D92 断面



S D92 断面



S D93 平面



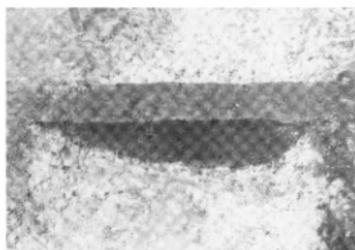
S D93 断面



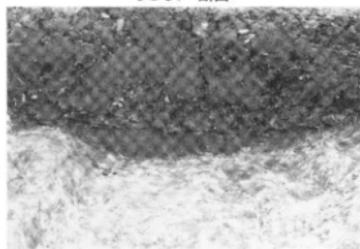
作業風景



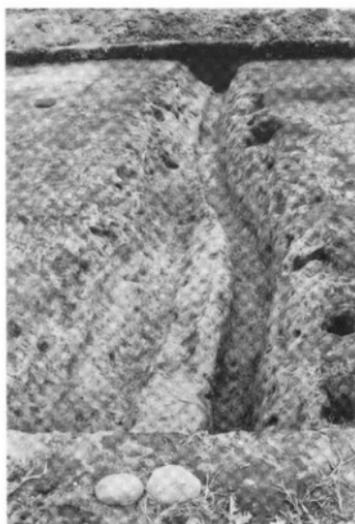
S D94 平面



S D94 断面



S D94 断面



S D95 平面



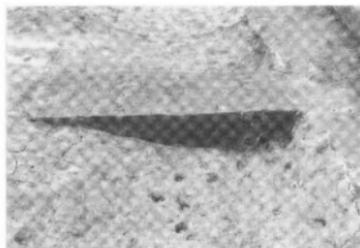
S D95 断面



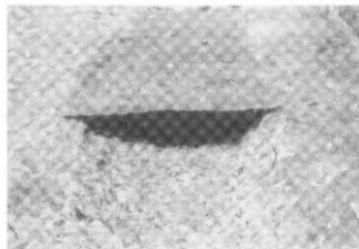
S D95 断面



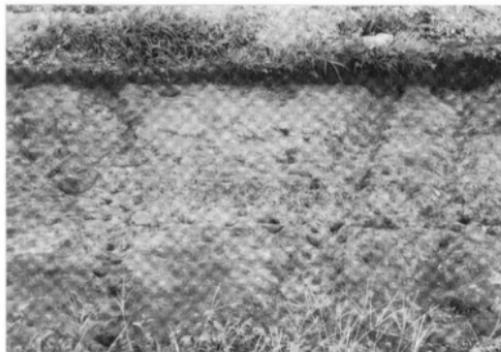
S D96・97 平面



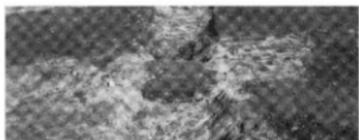
S D96 断面



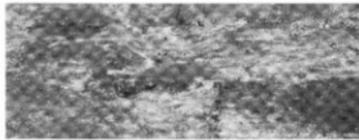
S D97 断面



S D98、99 平面



S D98 断面



S D99 断面



S D 100 平面



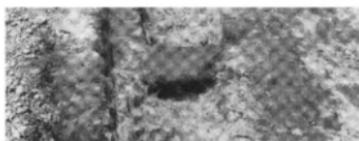
S D 100 断面



S D 100 S K 69 断面



S D 101, 102 平面



S D 101 断面



S D 102 断面



S D 103 平面



S D 103 断面



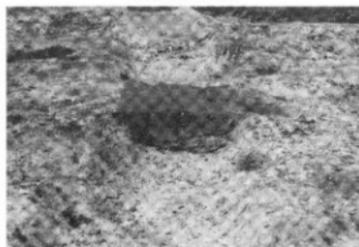
S D 104 平面



S D 104 断面



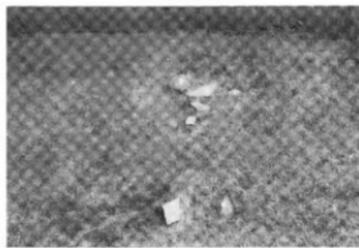
S D 105 平面



S D 105 断面



トレンチ遺物出土



トレンチ遺物出土

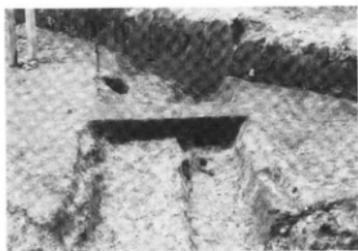
写真図版52 S D 103～105溝状遺構、トレンチ遺物出土状況



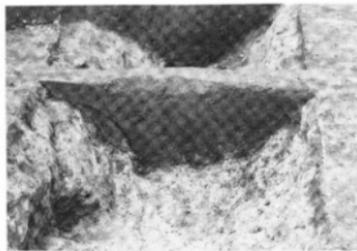
S D106、114 平面



S D107, 108, 110 平面



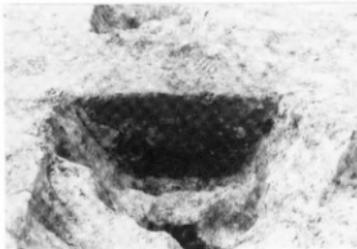
S D107 断面



S D108 断面



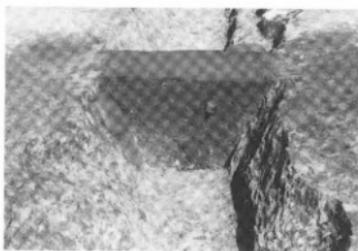
S D110 断面



S D114 断面



SD111、116 平面



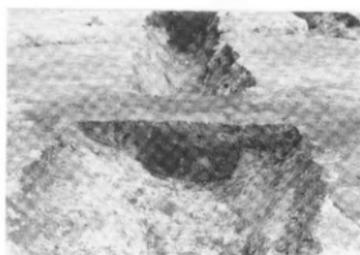
SD111 断面



SD116 断面



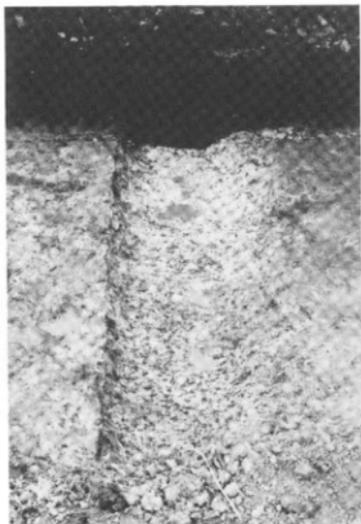
SD112、113 平面



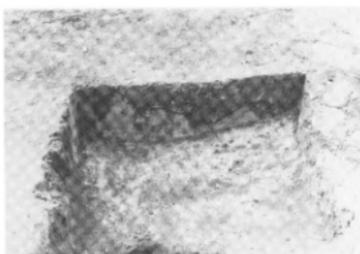
SD112 断面



SD113 断面



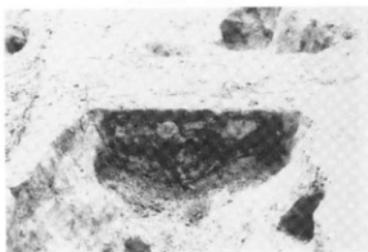
SD117 平面



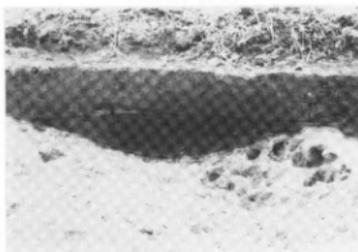
SD115 断面



SD117 断面



SD118 断面



SD119 断面



SD120 平面



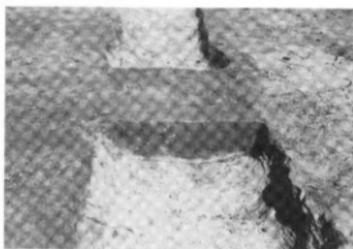
SD120 断面



S D 121, 122, 123 平面



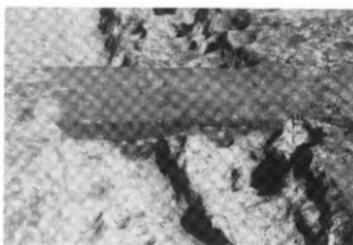
S D 121 断面



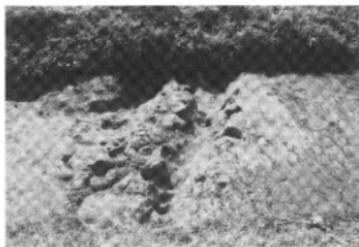
S D 121 断面



S D 122, 123 断面



S D 122, 123 断面



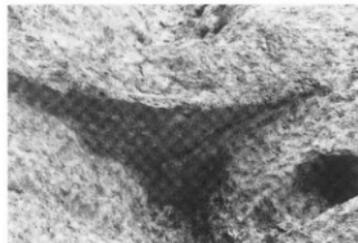
S D 124 平面



S D 124 断面



S D 125 平面



S D 125 断面



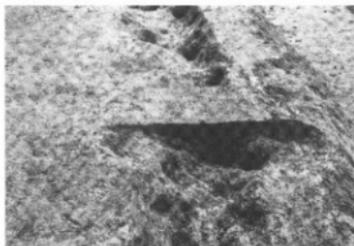
S D 128 平面



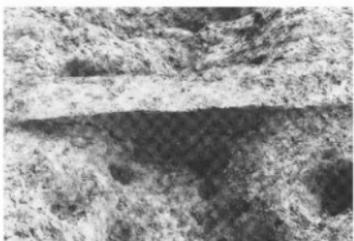
S D 128 断面



S D126、128 平面



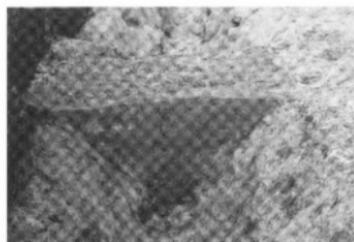
S D126 断面



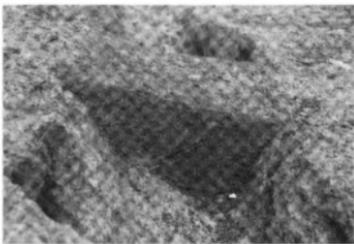
S D126 断面



S D127 平面



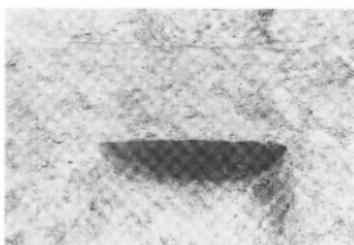
S D127 断面



S D127 断面



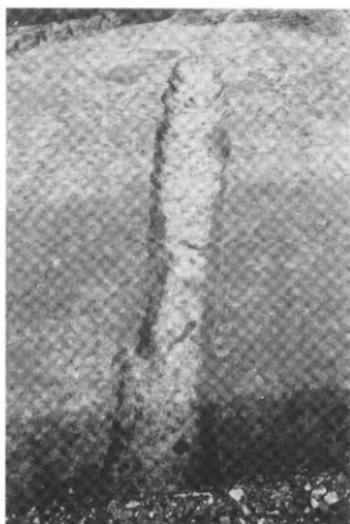
S D 129 平面



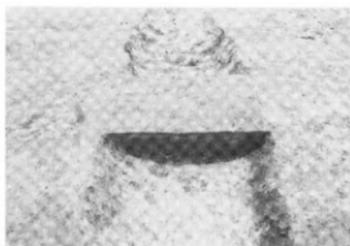
S D 129 断面



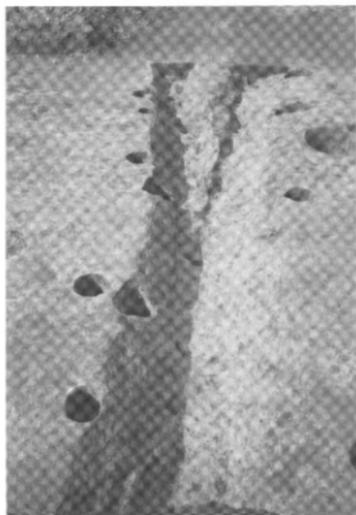
中央区自然落ち込み地形



S D 130 平面



S D 130 断面



S D 131, 132 平面



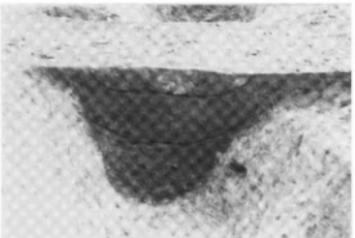
S D 131 断面



S D 132 断面



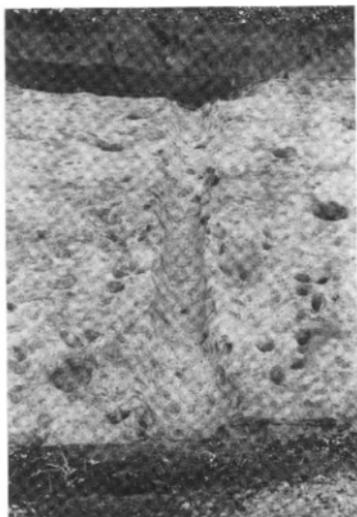
S D 133 平面



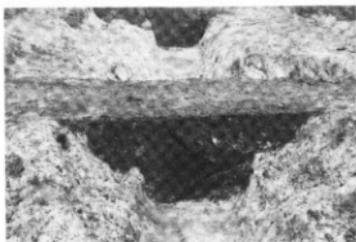
S D 133 断面



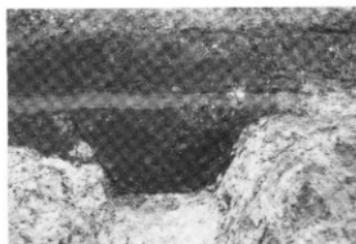
S D 133 断面



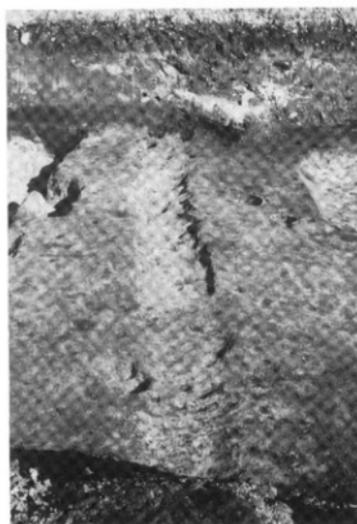
S D 134 平面



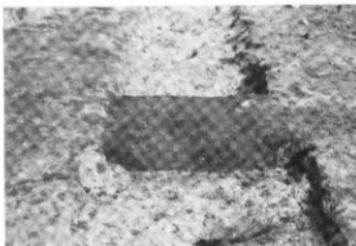
S D 134 断面



S D 134 断面



S D 135 平面



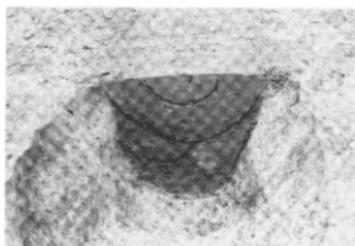
S D 135 断面



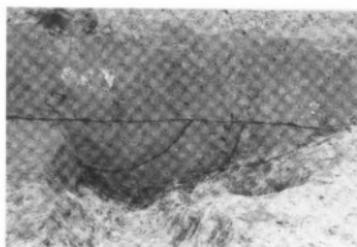
作業風景



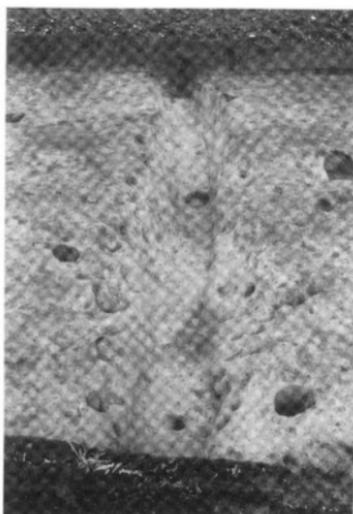
SD136 平面



SD136 断面



SD136 断面



SD137 平面



SD137 断面



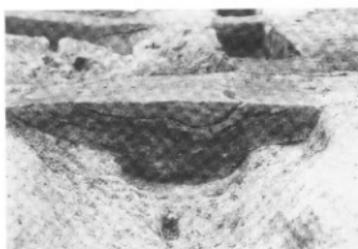
調査前風景



S D 138 平面



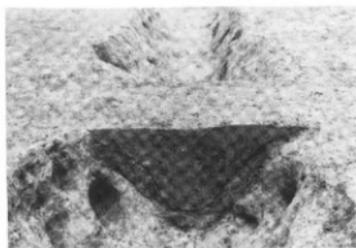
S D 138 断面



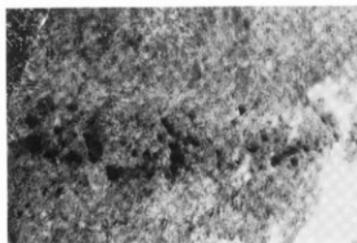
S D 138 断面



S D 139 平面



S D 139 断面



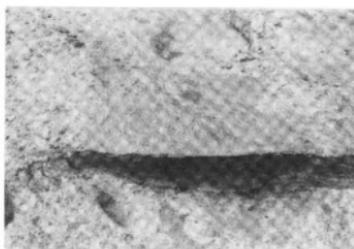
S D 140 平面



S D 140 断面



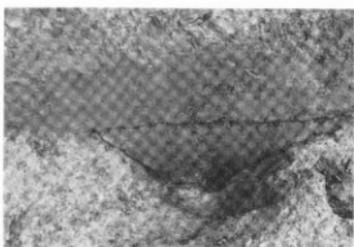
S D 141 平面



S D 141 断面



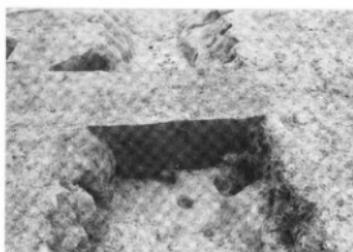
S D 142 平面



S D 142 断面



S D 143 平面



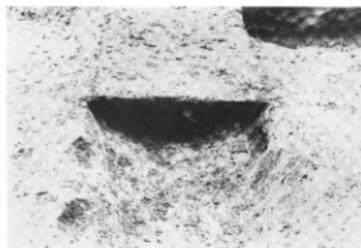
S D 143 断面



S D 147 平面



S D 144 平面



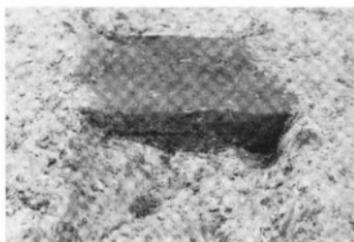
S D 144 断面



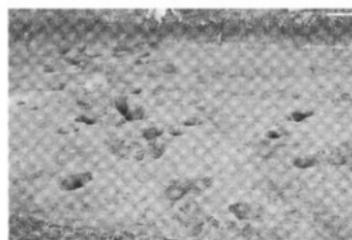
S D 148 平面



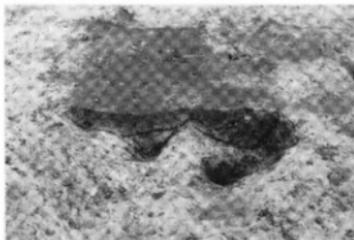
S D 145 平面



S D 145 断面



S D 146 平面



S D 146 断面



全景平面



平面



断面



平面



平面

写真図版66 粘土採掘坑遺構



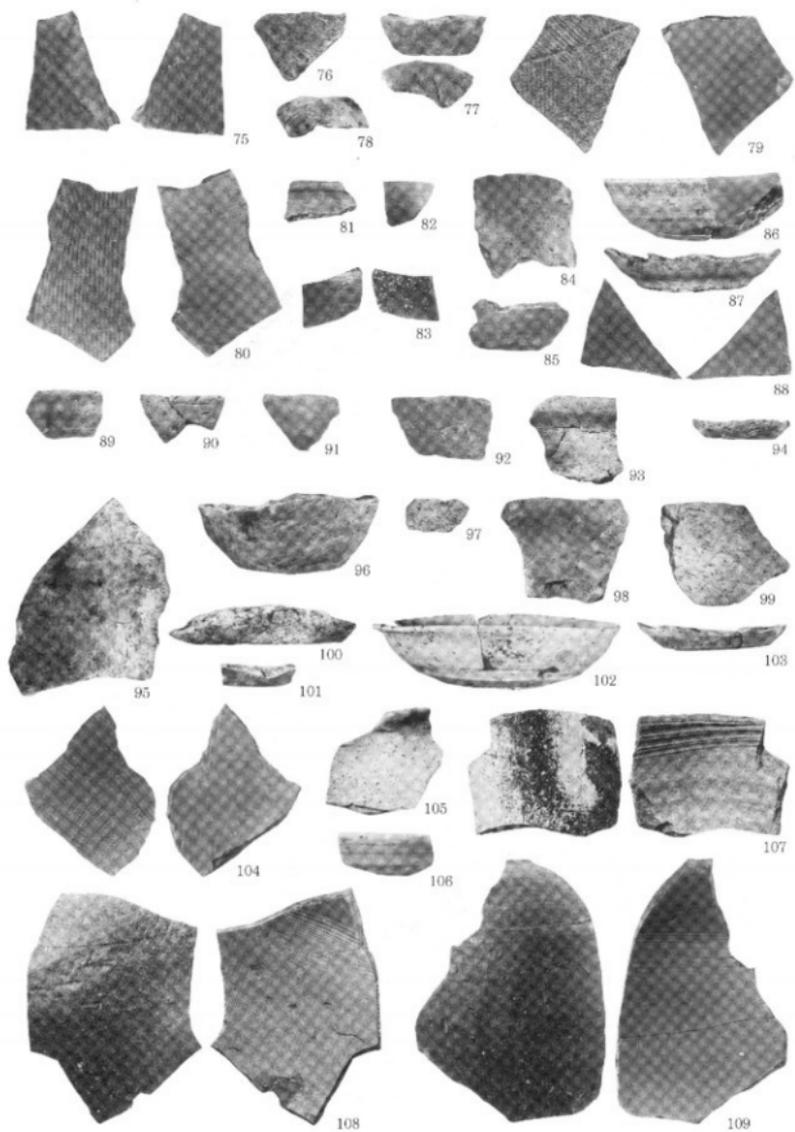
写真图版67 出土遗物(1)



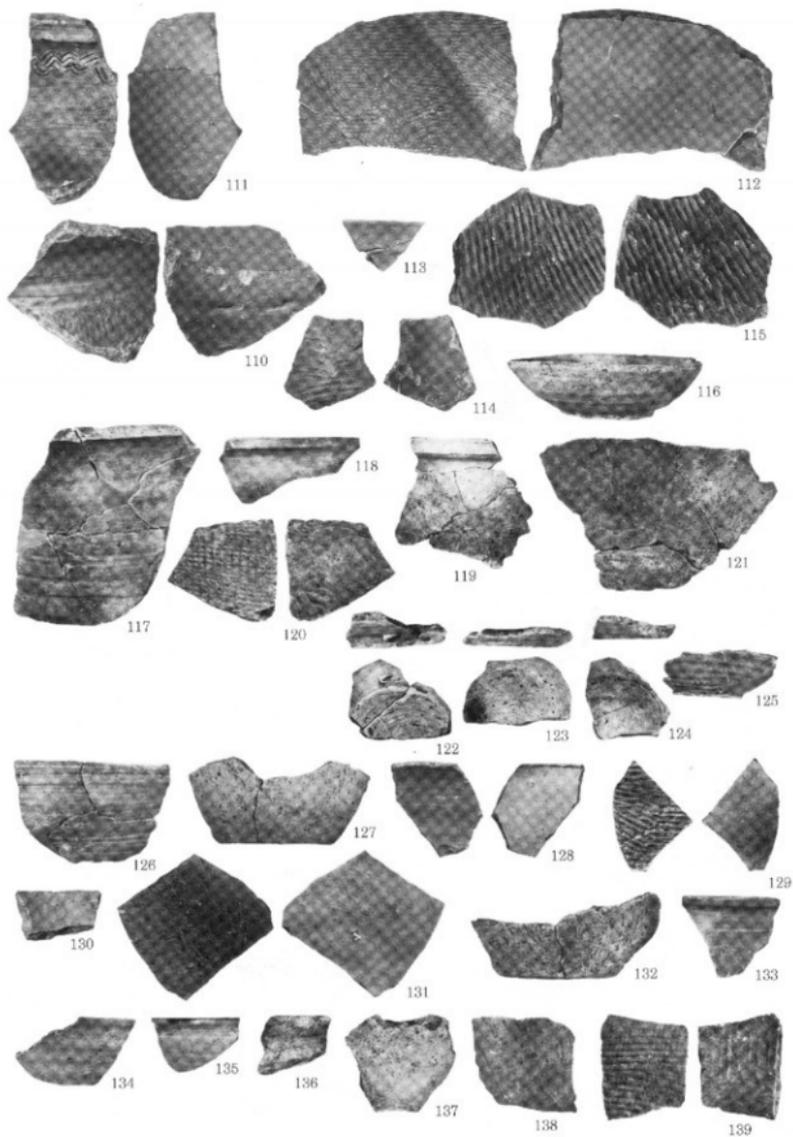
写真图版68 出土遺物(2)



写真图版69 出土文物(3)



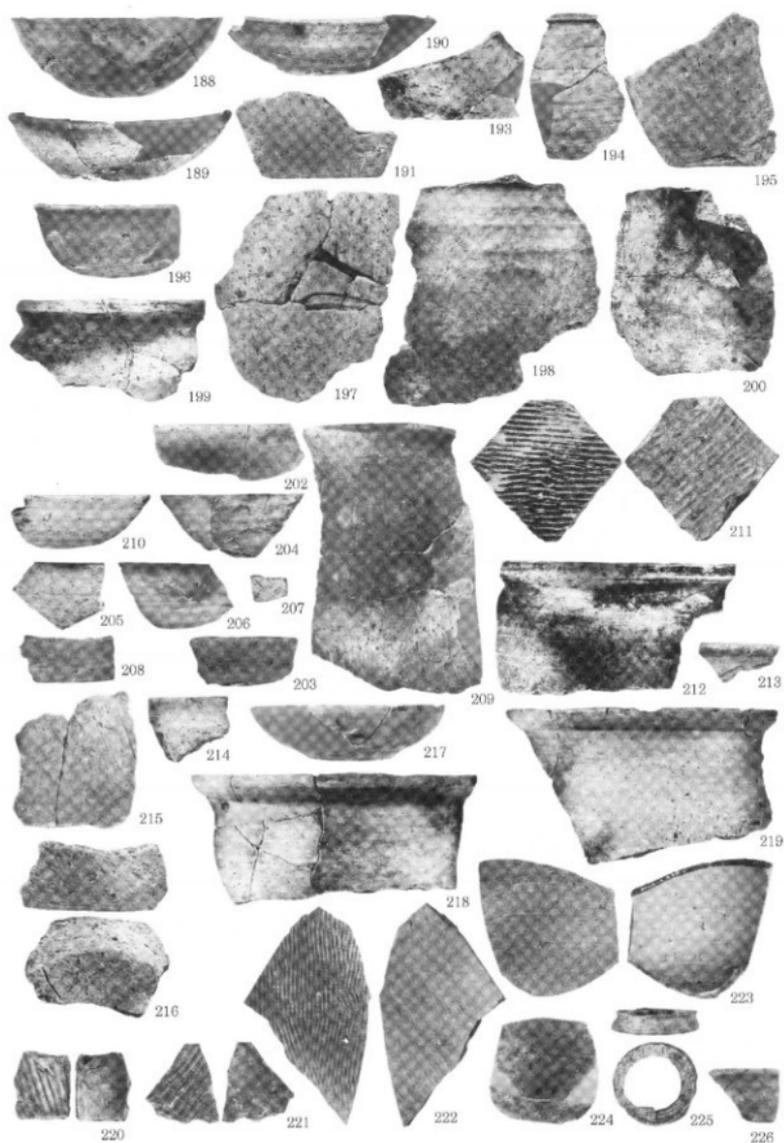
写真图版70 出土文物(4)



写真図版71 出土遺物(5)



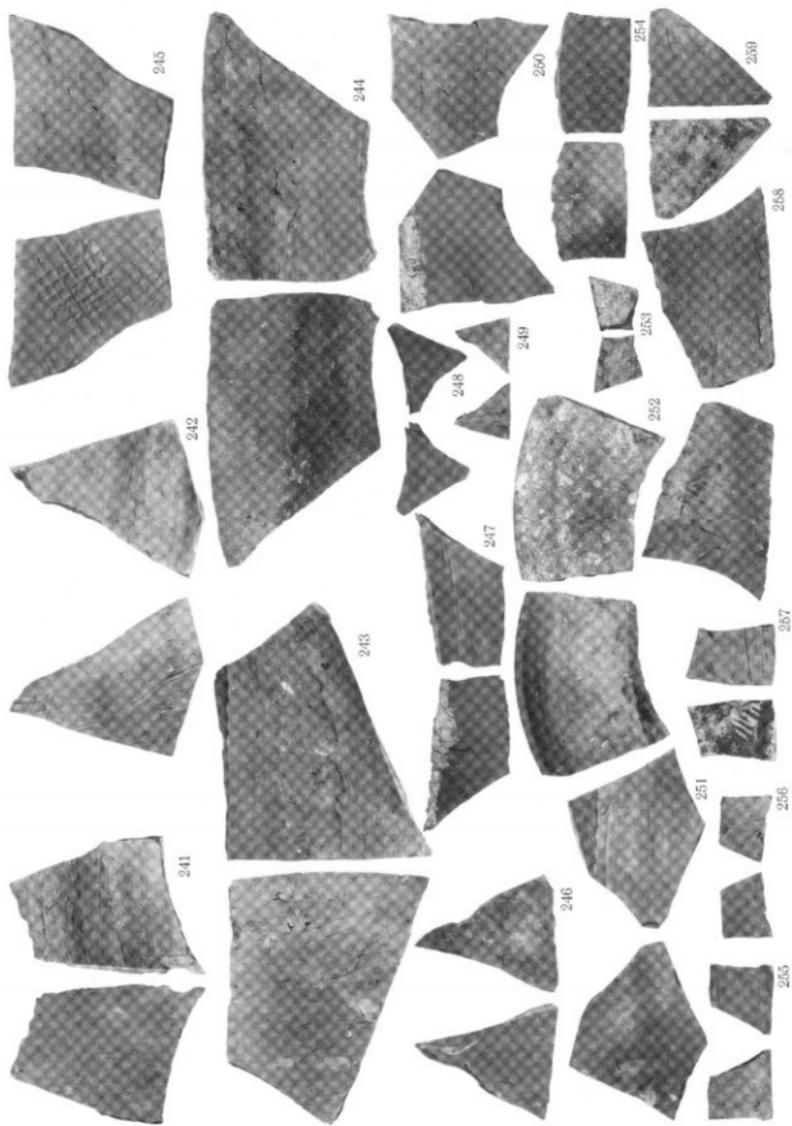
写真図版72 出土遺物(6)



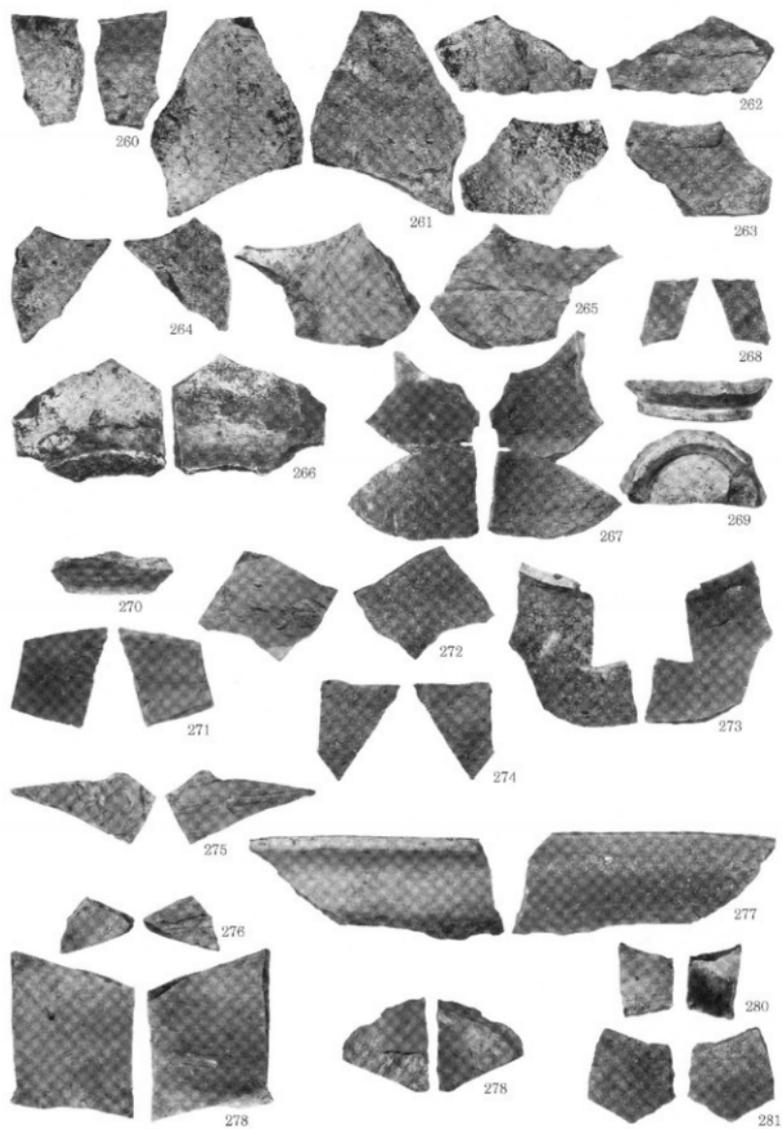
写真図版73 出土遺物(7)



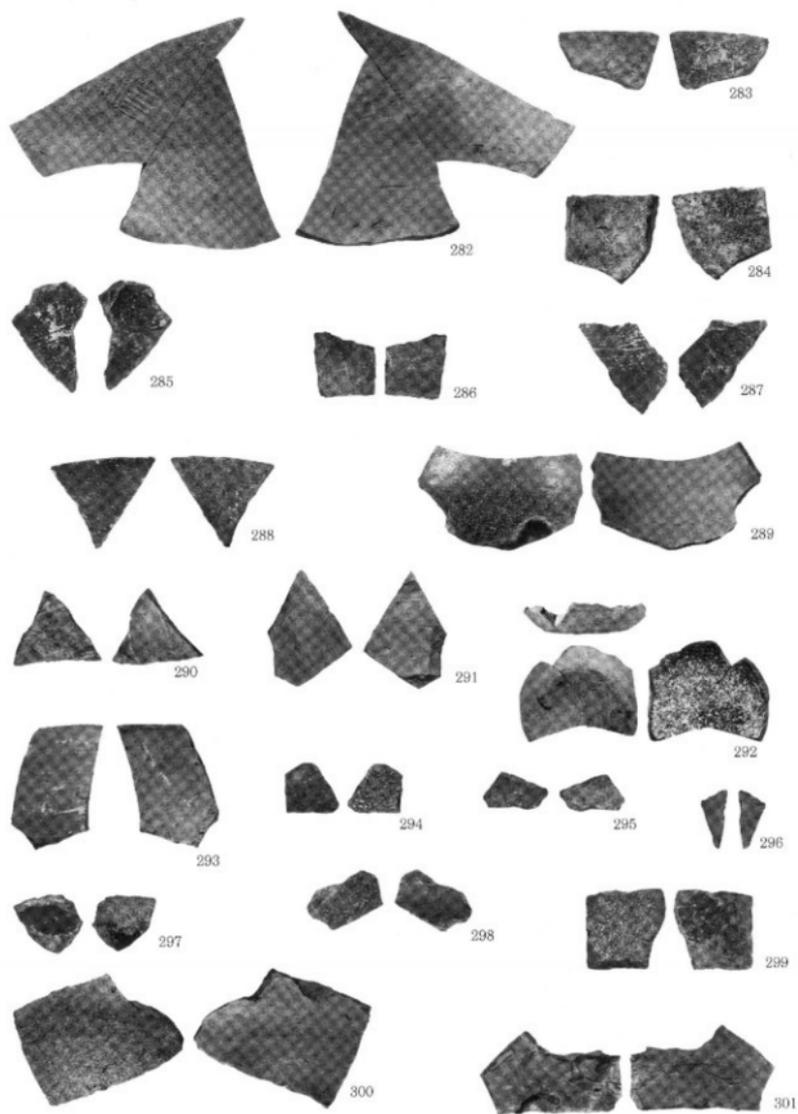
写真图版74 出土遗物(8)



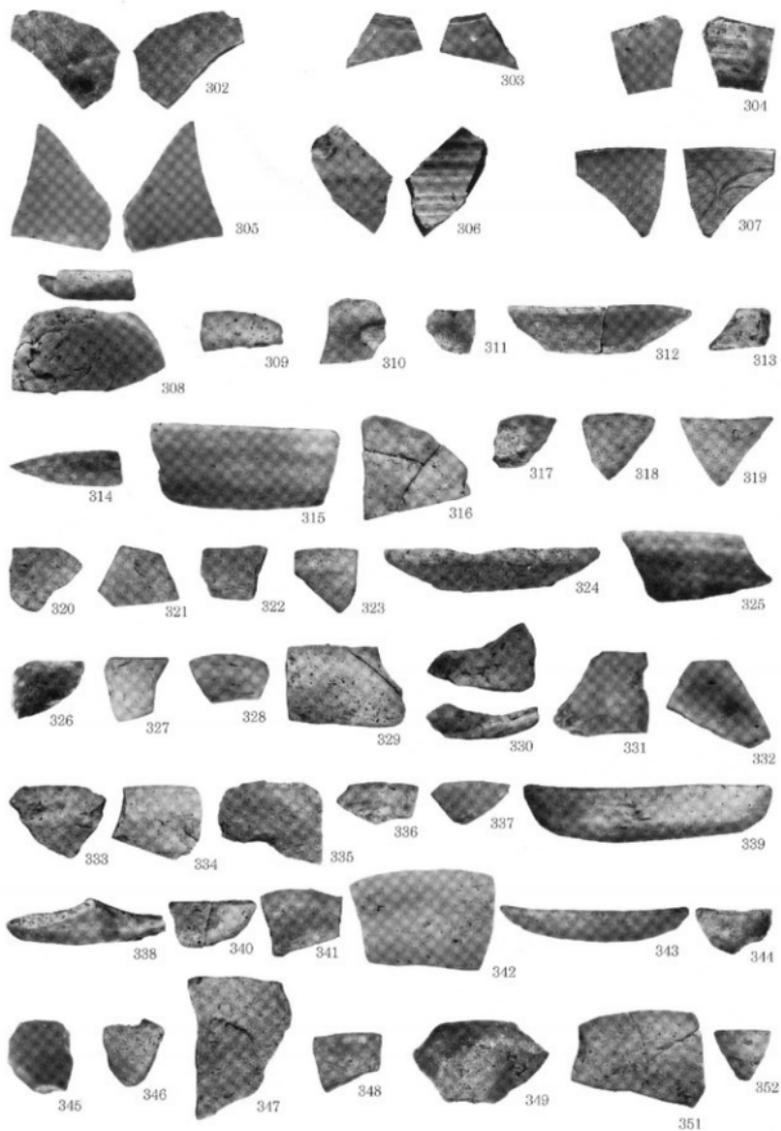
写真图版75 出土遗物(9)



写真图版76 出土文物(10)



写真图版77 出土遗物(11)



写真図版78 出土遺物(12)



写真図版79 出土遺物(13)



写真图版80 出土遗物(14)



写真图版81 出土遗物(15)

報告書抄録

ふりがな	みょうごさわいせきぐんだいじゅうろくじはっくつちょうさほうこくしょ							
書名	明後沢遺跡群第10次発掘調査報告書							
副書名	ほ場整備姥沢上野地区事業関連遺跡発掘調査							
巻次								
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第442集							
編著者名	本多準一郎・小松則也							
編集機関	財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター							
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡第11-185 TEL 019-638-9001・9002							
発行年月日	西暦2004年2月19日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
みょうごさわいせきぐん 明後沢遺跡群	いわてけん いまわ 岩手県胆沢 くぼさきまちやうご 郡前沢町古 じまやうじ 城高代寺33 -2 ほか	03382	NE36- 2175	39度 05分 15秒	141度 08分 53秒	2002.04.12 ～ 2002.10.31	7,330㎡	ほ場整備姥沢 上野地区工事 に伴う緊急発 掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
明後沢遺跡群	散布地	縄文時代	陥し穴状遺構	6基	縄文土器 石器			
	集落跡	平安時代	竪穴住居跡	6棟	土師器(坏・甕)			
			溝跡	9条	須恵器(坏・甕)			
			土坑	13基	鉄製品 瓦片			
		中世	墓塚	2基	湿美産陶器片			
			溝跡	7条	常滑産陶器片 中国産磁器片			
		時期不明	土坑	37基	手づくねかわらけ			
			溝跡	65条				

平成15年度（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター職員名簿

所 長 木 村 昇

副 所 長 平 野 允 苗

〔管理課〕

課 長 長 藤 正 吾
 課 長 補 佐 山 岸 直 美
 主 事 立 中 鳴 賢 一
 主 事 猿 橋 幸 子

嘱 託 高 橋 照 雄
 湯 沢 邦 子
 沼 田 テル子
 伊 藤 滋 子

〔調査第一課〕

課 長 長 佐々木 勝
 課 長 補 佐 佐々木 清 文
 文化財専門員 金 子 昭 彦
 文化財調査員 吉 田 充 亮
 " 亀 大 一郎
 " 野 中 真 盛
 " 新 妻 伸 也
 " 阿 部 勝 則
 " 杉 沢 昭 太 郎
 " 西 澤 正 晴
 " 村 木 敬

文化財調査員 北 村 忠 昭
 " 八 木 勝 枝
 " 丸 山 浩 治
 " 北 田 勲 征
 " 高 原 弘 造
 期限付調査員 坂 部 林 弘 卓
 " 藤 原 大 輔
 " 小 針 太 志
 " 太 田 代 一 彦
 " 新 井 田 えり子

〔調査第二課〕

課 長 三 浦 謙 一
 課 長 補 佐 中 川 重 紀
 " 高 橋 義 介
 文化財専門員 小 山 内 透
 " 金 子 佐 知 子
 " 濱 田 宏 昇
 文化財調査員 阿 部 眞 澄
 " 阿 水 上 明 博
 " 阿 部 憲 淳
 " 早 坂 則 也
 " 小 阿 部 徳 幸
 " 阿 部 岩 伸 吾
 " 亀 澤 盛 行
 " 飯 坂 一 重
 " 鈴 木 裕 明
 " 林 裕 明
 " 阿 部 孝 明
 " 羽 柴 直 人

文化財調査員 星 雅 之
 " 佐 藤 淳 一
 " 星 幸 文
 " 溜 浩 二 郎
 " 本 多 準 一 郎
 " 丸 山 直 美
 " 福 島 正 和
 " 米 田 寛
 " 須 原 拓
 " 中 村 絵 美
 " 川 又 晋
 " 村 田 淳
 " (村 上 拓)
 期限付調査員 斉 藤 麻 紀 子
 " 石 崎 高 巨
 " 吉 田 里 和
 " 立 花 裕
 " 江 藤 敦
 " 駒 木 野 知 寛

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第442集

明後沢遺跡群第16次発掘調査報告書

ほ場整備地沢上野地区工事関連遺跡発掘調査

印刷 平成16年2月12日

発行 平成16年2月19日

発行 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地

電話 (019)638-9001

FAX (019)638-8563

印刷 株式会社 白ゆり

〒020-0122 盛岡市みたけ6丁目1番50号

電話 (019)643-6060

FAX (019)643-6065

